# 昭和五年への新待望

## 日華親善の要諦

### ―德日に新なれば萬邦維れ懷き 志自ら滿つれば九族も乃ち離る―

關東長官 太田政弘

私は茲に昭和五年の新春を迎ふるに方り先以て萬世一系萬邦に比類なき皇室の鴻恩を鳴謝し國運の隆昌を祈ると共に友邦中華民國の政情が一日も早く安定して四億の民衆と共に平和文明の惠澤に浴し日華兩民族共存共榮の實を擧げんことを翹望して已まざるものである。古語に曰く「日に日に新にして又日に新なり」と此語は數千年の古き時代に於て誌されたる言葉であるが私は新年を迎ふるに際し此言葉の含有する深遠微妙なる意味を味はひたいと思ふ蓋し人は高遠なる希望を抱いて氣分を新にして之に到着せんとする時には必ず努力があり緊張があり從つて必ず進歩發達が伴ふものなることを教へたものであると思ふ

今や我國は所謂經濟國難の渦中に在つて種々困難なる問題に直面して居る勿論滿洲と雖も斷じて其例外ではあり得ない而して其由つて來る所の何たるかに付ては人によつて觀る處を異にするけれども歐洲大戰に依りて偶然惠まれた好景氣時代に馴致せられたる奢侈放慢の氣風が拔けきらず政界に於ても實業界に於ても緊張堅實の風を缺いだ事が主たる原因たることは何人も異存のなき處である政府は現に我經濟國難打開の爲に先づ以て國民の精神緊張を高唱して居るのは誠に故ありと言ふべきである

滿洲に於ける經濟難打開に付ても種々なる施設も必要であらう新政策の樹立も必要であらうさりながら在留邦人各自が遠大なる希望を抱いて滿洲の新天地に渡來したときの緊張味を以て努力せられたならば必ずや一脈の活路は展開せらるるものなることを私は確信するものである

顧つて思ふに日華兩民族は實に三千年來の友邦である中華に榮えたる古き文明は海を越えて我が國に渡來し常に其制度文物の範となりしのみならず此國に生れたる孔夫子の仁義の道は崇高にして宏遠なる我建國の道と渾然融和して我國民の精神生活を陶冶し來つたのである。而して今や明治維新以來泰西の文物を輸入咀嚼すること一日の長ありたる我國人が之を以て滿洲の富源を開拓し日華兩民族をして齊しく文明の惠澤に浴せしめつゝありとはいへ何等誇るべきにあらずして世界文明史上に有する我等の責任の一部を果しつゝあるに過ぎずと言ふ謙虚なる氣分があつてこそ其文明施設に一段の光彩を添へるものではなからうか

又近時滿洲の經濟的發展は世界史上稀に看る處である現に二十餘年前の夫に比較するも思ひ半に過ぐるものがある當時滿洲は所謂關外の地であつて滿目蕭條胡砂吹き荒び匪賊横行する中國の領土中最も貧弱不安なる地方であつた然るに二十年の間に人口は倍加し貿易は數十倍し中國中最も富裕なる地方となれるのみならず兵亂匪賊の災禍に對する唯一の安全地帶を形成するに至りたることは決して中國人の單なる努力によるものに非ずして日本の治安維持政策が與つて力あることに想到せられたならば勇俠にして感激性に富める我在滿軍警の當局は日夜の艱苦を物ともせず益々滿洲の地を完全なる平和境たらしむる爲に幾多の犧牲を惜まないであらうと信ずる

況んや二十餘年前我國が東洋永遠の平和の爲に敢然として起ち幾億の國帑と幾萬の生靈とを犧牲に供したるの事實を回想せば我々は啻に接壤地帶に住するが故に利益關係密接なりと言ふに止まらずして日華兩民族は斷じて斷つ能はざるの運命を有するものであると信ぜざるを得ない

果して然らば我々は區々たる體面に拘泥し又は眼前の小利害の爲に永遠の親善に累を及ぼすの愚を爲してはならない我々は東亞百年の平和兩民族の永遠の幸福に着眼し此大局より打算して凡百の事に當り外侮を防ぎ內各自其長ずる所を發揮して滿蒙の地に渾然たる新文明を建設する爲に常に相提攜しなければならぬと信ずるものである

新年に方り在滿邦人の將來並に日華親善の根本義につき聊か感ずる所あるが故に誌して同志の清鑒を請ふ次第である。最後に私は再び古語を引いて新年の辭を結ぶことゝする古語に曰く「德日に新なれば萬邦維れ懷き志自ら滿つれば九族も乃ち離る」と。

## 昭和五年の新年を祝し謹みて聖壽の萬歲を祈り奉る

南滿洲鐵道株式會社總裁 仙石貢

## 多望多祥なるべき昭和五年を迎ふ

滿鐵副總裁 大平駒槌

多事多端であつた昭和四年を送りここに多望多祥なるべき昭和五年を迎ふるとは、平凡なる佳例の如くにして、しかも意義深長、決して然らざるものが存するのである。昭和五年は昭和四年の繼續にして、國際的に、はたまた國內的に、物質的に、思想的に、多種多樣の問題に逢着することを覺悟せねばならぬ。勿論われく滿鐵社員は、仙石總裁の指揮、方針の下に、奮闘努力して行かねばならぬのであるが、とにかく新年を迎ふると共に、非常なる決心と覺悟とを以て、昭和五年の新春を迎へねばならぬものと信ずる。歐米等に對する直接の關係事項は別とするも、隣邦支那の紛糾混亂は果して如何に收拾せらるゝであらうか。故孫中山の遺囑は炳乎として明瞭なるものあらんも、三民主義による國民革命の實現は、容易に期すべくもない現狀にある。善良なる四億の民衆に對しては、深甚の同情を感ずるものなるも、事實、然りとすれば、如何ともすべからざることに屬する。吾人はたゞ內政不干涉の方針に立脚し、擾亂の日の、一日も早く終熄せんことを望むや切である。

◇

支那中原の政局が、かくの如しとせば、關外東北四省にありても、その影響せらるゝところ頗る大、今年もまた前年に倍して、動搖の餘波を受くることなしと限らぬであらう。併しながら、滿蒙東北四省は、關外特殊の區域ともいふべく、その首腦者にして、關內に野望なく、ひたすら治安康寧に努力せんか、保境息民、必ずしも期し難きにあらずと信ずる。殊に滿鐵の滿洲の沃野を貫通するあり、倚つて以て滿蒙の文化的、經濟的開發を可能ならしめ得るのである。わが滿鐵は、たゞ日支兩國民の共存共榮なる根本觀念に立脚し、國民の歷史的、地理的關係、合理的に洽諧調するより外に、存立の意義はないのである。

◇

顧へつて、わが滿鐵の社業をみんか、四萬の全社員は、日夜營々滿蒙の開發に努力しつゝあるのである。これやがて日支兩國の共存共榮を建設擴充する所以であり、また關外東北四省の保境息民を確保可能ならしむる階梯ともなるのである。この意味において、われく滿鐵社員は、日支共存共榮の現實的楔子として、その重大なる責任を痛感し、常に社業の向上發展に努力しつゝあるのである。

◇

然りといへども、世界の文化は加速度的に進展しつゝある。この進運に際會し、往を回顧し、來を想望し、母國を懷ひ、隣邦に臨まんか、轉た責任の重大にして、一層の奮闘を要するものあるを痛感せざるを得ない。殊にわが日本は金解禁を斷行せざるべからざる秋にあり、節約緊縮、また大に徹底せしめざるべからざるの重大時機に直面しつゝあるのである。わが滿鐵會社としても、この時代の要求に順應し、遺憾なきを期せねばならぬのである。幸ひわが滿鐵には、仙石總裁のあるあり、四萬の社員と共に、多事多端なる昭和五年を迎ひ、これを多幸多祥なる昭和五年たらしむべく、粉骨碎身せんことを期するものである。昭和五年の新春を迎ふるに當り、一文を草し賀詞となす。

## 同胞よ、ともに行かん此道を

關東軍司令官 畑英太郎

神武天皇は御即位に當り上は則ち乾靈國を授け給ふ德に答へ下は則ち皇孫正を養ふの心を弘め然る後六合を兼ねて都を開き八紘を掩ふて宇と爲し亦可ならずやと宣へさせ給ふた。吾人は茲に新年を迎ふるに際し此雄大崇嚴なる御神勅を拜すると共に皇祖皇宗の御遺烈を揚げ以て皇祖皇宗神靈の御降鑒に對ふべく期し給ふ、今上陛下の大御心を改めて心に銘み直し新なる覺悟を以て勇往邁進するを必要と信ずる。日本國の帝權を世界に昭明し八紘一宇の偉業と六合一都の正道とを天下に恢弘すべき鴻圖は啻に官途公業に從事する者のみの任とすべきにあらずして同胞全部の等しく負ふべき責務であらねばならぬ。各人大御心を奉じて其の行ふや必ず正其の交はるや必ず信にして易らざれば如何なる者と雖も遂には我眞意を諒解して和合を致し親善自ら成るものと信ずる。我同胞の此志愈々堅ければ愈々熱を生じて力を出し愈々高まりて光を發し滿蒙燦として輝き在滿人類の福祉を益すことを得べく茲に聖旨に副ひ奉り得ると共に又東洋永遠の平和と國土防衛の爲犧牲となりて此地に眠る幾十萬先輩烈勇士の靈に對ふることが出來るのである。

同胞よ偕に行かん此道を。支人よ來りて我と重暉相照の喜を共にせずや。

白玉山上仰ぎ見れば旭光燦として四邊を照し天地靖々として滿蒙將來を祝福するが如し吾人も亦茲に杯を擧げて崇高なる本邦の使命の爲勇往邁進する在滿同胞の前途を祝すると共に支人の爲北邊の戰雲再び起らず南方の風塵眞に治まりて長に快晴ならん事を祈らう。

## 民族的試煉に打克つ覺悟あれ

大連民政署長 田中千吉

歲改まりて茲に昭和五年の春を迎へ萬象淸新の祥氣溢る洵に聖代の餘澤であつて謹んで寶祚の無窮と皇室の萬歲を謳賀し奉る次第である

皇室に於かせられては客秋孝宮和子內親王殿下御生誕あらせられ又近く陽春の佳節には皇弟高松宮殿下御成婚の御儀を擧げさせらるゝやに承り竹の園生の彌榮えに榮えさせ給ふ御事洵に慶賀の極みである

顧みるに近時の國情は所謂思想と經濟の二問題に逢着し政府は其の善導と改善に全力を傾注し新年を迎へた即ち思想方面では敎化總動員となり經濟方面では公私經濟緊縮が强調せられて本年は愈々其實行期に入つたのである、由來我國民性は一旦緩急の場面に際しては恐るべき一致協力總動員の實を擧げた無比の歷史を持つてゐるそれは多くの場合對外戰爭の時に現はれてゐるが乍然此の傳統的國民性の發露は必ずや現今當面の問題である思想國難、經濟國難に處しても一致協力の實を現はし見事此の難關を解決し國運を益隆昌に導くことは疑ひなきとである

大正六年以來の跛行的國家經濟も旬日の後に迫れる金輸出解禁の實施によつて愈々金本位制度の復活となり大手を振つて世界の經濟戰に臨める樣になるか久しく苦められてゐる不景氣が此金解禁によつて直ちに好景氣に轉換されると思ふのは早計であつて此の後の經濟界は一時的ではあるが色々の關係から或一層深刻な不景氣を招來するかも知れない去年七月現政府組閣以來特に强調せられてゐる公私經濟緊縮の警鐘は國民の自覺心を呼び起し一致協力消費經濟の緊縮に猛進した結果は今日漸々金輸出解禁に迄漕ぎ着けたが緊縮强調は決して金解禁の施行に至つて止むべきものではない寧ろ解禁後の緊張こそ經濟確立の根本義である卽ち官公經濟の節約と共に國產獎勵產業の合理化等によりて輸入の防遏に努め以て堅實なる景氣の再轉を期せねばならぬ

漏れ承はるところによれば畏くも至尊に於かせられては時世の實情を軫念あらせられ皇室費の節約を仰出され經濟緊縮の範を垂れさせ給ふたのである誠に畏れ多いことで我等國民は必ずや此御仁德に副ひ奉るべく大なる決心を要するのである

顧つて世界の大勢は歐洲大戰の創痍漸く癒え夫々國力の充實に擧國一致の活動を續けてゐるが只隣邦支那は動亂未だ熄まずして其の歸結する處全く測り知るを得ない狀態にあつて延いて我國對支關係は益々複雜化せんとし一方海軍々縮會議は英京ロンドンに於て開かれんとしてゐる實に內外共に我國民は全く民族的試煉の中に置かれてゐる我等は宜しく思を此處に致し自重自省以て此の試煉に打ち克つべく年頭に際して大なる覺悟と決心を叫ぶ所以である

## 我等は平和の戰士

大連市長 石本鏆太郎

乾坤一轉茲に諸君と共に昭和の五年を迎へ心身共に新たなるを覺ゆると同時に益々其の責重きを感ずる次第であります、母國を國策遂行の參謀本部とするならば我々は第一線に戰ふ勇士であらねばなりません、我々は平和の戰士として最前線に立つ以上常に確固たる戰意を失つてはならないのであります、戰意それは經濟的發展を最も主要とするものでありまして健實なる商略の上に立脚すべきことは論を俟たない次第であります、健實なる商略、それは各人の經濟的反省により一時的奇利を博せんとするが如き商略を捨て堂々如何なる經濟戰場裡に於ても打ち勝ち得るの成算ある計數の上に總ての商略を立てねばならないのであります。

それには公私共に經費の節約緊縮を行ひ苟くも冗費を省き必要費用の最低を見出し此最低の上に驅る商略を行ふべきものでありまして漫然經濟戰場裡に臨むが如きは到底勝算の見込なきは勿論我人の經濟的發展は望むべくもなく經濟國難の今日日本國民たるものは其の貧富を論ぜず階級の別なく實行すべき事柄でありまして特に心すべき事ではありますまいか、公私經濟の緊縮は今日に叫ばれてをりますが之は何時の時代にも常々吾人の叫ばれてをりますが、國策遂行の戰士たる義務に邁進すべき次第であります、昭和五年の新春を迎へ先づ聖壽の萬歲と寶祚の無窮を祝し奉り次で大連市の前途に光榮と幸多からんことを祈る次第であります。

## 治廢實施を宣言

### 辦法に對し列國異議あらば相當の期間に審議を希望す

### 王正廷氏の名を以て

【南京三十日發電】國民政府は本日領事裁判權撤廢に關し王正廷氏の名を以て左の宣言を發した

支那は領事裁判權の束縛を受けて八十年、爾來外國人に對して法權を行使する能はず此の度の弊害は贅言の要なし中國政府と人民は此情勢に委せて時を遷延する能はざるなり、領事裁判權は實に尋常の外交問題に比すべくもなく其中國人民に關する實に深刻なるものあり中國政府は同時に最重要なる內政問題と爲し茲に**民國十九年を以て重要の時期と爲し元旦より領事裁判權を撤廢**し中國の主權を回復する事を聲明せざるを得ず、故に行政院及び司法院に命じて辦法を設け施行に便ならしむ、中國政府は各關係國が既に同情を表し確實に誠意あるに鑑み近く當該各國と中國間に根本の原則に對し意見合はざる事なきを信ず、若しも政府が準備しつゝある**辦法に對し意見あらば相當期間に審議せん事を欲す**國民政府の意圖につき二十八日の命令は實に一種の階段に過ぎず常に發生し易き誤解の原因を除き中外人民の親善關係の增大せんことを欲するのみ

## 外支混合の裁判所 大通商地に一ケ年設置

【北平三十日發電】治外法權撤廢後の在支外人訴訟案件に關する臨時辦法は今明日中南京政府より公布される[illegible]は日支の約款非常時の臨時辦法に類似する簡單なもので數ケ所の大通商地に一ケ年を限り外支混合裁判所を設け[illegible]向あり日本は一律に支那法律に服從せしめんとするものである、右に對し十二ケ國は臨時辦法を漸進的撤廢と爲し[illegible]

## 撤廢令は效力無し

### 米政府の意見

【ワシントン三十日發電】國民政府の治外法權撤廢命令に關する通告は本日國務省に到達した、同問題に就いては英米兩國の間に何等か共同動作出でん事を研究中であつたが遂に何等の決定も見るに至らなかつたものである、尙國務省では國民政府外交部は右撤廢令を發布するも事實上では從來の通り治外法權の存在する事は之を期待し居るもので國民政府自身も右撤廢令は有效のものとは思考してゐないと言つてゐると

## 列國の歩調亂る

### 日本の立場は不利

【東京三十一日發電】治外法權撤廢の一度を持して來たが主義の問題を離れ實際問題に入るに及び各國の利害關係相錯綜せる處から共同の態度を採るを得ず各國個々の方針に從ふの已むなきに至り日本は之が爲め非常に苦境に陷つた殊に小幡公使問題に絡んで一層困難な立場に置かれ或は本問題に關する限り最後迄取殘され徒らに列國の後塵を拜することゝならうと憂慮されてゐる

[illegible]本は最後迄頑張であらうが大勢は日本に取り頗る不利となつて來た

## 國際裁判所判事

【パリー三十日發電】エコー、デ、パリ紙は本日駐佛日本大使安達峰一郎博士は近々常設國際司法裁判所判事に就任する爲め大使を辭任するであらうと報じた

## 我全權トーキーで英國民に呼びかく

### 日本の平和主義强調

【ロンドン三十日發電】本日も亦雨が降り續いてゐる午前十一時旅宿に於て若槻、財部、松平の三全權以下高級隨員の會談打合せ[illegible]が開かれたが、十二時過ぎには若槻全權はパラマウント社の懇請を容れてトーキーを通して英國民に日本政府及び國民の世界平和に對する熱望を高調した、若槻全權は日本語で演說し齋藤情報部長は之を英語に飜譯した、尙若槻全權は英國首相マクドナルド氏との會見時日を未だ決定してゐないが外務大臣ヘンダーソン氏とは一月六日會見する筈

日出乾坤輝

日出乾坤輝 松田拓相試筆

## 大阪再選擧 民政勝つ

### 本田氏が當選

【大阪三十一日發電】大阪府第四區の再選擧は卅一日開票の結果本田彌市郎(民政)氏一萬五千百六十五票の絕對優勢にて當選した

## 棄權者八割二分

【大阪三十一日發電】大阪府第四區の衆議院議員再選擧の投票は三十日施行されたが歲末の爲め出足頗る惡く有權者數十九萬七千二十九票に對し投票數三萬四千五百十五票に過ぎず實に八割二分の驚くべき棄權率を示した

## 特別融資殘高

### 五億九千萬圓

【東京三十日發電】三十日現在に於ける日銀特別融通殘高は五億九千八百四十萬圓にして融通當時の六億八千七百九十三萬圓に對し八千九百五十三萬圓の回收あり被融通銀行は最初の八十八行から三十行減の五十八行となつた

## 人事

▲大內佐藏氏(小崗子警察署長)卅一日新任挨拶のため各方面歷訪

▲鈴木貞一氏(北京日本公使館附武官陸軍少佐)卅一日入港ばいかる丸にて來連遼東ホテルに投宿

▲喜劇喜樂會一行卅六名 同上

▲浪花節酒井雲一行十一名 同上

## 天氣豫報

一日 晴れ 南西の風一時曇り

| | 十一時 | 昨日最低 |
|---|---|---|
| 大連 | 二、一 | 零下六、五 |
| 旅順 | 一、六 | 五、五 |
| 營口 | 零下七、〇 | 同一三、〇 |
| 奉天 | 同八、七 | 同一四、九 |
| 長春 | 同一四、六 | 同一八、五 |

# 賀正

## 遼陽

遼陽領事館 山崎恒四郎
警察署長 長山猪重
衛戍病院長 田川精三郎
憲兵分隊長 酒井周吉
滿洲紡績會社 玉木德次郎
輸入組合 早瀬頼二
地方委員 生田友次郎
古庄重一
田中幸英
福永高介
福田又司
中村信
谷口七郎
青山員雄
安藤吉三郎

日支合辦 遼陽電燈公司

特產物貿易商 林禮吉商店

特產物貿易商 高木儀三郎商店

滿洲紡績株式會社

喪中に付年賀缺禮 石川洋行

食料雜貨 梶原洋行

食料雜貨 坂口商店

藥種商 安達藥房

特產物貿易商 西田商店

特產物貿易商 深尾洋行

遼陽滿鐵石炭販賣人一同

土木請負業 矢野薫

遼陽工友會
原組出張所 渡邊小平次 電二二八番
今井組出張所 宮武市祐 電二一七番
細川組出張所 藤田高明 電三四四番
吉川組出張所 近藤嘉助 電二〇八番

遼陽料理店組合

料理屋
金聲書館
翠卿班
慶祥書館
萬仙閣
雙寶書館
聚美仙館
蘭香閣

山木呉服店
本店遼陽昭和通
電話一〇五番

驛構內食堂 遼塔軒 電話一六五番

旅館 遼塔ホテル 電話六番

油屋旅館 宮原キクノ 電話一六四番

## 金州

金州民政支署 職員一同

關東廳農事試驗場 職員一同

金州農業學堂 公學堂南金書院 職員一同

綿糸紡績 內外綿株式會社 金州支店 電話七七六番

關東廳種馬所 職員一同

金州尋常高等小學校 職員一同

大連牛乳株式會社 金州支牧場 福島三郎

東門外屯 谷本果樹園 園主 谷本金次郎 電話一五三番

石川作太郎（イロハ園）
池田公雄
岩間德也
堀內正重
本丸弘
戶崎靖雄
加世田彌次郎
田邊秀雄
高木熊三郎
辻野龜太郎
中富貞夫
南日良吉
棗田久助
長岡重太郎
上野幸一
久保田熊吉
山口二郎
松見宅雄
江口光夫
三浦貞三
三浦健造
鹽澤角兵衛
關山勝三

關東廳職員購買組合指定 呉服太物 中空呉服店 電話一五八番

南門外 西園農場 鮮魚 西園商店 電話一二五番

御料理 文廼家 電話一一二番
辰巳　おお玉
小政　五郎
早苗　十郎
文彌　とんぼ

果樹 南山麓 福昌農園 電話一八番

果樹 南山麓 南山園 電話一〇三番

果樹 金州驛前 金州園 電話一七〇番

撫順炭特約販賣 棗田洋行 電話一六三番

金州旅館 番田多都代 電話三一番

御料理 三浦屋 電話一一一番
濱勇　千鳥
かほる　文子
波路

御料理 金水樓 川崎達
桃枝　花枝
春枝　初枝
照子

土木建築請負業 泉屋與吉 電話三六番

會席御料理 筑紫 田中しな 電話三七番

金州奧町 雜貨商 阿津坂商店 電話三二番

驛前 金驛タクシー 電話四一番

南門外屯 恒大自動車公司 電話一一一番

金州奧町 有働タクシー 電話四二番

民政支署前 江口代書事務所 電話一〇六番

滿洲日報、大阪朝日新聞販賣、洗濯クリーニング 山本甚太郎商店 電話六四番

滿洲日報販賣店 藥種雜貨 鳴瀬商店 電話五八番

# 縞馬の話

## 獸類の中で最も美しい　形から鳴く聲まで驢馬によく似た動物

皆さんは、新年號の雜誌などで、馬のお話はもうかなり讀み飽いてゐるでせうから、私は、馬の中の變りだねの縞馬についてお話をいたしませう。

**縞馬は**　此の寫眞にあるやうに、からだに美しい縞のある馬ですが、アフリカの熱帶地方に住んでゐる野生の動物ですから、その他の地方では、動物園にでも行かなければ見ることが出來ません。一口に縞馬と言つても、その種類がいろ〳〵あつて、決して一樣ではありませんが、首の短いところや、耳の長いところ、タテガミが直立してゐるところ、

**尻尾の**　上部に毛のないところ、身體の割合に頭の大きいところなどが、こゝいらに居る驢馬と非常によく似てゐます。縞馬の種類として一般に知られてゐるのは、本縞馬、山縞馬、バーセルス縞馬、グレビース縞馬などで、バーセルス縞馬、及グレビース縞馬はいづれも體が普通の馬よりは幾分狹く、驢馬よりは廣くて興味があります。本縞馬は、その形驢馬そつくりで、蹄などは全く驢馬とおんなじ、耳もたいへん長い。

**山縞馬**　は縞馬の中でも最も形の小さい種類で、肩までの高さが僅かに四十八インチから五十インチ位しかありません。この山縞馬のからだの模樣は實にきれいで、股の内側と腹以外のところは頭にもからだにも、脚にも、白地に黒の美しい縞があります。そして、前脚や後脚には、まるで繃帶を卷いたやうに横縞がついてゐます。すべて縞馬は、どの種類でも極めて用心深く、それに、足が

**素的に**　速いので中々近づくことが出來ません。たぶん皆さんはごらんになつたと思ひますがあの動物映畫のザンバなどの中に出て來る縞馬などは撮影をするのにカメラマンが隨分苦心をしてゐるのです。縞馬の中で最もからだの大きいのは、グレビース縞馬です。このグレビースは、本縞馬や山縞馬に比べると縞模樣がこまかく、一見非常に上品です。此の縞馬の住んで居るのは東アフリカでソマリランドの南部からタナ河附近までの間や、ケニア山やルドルフ湖の

**附近に**　は澤山居るさうです。グレビース縞馬の成長したものは、肩までの高さが五十六インチから六十インチ位で、支那馬車の馬などより遙かに大きい。此の縞馬は、きまり切つたやうに木のまばらに生へた高原か、木も何もない原野に住んで居ます。それは、他の動物から襲はれた場合逃げるのに都合がよいからだらうといふことです。一般に縞馬は非常に弱い動物で、アフリカでは他の猛獸の何よりのよい餌食なのですグレビース縞馬は好んで

**高原に**　住み時には海拔二千五百尺もある高いところに居ることがあるさうですが、それも、やはり他の猛獸などの襲擊を避ける爲めであるかも知れません。グレビースは、たいてい五六匹位づゝ群になつてゐます。そして、二十匹以上群になつてゐることは全くないさうです。バーチエラス縞馬は、ルドルフ湖からオレンヂ河の附近及その西南部に住んでゐる

**縞目の**　荒い縞馬で、縞馬の中でも最もありふれたものです。他の縞馬は地色が白ですが、此のバーチエラス縞馬は地色が青黄を帶び、肩までの高さが五尺二寸から五尺四寸位、この縞馬も好んで高原に住み、海拔五千尺もあるところに居ることもあるさうです。縞馬の鳴き聲はアフリカ高原でも滅多に聞くことは出來ないさうですが、ある探險家の話によると縞馬はからだの美しいのに似合はずきたない聲で、しわがれたやうなところや、息を長くひくところなどの驢馬の鳴き聲によく似てゐるさうです【寫眞は右がグレビース縞馬左は山縞馬です】（はるみち）

# 一等入選　お窓の外

柴田正一

ガラスの窓から　見て居たら
黒いおかほの　ニイヤンが
「エントウソウジイ」　通つたよ
そのうしろから　ロシヤ人が
大きな籠を　つりさげて
「ロッシヤパン〳〵」　通つたよ
車の上へ　山もりに
白さいつんだ　ロウトルが
「ハクサイ〳〵」　通つたよ
あとからぶら〳〵　ぼろニイヤ
てんびんぼうに　かごさげて
「ボロウ〳〵」　通つたよ
向ふのかどから　ピイ〳〵と
するどい音を　たてながら
ほつとまんじうも　やつて來た
お窓の外は　つぎ〳〵と
いろんなもんが　通ります

# こうすれば えらくなる

## 驚くやうな名案

中溝新一

**アフリカ**　のある野蠻人同志は、他人に逢ふと、長い舌をべろりと出すのがごあいさつなのださうです、そうして、新年には、兩親に舌を出してごあいさつをすると、兩親はさもうれしそうに、頭の腦天をゴツンと叩く、頭の中のわるい考へや、なまけぐせを追出すのです、隨分きばつでせう、噓みたいだがほんとうだから仕方がない、そこへゆくと、日本のお正月はたいそうお行儀がよろしい朝はいつもより早く起きて、着物を着かへ水で顏を洗つてから

**お屠蘇を**　飲んで、目上の人へ「お早やうございます」と云ふかはりに「あけましておめでたうございます」と叮嚀によそゆきのお辭儀をする、お雜煮を食べてから學校へ行きます、先生も、けふはいゝお洋服や着物をきて、すまして居ます、式が終つたら、今度は知つて居る人にはみんなおめでたうをします、逢へない人には葉書やお手紙におめでたうを書いて出します、郵便屋さんもたくさん年賀狀を配達してくれます、この

**年賀状の**　なかには、今まですつかり忘れて居たやうなお友達からも來ます、ほんたうにうれしいお正月、ことしこそよくおべんきやうの出來ますやう、そしてからだも丈夫に、立派な人になれますやう、誰一人としてさう考へない者はありません、ところが、どこかの國のなまけ者、けふから「おめでたう」といつて、よい子になりたがつてゐる、むかしの一休和尙も「めでたくもありめでたくもなし」と云つてる位だ、なにか

**人眞似で**　なく、あツと云はせてみたいものだと、色々考へたが名案が浮ぶ筈がない、するとどこからともなく、耳元に聲がする、ちいさいからはつきりきこへる。

「おまへが私のいふ通りすれば、きつと世間の人が驚いて騷ぐよ」

これをきいたその子供

「どうぞ、どうぞ、きつと云ふことをききますから敎へて下さい」

とさもうれしそうです。

「ぢや、敎へてやらう、紙に書きなさい、いゝかね」

**その子供**　は紙と鉛筆を出した。

1、朝はなるべく寢坊して學校に遲れること
2、顏はお湯でなければ洗はぬこと
3、自分のことは自分でせぬこと
4、ごはんの時はきつとぐづること
5、ごはんより間ぐひをすること
6、親のいひつけを守らぬこと
7、兄弟喧嘩をすること
8、嘘ばかりつくこと
9、學校はなるべく休むこと、そして、うちで遊んで居ること
10、學校の往復は寄道して遲くうちへ歸ること
11、先生のいふことをきかぬこと
12、學校では、わきみしたり、おしやべりしたり、けんかしたりお勉强のじやましたり、出來るだけいぢわるすること
13、復習は必ずしないこと
14、夜はいつ迄も起きて居ること
15、「おめでたう」のかはりに舌を出すこと

こゝまで書いた時に、聲がプツリと消えて鷄のコケツコーの聲がしました、ふと氣がつくとこれは森の中ではありません、自分のうちの寢床の中、硝子戸もあかるくなつて居るから、もう待ちこがれた昭和五年の一月一日でした、果してなまけ者のこの子がお正月から夢できいた聲を守つたでせうか。

# 懸賞童話（一等）　雪の降る夜（上）

敏浩二郎

雪は少しの休みもなく、道も、庭も、公園も、家も、教會も、お寺も、學校も、停車場も、時計屋も、煙草屋も、肉屋も、神社の鳥居も、テニスコートのベンチもどこもこゝも一緒に、同じ樣にあの白い、柔かい、冷たいからだで、靜かに音もさせずに、埋めつくして行くのでした。

照夫さんは、どうしても、眠れないのでした。

「…………。何故でせう？」

照夫さんのお父さんは、お巡りさんでした。

今夜は、おつとめでした。

…………。

カッチ……カッチ……。

眼醒まし時計のきざむ音が、今この世の中での一番大きい音の樣に、照夫さんの耳にひゞいて來るのでした。

「……何時かしら……」

照夫さんは、頭をおこして、箪笥の上の眼醒まし時計を見ました……短い針は、九時と十時との間を指し、長い針は、四時と五時との間を指して居りました。

「おや………照夫さんは、まだ眠らないんですの？」

……お母さんでした。

その聲に照夫さんは、首をねぢつて、お母さんの方を、見ました。お母さんは針仕事の手を休めて、ほゝえんで居りました。

「……えゝ……」

「早く眠らないと、あした早く起きられませんよ」

「…えッ…でもね、お母さん。なんだか今夜、僕、眠れないの」

「……お母さん……」

今まで、默つて机によりかゝつて勉强して居た女學校一年生の、姉さんの道子さんは、ふり向いていひました。

「……？」

無言のまゝお母さんは、優しく道子さんを見ました。

道子さんは、くすぐつたい樣な笑ひを、口元に漂はせて

「……照ちやんは、お父さん子だから、キットお父さんが居ないものだから、寂しくて眠られないのよお母さん」

「……うそだい……」

照夫さんは、叫ぶ樣にいひました。

# ◇オハナシ◇　ヤブレダコ

イマナガ・シゲル

オモチヤヤ ノ オミセ ニ、ソデ ノ ヤブレタ ヒトツ ノ タコ ガ アリマシタ オトモダチ ガ、ミンナ カハレテ イク ノニ ジブン バカリ ガ、ヒトリ トリノコサレル ノ ガ、ホンタウ ニ ザンネン デシタ オミセ カラ、ソラ ガ ヨク ミエマス。ソノ アヲイ オソラ ニ オトモダチ ガ、ゲンキ ヨク トンデ ヰル ノヲ ミルト、ヒトリデ ニ ナミダ ガ デテ ナリマセン デシタ。

アルヒ ノ コト、ヒトリ ノ ボツチヤン ガ、コノ オミセ ニ ヤツテ キマシタ 「ヲヂサン、タコ ヲ チヤウダイ」 シユジン ハ ニコニコ シナガラ 「ハイ、ハイ、ドレ ニ シマセウ」 「ソノ イチバン オホキナ ノ ガ イイ、ヨ」 ト イヒマスト 「イヤ、コレ ハ キズモノ デス」 タコ ハ カウシタ コトバ ヲ キクト モウ ガツカリシテ シマヒマシタ。「ア、カウシテ イツシヤウ トブ コト ガ デキナイ ノ カ」 ト カウ オモフ ト キモ ダンダン ニ トホク ナツテ シマヒマシタ。「ハツ」 ト キヅク ト タコ ハ ボツチヤン ノ セナカ ニ オンブ サレテ ソト ヲ アルイテ ヰル ノ デシタ。イツノマ ニ カ ソデ ガ ツクロ ハレ イト モ ウナリ モ ツケラレテ ヰマシタ。タコ ハ ユメ デハ ナイカ ト オドロキ マシタ ボツチヤン ハ ヒロバ ニ ツキ カゼ ノ フク ノ ヲ ミハカツテ タコ ノ イト ヲ ヒキマシタ タコ ハ トクイ ニ ナツテ ソラ ニ アガツテ イキマシタ。タクサン ノ オトモダチ ヲ オヒコシ オヒコシ テ イチバン タカク アガリマシタ ソシテ ブンブン ウナリ ヲ タテナガラ ユカイサウ ニ シタ ヲ ミオロス ノデシタ。オヒサマ ハ ニコニコ ト ワラツテ イラツシヤイ マス。

# 入選兒童讀物

## 童話

一等　雪の降る夜　奉天若松町一八　敏浩二郎
二等　雪合戰　開原神明街一九　田中美代子
三等　天まで屆いた高下駄の話　安東縣日本稅關內　西元詩圖雄

【佳作】比呂志（奉天若松町敏浩二郎）新しいお友達（安東稅關內西元詩圖雄）和子さんの誕生日（開原かほる）赤い高粱と拔穴の話（遠山憲吉）敏夫君のはなし（大連近江町坂口敏郎）百姓と高粱畠（開原農村水星）夢（大連市壹岐町二丁目龜井一郎）豐の元旦（大連市美國町湊周子）粉挽屋のロバ（安東西元詩圖雄）雷の家（大連栃木田照茂）お隣の陳さん（奉天木曾町服部保昌）

## 童謠

一等　窓の外　大連大廣場小學校二年　柴田正一
二等　母ちやんのお使ひ　大連春日小學校四年　澄原哲
三等　雪の夜　大連日本橋小學校五年　齋藤郁子

【選外佳作】ろば（大連嶺前校四年春木順子）かさゝぎ（大連日本橋校五年木部きく子）今日の雪ふり（日本橋校五年齋藤郁子）多の夜（大連伏見臺校四年東瀨戸泰雄）大連埠頭（同人）親ぶた子ぶた（大連大廣場校森照男）荷馬車（同人）ユキ（大連大廣場校一年堀英子）風の子（大連日本橋小學校六年川端康子）北風（大連日本橋校五年原口郁士）一人ぼつち（大連伏見臺校四年東瀨戸泰雄）粉雪（同人）豆の旅行（大連聖德校今野道子）

# 賀正

## 撫順

山西恒郎　久保孚　齋藤茂一郎　奥澤集成　内野捨一　寺田良之助　大尾袈裟助　草野友次郎　田中廣吉　寺西奎之　古賀初一　影浦政雄　中山豊　平井誉治郎　奥田鹿造　大嶋勇　伊東熊次郎　後藤粂助　川路喜平　中原祥光

撫順炭礦
調査役
課所場長
一同

野田慶　張克湘　櫻井二郎　伴善太郎　畠中仲藏　大江惟賢　小林益造　福田寅一　古賀源四郎　角徳一郎　森山環　東久世賛次郎　飛鳥井堉他郎　松井佐兵衛　佐々木常磐　山口文雄　齋藤俊雄　荻野万治郎　山下七太郎　長井造酒三郎

撫順教育會
(イロハ順)
石原貞次　小野久太郎　米澤信二　棟久藏　後藤基次　荒木馨　前田彦祐　滋野多加次　平部直

中央大街 撫順公司本店 電話二〇八八番

滿鐵石炭特約販賣 三榮公司 電話二三八八番

蓬萊洋行 電話二六四五番

神田工務所

榊谷組

伊賀原組

保健浴場 池田知賀良 電話二四五六、二五一一番

撫順實業協會

撫順體育協會

隅田順吉

石炭商 四國洋行

石炭商 共榮公司

佐藤仁十郎

時計、貴金屬商 石原洋行 電話二〇〇七番

精米業 協泰公司 李尚賢 電話長二三〇三番

時計、貴金屬商 山田洋行 電話二三二一、二〇一七番

福島寫眞館 電話二六〇九番

光寫眞館 電話二二六七番

富澤寫眞館 電話二二一八番

ツーリストビユーロー撫順案内所 渡邊徳次郎

山口タクシー 山口喜市 電話二三六〇番

撫順館食堂 驛前 電話二五四〇番

晝夜撮影 新井寫眞館 電話二〇八九番

大衆雜誌、月刊撫順 城島徳壽

撫順會社團

滿洲土木建築協會 撫順支部 電話二五三九番

撫順醫師會

撫順地方委員一同

石炭販賣 明星公司 電話二二七八番

野田工務所 野田慶 電話二三〇〇、二三二五、二四七八番

河村工務所 松尾駒太郎

表具師 西村松壽堂 東二番町

靴鞄 原田靴店 電話二三九二番

築紫館本支店 電話二八一、二〇六四、二三八九番

旅館 壽館 電話長二〇〇二番

昭和タクシー 富田金次郎 電話二五二一番

和洋菓子パン 明治屋本店

菓子舗 花月堂 電話長二〇一二番

和洋菓子 風月堂 電話二〇一八番

益田醬園 店主 海老名繁 電話二五〇五番

田中金物店

滿鮮專賣所 ルイレキ專門藥 ハレルヤ藥店 振替大連三三九四番

撫順製材公司 電話二六六〇番

壽美屋洋服店 電話二七一九番

撫順醫院
婦人科醫長 齋藤護邦
小兒科醫長 上井敬三
耳鼻科醫長 森田近
内科醫長 梅田生
皮膚科醫長 鈴木修一
眼科醫長 平井穰
事務長 越智通明
傳染病棟主任 伊藤幸雄
藥劑長 平松滿貞

撫順料理店組合一同

撫順純料理店組合一同

撫順西五條商店會

菓子界革命兒 つるや菓子舖 谷口彌七

喫茶、酒、たべ物 青い塔 山口和夫

撫順繁榮會

農業公司

撫順農會

撫順炭礦指定洗布所 石炭細工 山羊乳 大谷商會 電話二二九二番

支那料理 福合樓 電話二四二六番

靴鞄雜貨 前田洋行

平康里 支那料理店組合 電話二七一六番

カフェー ライオン 電話二三九六番

歡樂園 維持會 電話二四七一番

新楊カフェー 電話二四六六番

撫順質屋商組合

高松屋洋品店 電話二〇七三番

泉屋呉服店

和洋酒食料品商 菊地屋商店

飯食店組合一同 組合長 加藤百太 電話二四五五番

食料雜貨 大和洋行 電話二五八四番

# 謹賀新年

## 本溪湖

山口金吾
鮫島宗平
塘慎太郎
清水澂
梶山文吉
日高長次郎
中山通治
岡山武治
森田秀雄

本溪湖煤鐵公司

## 開原

井上芳雄
千々和正彦
大重篤
加藤三吉
川崎亥之吉
川島定兵衛
上郡山九效
梶浦滋
高垣寛吉
龍田道徳
辻馨
瓜生雪雄
前田信二
松本辰吉
佐竹令信
三田泰三
鈴木忠之亟

開原市場株式會社　電話長三二四番

上郡山岡合名會社　開原屠獸場　電話長三〇一番

特産物貿易兼委託賣買　開原公司　洪淳亭　電話長三八三番　出張所　哈爾賓地段街　電話四三一八番　朝鮮定州城内　電話長六一番

國際運輸株式會社開原出張所　所長　上野政次　開原盛街八番地　事務所　電話長三〇九番　專用線倉庫　電話長三九八番　三口公司(國際代辦所)電話二二七番　興構内詰所　電話三七四番

橫濱正金銀行開原支店　電話長二五番

朝鮮銀行開原支店　電話長一〇〇番

正隆銀行開原支店　電話長一一〇番

滿洲銀行開原支店　電話長二六六番

開原取引所信託株式會社　電話　一三五番　二五五番　三二三番

滿洲電氣株式會社　電話長一二〇番

## 鐵嶺

鐵嶺保線區　區長　磯谷新吉

鐵嶺郵便局　局長　市川薫

鮮銀支店　支配人　萩尾開造

赤十字社鐵嶺支部　主事　馬場音次

鐵嶺商友會　會長　徳本延藏

鐵嶺警察署　署長　大内佐藏

鐵嶺商工會議所　書記長　松崎義造

新臺子　民會長　根上藤五郎

鐵嶺機關區　區長　中川正

平頂堡　永田組　永田平介

鐵嶺電燈局　主任　宗石昂

鐵嶺商工會議所　會頭　權太親吉　假寓　相州鎌倉淨智寺内

鐵嶺驛　驛長　青柳亮

鐵嶺滿鐵醫院　院長　醫學博士　小野健治　醫長　醫學博士　大西三郎
植島秀人
成瀬俊夫
脇献七郎
脇政助
松岡市兵衛

鐵嶺　民會長　紀藤義也

奉天信託支店　支配人　橋川成三

鐵嶺輸入組合　理事　下山恭次郎

鐵嶺小學校　校長　白髪隆孫

鐵嶺地方事務所　所長　藻寄準次郎

鐵嶺地方委員　副議長　末廣粂二

領事　近藤信一
書記生　伊地知吉次
書記生　木村朝一
書記生　大矢保

田中組　田中鶴太郎
鮮人民會長　梁戴沃
鐵嶺圖書館長　東海林太郎
滿洲日報支局長　本田正

北五條通　石炭商　旭號　小山仙治　電話一〇二番

日の出町　滿鐵社員消費組合　陸軍御用達商　徳本工場　電話二七六番

陸軍御用達　生果、青物　海産物　精肉　御商　田中商店　鐵嶺營業部　陳列所内電話三三番

松島町　流行の魁　中瀬呉服店　電話一四〇番

松島町　和洋食料品　諸雜貨　藝陽商行　電話二八七番

松島町　特産物　貿易商　橋本洋行　電話八一一番　一六五番

松島町　流行新柄　豐富　山本呉服店　電話二〇六番

鐵嶺城裡　株式會社　日華銀行　電話一八八番　中二五〇八番　五八八番

本店　鐵嶺　支店　大連、旅順、奉天、海城、遼陽、公主嶺　大矢組株式會社

櫻町　カフエー　精養軒　電話二三一番

敷島町　株式仲買　本田株式店　電話長六五番

食道樂　あさひ　電話八二番

鐵嶺驛前　食道樂　若竹　電話一二四番

鐵嶺電燈局

石炭組合
怡信洋行　電話四八番
怡泰號　電話一六二番
三盛商會　電話一三八番

鐵嶺公會堂前　松田興行部　電話一五九番

敷島町　御料理　叶家　電話一五七番

陸軍御用達　安宅菓子店　電話三〇七番

鐵嶺驛　構内食堂　電話三七番

文房具　書籍　大和屋　電話一四番

陸軍御用達　菓子商　西内商會　電話一二五番

壽し　蕎麥　富樫よし　電話四三番

御料理　萬安樓　電話長四九番

石黒茂

滿鐵陸軍指定御旅館　松花ホテル　鐵嶺驛前通
松花御料理部　電話一一〇番

御料理　由良之助　東雲町　電話一五六番

御料理　鐵嶺ホテル　電話二九番

# 勅題『海邊巖』は處世の要諦

關東廳地方法院長　森本豐治郎

昭和五年御歌會始めには「海邊巖」の勅題を賜はれり。八千萬の蒼生、その悉くを擧げて齋戒沐浴の上、各其の志を言ひ、これが詠進を爲すべきの榮譽を有し義務を負ふものなることを痛感せざるを得ず。然れども予は日常、手に殺風景なる六法全書を繙き、口に鹿爪らしき權利義務を唱ふる沒風流漢なるを以て、全然三十一文字の國風を解せず、折角の榮譽を無にし、當然の義務を盡すこと能はず。是れひたすらに恐懼し、慚愧に堪えざる次第なりとす。

歲末の一日、机に倚りとある雜誌を讀み、偶々その誌中にある「海邊巖」なる三文字に接したる時、突如として余の念頭に想起したるは、嘗て年少氣銳、徒步して但馬、丹後、若狹、越前の海岸線に沿ひ、裏日本一部の風光を賞したる際、その行く先々の津々浦々、到る所々の長汀曲浦には、いづれも巍々たる巖石屹立し、日本海の怒濤狂瀾は、この巖石に向つて、寄せては返し、返しては寄せ、浪華は高く飛び、飛沫は廣く散する光景を目擊し、いく度か步を停めて、快哉を叫びたることありし一事なりき。年知命に近からんとする今日、靜かにその曾遊を追想するに及んで、今深く予の念頭に浮ぶは、目に視たる壯快の光景そのものにあらずして、其の光景中に於て自然が默々裡に吾人に啓示せる一大敎訓を心に感銘するに在り。何をか、一大敎訓といふ。予の禿筆に代へて俗謠子の說明を援用せん。曰く「荒い浪風やさしく受けて心動かぬ沖の石」と。荒い浪風やさしく受けて心動かぬ沖の石、一誦再讚するに、何すれぞ其の語簡にして、其の意深きや。

顧みて思ふに、人生の行路は平々坦々、油を流すが如き海上を航行するが如きものにあらず。到る所に嫉妬あり、誘惑あり、陷穽あり。怒濤まき逆まき狂瀾くつがへれり。その風浪に比せば、阿波の鳴戶も波靜かなりといふべし。而して吾人が、この波瀾重疊の世に處するに於て、其の要諦と爲すべきは、實に其の荒き浪風は甘く、やさしく之を受け流すべく、しかも毅然として其の心を動かされざるの一事にありとせざるべからず。若夫れ、其の波風を堅く、つよく受け、徒らに肘を張り、眼を瞋らして反撥抵抗、而して始めて其の心を動かされざるが如きは、容易に心を動かさるゝに比して、勝ること萬々なりといへども、未だ以て上乘の處世方法なりといふべからず。太上は荒い浪風やさしく受けて心動かぬ海邊の巖を學ぶにありとせずや。

# 滿洲に於ける邦人最初の正月

＝貝瀨謹吾

一陽來復又新しい年となつて、皆お目出度うを唱へ合ふ、年々歲々人は徒に古びて行くのに、どうして年の改まるのを喜び賀するのであらうか、そんな理窟を謂ふべからず、何かの本で見た事がある、新に沐した者は必ず其の冠を彈き新に浴した者は必ず其の衣を振ふ、汚れを淸め、垢を滌ぐものは、其の冠に塵なく、其の衣に埃なきを望む事が人情で喜んで

**新しき年** を迎ふるのも亦之と同じやうなものであると、まあそんなものでありませうか、人の體に沐浴が必要であるやうに、人の心に新しき年を迎ふる事が大切でありませう、而も一面お正月を祝ひながら、他方自分の齡が加はるのを喞つて、碌々として馬齡を加へ中候と云ふ、しかし今年は昭和庚午の歲、誰も彼も均しく馬齡を加へたのであるから、下らぬ愚痴はやめて大に晴々しく衣を振ひ、冠を彈からうではありませんか、殊に滿洲日報は其の初春の紙上を滿蒙のカラーで飾らうと謀はれます、善哉其の企て、太平洋會議で渦卷き立てられた塵芥も、一つ綺麗に拂ひのける覺悟で、大にやらうではありませんか、それはさておき滿日から私に與へられた題目は、滿洲に於ける

**邦人最初** の正月と云ふのであります、私が當地で迎へる正月は今度で二十六回目です、尤も其の中一度は海外出張中で、ドイツで迎へましたが、其他はすべて大連で歲を越しました、この每年の正月の記錄を集めて見たら、恐らく大連の半面史になるかも知れませんが、夫は暫く措いて玆にお求めに依る事を少しくお話する事に致します、素より嚴格な意味では、滿洲で邦人が迎へた最初の正月とは謂へないかも知れませんが露治時代を過ぎてからの事を述べて見たいと思ひます、即ち明治三十八年の一月です、御承知の通旅順口の包圍は、その前年の初夏の頃から始まりまして、八月の中旬など今にも陷落するものと思はれました、處が何回にも渡る

**總攻擊も** 徒らに膨々たる砲聲が大連の窓硝子を、ビリビリさせるだけで、一向うれしい報知が傳はりません、とう〳〵年が變りました、當時北の方では十月初旣に遼陽を占領して、敵の牙城奉天を衝くべく、着々準備が進められて居ましたが、こゝ大連はひたすらに旅順口の吉報を待焦がれて居ました、それが恰も正月の元日、我軍終に望臺を占領して、其の夜敵將ステッセルは、開城に關する書面を乃木將軍に送りました、唯さへ同胞が迎へた滿洲前初の元日、かなりに氣色ばんで居た處です、二日の正午水師營で、兩國委員が會見して開城規約を協定した事が夕刻に近く發表されましたので我々の歡喜は絕頂に達しました

**酒保の酒** 悉くがアルミニウムの祝盃に注がれました、日本橋（當時土橋）を差挾んで、野戰鐵道提理部（今の大連工務事務所）から兵站監部（今の大連郵便局）の邊は、全く以て人の海となりました、電氣のイルミネーションも無く、婦人の姿や絃歌の音もありません、しかし誰がしたともなく篝火は諸處に焚かれ、カンテラの燈、松明の光は天を焦し、萬歲歡呼の聲は地を震ふ有樣でした、私は斯る文字通の男性的の賑はひを嘗て見た事もなく、又其の後にも見ませんでした、是が所謂邦人最初の正月です、何と勇ましいスタートではありませんか、其の次の年即ち明治三十九年の正月には、

**民政署で御眞影を** 奉拜する事も出來ましたし、二日には乃木大將凱旋の途次、旅順に寄られて陷落一周年記念祭を施行されました、思出深き正月でした、大連のあちこちに絃歌謠が聞えますし、藝妓の年始廻りも始まりました、もう平和のお正月となつたのであります、其の翌四十年の正月には、拜賀式の爲登校する小學男女生徒の往來が、特に目立つたと私の日記に書いてあります、其次の四十一年の正月には、元日に滿洲館で滿鐵最初の新年祝賀式が催され、ロシア町には醉步、散漫たる禮裝者が大分見受けられました、斯の如くにして今回滿日の與へられた題目は、私の年を逆に取らせ

**若き時代** を憶ひ出さしめ動もすれば消えなんとする熱情を再び燃え立たせて下さつた事を感謝して、玆に筆を擱きます。

# 廿六年前のけふ占領した『望臺』

◇…明治三十七年八月七、八兩日に亘る大、小孤山の前進陣地を攻擊し之を占領して以來露軍は全く本防禦線內に壓迫され、愈々攻城戰の序幕は切つて落された、越えて同月二十日午前十時を期して一齊に開始された第一回總攻擊、四日間の我が猛擊に望臺の火砲は翌二十一日遂に我軍の爲め沈默したので我軍の一部は敢然突擊に移つた

◇…敵の猛射に忽ち我が突擊部隊は死傷算なく、續いて敵の逆襲を被りて擊退され、爾來敵は天嶮に加ふるに人工を以て防備を嚴にせる爲め容易に之を攻略すること能はざる狀態となつた、三十八年一月一日、本日より正に二十六年前の今月今日、早朝を期し一戶少將（現大將にて明治神宮宮司）の率ゆる步兵第七聯隊（金澤）同第三十五聯隊（富山）及び前田隆禮少將の率ゆる（第二十二旅團長）步兵第四十三聯隊（德島）は壯烈なる突擊を決行し元旦の午後三時十分、全く之を占領する事を得た

◇…「肉彈」の著者櫻井大佐（當時突擊隊の小隊長）の名に依つて名聲更に擧つた望臺は春風秋雨二十有六歲を經たる今日も、又何百年何千年の遠い未來迄も訪る幾多の見學者、誰か當時を想はぬ者があらう（露軍は此砲臺を「鷲巢山砲臺」と呼び急設臨時築城で現存の火砲は海軍砲を使用してゐる。

## 壁畫の馬が拔出す

仁和寺御室の御所附近の田畑が每夜のやうに荒される。調べてみると、縱橫に馬の足跡が殘つてゐるだが、附近の誰彼の持馬でないことだけは、勿論とあつて連日探ね倦んだ結果、ふと、某が御所の壁畫の馬を見ると、生々しい土塊が附いてゐたので、畑荒しは此の馬が拔け出しての惡戲と決定された巨勢金岡の名筆に成つたものだつたといふ。尤もこの話の時代は正確でない。

# 滿洲電話事業の過去現在及將來

遞信局監理課長　中尾國次郎

我滿洲管內電話事業は日露戰役直後我軍側より繼承したものであるが其當時電話加入者數は管內を通じて僅々四百六十餘名、電話局は主要地數個所にあつたのみで市外電話線の如きもたゞ主要地間を連絡する短距離線數條を有したに過ぎなかつたのである。然るに其後漸次邦人の居住者增加し土地の發展を見るに伴れて電話諸施設の改良擴張を行ひ現在では電話加入者數一萬八千名といふ大增加を示し市外電話線も亦百十餘回線而も多數の長距離線を有するに至つた事は繼承當時に比し誠に隔世の觀がある。

×

當局電話業務が僅々二十數年間に如斯驚くべき異數の膨脹を來したる主なる原因は先づ邦人の旺盛なる發展に指を屈しなければならないのは勿論であるが一面に中國人の我電話機關利用の激增である點をも擧げねばならぬと思ふ、即ち中國人が我電話を利用する程度は全く世人の想像以上であつて其利用率は遙かに日本人を凌駕して居るのである今其利用程度に就いて槪觀するに市內通話に在りては中國人一人當呼數は常に日本人の二倍若くは三倍以上に達し市外通話は中國人加入者が管內總電話加入者數の二割八分なるに拘らず通話の利用數は管內總通話數の約五割を占めて居る狀況であつて如何に中國人が我電話機關を商戰に利用し活躍しつゝあるかを思はしめるのである。

×

又當管內電話の施設範圍は滿鐵沿線に限定せられ中國電話は沿線外に限定せられて居る結果、双方とも其施設範圍は極めて窮屈なもので兩國當事者は所謂通信に國境なしといふ觀念にて日華兩國商民の利便を圖り勞々各自の施設を出來得る限り經濟的に活用する必要を認め旣に第一着手として大正四年公主嶺河南電話公司と我電話との連絡提攜を初めとし四平街、瓦房店、吉長鐵路、四洮鐵路、蓋平、范家屯、本溪湖等の支那電話と連絡し更に昭和二年四月からは大連、旅順、奉天、安東縣各地の我電話と北平、天津、洮南、奉天各地中國電話との國際長距離電話連絡をも實施するに至り孰れも豫期以上の好果を收めて居る、電話連絡事業は單に中國電話との連絡に止まらず朝鮮管內電話とは諸種の關係に於て旣に古くより安東縣の我電話と連絡を實施して居たが滿鮮間の交通經濟關係が漸次密接濃厚となるに伴れて更に連絡範圍擴張の機運に迫られたので大正十四年十一月奉天、京城間等の滿鮮長距離連絡を開始し更に昭和三年六月大連、旅順其他當管內主要各地と京城等との最大長距離連絡電話の實現を見るに至つた、而して日滿間電話連絡の如きも早晚必然起るべき問題であつて當局としては時機を見計らひ之が實現に努める考へである。

×

當管內電線路は大正十二年以降十一個年の繼續事業として每年四十萬圓以上の巨費を投じ改良擴張を行つて居り工事も着々進行し昭和八年度には完成を告ぐる豫定であるが右の計畫は腐朽電柱の建替鉛線の張替等を主なる目的としたもので完成の曉は電線路としては殆ど面目を一新することゝ思はれる、併しながら現在市外電話回線百十餘線の內大部分は重信線（實線二回線を利用して構成せられたる想像上の第三の回線）若しくは双信線（一回線を同時に電信、電話に供用するもの）であつて眞實回線としてはほんの數ふる許りであるから通話の疏通上遺憾の點が尠くない依つて當局は出來る限り單獨實線に變更する計畫の下に研究を進めて居る次第である。

×

尙市外回線の經濟的施設として近時外國で實用に供して居る搬送式多量電話法施行の如きも大に研究の價値があるので當局に於ても先年來研究中であるが近き將來に於て本裝置を實現せしむるに至る事と信ずる管內電話施設に對する中國人の利用率の大なるは既述の通りであつて之が對策に付ては常に多大の苦心を重ねて居るのであるが就中交換作業の關係に於て言語の通ぜざる爲常に支障を來して居るのである、又管內に於ては土地に依つて交換手の補充困難の爲交換サービスの向上を期し得られざる場合が少くない從つて是等の支障を除去するにはどうしても根本的に交換方式の變更を必要とするので當局は旣に大正十二年四月大連中央電話局に自働交換方式を採用し越えて昭和二年沙河口分局更に昨年二月には撫順局に又引續き七月には奉天局に夫々優秀なる自働式を採用するに至つたのである。

×

自働式電話が其交換サービスに於て將又經濟上に於て有利なる事は實況に照し最早何等の疑ひを存する要なきに至つたので當局は將來電話交換の自働化を計畫し現に貔子窩局にては本年三月には自働式の開通を見るべく又長春に於ても旣に昨年自働局廳舍の基礎工事を完了した樣な次第である、其他電話施設上に於ける改良或は擴張計畫並に之を運用する各種法令等にして幾多の改正事項を有するのであつて吾々の責任の重且大なるを痛感すると共に今後は一段の努力をなすべく決心して居るのである。

# 賀正

## 哈爾濱

八木元八

築島信司

[illegible]

[illegible]

高橋貫一

賀正 イ・ネズナイコ

加藤明

[illegible]

澤田茂

增田貞一

松島[illegible]

宗像金吾

蔡運升

米春霖

佐々木久松

高岡號 相見幸八 哈爾濱道裡十四道街 電話四四二〇 三七〇〇

石原重高

岩永浩

西本市太郎

細木繁

大江新

岡茂

吉原大藏

橫田提壽

軍司義男

山崎重次

福井敬藏

日清製油株式會社 高柳德太郎

貴虎孟太郎

釋河野龍丸

荻原洋紙店 中國十三道街 電話四六八六

成發東

哈爾濱日本醫院 事務所 買賣街

石炭商組合
日隆洋行
合昌泰
竹內商會
松茂洋行
新隆號
ゼレズニヤコフ

黑龍江省東支鐵道西部沿線 呼海鐵道沿線滿鐵石炭特約販賣
得昌號 金隆號 德泰號 組合事務所
事務所 哈爾濱地段街三〇

加藤醬油釀造所 加藤米吉 傅家甸北四道街 電話九、二〇八三

滿洲日報 大朝每日 販賣店 大每社 ウチヤストコワヤ街 電話三三八三番

純西洋式 茶代廢止 北滿ホテル ウチヤストコワヤ街 電話四〇一八、四〇七一、二三六八

哈爾濱モストワヤ街 寶石貴金屬 蓄音機 前田時計店 電話三一九一 振替大連三三九〇

國際運輸株式會社 哈爾濱支店

恭賀新年 祝扁西曆千九百三十年一月一日 哈爾濱 東省鐵路管理局

御料理 矢倉 哈爾濱スクウオズナヤ街 電話三九七五番

純日本式 茶代廢止 名古屋ホテル 哈爾濱モストワヤ街七八號 ジヤパンツーリスト局會員 電話客室用三〇〇七、事務用二〇二八 振替口座大連四五八八 自動車部、食堂直營 電話二〇二八

（第三種郵便物認可）

滿洲日報

元旦號 其の三

# 財界に黎明を齎す昭和五年を迎へて

年こゝに新に、昭和五年を迎ふ。

暦日の運行は人の力を超越し、舊年の去り新年の來る、この世界以來の約束は、何の變哲もなくまた何の不思議ともされないが、年新なれば人の心も自ら新に、誰しも今年こそはと思はぬものはない。則ちこの希望あり、この感激あればこそ人世の意義もあり、また文化の進歩もあるのである、ことに本年はわが財界多年の懸案たる金解禁問題を解決し、正月匆々これが實施に直面せねばならぬ立場にあり、この國民的試煉を前にして、國を擧げて人心緊張し、新年を迎ふ、轉た感慨と希望の新たなるものがある。

顧みるに過去十三年間、金の輸出禁止といふ特殊事情の下に、わが財界は、信用取引の濫用による不健全經濟を續けて來たのである、すなはち金の解禁は、今日まで實力以上に評價された富を、價値の世界的尺度によつて正しく評價し直すことなので、その實行の第一步を踏み出す本年こそ、實に多難なれど意義深き年なりと言ふべきである。而してこの受難こそ今後安心して活躍すべき素地を築き上げるための試煉であつて、決して悲觀するに及ばぬことであり、國民の緊張徹底し、こゝに始めて財界の健實なる立直りが芽を吹き、景氣の回復へと轉換し行くのである。

解禁後なほ諸物價は滔々たる落潮を續け、不況は逐次的に深刻化して行くかも知れない、或は意外に平靜なる推移をみせて、いわゆる中間景氣の出現を招き、緊張した氣分に弛緩を示すやうな事象が發生するかも知れない、殊に特殊地域たる滿洲では內地とは異つた經濟現象を呈せぬとは限らない、しかし國民は終始一貫緊張して、財界趨勢の推移を正視しなければならない、そして國民の緊張は緊縮節約の消極的活動から、更に進んであらゆる產業の合理化を圖り積極的活動により財界の根本的立直しを完成するまで徹底せしめなければならない。こゝにおいて初めて財界も一陽來復を得るのである。

思ひなしか今年は、吹く風も一入身にしみて、更に心に緊張を與へしむるものがある。しかしながら霜雪の苦鍛ありて松柏の堅强あり、冬來りぬれば春また近きを思はしむ、これがため身は刻下の不況に喘ぎながらも渤然として、心の快感が萌すのである。財界に黎明を齎す新年の多幸ならんことを祈る。

# 慶賀すべき金解禁の年

## 各種事業も圓滑に遂行しやう

日本銀行總裁 土方久徵氏談

昭和四年の財界を顧みると前內閣時代即ち上半期に於ては爲替相場の低落著るしいものがあつた、當時の三土藏相が其の緩和策として金解禁斷行の意思あることを仄めかした旨傳はるや爲替相場はやゝ恢復の形勢を呈するに至つたが一方株式市場はその

**惡影響を** 受けて極度に恐怖し遂には非常な暴落を演じた、そこでこれが對策に就き財界各方面に於て種々協議された末、井上現藏相や團、鄉氏等の財界巨頭が親く三土藏相を訪問して意見を交換した結果、三土藏相の金解禁非即行の聲明となつて現はれ株式市場はそれに依つて漸く安定を見た然し爲替相場の方はその爲め遂に又復低落を告ぐるに至つた、第五十六議會終了後田中內閣崩壞し代つて濱口內閣の出現となつたが新內閣はその重大政策として金解禁斷行、財政其他の緊縮節約、財界の安定を標榜して着々これに努力したので爲替相場もこれに好感を受けて

**漸次恢復** の步を辿り政府の眞劍なる態度一般國民の贊同、內外經濟事情の好化等に依つて益々その傾向顯著となり、對外貿易の順調、國際貸借の改善、物價の低落、海外金利の低落等は爲替相場をして一層平價に接近せしめるに至つた、而して斯の如き經濟界の好轉と共に一時極度に現はれて居た解禁恐怖人氣も自然薄らぎ最も懸念された爲替相場の急騰に依る經濟界の影響の如きも案外現はれず問題の

**金解禁も** 遂に十一月二十一日を以て短期期限附斷行を發表されるに至つた、金解禁に對する內外諸般の準備は十分整備されて居るのでそれに伴ふ影響も別段大したものでないことは何としても我國の爲め慶すべき事である、斯くて解禁斷行後即ち昭和五年一月十一日以後の財界は金の海外現送に依つて通貨は幾分收縮を來すべく、隨つて國內の金利は當然引締りを呈するであらうが之が爲め金融の圓滑を缺くとか物價の急激なる下落を示すとかいふことは恐らくあるまいと信じて居る、若し其のやうな現象が

**誘致され** る場合には政府及び日銀當局としては既に十分整へて居る處の準備を以てこれを緩和し且つ統制することになつて居る、故に決して甚だしい惡影響を來すやうなことは萬々なからうと思つてゐる、所で一般景氣は何うかと云ふに既に過去の財界は久しく不況に沈淪して居り既に底を引いて居る事でもあり、多年の懸案だつた金解禁問題も解決されたので自分は前途に何等の暗影はないと信じて居る者である、換言すれば今日の時期に於て各種のことに

**採算して** 掛かれば是れ以上に財界が甚だしく惡化することはないのであるから隨つて財界の不況に依る損失を掛くこともない譯である、されば各種事業會社も安んじて事業の遂行を爲すことが出來るから今後相當の時期を經過すれば自然景氣も恢復上向の道程を辿るに至ると思はれる、然し乍ら金解禁問題が無事解決したからと云つて直に有頂天になり不自然に事業の擴張などをなすに於ては必然一時的の空景氣を招來し財界に恐るべき惡影響を及ぼす結果となるから斯の如き事のないやう各自大に

**警戒せね** ばならぬこと言ふまでもない、日銀としても之等に對する資金の貸出しに就ては十分これを警戒するつもりである、尚金解禁が今後の滿洲經濟界に果して如何なる影響を及ぼすやに就て一言せんに今日の滿洲經濟界は勿論滿洲のみ孤立的に內地の經濟界と何等關係なくやつて行けるものではない、資金關係その他に就いて考慮するも內地經濟界の推移に追隨するものと思はれるから內地の事情が好轉するに於ては滿洲經濟界も自然その好影響を受くるに至るであらう、故に解禁後も內地と同樣に各自がそれ〴〵自戒し有頂天になることなく自然の景氣恢復を待つのが最も得策であると考へる

海邊巖

懸賞寫眞三等當選　大連市榮町二ノ一　大塚三佐太氏

# 銀安時代と積極政策

滿洲輸入組合聯合會理事長 神成季吉氏談

今や世を擧げて緊縮節約の時代となり、不景氣風は津々浦々に渦卷いて居る、正月十一日より實施さるゝ金解禁準備として、伸びんが爲めの屈縮は止むを得ざることであらうが、滿洲に於ては、母國の政策に盲從して萎縮退嬰に陷る事は大に注意せねばならぬ

**金融關係＝＝** は日滿共通であるから、滿洲に於ける投資は其の土地で働き出した金以外は矢張り金流出となるを免れないが、採算上有利の事業及諸建築に投資するのは、ヨシ金流出となつても、國家の損失とならざるのみか、現時我國に於ける資金偏在に活路を與へ、有無相通ぜしむるに最も適當である、若し其資金を外債に仰ぐとして、採算上年一割二分收益ある事業ならば、外債に八分の利息を仕拂ふとも差支へなかるべく、不動產建築の如き好個の投資物に非ずや大正八、九年の好況時代、銀百圓は金二百圓以上の相場を維持したる當時に於て、一坪當り

**建築費は＝＝** 金三百圓以上であつたが、今日は銀は金八十圓となり建築費亦八十圓前後となつた、建築費の約七割が、銀を以て仕拂はる可き支那の材料及び勞銀なる故である、此際考究す可き事は今日の採算が果して永續し得るか否やの點に在る。近時上海奧地方面より、耳環、指環其他裝飾品として保藏されて居る金が非常な勢ひで、上海に出廻り、上海金塊市場の取引物件たるゴルトバーに改鑄されて居るが、此數量は既に三千條（一條四百八十圓）に達し引續き出廻るものと見られて居る、大正八、九年に買入れた金の

**裝飾品は＝＝** 支那人から見れば、今日の相場で約四倍の騰貴である、此の際是等を賣拂つて銀に乘換へて置くのは、蓋し利口な遣り方だらう、尤も三千條と云つても高々百五十萬圓のもので大勢には關係ないとしても、銀貨國に於ける金建投資は此の儀を叫ぶ必要のある所以である、而も銀塊相場は、多くは財界好景氣の時高く、不景氣の時低落するを常として居るが故に、在留邦人が景氣の良い時に活躍し、不景氣の時萎縮する時は、前陳の支那人とは全く正反對となり

**損失許り＝＝** する事になるのである。今日有利の採算は將來違ふ心配はないかを見るには元より銀塊相場を研究するを要する、過去百年間のロンドン相場の足取りを見ると、ブアー戰爭の終末即ち明治三十五年十一月及三十六年一月に最低の二十一片十六分の十一を、日露戰爭後の反動期同四十一年十二月に二十二片丁度を表はし、次は歐洲大戰勃發後大正三年十一月に最低の二十二片八分の一を出し翌年二月に至る迄二十二、三片臺に在つた。今回は四回目で、昨年十二月十八日には二十一片十六分の三を表はした

**前三回は＝＝** 戰爭の影響であつたが、今回は國際聯盟とか、軍縮會議とか、無戰爭時代の招來であり、印度は既に金本位制を採用して所有準備銀貨改鑄の上市場に賣出し、昨年の世界銀產額は二億五千萬オンスと云ふ稀有の巨額に達し、銀の大需用國は支那一國となりて、世界の供給は是れに集中し、上海には二億萬弗の在銀を有し、ロンドン市場も亦多額の銀ストックを擁する現況である、目先き銀相場を騰貴せしむる材料としては、支那の內亂であるか、蔣、馮の葛藤や、反蔣聯盟の內亂も何等の影響を與へない處を見ると今後の

**材料とは＝＝** ならぬかも知れぬ、然らば支那復興に依る需用喚起とか、不引合の結果に依る銀產額減退とか、或は上海に於ける金裝飾品の洪水が目下吾々を首肯せしめ得る材料は見當らぬが斯る環境に在つて猶二十二片を維持し得る底力に想到すれば、今日の相場は、ヨシ底値ならずとするも、是れに近きものたるを判定出來るのであつて、從つて是れに依る採算は間違ひの少なきものたるを斷言したい。斯く觀來ると、銀安時代が最も合理的である、徒に母國の緊縮風に脅えて袖手傍觀の時に非ざる可し、年頭に際し敢て所感を述ぶ。

# 內地有力者の進出を希望

## 滿洲財界は稍小康

朝鮮銀行總裁 加藤敬三郎氏談

殖民地金融機關の從來に於ける實績を看るに比較的失敗の歷史が多い、それで其の失敗の原因が何處にあるかと云ふに殖民地に於ては事業が非常に多く、事業に從事する人には割合に濟者のものが多い、從つて金融に就ても自から內地に於けるそれよりも無理な要求が多く、自然銀行が金融機關としての確實な經營をなす上から離れて周圍の情實に捲き込まれ無理な金融をなす結果となりそれが救ふべからざる

**破綻の原因** を釀すが如きことに立ち到るのである、斯の如く殖民地の事業は實際上內地に於けるそれよりも危險事が頗る多いことを考慮しなければならぬ、然し乍ら殖民地に於ては銀行が內地と同じやうな考へで遣ることも亦殖民地諸事業の發展を阻害する所以ではないから一般の經濟にも叶ひ尚殖民地金融機關としての本分をも失はぬやうにするには銀行經營に心且つ鞏固な意思を以て其經營の衝に當ることが必要で若し然うでないとすると、失敗の歷史を徒らに繰返すより外はない、更に滿鮮の銀行に就て見るも今日までの經驗はそれ等の苦い失敗の歷史を繰返して居るが最近の狀態は幸ひに稍小康を保つて居る、故に今後は出來るだけ前述の過ちを再びせざるやう努力することが肝要で朝鮮銀行も永く內地に本店を置いて

**滿鮮に起る** 實際問題に就て直接干與する機會を失つたやうな實例も尠くなかつたが昨年夏より本店を京城に移して行內の緊縮節約その他整理を極力圖ると共に地方に於ける人々とも直接に接觸し殖民地金融機關としての機能發揮に努めて居る、從つて一般關係者とも親密な關係を持つやうになりその希望に餘程添ふことが出來るやうになつたと思ふ、金解禁と云ふ此の重大時機に際して朝鮮に於ても、滿洲に於ても自ら內地に於ける影響と同一の影響を受くることは當然である、此間に處して十分なる注意を怠らぬやう進んで行き度いと思ふ、次に朝鮮銀行が最近營業方針を改めて滿洲に對する資金の回收を頻りに急いで居るといふものがあるけれども

**取引先が** 十分信用のある確實なるものであれば勿論特に回收を急ぐやうな事はせぬ、只然うでない取引先に對しては勢ひ速かに回收を圖る必要のある事は他の銀行と同樣で別段平素の營業方針を特に更改した譯ではない、併乍ら露支紛糾の結果、ハルビン方面に於ては自衞上相當警戒を加へて居るが露支關係が圓滿に解決すれば無論平素に復する考へである、又鮮銀が整理緊縮を遣り過ぎたの非難もあるが之は昨年思ひ切つた內部の整理を行つた爲めで最近では整理も略一段落を告げ、本店に設けられた整理係りも廢止する運びになつて居るのであつて、事務整理の結果

**貸出しを** 特に手控えて居るのではなく適當な放資物があれば滿洲方面にも進んで放資する方針になつて居る、何分滿洲在住邦人の資力は概して微力なものが多いことは遺憾である、當行としては健實にやつて居る取引先に對しては十分金融の便を圖ることに心掛けて居るが滿洲を繁榮ならしむるには內地に於ける有力者の進出を希望する次第であつて在滿邦人が資力に缺けてゐるため支那人に壓迫される傾向あるは甚だ遺憾に堪えず當行としても出來るだけ便宜を圖り度いと考へて居る、而して金解禁の斷行は銀價の低落を來し內地から

**綿糸布の** 輸入を業とする者は恐らくこれが爲に於て相當の打擊は免れないであらう、隨つて金融界もその影響を蒙る譯だが之は過去に於て既に覺悟し其準備もして居るとであるから打擊があつたとしても輕微な程度で濟むだらうと信ずる尚後に鮮銀系の滿洲實銀行もまた合併すべく商議中であるが斯くして小銀行は有力銀行に合併し金融機關の整理を遂行し滿洲金融機關としての機能を十分發揮させ度いものだと考へて居る

## 馬鳴菩薩の起原

印度古代の高僧、馬鳴菩薩の名の起原が面白い、菩薩が北天竺を訪れた際、某國王が說教を乞ふたが臣下一同聽聞しやうとしない。で、國王は、七頭の馬に一週間食物を斷つた後、菩薩の面前に引出し食物を撒いて、さて菩薩に說教を乞ふたが、いづれも食物を餘所に淚を流して熱心に聽聞したといふ。爾來世人が馬鳴菩薩と呼んだ

# 躍進を待望される昭和五年のスポーツ界

## 庭球コート民衆化

滿鐵硬式庭球部 阿部理作

新らしい計畫と言つても七月に關學院を招聘しやうかとの話がある位のもので私達は振はない硬球の發展のために今迄の中央公園コートを完全なクラブ組織にし、もつともつと民衆化したいと思つてゐます、大連のファン諸氏が私達の氣持を理解して下さつて斯界の發展に力を添へて下さる事を切望します、太田さんでも歸られたら亦新らしい計畫も生れてくるでせうか。

## 輝く我等の希望

昭和五年度の奉天運動會

奉天 齋藤兼吉

一見ちつぽけな奉天運動界も奉天に住んで居る者にとつては左樣簡單に述べられない大きなムーヴメントです、私などの關係してゐる競技、更に眞に興味を以てやつて居るものは其中の數種に限られてゐます、體育の行政家でなく所定の學校に勤務して居る實際家には自ら手などを出して居れる筈もありません

（1）私は一個の體育家として又スポーツマンとして生涯私自身を藝術品たるべくトレーンして行きたい

（2）市民とか滿鐵社員にもつと體育を普及發達させる具體案を建てゝ實行して行きたい

（3）奉天體育協會をもつと組織立つた精神的にも堅固なものにしたい

（4）國際運動場が完成したら完成競技會を盛大に又高いウオールを有つてゐる此のリンクで滿洲最初のスケートのレコード、即ち世界と正確に比較し得ることが出來るのが樂しみである

（5）インドアープールとインドアーリンクが欲しい、でないと滿洲のスケートも直ぐ内地に負ける

（6）昭和四年のラグビーのやうに吾々は大連に勝つ事が實に愉快である此方のスピリットを益々發揮したい

## 内地軍の來征希望

滿鐵大連道場劍道部教師 五段 波多江知治

本年は警視廳、東京學生聯盟、全京都、京都武專、全佐賀、東京帝大等から來征の希望を漏らして來てゐますが滿洲から遠征する事はありません、抱負と言つても唯日本古來の武道の發達のために誠心誠意努力をしたいと思つてゐます新らしい計畫と言つても別になく益々基礎を固めて、より好い大會を開きたいと思つてゐます。

## 全滿鐵軍の内地遠征

滿鐵大連道場柔道部教師 四段 石垣良隆

例年行つてゐる大會等は別として本年は五月中旬に全滿鐵軍を組織して内地遠征を試み東京の學生聯盟と決戰（一回戰勝二回戰負）したい希望を持つてゐますが是非共優勝をしたいと思つてゐます、それまで猛練習を續けます、内地からの遠征チームは京都武專が四段二名、三段八名、二段七名の粒揃ひで來る筈ですし、東京文理科大學も來征の希望をもらしてゐますが何にしましても昨年に劣らない華々しい躍進を期待してゐます。

## 大選手出現期待

昭和五年度の抱負を語る

滿洲ラグビー蹴球協會理事 渡邊諒

英國運動會の耆宿ウエブスター氏は「一人の大選手の出現は大なるフイールドの存在を物語る」と言つてゐる蓋し至言である、選手の存在を否定する人々は此點の認識が足りないのである

競技の一般化を主張しつゝ選手の存在を嫌ふ事は夫自身一個の矛盾である、僕は滿洲から偉大なラグビーの選手が出て呉れる事を祈つて居る、又夫等の選手によつて組織された偉大なチームの出現を望んで已まぬのみならず自分としてはそれを目標にして努力して行きたいと考へてゐる、今の滿洲ラグビー界には競技自體のリファインメントと競技の普及の二問題が併存する、そして此二つを同時に努力しなくてはならぬ所に苦心がある譯である、前者に就いては醫大、奉中二チームの遠征が可成りの貢獻をして呉れるであらうと期待して居る、其外にコーチを兼ねたレフエリーの團體の組織等も考慮はして居るが、此方は星名君に大任を負はすつもり。普及と言ふ方になると相手が民衆一般であるだけに困難である人寄せの時機を作る事、ゲームを澤山やる事、シーズンを延長する事が重な方法であらう、それには秩父宮樣の奉迎試合も是非行はして頂くつもりで居るし、選手權大會も

**リーグ式**に行はうかと考へて居る、内地ティームの招待は滿鐵側の意向もある事故勝手な事を言ふ譯には行かぬ。餘白※有難う。

## 室内プールを作つてほしい

前萬國オリムピック日本代表水泳選手監督 宮畑虎彦

昭和四年度に於ける滿洲水泳界の活躍は何と言つても内地に遠征した女子選手のそれでした、大阪の神明高女チームのリレー、優勝、神宮競技での滿洲リレーの奮鬪、これに比べると男子の方は餘り華やかではなかつたが、それでも殆ど全種目滿洲レコードは書き換へられました、今一般の活躍を望む前に私は滿洲に於ける室内水泳場の設備を是非必要だと存じます、昭和五年度の仕事の一つは即ちこれではないでせうか

## 滿洲運動競技の尖端へ躍進

滿洲體育協會主事 林田學

昭和五年の劈頭に當つて「まづ健康」を祝福する、多忙なりし昭和四年も健康なりし故に完全に突破した全滿洲選手權大會は滿洲靑年子女の憧れの焦點であり滿洲競技界の中心である、一般體育運動熱の勃興するは人類の健康を欲する當然の反映である、一般體育運動熱の尖端を行くものは即ち滿洲體育協會が司る全滿洲選手權大會である事は云ふ迄もない。

運動競技の利害、得失などを今ごろ論議するは時代遲れである世の中の事總てが利害得失の伴はないものはない、殊に其見方を異にする場合に於て正反對の議論は兩立する。吾人は僅々數年間の經驗に過ぎないにしろ日佛競技を見、日獨競技を見、將又明治神宮競技其他の競技會に參加して親く見聞した處に依れば强者は飽くまで强く弱者は常に敗る、而も心身共に强き者が全く無敵の觀ある事は競技の都度しみぐと感ぜしめられる。斯くの如く心身共に强健なる者に即ち一般人士の其目標であり其目標たる可き所謂選手諸君は一般體育運動熱の助長者であり其尖端を行く人々である、或は又一面一般體育向上の貴き犧牲であるかも知れない。

吾人は此の貴き犧牲者達の爲に常に細心の注意を拂ひ陸上競技、水上競技、氷上競技或は庭球、排球、籠球等凡ゆる競技に對し男女共に全滿洲選手權大會を開催して其技の向上を圖ると共に心身の鍛練にベストを盡した其結果は既に識者の認むる如く有形無形に滿洲靑年の一擧一動に良好なる成果を收めつゝある、而して滿洲の運動競技界は日本内地の憧憬の中心と迄云はるゝに至つた、是は一に滿洲在住の尊き犧牲である選手諸君の奮鬪努力の賜であつて新興日本の尖端にある滿洲在住人として誇るに足る可きものである。

斯くの如く年々滿洲運動界が地位を向上し、其品位を保持して進み來つた今日吾人は新年劈頭に當つて更に更に滿洲の斯界が洗練されん事を衷心より希望すると共に其發展を期待するものである由來滿洲は日本内地に比し常に新進氣鋭の風に富み運動競技に携はる者の心懸けに於ても幾多の優つた點を認められ其運動場は身體の鍛練場であると共に精神の修道場であると云ふ見地で進んで來たが一層其の氣持を濃厚にし即ちスポーツ精神の發揮に一層の努力を爲したいと思ふ。

ゲームの勝敗は末の問題である、其ゲームに對する精神の陶冶こそ吾等の期する目的である、社會人としての人格の陶冶も其處より生ずる事を忘れたくない。

吾人は小なる天地と雖も滿洲競技界の中心に立つて飽くまでも嚴正に世の褒貶を度外視して强くく生き日本民族として其尖端に立ち眞に運動競技の選手たるに止まらず人間の選手として一般社會の尖端に歩を進めん事を切望して已まぬ。

終りに滿洲體育協會は其名は體育協會なるも其實は全滿洲競技聯合なる事を明らかにし體育即ち醫學上等より見たる體育其他の大家にお讓りして其弊害の有無に拘らず競技中心に進み已むに已まれぬ大和魂の發揮に精進する事を附記する。

### 項羽の愛馬

項羽の愛馬騅は虞氏から贈られた駿馬で、長さ一丈、背丈六尺といふ稀世の逸物である。千軍萬馬、轉戰亦轉戰のうちに終始項羽に愛乘されたが、項羽が烏江の畔で自刎するや、自ら江に投じてその後を追つた。

## 野球見物十五年の思出

中川久明

標題には十五年としてありますが、私が滿洲で野球を見初めてから十五年やそこらではない、或は二十年を超えて居るかも知れない滿洲で野球が初めて行はれたのは明治四十一年の秋だつたと思ふ、米國東洋艦隊の軍艦四隻が來航した時、滿鐵本社の見習ひに依つて組織せられて居た社交團體の若葉會有志といふ名義で、實際は見習ひでも若葉會員でもない平野（今の滿鐵學務課長）鶴見（當時の滿鐵土木技師）平岡（當時の光明洋行主）阿山（當時の正金銀行員）など一世紀前のそボ連が、或は禿頭に、或は白髮頭に捻鉢卷といつた姿で「昔取つた杵柄だ」と許りに斜樑への寄せ集めチームを造り一つぱしのピックアップチームだと自負して、正々堂々と米國領事を介して艦隊に試合を申込んだ處が勝負ごとなら何でもムれの水兵さん達、就中野球は彼の國が本場だと許りに二つ返事で承諾し、三回戰の約束で戰端が開かれた。夫が滿蒙初めての野球試合であつた。要之滿洲に於けるグラウンド開きは日米兩國の國際競技で幕が開かれたのだから素晴らしいものである。

當時の球場は伏見臺工專前にあつた。同地は今は立派な市街地となつて居るが、其頃は紀鳳臺の麓と伏見寮と教習所寄宿舍とが飛びくに建つて居たゞけ、而も夫等の家も皆空家で人ッ氣といつては常盤橋の天滿屋ビル（當時の英國領事館）か、小崗子（今の榛澤山の家はなかつた）まで行かねば見ることも出來ない荒野原であつたが、球場は從前競馬の眞似方を一二度遣つた跡だつたので多少地均しがしてあつた、其處を荒儘りに雜草など引拔つて之に充てた見物人としては米艦は總員出して三四百人のヤンキーが動物園で開く樣な騷を出して騷いで居たが日本人は僅か三四十人で、苟くも國際競技といふのに試合の無いごと騷だしかつた。選手連は口も達者氣も達者モ一つ意地つ張りも相當强かつたが、何分十年以上バットを握つたこともない野武士の寄合であるから、體軀が言ふこと聽かないらしく、赤兒の手を捻るといふ言葉を其儘に宛然玩具扱ひにされて了つた。デ竟に一回戰だけで御遠慮申上げて了つた。

處が勝つて勝つて勝ち拔いだ水兵連、面白くてたまらなかつたと見え翌日から三日間其グラウンドで軍艦同士の對抗戰を遣つた。彼等は公々然勝負にもヒットにも三振にも賭をして居て、私共の眼前で十弗二十弗と現金取引を遣つて居た、爲めに勝負は極度に緊張して必死となり審判に苦情を付けること夥しく、一回の仕合に審判者が十幾人と交替した確に一種の珍試合であつた。

斯くて米艦は二日間滯在の豫定が遂に五日間に延びて、其間に大連に落ちた金が五萬圓以上だつた相だ、今なら五萬や十萬は何でもないが日人商人二三百位ゐしか居ない頃の五萬圓であるから頗る大きく居物屋も肉屋も酒屋も期せずして騷ざらへが出來た樣な形であつた。夫が滿鐵重役の耳に入り、毎年米艦を迎へるのは市の繁榮を圖る上に非常に効果がある其手段としては野球を奬勵するが早道だといふことになり。正式の球場を造る段取となり選手を社員に採用することにもなつた、是が大連野球創始の發端である。私は其ころからのファンであるから見物人としては確に草分けの一人だと思ふ

其後野球が次第に盛になつてから州内では滿倶、實業團、旅順工科學堂の靈陽團が覇を唱へ、州外では撫順、長春が各一方の雄として來征したり、遠征したりして勝負を爭ふて居た。私達は夫が何よりも面白くて毎年選手の尻について撫順にも奉天にも一家擧つて泊りがけに見物に出かけたものである。

應援で今尚眼に殘つて居るのは靈陽團應援隊中の一人で假裝だか實物だか兎に角嚴めしい鬼髭を延ばしたのが、木製臺とでもいつた風の巨大な木履を穿いて號令をかけ「かつ飛ばせー、くく」の應援歌を唄ひ狂ふて居た姿と、實業團應援者の一人が經助の假裝をして小さな扇を展いて觀衆の前に踊り出し、チョコく走りにおどけて居た姿とである。夫から撫順の應援は五六尺位の棒の先に黄色だつたか赤色だつたかの三角旗を付けて、二三百人の隊員が二三句の簡單な應援歌を唄ひ畢つてから「ケンくく」と音聲を放ちて、其旗を斜に構へ、水平に突出したり引込めたりして突撃の見榮を切るのであつた、夫が誠に勇々しくて、滑稽で、薄氣味惡くて敵の投手がモーションを付けた時に遣られると、若い投手などは手許が狂ふらしかつた。デ反對側の野次連それを憤慨して「ケンく雉子驅ぐな」とか「野良犬默れ」とか罵倒したり「ヴヒーく」と豚の如な奇聲を以て應酬して居た。昔の應援は敵選手のイヤがることを言つたり仕たりするのと夫を邪魔したり罵倒を交換したりするのが主であつた。

大連での應援では何といつても工業學校が一番華々しく、今でも時折聽く「荒鷲叫ぶ岩崙の」といふ歌詞が勇壯で、調子が又馬鹿に痛快味を有つて居て碧空に突拔ける如な快感が太鼓の音と和し森の青葉を震動せしむるとき見物人迄もが勇躍感に打たれるのであつた。大連商業は手拍子を取るのが巧で六七百の生徒が調子を揃へてパチく遣るのが一偉觀であつた。

大連の野球が今日の如く天下無敵の强剛となつたのは何といつても岸一郎君の來滿が其緒を啓いたものと私は思ふ。岸君と云へば一高が來征して滿倶と戰つたことは忘られない、一方は内村君、一方は岸君で兩投手が必死の妙技を競つて快戰したのは到底又と見られぬ壯觀であつた。而も連戰して二回とも惜き敗戰を嘗た一高の主將中牧捕手が二回戰のゲームセットを宣せらるゝとホームプレートの上に直立しマスクを取つて高く打振りつゝ選手一同に「集れ」と快活な聲で號令し、喜々として馳せ集まる選手と共に秋毫も惡びれたり悲しんだりした面色なく「吾はベストを盡せり」といつた風の心から遺憾のない態度を示して力足を踏んで堂々と引揚げたのには寧ろ崇高の念を生じて、私は味方が勝つたのに拘らず悲愁の涙が思はず兩頰に傳はるのであつた。

夫から悲壯な仕合を見たのがモ一つある。夫は彼の東京に大震火災の起つた當日のこと、恰度慶應の選手が來征して實業團と戈を交へて居たときのことで、インニングが四回か五回かまで進んで兩軍極度に緊張して居る時、突如として數萬枚の滿日號外が見物席にも選手席にも撒布せられて大變災が報道せられたので、觀衆一同も俄然色を失つたが、慶應選手は皆冷水三斗位の感では無かつたらしかつた。それにも拘らず彼等は仕合を續行して結果は慘々の敗戰となつた。彼等は多分心は鄕里の空に飛んで居るであらう、父兄の安否を氣遣ふ状で彼等の頭は昏迷して居るであらう、彼等の眼には阿鼻叫喚の現狀が髣髴してボールもベースも見えないであらうと思ひつゝ、私は坐ろに征子の痛々しい心根を汲みつゝ泣きながら其試合を見た。

賀正
大連市山縣通
三井物産株式會社大連支店
電話代表七一〇一番
南滿洲電氣株式會社
本店　大連市常盤橋中央ビルデング
支店　奉天支店、長春支店、安東支店、鞍山支店
出張所　連山關出張所、海城出張所
大連市山縣通
三菱商事株式會社大連支店
電話代表八一五一番
南滿洲瓦斯株式會社
本社　大連市西通一一七番地
電話代表八一八一番
支店　鞍山支店、奉天支店、安東支店、長春支店
和洋酒、煙草、食料品
大連市大山通
宅の店
和洋菓子、東京風菓子謹製
電話代表五一九九番
先驅＝滿蒙開發の
楔子＝東洋貿易の
國際運輸株式會社

# 馬を詠んだ萬葉集の歌

橋本八五郎

## 新年の馬

萬葉集は世間で知られてゐるやうに、一見複雜な編纂物で、近代的の著書の如くに、よく整理されてゐない。從つて、馬を詠んだものにしろ、新年の部があつて、そこに出てゐる譯ではない。本集の最後の卷、即ち卷第二十の歌の、順番にしても終りに近い、四四九四に發見せられるのである。即ち大伴家持の作で、

水鳥の鴨の羽の色の青馬を
今日見る人はかぎりなしと云ふ

とあるのがそれで、左註を見ると天平寶字二年の正月に、七日の賜宴を豫想して、豫じめ作つて置いたのであつたが、六日に、仁王會の御會があり、此の歌は奏せずに終つた由が記されてゐる。

## 春の駒

駒はこうまのうが無くなつたので、馬の子の意である。春の駒は如何はいらしく、勢よく、人の心をも引立たせるものであるが、萬葉の作者達は、多くは之を戀を歌ふ場合の材料とした。卷第十四の東歌三五三二に、

春の野に草食む駒の口息まず
吾を偲ぶらむ家の兒ろはも

駒の若草を貪り食ふ時の、小息みもなく、驚きやうに、家の兒は即ち我が妻は、吾を戀しのんでゐるであらうか、と云つて、實は自分も家の兒を偲んでゐるのである。頻りに人を思ふことを、駒が草食むに譬へたところ、譬喩が奇拔で具體的で、感じが何といふ新鮮なことか。若しこゝで、妻を云ふ時に「春草の妻」といふことを、まだ幼く、みづ／＼しい駒の姿を、聯想するならば、一首の味はひが更に深いものがあらう。

## 夏の馬

夏の馬を詠んだと明らかに知れるのは見當らぬ。こゝには、水に關係した馬を、假りに夏のものとして置く。

馬竝めてみ芳野川を見まく欲り
うち越え來てぞ瀧に遊びつる

武庫河の水脈を早けみ赤駒の
足掻く激ちに沾れにけるかも

共に卷第七にあり、前のは一一〇四、之は吉野の宮瀧の地であらう。後のは一一四一武庫河は兵庫縣武庫郡の河である。武庫の水門は、古來の要津であつた。卷第十二の三〇九七も、水のついでに夏としようか。

さ檜の隈檜の隈川に馬駐め
馬に水飲へ吾外に見む

女から、男に寄せた歌である。隈は、檜の檜隈つた地區といふ意味から來た名であらうが、川は大和高市郡坂合村の小流れである。檜前の地名は、今もある。

卷第七の一二九一は施頭歌である。之れは水を詠んでゐないが、草苅の歌である。草苅も、夏の歌として、大した差支もあるまい。

この岡に草苅る小子然な苅りそね、在りつゝも君が來まさむ御馬草にせむ。

## 秋の馬

卷第十の二二〇三及二二〇一の

秋風は涼しくなりぬ馬竝めて
いざ野に行かな萩の花見に

妹許と馬に鞍置きて射駒山
うち越え來れば紅葉ちりつゝ

作者は共に不明だが、秋の歌であることは、斷るまでもない。前の野といふのは、どこか分らぬ。射駒山は、大和の生駒郡にあつて、河内との國境。郡の南方龍田山と共に、この頃から紅葉の名所であつた。

## 冬の馬

卷第三の二六二は、柿本人麻呂の作である。

矢釣山木立も見えず落り亂る
雪に驟うつ朝樂しも

男性的な、爽快な歌である。流石は人麻呂だといふところ。矢釣は大和高市郡飛鳥村八釣の地である。

「新河郡延槻河を渡る時作れる歌一首」といふのが、卷十七の四〇二四にある。作者は越中守家持で

立山の雪し來らしも延槻の
河の渡瀨鐙浸かすも。

河は今中新川郡にあつて、早月川といふ「雪し來らしも」を「雪解くらしも」と讀む人もある。本文からはさうは讀めぬが、意味はさう解していゝ。この歌も面白い。

人麻呂、家持の二大作家が、冬の馬の歌で、思はぬ腕比べをしてゐる。

## 驛使

大化二年春正月、初めて驛馬、傳馬の制度が設定せられ、大寶令養老令に至つて、愈々完備せる組織となつた。諸道卅里毎に驛を置き、驛長以下夫々の役員あり、馬は交通頻繁の程度に應じ、一驛毎に大路廿疋、中路十疋、小路五疋など、夫々の規則があつた。この驛馬に乘り、甲乙驛間を往復する役人を驛使と云つた。緊急公文書の傳達と、官用旅行と、二種の役務を持つてゐた。驛使は驛馬を驅るから、萬葉集では驛使と讀ませてゐる。卷四には、大宰大監大伴宿禰百代が驛使に贈れる歌二首あり、その他諸所に、この驛使に贈る歌がある。當時遠國に駐在した官人に取つては、この驛使を見ること、今の我々が飛行機を見る以上の、感激や期待があつたらう。驛使は鈴を持つた。大化の制度以下唐制を模倣したが、驛鈴だけは、日本の獨創であらう、唐制中に其の文字を見ないと云ふことになつてゐる。何の爲めの鈴か。其の音によつて、官使の來たことを次驛の役人に傳へ、人馬の用意をさせて、出發を速かならしめた爲めである。氣平な日本人の案出しさうな事で、唐制に無かつたといふのが、本當かも知れない。

さて驛を詠み込んだ歌は卷第十四の三四三九に、

鈴が音の早馬驛の堤井の
水を賜へな妹が直手よ。

驛の堤井には、眞清水がある。その水を、妹の手から、直に貰ひたいものだといつてゐる。驛をいふ爲めに早馬といひ、早馬をいふ爲めに、鈴が音を出してゐるのだが、この美しい歌によつて、驛使の鈴の音を聞くことが出來る。

## 戀の馬

この頃の馬は、陸上交通の唯一の機關で、其の利用は案外に盛んだつた。天平二年には擢駿馬使と官職も出來た。只政府に於てだけでなく、民間でも同樣にその飼養が行はれた。戀の歌に馬を詠んだのが相當多數ある。而して、それらは多く、官職なき無名の民衆である。卷三の三六五

鹽津山うち越え行けば我が乘れる馬ぞつまづく家戀ふらしも。

之は笠の金村が、近江伊香郡鹽津の山で詠んだもの、金村はこれから敦賀へ出たであらう。卷七の一一九一

妹が門出入の河の瀨を早み、吾が馬つまづく家思ふらしも。

同、一一九二

白妙ににほふ信土の山川に、吾が馬つまづく家戀ふらしも。

男が旅先で家を戀ふ歌だが、思ふ心が痛切でない。中には次のやうなのもあるけれど。卷十一の二四二五

山科の木幡の山を馬はあれど、歩ゆ吾が來し、汝を念ひかね。

馬はあるが、人目にふれてはうるさいから、わざ／＼歩いて來たんだがと云ふところ。また、同、二五一〇。

赤駒の足搔速やけば雲居にも、隱り往かむぞ袖卷け吾妹。

自分のこの赤駒は、足が速いぞまさかの時は、一鞭當てれば、雲居にでも飛びかくれ得る。嗟歎することはない、早く袖を卷かないか、吾妹よ、といふので、このあたりになれば、女も稍心を動かさうが、卷十二の三五四〇

左和多里の手兒にい行き逢ひ赤駒が、足搔を速み言問はず來ぬ。

同、三五四二、

細石に駒を馳させて心痛み、吾が思ふ妹が家の邊かも。

からなつて來ると、折角動きかけた心も、どうも滿足しがたい「言問はず來ぬ」など云はれては恨みが湧く「妹が家の邊かも」など、まのぬけた話ではないか。

男の歌に比べると、女の方にも熱烈な純情が溢れてゐる。卷十一の二四二一、

くる路は石踏む山の無くもがも、吾が待つ君が馬躓くに。

卷二十の四四一七、

赤駒を山野に放し捕りかにて、多摩の横山歩ゆか遣らむ。

などは、優しい心遣ひが出てゐるに過ぎないが、卷十一の二四一五

味酒の三諸の山に立つ月の、見が欲し君が馬の音ぞ爲る。

同、二六五三、及び二六五四

馬の音のとどともすれば松陰に、出てぞ見つる蓋し君かと。

君に戀ひ寢ねぬ朝明けに誰が乘れる、馬の足音ぞ吾に聞かする。

などはどうだらう。馬の足音は、乙女の耳に何と響いたか、とどともするのは、果して、馬の音に過ぎなかつたか。それは、乙女の胸の高鳴りでは無かつたのか。

馬の歌は、只これだけに止まらぬ。また短歌だけでなく、長歌もある。それらすべてを擧げることは、一の研究としてなら兎も角、一般に興味も少いので今迄長歌は擧げなかつたが、最後に一つだけ書いて見る、矢張り女性の歌である卷十三の三三一四に、

つぎねふ、山城道を、他夫の、馬より行くに、己夫し、歩より行けば、其思ふに、心し痛し。たらちねの、母が形見と、吾が持たる、まそみ鏡に、蜻蛉領巾、負ひ竝め持ちて、馬かへ吾背。

大意をいふことは、讀者に對して蛇足だらうが、小生自身、言つて見たくなる。山城街道を人々が行く、隣近所の人は、皆夫々自慢の馬を驅つて勇んでゐるのに、氣の毒なは、自分の夫で、徒歩で行かねばならぬといふ。それを思ふと、あゝわが胸は痛い。私が母の形見に貰つた鏡と、一寸珍しい巾とを持つてゐる。之をあなたに差上げませうよ。早く背負つて行つて金に代へ、それで馬を買つていらつしやい。といふのである。

山内一豐の妻は、奈良朝時代、既に無名の女性の中にもあつたところで、この長歌に對しての反歌が、これに答へる男の歌になつてゐる。長歌に對する反歌は、長歌の意を縮約して再說するか、若しくは、長歌に言ひもらした點を補ふことであるのに、こゝでは、長歌に答へたらしいものになつてゐるのが、本集に於ける例外を成してゐるやうである。尙よく調べなければ分らぬが、唯一の例外だとしていゝのかも知れぬ。その歌は三三一七で、

馬買はゞ妹步行ならむよしゑやし、石は履むとも吾は二人行かむ。

といふのである。成程、馬を買へば自分だけは結構だが、お前をどうしよう、歩くより外あるまい、まゝよ、石ころ道でも構はんぢやないか、二人で一緒に出かけようや、と男も云はねばならなかつた夫婦の仲も、かうなればうまいもので、一年中、目出度々々で治まるに相違ない。

# 特殊の植民地文藝

## 滿洲のローカル・カラー

無聽房主人

日本內地と異つた滿洲の特殊な情景を描寫するには、繪畫、彫刻などの外、等しくエステーチックの觀照に屬する美文の力に俟たなければならぬ。然るにそれが乏しい。ローカル・カラーと云ふことが美文の上に必要なものであるならば、滿洲にも日本人によつて滿洲の特殊な情景を寫した美文が生れねばならない筈だが、多少はあるとしても、自分の見聞の狹いためか、不幸にしてまだ滿足なものに接した事がない。

和歌とか俳句とかには、幾らか滿洲の特殊な情景を唄つたものがないでもないが、しかしそれも滿足なものであるとはいへない。彼の句佛上人が曾て滿洲に來られた時、滿洲では成るべく滿洲の特殊な情景を唄つた俳句を作り、努めて一種のローカル・カラーを發揮して貰ひたい、それはまた滿洲宣傳の一助ともなるであらう、と言はれそして自ら進んで種々の滿洲的な俳句を作つた。その俳句の多くは忘れてしまつたが、その內の一ツに「秋は高粱の畑車馬の行くうらゝ」と云ふのであつた。だがこの句には少し無理なところがある。その當時、滿洲の俳人仲間はそれに刺戟されて滿洲的な俳句を盛んに作つたものだが、何事にも熱し易く冷め易い三日坊主の日本人の癖として、何時とはなしに下火になつてしまつた。

また理窟を捏ねる事になるが、俳人高濱虛子はずつと前に朝鮮を一巡りして、其後「朝鮮」といふ小說を書いた事があり、平壤の牡丹臺におけるお牧の茶屋はそれから出來たものだがこの小說も朝鮮の異つた特殊な情景を十分に描寫してゐない。夏目漱石は中村是公が第二世滿鐵總裁で時めいてゐた折、總裁と學窓を同じうした關係などから、特に招聘されて、その當時滿洲を巡遊し、東京に戻つてから、「是公か／＼」を連發して、大阪朝日新聞か何かに滿洲を中心とした作品を例の諧謔な筆で書き飛ばしたが、これも至極喰ひ足らぬものであつた。河東碧梧桐は二度も三度も滿洲にやつて來たが、彼の俳句には、滿洲の特殊な情景を詠んだものは餘り多くないやうに思はれる。

田山花袋は二度ばかり滿洲に來て、滿洲的な美文を書いたが、自分の見るところでは、これも中途半端なものであつて滿足なものではないと言ひたい。昨年中プロ文藝作家が五六人も一塊りになつて來たので、何れ滿洲を題材にした面白いものが發表されるだらうと思つてゐたところ、滿洲の特殊な情實をしつくりと十分に描寫したものは無いやうで、この期待もどうやら裏切られるらしい。大體斯う云ふやうなわけで、滿洲的な特殊の美文、和歌、俳句、植民地文藝といつたやうなものは、今日の日本には非常に乏しい。

そこで考へねばならぬ事は、滿洲なら滿洲、朝鮮なら朝鮮、臺灣なら臺灣の日本內地と異つた特殊の情景を描寫するには、その地域に長く足を留めて、その趣味と情景を心ゆくばかり嚙み占めねばならぬと云ふ事である。この點から言つて、十年も二十年も斯うした地域にゐる者の間から、異彩を放つたローカル・カラーの濃い植民地文藝と云つたやうなものが生れねばならない道理だのに、それも一向に生れて來ないのは何ういふわけだらう。そいつを又一ツ考へて見る必要がある。

自分の觀るところでは、植民地方面の日本人の多くが事務的なことゝ金儲けに齷齪してゐる事、主觀性の勝つたものが多くて客觀性の豁かなものゝ尠い事、同化性に乏しいわが國民性による事、先づ大體斯んなものではあるまいかと思ふ。どんなものだらう。イヤそんな事はないと云ふならば、臺灣が日本の新領土となつてから既に三十餘年、朝鮮が日本に併合されてから二十二三年、關東州もそれらと互角の年數を經たのに、そこに住つてゐる日本人から植民地のローカル・カラーを發揮した文藝的作品が出ないのは、どうしたものであるかと、少しく開きなほつて反問したいのである。

外國人の事など褒めたくはないが、異なつた民族が多く、氣候風土の變つた土地に入込むと、彼等は先づ他の言語を學び、他の風俗習慣を調べ、そして成るべくその土地に適應しやうと努める。彼等の適應性と客觀的な研究心は確に優れてゐる。この點においてドイツ人などは最も優秀な性格を備へてゐる。然るに我々日本人は不幸にしてこの適應性と研究心とが乏しく、妙な優越感に囚はれがちで、商業を營むにしても、日本人だけのグループをどう／＼廻りして共喰ひ小競合ひにやきもきと憂身をやつし、進んで他の民族の間に商線を張らうとしない、言葉を學んでもちやんぽんの混兒で甚だ拙い。滿洲にゐる我々日本人も槪して先づその通りだ。

と言つたやうなわけで、日本人の多くは斯うした性格の持主であるため、滿洲的な特殊の情景を美文の上にハツキリと描き出すことが出來ず、それに專念沒頭すると云ふことも出來ず、隨つて異彩を放つた植民地文藝が生れないのではあるまい乎。これはお互ひに餘程稽ふべき事だと思ふ。しかし之からの若い人たちに依つて意義あり面白味もある植民地的な特殊の文藝が生れるかも知れない。自分は是非さうあつて欲しいと衷心から念願する者である。

# 賀正

## 大連

大連火曜會々員（イロハ順）

石本鏆太郎　石田禮助　服部省三　原田光次郎　濱田周洞　西山勉　保々隆矣　堀三之助　堀諫　富次素平　大平駒槌　大藏公望　岡虎太郎　奥田千之　和田敬三　神成季吉　貝瀬謹吾　横田多喜助　田中千吉　田中喜介　田邊敏行　田村羊三　高柳保太郎　竹中政一　武安福男　高見三吉　高橋勇　谷口英次郎　土谷信民　中村謙介　村井啓太郎　村井啓次郎　村田懿麿　宇佐美寛爾　山口啓三　安田柾　山崎平吉　古澤丈作　藤根壽吉　藤田臣直　神鞭常孝　小日山直登　伍堂卓雄　寺田虎次郎　櫻井學　齊藤良衛　佐藤至誠　木部守一　北代眞幸

麥田平雄　辻五郎　志村德造　濱田友啓　高山勝司　寺田良之助　今井榮量　山葉龜五郎　松内龜太郎　小島定吉　恩田熊壽郎　高橋仁一　藤田秀助　小島鉦太郎　武田正吉　田中知平　前川郁夫　田邊三槌　今村貫一　有馬邊

若月太郎　大内成美　田中宇市郎　宮崎愿一　槐常藏　高崎弓彦　野津孝次郎　河島茂　西田英雄

醫學博士　金子甚藏

民政署高等官一同

大連工業株式會社　取締役　桝田憲道

大連市美濃町九十一番地　材木建築材料商　早野康治郎　電話園四二〇七番

大連會屯金融組合　理事　橘辰之助　事務所　大連民政署内　電話八一九一ノ三六

株式會社須賀商會大連支店　主任　小阪博通　大連市西公園町五五　電話園六七五九番

謹賀新年

經濟國難の折柄年末年始一切の虚禮を廢し紙上を以て御挨拶申上候

盲目の市會議員　鈴木丈太郎　大連市二葉町六〇　電話四六九二番

遞信局（いろは順）

中村富士太郎　中尾國次郎　大津義雄　日下部鉦次郎　三木卓　篠原忠男

大津瀧藏　泉文三　星武　寺尾莊吾　原田貞一

松浦壽吉　高岡又一郎　榊谷仙次郎　原半次郎　長谷川甚雄

唐澤外科醫院　大連市山縣通七十二番地　唐澤準吉　電話八二〇六番

大連華商公議會　正會長　張本政　副會長　劉仙洲　同　邵愼亭　電話八三五六・四四六八番

順天公司　大連市山縣通り　電話八〇三八番

大連市常盤橋　御菓子　みなと屋　電話六〇八五番

品質の正確と價格の低廉は弊店の誇り　大連市浪速町伊勢町角　三宅時計店　電話五四〇四番

各種蒸汽鑵放熱器、暖房衛生裝置、設計工事請負、建築材料、一般藥品醫療理科器械　直輸入貿易商　合資會社　島松商店　大連市監部通　電話六一〇四

ニチロパン　大連市浪速町　日露洋行　電話六六六〇番

金物商　大連市浪速町八　石田洋行　電話四八四五番

文房具、麻雀、新古書籍　大連市信濃町一四五　千山閣書房　電話四三六二番

ちよだ靴代理店　舶來雜貨直輸入　大連市大山通六四　永記洋行　電話二一二五三番

大連市信濃町一二九　吉野洋服店　電話四九四六番

大連生命保險同業組合

關東州辯護士

五十村貞俊　石山憲一　飯島滿次　井藤譽志雄　渡久山寛常　富永是保　值賀連　大内成美　小野實雄　岡野勇　河内山武雄　米岡規雄　立川雲平　高橋猪兎喜　玉置榮吉　竹田營雄

高橋源市　中野琥逸　松谷竹三郎　古賀元吉　寺島由松　寺島賴三　相川米太郎　新野尾善九　有川藤吉　齊藤鷲太郎　木原鐵之助　湯淺唯二　澁田俊介　關根道一郎　五泉賢三　杉野耕三郎

綿糸布商聯合會

會員一同（いろは順）

大連市山縣通　日本綿花株式會社大連支店

大連市山縣通　東洋棉花株式會社大連支店

大連市監部通　株式會社大信洋行

大連市大山通　株式會社角田洋行

大連市山縣通　滿洲共益社

大連市山縣通　丸永商店大連出張所

大連市大山通　永順洋行

大連酒商組合（いろは順）

白鶴　發賣元　嘉納合名會社大連支店

澤龜　同　宅合名會社大連支店

白鹿　同　合資會社白鹿商店

大關　同　黑岩大連支店

富久娘　同　富久洋行

忠勇　同　增屋

櫻正宗　同　扶桑號高見商店

白菊盛　同　合資會社肥塚大連支店

菊正宗　同　鐵谷商店

富士東洋一　同　株式會社柴谷洋行

白雪　同　鈴鹿商店

大連市監部通五十二番地

株式會社萩原商店大連出張所

電話三九九七番

受信略語（タイレンハギハラ）

發信略語（ハ）又は（ハギ）

# 賀正

## 旅順

敦賀町 塚澤齒科醫院 電話三四二番

中村町 文具運動具 旭洋行 電話六七九番

文房具、額椽 アルバム、寫眞 マルゼン商店 仲勘 乃木町三丁目 電話六〇九番

文房具、運動具 日用雜貨 華信洋行 新市街大迫町 電話三〇四番

製靴、楠木製トロンコ 澤豊太郎商店 乃木町 電話五二〇番

玩具一式小間物一式 永由商店 乃木町(迎橋東詰)

和洋雜貨小間物 友田商店 乃木町三丁目 電話四一六番

書畫骨董、貴金屬寶石類 毛皮家具類 後藤勇太郎 末廣町一二 電話四三九番

羽根ふとん、諸雜貨 山田商店 青葉町(文英堂前)

慶弔進物、各種記念品 大洋商會 乃木町 電話五六五番

貨物乘用自動車營業 儉興運送公司 タクシー 大津町七番地 電話六四七番

生花、履物一式 みやこ履物店 乃木町 電話六五九番 新市街松村町支店

最新流行履物一式 傘 ゴム靴 栗田商店 乃木町(派出所前)

電機販賣修理釣具 金澤屋 瀨波初三郎 乃木町三ノ四七 電話五〇八番

電氣機械、器具修理販賣 津由電機商會 乃木町 電話四六四番

諸官衙御用達 電機器具金物 沖野商會 沖野象行 敦賀町五〇 電話一七五番

三笠町一七 橋本寫眞館 橋本新平 電話一四三番

新市街松村町二一 成松寫眞館 電話二五九番

ヒグチスタヂオ 大連連鎖店街常盤町 電話假番七一六七番

寫眞機械材料販賣 樋口寫眞館 青葉町四二 電話四一七番

鮫島町一 玉井寫眞工藝所 玉井榮水 電話三九九番

迅速叮寧 齋藤寫眞館 中村町八番地 電話六六三番

乃木町 愛光寫眞館 高見寛治 電話六六〇番

自轉車附屬品修理販賣 富永商店 乃木町 電話四〇一番

自轉車附屬品其他 田村商會支店 乃木町 電話五一〇番

新古自轉車販賣 修理諸種メッキ 佐野商會 乃木町三ノ八三 電話五九〇番

敦賀町三一 提洗濯所 提紋平 電話一九二番

ドライクリーニング ヤマモトクリナー 旅順市鮫島町 電話四五〇番

鯖江町五四 大脇洗布所 電話五〇四番

各種銘茶、茶湯類一式 丸山茶舗 乃木町二丁目 電話一六八番

各種銘茶、茶器類一式 廣瀬茶舗 廣瀬政太郎 乃木町三丁目一八 電話一八七番

朝日町 柏木鐵工所 柏木常三郎 電話一八三番

西町三九 山下鐵工所 山下好太郎 電話五〇九番

野間式ストーブ製造元 野間鐵工所 野間慶一 乃木町 電話一九七番

酒問屋 西本商店 青葉町四五 電話一八五番

酒王富久娘販賣元 入江商會 鯖江町五十番地 電話一九〇番

撞球 大正倶樂部 敦賀町 電話架設中

銘酒 菊正宗 櫻正宗 金水商會 乃木町 電話一〇六番

銘酒霞鶴釀造販賣 北川酒店 北川鶴之助 明治町五七ノ四 電話四七四番

清酒醤油 三浦商店 新市街松村町二三 電話六四九番

和洋雜貨 藤井洋品店 新市街松村町 電話五七番

圓橋商會 西田泰助 乃木町二ノ一九 電話一四〇番

青葉町二 下村履物店 中西嘉七 電話三二五番

製靴革類 阪本洋行 敦賀町 電話二六二番

表具商 原榮年堂 敦賀町 電話五三三番

朝日町魚市場 井町商店 電話三三二番

寫眞器械、材料藥品、寫眞撮影 南滿公司 旅順寫眞館 乃木町三丁目交番横 電話四七二番 振替大連一八二九番

雜貨 西洪順 潘修海 新市場 電話一一八番

石炭 宏記呉服店 青葉町二五 電話三一八番

滿電驛前タクシー 電話五二三番

旅順敦賀町(婦人醫院前) 滿洲タクシー 電話二六二番

鮫島町 旅順タクシー 電話五六〇番

食料雜貨 山口屋 山口清輔 市場內 電話五四一番

青葉町 深川齒科醫院 電話四七六番

乃木町三丁目 近江屋呉服店 電話七九番

旅順質屋組合

サクラ印サイダー シトロン製造所 旅順櫻泉社 那須梅吉 電話二一八番

諸官衙御用達食料品雜貨 齋藤商店 電話一七六番

乃木町三丁目 ゑびす屋呉服店 電話一三〇番

諸官衙御用達 忠海町二八 勝間商店 勝間東一 電話六一三番

陸海軍各官衙御用達、船具、金物 機械、綿糸布、タオル其他 諸納入品一式 岳南公司 大川忠吾 乃木町二ノ六六 電話三八二番

金物、諸建築材料 柴山商會 敦賀町八 電話三〇九番

諸官衙御用達 敦賀町 久野商店 久野儀一 電話一四九番

海運業、苦力請負 高木商會 鮫島町海岸 電話五七二番

新市街中村町 日米商會蓄音器部 電話六六四番

疊製造 大津町一六 輿石商店 輿石久作 電話三六〇番

洋装附屬品、袋物並ニ化粧品 各種理髪器具、內外各雜貨 樂器、樂譜並ニ附屬品一式 丸宮商店 洋品部 樂器部 乃木町三丁目三七番地 電話六六六番

按摩 白石久吉 名古屋町 電話五四三番

裝飾煉瓦及煉瓦土管製造 小林治作 桃園町八 電話五二五番

乃木町三ノ六二 旅順無盡株式會社 電話二五一番

西洋家具、室內裝飾品 漆塗及黒板、諸雜貨商 諸官衙御用達 清水洋行 敦賀町五二 電話六七五番

和洋家具、書畫骨董 二宮商店 忠海町二四 電話四五三番

材木、建築材料 西野商行 乃木町 電話六八番

諸官衙御用 乃木町 山田活版所 山田杢次 電話五四番

諸官衙御用達、毛糸類小間物 乃木町 木本商店 木本篤三郎 電話四七五番

土木建築請負業 高麗孝義 三笠町一五 電話三四七番

土木建築請負業 淸住泰一 鯖江町一二 電話五三四番

土木建築請負 木下豊一 大津町三六ノ一 電話二二五番

土木建築業 乃木町三丁目 本田組 本田興市 電話四一一番

土木建築請負 廣垣治助 忠海町 電話三〇七番

土木建築請負業 森谷吉五郎 乃木町三ノ二八 電話四八三番

銘酒神代釀造元 土木建築請負 乃木町二丁目 神田酒店 神田小太郎 電話三三三番

土木建築請負業 川谷竹次郎 伊地知町三三 電話四七三番

土木建築請負業 久野順吉 鮫島町一ノ七 電話一五三番

土木建築請負業 前西熊市 大津町四一 電話三四三番

貴金屬 櫻井時計店 乃木町 電話一九五番

牛乳バタ、畜牛販賣 南滿畜産會社 大島町五 電話一四五番

御旅館 乃木町 寶來館 電話五六番

御旅館 青葉町 防長館 電話二八二番

御旅館 青葉町 旅順ホテル 電話三六七番

驛前 福壽館 電話四六〇番

名古屋町 旅順檢番 電七一番・五九番
乃木町 彌生 電三三七番
鮫島町 壽 電一六九番
青葉町 青葉 電一二一番
青葉町 君乃家 電四二六番
敦賀町 新花月 電二四二番
乃木町 瓢亭 電四九番

いろは順
乃木町 岩崎洋服店 電話三六四番
乃木町 井本洋服店 電話一五七番
乃木町 伊勢洋服店 電話五三〇番
新市街大迫町 高田洋服店 電話三三七番
乃木町 中山洋服店 電話三三九番
敦賀町 島村洋服店 電話一六九番

敦賀町共榮會 (いろは順)
井上玩具店
カフエー松金 電話一三六番
玉屋モスリン店 電話九二番
熊井洋行 電話六七番
安永商店 電話一七番
ヤマ一履物店 電話五〇二番
小森運動具店 電話五〇一番
木村精肉店 電話三〇五番
久富商店 電話四二九番

旅順市名古屋町 仲野齒科醫院 電話一二九番

旅順市八島町 石炭商 滿昌洋行 電話一六六番 貯炭場 電話一四七番

旅順乃木町三丁目 滿洲寫眞帖出版元 記念品卸商 東京堂 電話六一番 大連連鎖商店街 電話假七一三一番

旅順市乃木町 醤油味噌釀造販賣 吉本商店 電話一三二番

旅順市乃木町 舶來諸雜貨商 滋賀洋行 電話三七六番 大連連鎖商店街 電話七一三五番

旅順市鮫島町 製鹽業 矢原商會 矢原重吉 電話八一・四四六番

旅順市鮫島町 宅島商會 宅島猛雄 電話一〇三番

末廣町(福壽し隣) 貨物運搬 引越荷物 遼東自動車運送店 (電話四八二番)

旅順市乃木町 機械金物 船具電氣 喜野商會 本田治三郎 電話二七番

旅順市八島町 竹森病院 院長竹森哲三郎 電話一四二番

旅順市金比羅町 トラスト製造元 タイハンストーブ販賣 石井榮一 電話三七番

旅順菓子信用組合

旅順新市街松村町二二ノ三 オカノ齒科醫院 院長岡野忠藏 電話五一三番

旅順市富士町一 滿洲蠶絲株式會社 電話五六七番

旅順市乃木町 和洋諸雜貨 ふたば屋 電話六一一番

旅順市名古屋町一九 土木建築請負業 石井組 石井本一 電話一一三番

旅順市乃木町 資材金物 船具 村上信二商會 電話一〇二番

旅順新市街旭川町一 鎌倉保育園旅順支部 佐竹昇 電話五五四番

旅順新市街中村町 旅順ヤマトホテル 支配人 川原久一郎 電話二二六番

旅順市鮫島町海岸 關東州水産會旅順魚市場 電話六五番

旅順市乃木町二丁目三番地(電話二五三番) 陸海軍諸官衙御用達 大西商會 振替口座大連一五六三番
和洋酒白米 各國名産商 食料品雜貨 旅順市々場第一三號(電話六三一番) 大西商會食糧部

引越荷物 重量物運搬 (大) 旅大定期貨物自動車 大六運送 本店 旅順市乃木町三丁目 電話四六七番 支店 大連市惠比須町停留所前 電話七四六二番

滿洲炭礦 石炭特約販賣店 本溪湖煤鐵公司 代理店 千代田生命保險相互會社 代理店 朝鮮火災海上保險株式會社 代理店 日本麥酒鑛泉株式會社 特約店 海軍糧食品御用達 一般倉庫業
旅順倉庫經營 倉庫所在地朝日町壹丁目 旅順市八島町(電三一一番) 石炭商 矢幡商會 出張所 滿鐵貯炭場構內 電話三〇六番

陸海軍御用達 食料品卸問屋 和洋酒、味淋、醤油、味噌、酢、罐詰、瓶詰、米麥、雜穀、海産物、漬物、乾物類、和洋食料品、生野菜類 (大) 大島商會 旅順市乃木町三丁目四番地 電話一三八番

(いろは順)
鮫島町 稻富藥店 電話五八七番
乃木町 田中藥舖 電話三三六番
青葉町 萬代號藥房 電話四二八番
青葉町 宮竹藥店 電話一七〇番

旅順市朝日町 昭和園演藝部 電話一七五番

滿洲乃華 高粱しるこ 旅順白玉山麓 加藤東金堂 電話五三二番 出張所 大連連鎖街三丁目 電話九八三六番

(いろは順)
青葉町 朝鮮銀行旅順支店 電話三番
鯖江町 旅順金融組合 電話一六五番
三笠町 旅順輸入組合 電話一〇四番
鯖江町 金融倶樂部 電話一六五番
乃木町 正隆銀行旅順支店 電話(一一五)(二五八)

旅順飲食店組合(いろは順)
伊勢屋 電話三三八番
出雲屋 敦賀町
とも江 乃木町
富乃家 電話二六一番
千代廼家 電話六四五番
千歳 倶樂部料理部 電話六二二番
岡女庵 電話五〇三番
大迫屋 電話二八三番
大阪屋 電話二七八番
カフエー吉野屋 電話四七八番
つぼみ 電話二八一番
奴壽し 電話七六番
ヤマト軒 電話四九三番
柳川 電話二六六番
カフエー松金 電話一三六番
富士屋 電話六四二番
福壽司 電話二六番
カフエーゴンドラ 乃木町
朝日屋 電話六五五番
金太屋 電話二七五番
カフエーキムラ 電話三〇五番
菊地 電話三七七番
カフエーキング 電話三八一番
琴月 電話四四三番
みはらし 電話三六四番
新更科 電話二五五番
日吉屋 電話四七九番
スマラン 青葉町
すゞめ 電話三〇九番

旅順料理屋組合(いろは順)
西町 一力 電話一二〇番
同 蛤亭 電話二四七番
柳町 濱名館 電話六六番
西町 東洋軒 電話一〇八番
川端町 吉田屋 電話三一七番
同 旅島屋 電話一六三番
十年町 松葉 電話四三〇番
川端町 滿月樓 朝鮮料理
同 京城館 朝鮮料理
西町 榮福樓 電話三七〇番
同 吾妻樓 電話三八〇番
朝顔町 堺樓 朝鮮料理
西町 明月館 朝鮮料理
同 新萬歳 電話三二一番
川端町 笑福樓 電話二四三番
東町 春海館 朝鮮料理
川端町 昭和樓 朝鮮料理

青葉町街燈維持會(イロハ順)
池田洋行 電話七四番
御菓子司 泉屋
原田時計店 電話六六七番
新見時計店 電話四八〇番
徳商店 電話一〇九番
岡女庵 電話五〇三番
大阪屋號書店 電話三五一番
吉野羅紗店 電話一八六番
谷疊店 電話五八四番
高治洋行 電話八七番
山口商店 電話一九四番
やまと軒 電話四九三番
中野日界堂
松崎紙店 電話一二八番
文英堂書店 電話二〇三番
瑞章堂印房 電話六三番
喫茶店スマラン

# けふの目出度きあした 大内山に四方拜の儀

## 黄櫨染御袍の御姿も神々し 畏くも國家、國民の多幸を御祈念遊さる

## 正殿に内外臣の拜賀

けふ目出度き年の始め、天皇、皇后兩陛下におかせられては、畏くも、曙闇罩むる午前四時半といふに早くも御起床あそばされ、天皇陛下には御潔齋の後、綾綺殿にて黒田、甘露寺兩侍從の奉仕によつて黄櫨染御袍の御束帶も神々しく、笏を執らせられて九條掌典長の御前行、一木宮相、林式部長以下を隨へさせられ神嘉殿の南庭に出御、玉體を寒風に曝させ給ふて國家、國民の多幸を御祈念あらせられる、いともありがたき四方拜の御儀である。同六時半、賢所、皇靈殿、神殿の歳旦祭の御親拜を終らせられ、皇后陛下と御ともく照宮、孝宮兩内親王殿下と少時の御團欒に寛がせられる、七時半、鳳凰の間の晴御膳、續いて兩陛下、照宮殿下、御揃の御祝膳に年始の瑞祥を壽がせられるが、秩父宮、同妃、高松宮殿下を始め奉り皇族の參内は九時半からである。更に、大勳位菊花章頸飾その他各種の勳章を佩ばせた練爽たる陸軍大元帥の御正裝にて各皇族、一木宮相以下御近奉仕者を隨へさせられ正殿に出御(皇后陛下は御服喪中につき出御あらせられず)東郷、山本兩大勳位、濱口首相、倉富樞府議長以下各文武官に賜謁を賜ひ、御祝詞を受けさせられて一旦入御、同十一時から高等官一等、貴衆兩院正副議長以下文武官、有資格者の拜賀、午後一時半からは各國大公使、同夫人の拜賀を受けさせられ、茲に元旦の諸儀を終らせられるのである

# 全市民を擧げ新春を壽ぐ

## けふ大連神社の歳旦祭を初め 一齊に拜賀式擧行

**大連神社** 例年の通り元旦は午前四時から昭和五年の歳旦祭を嚴かに執行するが、なほ月次祭は氏子代表、當番町たる日之出町區の氏子役員等多數參列のうへ同十時から祭典を執行する

**大連民政署** 本日午前九時より昭和五年元旦拜賀式を擧行、署員一同參集のうへ御眞影奉拜式を行ひ、それより一同祝宴場にのぞみ祝杯をあげ署長の發聲にて天皇陛下の萬歳を三唱し退散する筈である、なほ當日は午前十時より十時半までの間において在連各國領事、稅務司および一般有志の祝賀を受ける

**滿鐵本社** 元旦午前十時より樓上會議室において在連社員の新年祝賀式を擧行し、終つて例年の如く滿洲館にて賀詞交換會を催す

**大連市役所** 午前十時より新年拜賀式擧行後、同十一時半より既報の如く彌生高等女學校講堂において一般市民並に、英、米、獨、露各國外交官等の新年名刺交換會を擧行

**その他** 關東廳遞信局、大連、沙河口、小崗子、水上各警察署並に市内各小學校では午前十時から、彌生女學校その他は同九時からいづれも新年拜賀式を擧行すると

# 全日本氷滑競技大會 一月中旬日光で

【松本特電三十一日發】大日本スケート競技聯盟主催の一九三〇年度全日本スケート選手競技大會は來る一月十八九兩日にわたり日光清瀧の古河精銅所リンクにて盛大に擧行されるが、三十日聯盟よりフイギュアー種目左の如く發表された

▲スクール、フイギュア(一)第四 インサイド、バックエイト(二)第十四 アウトサイド、ループ、フオアワード(三)第十九 AおよびB、インサイド、ブラツケット、フオアワード(四)第二十 A及びBアウトサイドロッカー、フオアワード(五)第二十三 A及びB インサイドカウンター、フオアワード(六)第三十六 AおよびB、ブルリーチエンヂ、ダブルリーフオアワード(フリースケーチング)三分間(マキシム、ポイント)▲採點法 フイギュアー(一八〇點)フリースケーチング(一二〇點)

なほ本會には滿洲側選手は何分主催地が遠距離であり且つ經費も多額を要するので今回は參加を見合せることになつてゐる

◇◇ 枯れ木立ち 懸賞寫眞二等當選 金州 山本五郎氏

# 勳章を持つた馬

盛山號(二二)は尾花栗毛サラフレット雜種岩手縣の産で警視廳に十數年代々の總監に仕へてゐるが大正三年の御大禮記念勞馬展覽會に出場し賞品を授與され、御大禮に二回、御大葬に二回奉仕し馬ながらも勞馬展覽會總裁東久邇宮殿下より勳章を拜授してゐる

# 女學生殺しか自殺巡査に疑ひ

## 千駄ケ谷の怪事件

【東京卅一日發電】去る廿八日午後十時ごろ千駄ケ谷署管内の和洋女學校生徒茂見八重子(一七)が何者かに絞殺された事件の捜査中折もをり捜査本部千駄ケ谷署道場に於て同署高等係巡査石川勇(二三)が縊死を遂げた二つの事件は非常に關係深いものとして興味を以て見られてゐる、被害者の死體は三十日午前七時より午後一時迄の間帝大病院に於て吉川鑑識課長等立會ひ解剖に附した結果、食後三時間以内の兇行らしく、しかも暴行を加へられた事は局部に裂傷を負ひ出血してゐる點で明かとなつた

**絞殺は** 女のショールで行つたもので相當抵抗した形跡が殘つてゐる、一方疑問の自殺を遂げた石川巡査に疑問のかけられて居る點は石川の妻が妊娠してゐること、兇行當日石川は當直であるに拘はらず自宅で寢てゐる點、また勤務を終へた午後五時から友人と遊びに行き七時に歸宅し三十分の後湯に行くとてマントを肩に外出したが湯には行かず、それから約三時間の後午後十時半態々手拭を提げて警視廳に明り用事あり氣に歩き廻つて歸宅した、その三時間の間は丁度兇行の時間に一致し道筋が一致する點更に疑はしい點は高等係の彼が右事件の捜査に手傳はして呉れと志願したが、女の身許判到と犯人捜査方針が決定すると同時刻直後自殺を遂げしかも遺書一つもなかつた等數々の疑問點が擧げられて居る

# 『一切の榮譽を辭退してひたすら謹愼する』

## 疑獄事件で近く豫審に附される 山梨前朝鮮總督

【東京特電三十一日發】山梨半造大將は朝鮮疑獄事件に關し遂に不拘留のまゝ起訴され新春早々いよく豫審に附せられることゝなつた、大將は起訴前において軍籍離脱に關する陸軍巨頭の勸說を極力拒否したに拘らず、起訴せらるゝや俄にその態度をあらため過日往訪の阿部陸軍次官を通じ宇垣陸相に對し一切の榮譽を辭退して謹愼し、必ずや一山梨として法廷に起つとの決意を仄めかすと共に、既に關係者に對し自己の素懐を披瀝したとのことである、即ちそれによると朝鮮總督在職中の行爲について は少しもやましいところはない、併しいやしくも刑事問題に關し疑雲に包まれたことは全く自分の不德不明の致すところ、現在の榮職をになへる自分として眞にお上に對し恐懼に堪へない、今や起訴處分を受けて自分の主張と申しひらきをなす機會を得たので、この場合一切の榮譽を辭退しひたすら謹愼するといふのであつて、宇垣陸相も山梨氏の心情を喜び首相にこれを傳達し山梨氏よりの正式申出を待つてゐるとのことである

# 稀れの暖かさに 迎ふ初つ春

## 回禮はけふのうちに

◇—うらゝかなく寒からすあ—◇

舊臘も押しつまつて卅日の朝ごろまではいやに刺々しい師走らしい寒氣と陰鬱な曇天がつゞきお正月の天候も氣遣はれてゐたが、大晦日は久方振りで氣持のいゝほどくつきりとコバルト色に澄んだ天空と微風だにない和やかな小春日に惠まれて、案じられてゐた昭和五年新春の天候不安はまづくこの調子で行くと文字通り春光照々とした快朗なお天氣樣に對する感謝に變りさうであるが、さてエキスパートの氣象觀測はどんなものかと若草山の關東廳觀測所にお伺ひを立てる

大晦日になつて急に暖かくなつたのは北支那方面になつた高氣壓が漸次南東の方向に移動し、初めてその中心が江蘇省から朝鮮の北部方面に移つた爲め東蒙古方面より吹く風が南から西に變り穩やかな春日和となつたのである、氣溫は例年に比し一度五乃至二度位高く(三十一日午後一時現在)零度以上の二度五位であるがこの暖かさは元旦から二日にかけ持續する見込みである、たゞ案じられるのは低氣壓の出現で若しこれが出て來るとあるひは二日あたりから又峻烈な寒氣が襲つて來ることになるかも知れぬ、いづれにしても元旦だけは近年稀れな暖かい春陽をめぐまれてお正月を祝ふことが出來よう

# 電車と貨車 正面衝突

## 十一名重輕傷す 原因驛長の過失

【伊賀上野三十一日發電】三十日午前十時四十五分參宮急行電鐵伊賀線佐那古驛を發した上り十六號電車が、三重縣名賀郡佐那古村字市部區内のカーヴに差し掛つた際前方より下り五百三十號貨物列車が驀進し來り一大音響と共に正面衝突を爲し電車は大破し、貨物列車は機關車脱線、貨車一輛大破し重輕傷者十一名を出した、原因は驛長の過失から貨物列車を發車せしめたに依るもので單線の列車正面衝突は餘り例の無い椿事である

# 炭坑爆發

## 二名即死し 四十二名重傷

【飯塚三十一日發電】福岡縣嘉穗郡稻築村山野炭坑第三坑が一大音響と共に突然爆發し、折柄作業中の八十餘名中四十二名は重傷を負ひ、即死者二名を出し三十七名は辛うじて避難した、原因はカンテラの火から引火したものであらうと

# 大晦日入港の ばいかる丸

卅一日入港のばいかる丸は流石にお客も少なく一等船客一名、二等船客二十三名、三等百十八名の閑散振りであつたが、喜樂會酒井雲一行が正月興行のために賑やかに來連、埠頭もそれ等の出迎へ人が小旗を振り大晦日らしい景氣を見せた

# 高山安東署長 きのふ着任

【安東特電三十一日發】新任高山安東警察署長は三十一日朝七時着列車にて病中の夫人を大連に殘したまゝ二令息を伴ひ着任した、驛頭には大谷領事代理を始め官民有志、新聞記者等多數出迎へ、新署長は之等の人々に一々挨拶をなし署差廻しの自動車にて一先づ官舍に入り九時初出署し署員に一場の訓示をなしたる後在安記者團に次の如く語つた

安東は天然の風光を備へ且つ人情美に富んで居るところと聞きます、私が此地に赴任することになりましたことは非常に幸福と思ひます、方針に就ては全くの白紙で只諸君の指導と一般の後援とにより上司の命に從つて最善の努力を盡し使命を全うしたいと思ひます

尙署長は十時半國立警部の案內にて各方面を歷訪、新任の挨拶をなした

# 奇特な酌婦

大連逢坂町花園樓の抱へ酌婦深春こと結城深雪(二〇)は稼業中に貯へた五圓を「貧しい方に差上げて下さい」と三十一日手紙に添へて大連署へ屆け出た

# フオード大擴張

【デトロイト廿九日發電】自動車王フオード翁の嗣子エドセルフオード氏は明年度中に國內各地の工場擴張費として三千萬弗を投じ且つ海外の同社工場の大擴張を斷行すると

# お正月は大日活へ

## 暖かで面白い

大河內傳次郎の『謎の人形師』

本物の發聲映畫『四枚の羽根』

毎日午前十時半三回

# スケーチング講習會

關州體育研究所では新春の冬休みに際し體育指導獎勵のため左の如く正規のスケーチング講習會を開催することゝなつた

▲期日、四日より六日▲場所 新市街、大正公園コート場▲七日より八日まで新市街、大正公園コート▲講師滿洲教育專門學校助教授乘熊研教師齋藤象吉、旅順工大學生顯原、林六郎その他數氏▲受講者、小中等學校以上男女學生及び一般人▲講習時間(學生)午前十時より十一時半まで、夜間(一般)七時より八時まで▲會費不要▲申込當日まで研究所

# けふのラヂオ

昭和五年一月一日(水曜日)

自午前十一時

一、祝歌(放送局一同、伴奏村岡夫人)

二、挨拶(遞信局長櫻井學)

三、謠曲(羽衣)梅若流謠櫻會社中

四、獅子舞(櫻川連中)

五、長唄(老松)唄三味線長唄櫻會社中、鳴物四世田中傳兵衛

# 戀と地獄 (1)

三上於菟吉作
鶴田吾郎畫

## 秘密書類(一)

聖代教育研究會の青年事務員藤田詮三は事務室の一隅に坐つて、日當りの悪い粗末な仕事卓に向つて校正のゲラ刷に朱を加へてゐたが、突當の薄汚れた灰色の壁に掛つた貧しげな八角時計の錆びた針が今少しで午後四時を指さうとする頃から、何ともなくソワソワしい目付になつてもう仕事にも身がはいらないらしかつた。彼は一分と經たずに目をゲラ刷から離して、その八角時計のつい下の所に壁を背にして大卓を据ゑた四十がらみの男の顔を盗み見るやうにしてゐたが、四十男は厚い帳簿をひろげて算盤をぱち〱やりながら、何か計算に夢中になつてゐて、時間が移ることなぞはまるで忘れてゐるやうに見えた。詮三の若々しい眉根の間にはいら〱しげな皺が刻まれた。彼の唇はかすかに歪んだ――そしてその唇は、

「社長さん、もう四時ですよ――もう退け時ですよ！」

と呟いてゐるやうに見えるのだつた。

しかしひよろ長い身をダブダブな縦縞の間着背廣に包んで、眞中がもう大分薄くなつた頭を帳簿の上に屈めてゐる男はたうとう時計がダルさうに無元氣な響きで四時を打つても、その音も耳にはいらないやうに顔を揚げなかつた。

詮三は業を煮やした風でわざと相手の注意を引かうとするやうに手荒く卓の抽出を開けてゲラ刷を投げ込んで音をさせてその抽出を閉めて見たがさつぱりその甲斐はなかつた。

四十男はみぢろぎもせず帳簿の上に屈み込み續けてゐた。ハラハラしてゐる詮三にも、その人物が何でそんなに熱心に算盤をはぢいてゐるかの譯は分つてゐるに違いなかつた。今日は六月廿五日である。此の社で經營してゐる仕事に關する支拂請求書は何枚となく、社長の机上に舞ひ込んで來た。毎日おひるに食べるうどんさへ、即金でなければ持つて來ない會信用を失つてゐる此の社の社長たるものが、人間であるかぎり、どうにかして無から有を生じさせて月末を切り拔けやうと悶えずにゐられないのは當然である。

名前ばかり立派な田舍の教員社會に出鱈目な通信を送つて何程かの會費をしぼり上げやうといふ仕組で出來てゐる此の聖代教育研究會なるものは、會報にこそさも幾十人の學者が編輯事務に從事してゐるかのやうに記されてゐるが、その實社長自身と事務員の詮三との二人だけがほんたうの社の人間だつた。この天井の低い、窓の小さい、壁が剝げちよろけた、薄暗い陰氣な部屋が、社にとつては事務室でもあれば、社長室でもあり應接間でもあれば食堂でもあつた家主は理髪屋だつた――階下は乃ち理髪屋になつてゐて、危かしい階段を下りると貧弱な鏡が幾面か壁に掛つて鋏の音が聽こえる仕事部屋に出る。詮三は毎日高等理髪と金字で記したドアを開けてはいつて來る自分を見て無愛想にうなづく親方が怖らしかつた。家賃がもう何ケ月も滯つたままになつてゐるのを知つてゐる詮三は、それが自分の罪でないと知りながら氣ぜつなくつてならなかつた。けれども狹いひよろ高い建物で、事務所に出入するにはどうしても階下の仕事部屋を通り拔けなければならないので、詮三は出入りのたびに主人たちが髪を刈らせてゐる椅子の後ろを身をそばめるやうにして小さくなつて通るのだつた。

儲からない仕事なら廢めたらよささうなものだ――と詮三は今も帳簿の上に深く垂れてゐる社長の眞ん中の薄くなつた頭をみつめながら考へる……しかし、見込みがないと知つてはゐても、この事業を廢めたらなほのこと苦しい日を送らねばならぬのが不幸な社長の運命なのだ、この仕事につかまつてゐればまだしも「希望」といふものだけは彼の胸に殘つてゐるだらう……いつか會員が多くなつて、社の基礎が鞏固になつて、うんと儲かつて、もう借金の苦勞も生活の心配もないいゝ日が來るかも知れない――さうした漠然たる望みをあの人の胸から奪つてしまつたら、あの人は急にめつきり年を取つて、持病の喘息が重つて、屹度東久保の小さい借家に寢込んでしまふに違ひない……社長も可哀さうだ、貧しいからすべての人間はもがくのだ。この仕事も性質が善であれ、惡であれ、正しいものであれ、ペテンであれ、それについて社長ばかりを責めるのは可哀さうだ！

## 新刊紹介

▲表象の内容と對象（トワルドウスキー著川村安太郎氏譯）著者はブレンターノから出て更に心的現象に於て內在的な內容と超越的な對象とを根本的に區別するかによつてこの方面の學院に獨自の地歩を占めてゐる人である、本書によつて吾々は內容と對象との區別に關する事柄以外にも尚興味ある哲學的問題の或るものを見出し他方著者の哲學的思索そのものに於ても亦尖銳的なそして示唆的な或者を教へられる（定價金一圓三十錢、東京市神田區一ツ橋通町三番地岩波書店發行）

▲相對性と同一性に就いて（ヴインデルバント著、田邊重三、尹泰東兩氏共譯）カントの綜合の概念を關係の機能と解することに基き範疇に反省的範疇と構成的範疇との別を認めると共に其間の密接な聯關を示さうと企てたのである（定價金四十五錢東京市神田區一ツ橋通町三番地岩波書店發行）

▲滿洲電氣協會會報（第一號）本協會が生れる迄の經過並に內容を知るに足るべく他に讀物として滿洲電氣協會の設立に就て」中村富士太郎氏「最近の電氣應用と其本體」宮崎鐵太郎博士「歐洲最近汽力發電所の傾向」古泉光男氏、其他（非賣品、大連市大山通一番地遞信局電氣課內滿洲電氣協會發行）

▲かゞ藤（新年號）明治、大正、昭和百人一首、小說春景の重要性其他（定價）金二十五錢、東京市牛込區新小川町二丁目四番地文藝社發行）

▲大衆時代（新年號）貧困と失業（賀川豐彥）緊方ケと資本主義（赤松克麿）政黨と疑獄（布施辰治）新聞の正體解剖其他（定價金三十錢、東京市外千駄ケ谷町原宿三）大衆時代社發行）

滿洲日報
元旦號 其の四

# 馬匹改良の話
## ―特に滿蒙に關して―
渡邊關東軍獸醫部長談

聯、南船北馬で案外の地たることの滿蒙は馬の本場である、太年は馬の當り藏でもあるし滿蒙には壜案が天空馬の樣に横溢するであらう。何れにせよ

**支那に於ける馬の資源地**なる事は謂はずもがなである。悠久、幾千年蒙古民族は其馬族を以て曠野に於ける唯一の資産とし武器とし交通機關とし今も變らず伴侶として居る、實に其昔成吉思汗が騎軍萬里東洋の氣勢を歐土に轟かせて呉れたも時の蒙古馬なりしなり。而して當時の馬を其想像繪等から現代のものと比較すると餘り隔たりがない樣である。然らば繁殖は如何であつたか人も同樣であるかも知れんが醫療の進歩せぬ爲不健康なものは夭死し強壯で肉好なるものは腕づくでも早く優良な配偶を得子孫を貽す機會が多かつたに相違ない、即ち自然我支那馬には子孫の

**優化が行**はれて來た譯である。紀元前五百年の昔プラトーンの理想實現である。放牧して居る原野にあり何等保護なきを以て嚴寒と飢饉とは時に馬群の三〇%も斃す事がある、即ち生産に對し減耗も尠からず爲めに平年生存率は僅かに七—一〇%に過ぎないと謂はれて居る。此の自然淘汰で篩ひ落された幼駒の内で人間と異る點は牡馬中優逸なるもの四—五%を除く外は全部優生學的に去勢せらるゝことである（人種の改良も永遠に福利厚生を計るなれば優育學的だけでは淘汰は勿論其實を揚げる事は出來ない、一つ馬の樣に輸精管や輸卵管の結紮なり生殖細胞に「エックス」光線でも作用させたら如何）此の如く

**自然淘汰**の上に一部人爲的淘汰も加はりて今日に及んだものである。他國の馬種の樣に形而上の改良は爲さなかつたが唯強健其ものゝ遺傳は今日迄連綿とし繼承せられ序に耐久抵抗免疫力等も併せ享受せられたのである。斯くて原産地にては「卷き馬」式に自由交尾を以て繁殖せらるゝを以て勢ひ範圍が狹くなり近親繁殖となり不良因子も遺傳せられたは當然の趨勢である。隨ふて現時支那馬と謂へば直にも體軀矮小、頭は據らず頸は短く胴丼で斜尻一見鈍る振はざるものと聯想するに至つたのである。だが、一度上海の中央なり江灣なりの

**競馬場を**跳ふた人はあれが支那馬かと眼を欹だつ輕快な可愛い「ポニー」が一般の支那馬と區別せられ取扱はれ居るを見るだらう、序に「コサック」乘馬學校で同樣の馬が如何に優秀な障礙飛越能力の所有者であるかに驚嘆するであらう。實は之等は露國が過年シベリヤ征服に當り馴化した乘馬を造り上げる事が出來ないで困つて丁度今、露支紛擾を重ねて居る地方ハイラルから桑貝子殊にケレルン河畔に在來馬を探し當て本國の「オローフ」系や「サラ」系を交叉して特有なる蒙古馬の改良種を創成した其系統のものが上海に進出したに過ぎないのである現に東支の獸醫課長チイベノフ氏によれば東支沿線及び黑河地方には此等の優良馬が幼駒を加へ六五五頭もある

**北滿から**出て來る競走馬軍馬、輓馬、農耕馬等の良駿と認めらるゝものは皆此の血の洗禮を受けた者と見做す事が出來る。而して該地方から南滿に輸移出するものは年々鐵道で五、〇〇〇—八〇〇〇頭に及び陸路南方に牽出すもの、ソベット聯邦に密輸出するもの等を綜合したら隨分の數である（シュミット氏は八萬頭と推算して居る）一九一八年白露系露人北滿に其難を避けるに當り歐露の種牡馬陸續として南下し茲に期せずして改善を促進した。斯の如くして北滿馬匹改良の基礎は露國に負ふ處大である。南滿に於ては在來馬が産業の發展に隨伴し得ず殊に有畜農業交通及運輸等の向上に從ひ益々其

**資質改良**を促す事切なり關東廳と滿鐵で協同し夫々支那馬に適應する種牡馬を日本及遠く外國に求めて改良を實施して以來彼是四、五年に及び既に夫々成績を擧げつゝあるは今更に說明する迄もないのである。前年十一月に金州管轄店で軍馬として購買した所謂改良支那馬が如何に優良であつたかは當時の新聞が傳へて居る通りである。近き將來此の所謂日支親善の結晶とも稱すべき雜兒は大連や旅順に跋扈と幅を利かす事になるだらう。夫は併置き元來馬匹改良なるものは一に

**遺傳學の**成績に俟つものであるが馬は同じ生物でも二十日鼠や豚の樣に結果が直々と孫や玄孫と成績に見る事が出來ない產兒も亦少い、又統計少くも生物測定學より研究せねばならん却々困難を伴ふ、加ふるに支那馬では明瞭を缺くのではあるが、將來民國自身が此の馬匹改良方面に依然開拓して呉れない以上には兎角從來日本が滿洲に於ける馬政方針に依り計畫通りに進展するより外はないのである。然し又一方に露國が既に三十年も北滿に施したる成績を大規模に南滿に移し利用するのは改良の道程を短縮するのみならず遺傳學的にも合理ではあるまいか研究を爲したい事である。要するに支那馬改良は中華民國政府で何等指を染めずして着々として進展しつゝあるを改めて記するのである。夫から序でに支那馬改良に

**是非實施**して貰ひたいのは役馬共進會と競馬の改善である役馬とは農用、輓用、乘用の使役中のものにして夫々馬事振興上利用方面即ち消費經濟に關する積極的改策として差當り此等を檢査し獎勵をして貰ひたいのである。露國が曩に馬政改良上平時地方的條件並經濟的狀態に順應せる良型を選擇し又戰時の需要にも適應せる良種を保留し且つ蕃殖保護に利用したのも實はこの方法であつた。我國でも遲くはあるが前年六月農林省々令第十三號で役馬獎勵規則を發布し夫々補助を與へて大阪、京都近くは東京と段々に

**共進會も**實施し共同厩舍迄建設の氣運にあるのではないか經費緊縮の折柄ではあるが當局に反響あらん事を祈る譯である。次は競馬問題である現行競馬規則（競馬令）の改正である。警務側の意見通りにゆけば今迄は否決せられて居たが馬券を支那各地で實施して居る樣に否歐米各地で何等の不思議なく行はれつゝある樣にこの滿蒙だけ許可させて貰つたらどうだらう。現在では趣味からも興味からも支那馬改良上最も貢獻する競馬場に支那人を多數招致する事の出來ないのは殘念である。

騾馬　懸賞佳作寫眞　奉天浪速通　山本晴雄氏作品

# 蒙古の馬
＝實吉吉郎＝

**吾**々が滿洲到る處で見るアノ小さな馬は全部蒙古馬である。大連、旅順、奉天、長春其の他滿洲各都市の客馬車の馬、荷馬車の馬、又は畑で働いて居る耕馬等の大部分は蒙古馬である、但し之等の内には騾馬が多少居るが之は馬ではないのであるから此騾馬は除外しての話しである而して之等の馬を殆ど總てが蒙古で生産されるのであつて滿洲では極めて少數のものが生産されるに過ぎない。即ち生産地は蒙古で滿洲に使役地と云ふことが出來る、この需要地である滿洲で生産されずに蒙古で生産されたものを滿洲迄持つて來て使ふといふのは即ち馬の生産費の高低に依るものである、滿洲に於ては土地は既に全部開墾せられ馬を放牧する原野がない、從つて其の飼料は購入するか或は購入せざる迄も少からざる勞力のかゝつた自家生産の飼料を與へなければならぬので飼料費が高くなる、又一戸當り多數の馬を飼育することが出來ないから飼育管理費も飼育する馬一頭當りに高くつくわけである、之に比較すると蒙古に於ては廣大な原野を利用することが出來るので自然に生えて居る草を充分に喰はせることが出來、且つ放牧によるのであるから草を刈り取る手數も要らない、又一戸で相當の頭數を飼育して居るから一頭當りの管理費も少くて濟む、從つて蒙古で生産する馬は安く出來るわけである

**現**在の蒙古にかける馬の飼育方法は全く原始的なものであつて斯樣な方法が馬の飼育、生産をやつて居る國は世界に其の類があるまい、終年即ち春夏秋多原野に放牧し野生の草を喰はせる丈けで其の他の飼料は全く給與するとがない、夏秋青草の多い季節に於てはよく肥つて居るが冬から早春の草の無い時期には枯渇つた草をあさり歩いて辛うじて生命を保つて行くに過ぎない、寧ろ蒙古は寒氣は強くとも降雪量が少なく、降つた雪も風に吹飛ばされて草地が出て居る場所が多いので冬の最中と雖も草を喰ふことが出來るのである、處で時々積雪の多い年があるが、かゝる年には草が凡て雪に覆はれ喰ふに草なく勢ひ餓死するもの數知れずと云ふことになるのである、斯樣な飼ひ方をして居るから普通の年に於ても春になれば痩せ細つて見るから哀れな恰好になるが草が出始めると漸次榮養を回復し夏から秋までの間に充分肥滿して又來る冬に備へるのである、故に秋は文字通り天高く馬肥ゆるの時期である、以上の如き次第であるから病弱のものは越冬の際斃れてしまつて強健のもののみ殘つてゆく、從つて蒙古で出來る馬は皆極めて強健よく粗飼粗管理に耐えるのである

**そ**の蕃殖方法に於ても亦原始的たるを免れない牧馬群に種牡馬を混じて放牧し置き發情の時期に自由に交配せしめる、生産した後馬は其のまゝ母馬と共に放牧育成し仔牡馬は二歲乃至三歲に至れば全部去勢し五、六歲に至つて賣却する、但し種牡馬等とすべきものは去勢せずに殘しておくのであるが、之が選定に當つては喇嘛僧が御經を上げて其家の幸福となるべき馬を選定すると云はれて居る、尤も實際は比較的體格優良資質強健のものを選定する場合もある樣であるが何れも自己の馬群より生産したものゝ内から選定するのであつて之を廣く各地の優を求めると云ふことはない從つて蒙古馬の資質を向上せしむることにはならない

**蒙**古馬は一般に體軀矮小被毛粗剛、外貌甚だ貧弱であるが、性質溫順、悍威あり體格均衡を得、四肢は骨太く關節極めて堅牢胸前廣く歩樣正確蹄亦正形にして強靱、持久力ありて體格不相當に強大なる輓曳力を有する等幾多の優れたる美點を持つて居る優良なる馬である昨多の滿洲里東京間長途騎馬旅行の際に於ても蒙古馬は同行の日本馬に比し優秀なる成績を示して居る、然れども如何にせん體軀の矮小であるが爲めに非力であることは事實であつて此點が馬を使役する方から見て實際上に於ける蒙古馬の大缺點である、非力であることは一定の仕事をするに多數の馬を使ふことになる、之が爲め飼養管理の費用及び手數或は使役上の煩雜等の不利不便がある、大連の客馬車も以前は二頭曳が多かつたが、近來は小さい蒙古馬の代りに稍大形の雜種馬が目に付く樣になると共に一頭曳の馬車が多くなつて來た

**以**上の如く蒙古馬は各種の長所を有し優良なる馬であるが唯其の體軀矮小非力にして多數馬の協同動作を要するが如き不利不便多く時代の要求を距る甚だ遠きものがある、故に滿蒙の開發を畫するものに取りては此滿洲農業の基調を爲し百貨の運輸を司る動力の大宗である處の蒙古の馬の改良を計り其能率を高めるの必要を痛感せしむるのである、然らば現在の蒙古馬を如何に改良すべきかに就いては其の長所を保持し唯其の缺點とする身幹の增大を計るべきである、即ち現蒙古馬の體尺四尺二、三寸なるを更に增大せしめ之を四尺七八寸にするを最適當と認められるのである、但し身幹の增大を計るに偏し現在有する長所を失はしむる如き結果を來すことは是非之を避けねばならない、斯くして其の目的を達成するに於ては從來の作業上に要したる頭數を半減するを得べく作業上の能率を高め滿蒙產業上に及ぼす利益たるや實に莫大のものであらう

**叙**上の目標を以て蒙古馬の改良を行ふに當り如何なる方法を取るべきか改良に供用すべき種馬は如何なる種類のものを用ふべきかの問題に就ては愼重考慮を要するものであつて、輕々に私議すべきでない、目下關東廳種馬所及滿鐵農事試驗場に於て夫々斯道專門家が試驗研究中であるから其の結果に待つことゝして此處には敢て之を述べず他日の問題とする

# 永沼挺進隊の軍馬の手柄
## 日露戰役に敵の後方鐵橋破壞
◇……老軍曹手記

乘馬隊に一度軍籍を置いた者は誰しも同感でせうが、騎士として何が可愛と謂つても自分の乘馬程可愛いものはないでせう、鞍上人なく鞍下馬なしと謂ふ諺も全く騎士と乘馬が持ちつ持たれつ其の合致點を見出し得た場合に外ならぬのです、騎兵が其の愛馬を勞はる樣は實に想像もつかぬ程で、それあるが爲砲煙彈雨生死の境に出入して騎士の爲に全體力を捧げて呉れるのです。

▼—▲

宇治川の先陣佐々木の湖水渡り皆押して知るべきです、忘れもせぬ只中時は明治三十八年二月十一日の夜もふけて正に三更、萬籟寂として聲なき北滿の原頭零下三十度の寒夜に只北斗星を目當に范家屯街道を鐵道線路に向つて東へ〱とヒタ走りに潛行する部隊がありました、是ぞ彼の有名な永沼中佐の率ゆる挺進騎兵隊の百五十騎です、遠く露軍の背後を攪亂すべき重大な任務を奉じて一月初旬遼陽附近に於ける本軍を離れて北進し遼河を越えて哈爾套海より內蒙古に潛入し博王領、タラハン領等の蒙古王族領下を縫ふて長春西方に出現したのは二月上旬西寒の絕頂時でした騎軍萬里夕陽の赤き內蒙古の行軍に征士の全生命を託するものとては實に我乘馬あるばかりです。

▼—▲

挺進隊は最初の目的たる新開河の鐵道橋を二月十一日の佳節の夜に首尾よく爆破し茲に第一次の任務を果したので第二次作業の計畫や人馬の給養も必要ですし、とりわけ敵の追擊を避けんが爲に分秒も早く危險地域を脫出せなければならぬので全速力で內蒙古の安全地帶へと逃避を始めました、鐵道破壞の際にうけた多數の負傷人馬を伴ひ且つは退避を急ぐので騎士の給養などは愚生命を託すべき唯一の愛馬にする秣飼ふ暇もなく凡ゆる犧牲を拂ひつゝ蓮花山、八方湖などいふ部落を經て西へ〱と再び砂丘の蒙古へ急退却したものです、本軍を離れてこの方昨日は高粱今日は粟と其の日〱の糧により全く露營に等しき行軍のみを續け來たのが、十一日夜の爆破作業の爲めに更に疲勞の度を增し殘行馬や鞍傷馬は續出と云ふ狀態に陷つたのでしたが、重き任務の前には騎士も心を鬼にして馬腹に拍車を入れたものです。

▼—▲

然るに天か命か十四日の夕暮も灰色の砂丘にまさに入らんとした頃塲を急ぐ我挺進隊の前面に我に數倍せる敵の追擊隊が散くも砲列を布いて我隊を邀擊したのです、夢遊病者の樣になつた鬪士と極度に體力を消耗し盡した乘馬による我は如何にして此の優勢なる敵の追擊隊と對抗すべきか實に惨めな地位に陷つたのです、我、彼を斃すか彼、我を全滅せしむるか最後の五分間は來たのです、將士の玉碎の覺悟はこわそも如何に、秋水一閃突擊の命下るや騎士は剛直に乘馬は脫兎の如く縱橫無盡に敵陣を攪亂し遂に目に餘る强敵を擊破し得ました、張家窩子の荒野尺に餘る皚々たる白雪を紅に染めて朧月夜の戰場はまこと悲慘の極みでした、日露戰役中其の激烈なる一の騎兵白兵戰はかうして演じられたのです、日露戰役否世界の騎兵を通して其の全能力を發揮し花と唄はれた永沼挺進隊の功績は其の大半は乘馬の力になつたものです。

▼—▲

予が愛馬南旦號は弘前師團出發の時より後に從つた栗毛の逸物です此の白兵戰直前迄は疲勞の獸馬に等しき有樣でしたが敵の砲火を潜り突入を始むるや全で蛟龍の如く敵砲兵を追擊して約二哩、遂に敵砲奪取の榮冠を我に與へ呉れました、予は愛馬南旦號に感謝しました、二十餘年を經た今日でも尙感謝してゐます、愛馬に酬ゆるわ盡しは其の後馬に跨らぬ事を誓つて今も尙續けて居ます。

# 一九三〇年を迎へた大連演藝界の動き

## 豫想される本年度の問題?

◆映畫に明ける大連興行界の一九三〇年のキネマの横顏は凡ての映畫界の形態を一變せしめたと稱せられるトーキーの洗禮を今や受けんとしてゐる、その結果益々映畫館は資本化され今春の解氷期を以て現せらるべき各映畫館の改築命令と相俟つて愈々資本戰に入るものと觀測される、更にトーキーに就いて希望を述ぶればシンプレックスの新映寫機を設備した協和會館に本年度の豫算を以てWE乃至RCAの本格的發聲映畫裝置をなし今年の發聲映畫時代に備へキネマのスピードに合致した一九三〇年の映畫會を催すべきであらう、又社員倶樂部の上映々畫選定に關してもより以上の專門的知識を集め映畫委員會をして一層權威あらしめ映畫藝術の正しき紹介を遂行することを社員の嚴籍と共に考慮して欲しいものである。

◆市中の映畫館に於ても可及的に發聲映畫裝置に意を用ひ時代に適應した科學的興行法によつてその信用を高め向上を圖るべき時代に逢着してゐるのでなからうか。

◆之が取締に當る警察當局に於ても民衆娛樂の尖端にある映畫藝術を研究理解して世人の物笑ひを招致しその發展を妨げる如き見當違ひの壓迫に考慮を拂ふべきである本年度に於て最も問題となるべきものは舊態依然たる腐朽せる映畫館の改築であらねばならない、この問題に對して當業者は再び言を左右にし不況を理由として改築延期運動に狂奔するとも最早今日では何等假借すべき理由は存せないのであるから斷乎として改築を拒む館に對しては興行停止の鐵槌を下すべきであらう、既に興行取締規則による大日活及び常盤座の二館成り今假りに一、二の館を閉館となすとも娛樂機關の不足に痛痒を感ずることなく、年來の懸案である映畫館、劇場等の興行場改築の好機である、斯の如き事情より今年こそは警察當局の態度一つによつて我々市民は氣持良き民衆娛樂機關を有する機會に直面せることを嚴かに記憶し市民の權利として主張すべきであらう。

◆その他映畫に關する警察事務に就いては檢閲制度の改正が提唱さるべき機運に向ひつゝあるものゝ如くである、即ち現在の如き無理解、無方針に近き檢閲は忌避すべく、その改善は必ず要望されるに至るであらう。

◆また昨年來の懸案として殘されたものに入場料金問題がある、警察の許可制度に附け込む高率なる入場料金は當然低下さるべきであつて之は自然的にも解決さるべき性質のものであるが、本年度に於て具體的問題として表面化し論議されるに至るであらう。

◆更に一般の演藝界に就いては何等期待すべきものが發見されない、すべて悲觀材料によつて滿たされてゐる、その重なる原因は朝鮮に於ける大場所である京城及び釜山が劇場を失ひ大物が滿鮮興行の途を塞かれた形にあるためであつて京城の如きは全く前途慘澹たるものがある、たゞ僅かに連鎖商店街の常盤座の落成によつて從來或程度の束縛によつて從來協和會館に上演不可能であつた各種の演藝が常盤座に於て相當に消化さるゝ望みを生じた點である。

# 謠曲と中國劇

奉天　辻　忠治

「年立ち歸る春なれや、年立ち歸る春なれや、花の都に急がん」是は東北と云ふ謠曲の次第である、言ふまでもなく謠曲は、先づ歌を以て演者登場の心情を述べ、それから文句に入るのであるが、其點が中國の劇と同じである。桑園會と云ふ劇に於て、シテ役なる秋胡が登場、先づ一番に「歸心似箭離王鶴轉回家園」と唱ひ、それから說白に入つて「秋胡離家二十年、千里超々無信音……」と言ふ。次に復歌となり「一日離家一日生、好似孤雁宿寒林」と言ふは、謠曲の道行とでも云ふ可きものか、兩者形が全く似て居る。殊に謠曲班女にある「これは吉田の少將とは我事なり」と云ふ文體は、中國劇汾河灣の「老身薛仁貴便是」其儘である、前者は所謂謠曲文學獨特の言ひ表はし方で、後者は中國劇特有の文句である。

又天鼓と云ふ謠曲には「夜遊の舞樂も時過ぎて、五更の一點鐘も鳴り」と、中國語の一點鐘と云ふ言葉がある、天鼓は中國昔の大鼓の名人であることから考へて、中國語其儘の字を。いつてんかねと謠つたのであらう。又猩々と云ふ謠曲は、潯陽江の高風と云ふ人が猩々と呼んで菊の酒に醉ふと云ふ芽出度い所を謠つたものであるが其中に「客人も御覽ずらん」と云ふ文句がある、是は同じく桑園會の終りに「列位不要見笑」と、觀客に挨拶するに能く似て居る。斯の如く比較して見ると、謠曲中の入の調子は中國の下平音に眞似、下の調子は上聲音に眞似たやうな氣がしてならない。尚中國劇大賜福と云ふのは、謠曲と同じく西王母を主體としたもので、正月劇として用ひられ、謠曲神歌の「とうとうたらり、たらりら、たらりあがりら、らりとう」と云ふ歌は、西藏語の瑞祥祝福の意、即ち「得物は輝き輝いて、輝きは嗟呼何れも祿に壽きあれや」との事であると、先年河口慧海師の發表があつた。

日本の能樂と中國劇とが、舞臺並に道具の組立、シテワキの關係役者の顏のくまどり等、全く同樣であるのは周知のことであるから此處には文體其ものゝ研究を一言したに過ぎない、序ながら中國劇に關聯し面白い詞を一つ述べて見よう。

鷄鳴曉を告げて世は新春の喜びに立ち歸る、雞は「東天紅」と鳴き鶯は「法華經」と囀る同じやうに中國の鳥でも鷓鴣は行不得也、哥々（シンプトエーコーコー）と鳴き、杜宇は不如歸去（プルークイチュ）と鳴く、年の瀨になると天上で杜宇が不如歸去、不如歸去（行クゾ行クゾ）と鳴く、さうすると地上で鷓鴣が行不得也、哥々（行ッテハイケナイく）と年の立つのを怨むと聞いたことがある。夫は偕畫き「陳姑趕船」と云ふ中國劇、これは昔潘必正と云ふ秀才が試驗のため都に上り、途中とある廟に宿つて、陳と云ふ尼姑と親しくなる、暫くして潘郎が其處を立たうとする、陳姑が離さず船を追ふと云ふ劇で、兩岸に柳の樹があつて鳥が飛んで居る。黎洲と云ふ人が其書に

東邊一株楊柳樹　西邊一株楊柳樹　樹樹樹　任爾千條萬緒　繫不得郎舟住　南邊嗁鷓鴣　此邊喚杜宇　鷓鴣嗁行不得也哥々　杜宇喚不如歸去不如歸去

と讃詠したさうであるが、潘郎と陳姑との情緒を表はし盡して只感嘆の外はない。

# 支那劇の馬

石原巖徹

### 馬の表現

支那劇は原則として象徵藝術であり、又多くの支那の藝術がそうであるやうに、寫實よりも寫意を本領として居るが、支那劇程馬を用ふる場面の多いものは無い。戰爭を挾んだ劇そのものゝ數も甚だ多いが、支那の戰爭に馬は附き物であるし、一寸した文武官、或は中流以上の人民の旅行の場面には大抵馬がある。之を日本の芝居のやうに一々「馬の脚」二人を使つた擬馬でやつた日には大變で、一人件費がかさまつて仕方がないそこはうまく出來たもので、支那劇は、鞭一本即馬一匹と云ふことにしてゐる。即ち、鞭を持つことは馬に乘ることゝなるのである。劇中大將か何かゞ「馬をひけ」と云ふと、馬丁が、鞭を持て出て來る。それを受取つて、ちよいと空間を跨ぐ眞似をすれば、立所にして馬上豐に闊歩する御大將の勇姿が出來上るわけである。

### 馬の種々相

既に鞭が馬の象徵である以上、鞭の良否に依つて馬の良否も定まるわけであるが、これは甚だ困難であるが故に、從來此點は明瞭に區別されてない。たゞ、鞭の裝飾の程度に依つて馬の飾り、並に乘用者の地位を現すことは出來る。この鞭が、たゞの鞭でなく、馬の象徵であるしるしとして鞭の尖端から根元迄の間にフサが附けてある、フサの數は三から六迄、種々あり一樣でない。鞭の幹部にも糸で裝飾が施され、このフサの色彩と共に、馬の裝飾を示すものである。

乘らないで牽いてゐる場合は鞭の根元を上に向けて垂直に持つ、人に乘せる時には眞中處を持つて、根元を乘りこの方に差出す。乘る時には右手を根元の紐に通し手綱を摑んだことゝし、馬丁の手から鞭を取り、眼の高さに略垂平に持つて、前述の通り、空間を跨ぐ。歩き始めは、鞭を後方に廻し上下に振つて前進する。馬が適當に歩み出したことになると、鞭を前方に揚げて、小さく上下に振つて行く。

高速度で馬を馳らす時には、出來るだけ小股に、而も出來るだけピッチを上げて走る。勿論こゝに云ふ、歩く、馳る、すべては演者自身の足でやることである。

馬から下りるときには、同じく空間い跨いで、鞭を地べたに置く。若し馬をどこかに繫ぐ場合は、鞭をそこまで持て行つて置けば好い。

馬が非常な荒馬である場合、その暴れ、若くは勇む狀態は騎者、又は馬丁の所作で──身體を動かし──現はす。

馬の嘶きは、それ專門の笛が出來て居り、ヘヤシ方の方でやる。尤も此の音響も決して寫實的でなく、豫め、その約束を知らないものには一寸判らない。

戰爭の場面で、立廻りになると、鞭と武器とを同時に使へないから、鞭を棄てる。此時は既にその武器が、鞭即ち馬の代用をも勤める約束になつて居る。

# 滿蒙宣傳映畫

滿鐵情報課　芥川光藏

一がひに滿蒙宣傳映畫といふものゝ、これが製作については計畫者に於てはきちんとしたプランが立つてゐるのである。その何れを數多く製作し、その何れに重きを置くか、それはその時々の情勢と經費との問題で左右せられる、だが、何れにしても滿蒙宣傳映畫といふ以上、滿蒙の地の實相を紹介し、併せて滿蒙の地に世界の注意の眼をあつめるのが主たる目的たるはいふまでもない。さらば、その映畫の種類はどうなるか、先づ項目にして見やう。

一、滿蒙風情の紹介　滿蒙の地とは何ういふ處か、滿洲とは、相も變らず赤い夕陽の沈む處か、禿山ばつかりで、野つ原つゞきで、高粱畑だけの荒蕪地か、滿洲といへばたゞもう廣漠たる平野、蒙古といへば、たゞもう一望千里の沙漠とばかりしか思はれてゐないかも知れない、實情とはとてもかけ離れた誤解を受けてゐないとも限られない、滿蒙の天地自然だけでもそうである、風俗はどうだ、あゝも、かうもと、色々に想像されてゐるだらうから、その自然を紹介すると同時に、所謂、滿蒙の民情、風俗、習慣なども適當に映畫化して見たい。

二、殖産興業の紹介　譬へば滿蒙の富源紹介である、農、林、水、鑛、等々いくらも紹介に値するものがある、其處には支那人には支那人の努力がある、日本人にはまた日本人の努力がある、そうしてそれ等の精進努力がどう發展してゐるか、且つなほその背後にどれだけ未開拓の處女地が殘されてゐるか、否、それ等の處女地がどういふ狀態で開發の手を待つてゐるか、それらは是非ともこれを中外に紹介したい。

三、滿鐵社業の紹介　滿鐵は滿蒙の天地で何をしてゐるか、事實は雄辯である、滿蒙開發に手をつけてから、おほよそ涙のにぢみ出る程の犧牲を拂つて來た、その結果はかくの如しであるといふ證左を見せたい、しかしてこの社業紹介は一にわが同胞の滿蒙に於ける公明正大なる努力の紹介である、これは滿蒙宣傳映畫製作の最も興味ある部分をなすものである。

四、大衆に呼びかけるもの　すなはち劇を主とした大衆映畫である、滿蒙の天地を背景に日支の親善を說くもよからう、或は更に穿つて人類愛慾の世界を描くもよからう、或は新人氣鋭の理想を語るもよからう、要するに滿蒙の地を大衆に馴れ染ましむるものであるかうしたものは、なかく威力のある輿論の力を培ふもので、直接滿蒙紹介には縁遠いかも知れないが、最も骨の折れる製作である、從つてそのシナリオにも充分の用意を要するが、世人の興味をひくには最も効果的のものである。

─◇─

大體以上で、滿蒙宣傳映畫の骨子を盡したと思ふが、然らばそれが製作はどうする。映畫製作には、第一費用がかゝる、時間がかゝる限りに製作技術が良いとしても、適當な機械と材料とが完全しなければ良いものが出來ない、また、製作は一日にして出來るものでない、ぜいたくをいへば限りがないが、或程度の設備がなければ良いものが製作されない、ケチなものを出しては却つて惡宣傳となる場合がある、映畫製作の發達はその翌日を待たない情勢にあるので油斷は出來ない、その爲めには經費の許す限りの施設はしたいものである、さて、それで施設は完備したとするが、今度は製作上の頭の働きである、これは製作映畫の死活を決するので油斷もすきも出來ないのである、映畫編輯の巧拙は無論のこと、タイトル一枚であつてもおろそかにはならない、しかして、われらの最も心すべきは、宣傳臭くなつてはいけない事である、黒を白だといつて見た處で、それはすぐにもバレて來る、滿蒙の天地を僞つてはならないと同時に僞めにする目的で殊更に誇張することも良くないことである、それは如何なる手法でもかまはない「滿蒙」が公正に批判されるやうに作り要は人の心を攫へることに重點を置かねばならない。

あのカバード・ワゴンやアイオン・ホースのやうな力作で再び滿蒙の背景にそこらあたりに芽ぐんでゐるのでなからうか、產れなければならない筈でまだ產れない大日本建國映畫はもう古い、それが產れないうちに、新日本建國映畫が滿蒙に產れる、われらは日本の前衞、この滿蒙の曠野にあの[illegible]に鳴る鐘を題材とした世界的の力作を產まねばならない。

# 家庭經濟の更改と婦人
## 滿蒙發展の基礎を作れ
日向保良

内地から來た觀察者は滿洲の市街を見て其の華を讃し、在滿邦人の生活を見て文化的なりと讃へてゐるのです。然しこうした半面を經濟の上から見れば、隨分矛盾した點があるやうに思はれます即も商業地區に立並んでゐる大きな店舖も常に其資金に苦み、郊外に建られつゝある文化住宅なども其の大部分は内地から資金を借りて造つてゐる有樣で、實際滿洲で働き出した金で造つたものは幾割あるでありませう。然し各個人の收入を見るに俸給生活者は俸給以外に在勤手當や賞與を支給され・社宅を惠まれ、其他の者でもそれ相當の利益が與へられてゐるのであます。又日常生活の必需品を見るに主要食料品である米は内地よりも二割も安く、副食物である野菜・魚肉も餘程安い。であるから一家の主婦が「入るを計つて出づるを制す」との言葉をモットーとして消費經濟に細心の注意を拂ひ内地在住時代の精神で生活方針を定め、冗費を省いたなら、勤儉貯蓄の美風は期せずして勵行され、將來に於ける滿蒙發展の基礎は築かれるのでありませう。

然るに一度び渡滿して滿洲風に染まると、内地時代の緊縮した心は何時となく消へ去り、放漫の生活をするやうになり、本俸の外に手當まで給與されながら尚不足を告げ後にはボーナス其他の臨時收入を當てにして、他より金錢の融通を受け、やり繰りによつて漸く其の日を過ごしてゐるものが多いのでありますかゝる風習は一朝一夕に作られたものでなく、日露戰爭直後、政府は滿蒙經營に多額の費用を投じ、それに從事する官吏や滿鐵社員も優遇されてゐたことが、知らずしらずの間に放漫な生活を馴致し、それが一般の風習となり、所謂滿洲風なる一種のローカルカラーを作つたものと思はれます。朝鮮には朝鮮、樺太には樺太の氣風があるが、滿洲程呑氣な氣分で緊張味の缺けた處はないでありませう。

私共の一生を通じて考へて見るに、現在の生活は將來への道程であり、將來は現在の延長でありますから只徒らに理想を追ひ生活費を膨脹させることは、私共の將來の生活を不幸に導く原因となるのですから讀まなければなりません。人の地位や收入は無制限に向上するものではありません。一朝之れを離れて獨立生計に入る場合に俄に緊縮した生活をしやうとしても永い間の習慣は容易に改めることは出來ないので思ひながらに從來通りの生活を續けてゐる間に僅かばかりの貯蓄や退職金は使ひ果してしまうのであります。

昨今上下擧つて經濟の緊縮を唱へられるやうになつた此機を逸せず、從來の放漫な生活を緊縮し・家庭經濟の更改を圖らなければなりません。それには第一に主婦の自覺が必要であります。從來の如く野菜、魚肉などを支那人が供給するがまゝに任せて、其物が高くても不衛生的であつても少しもかまはなかつたと云ふやうなことは改むべきです。今後は市場や消費組合につき買入れ或は生産から直接購入するやうにし、又滿洲で生産するものは、なるべく利用するやうにしなければなりません。野菜の如きは秋季の出盛りに買入れ貯藏し加工して置くやうにするならば幾らでも經濟的の生活が出來るのであります。年々内地から大連に輸入されてゐる大根だけでも三萬圓を越えてゐる有樣です。其他ジヤガイモ、葱、牛蒡など輸入も大したものです。何んと不經濟のことをしてゐるのでせう、滿洲では何處へ行つても一歩市街を踏み出せば土地は極めて低廉に得られます、職務の餘暇を利用し、少しの勤勞によつて家の周圍の空地や市外の畑を耕すことが出來るでせう、そして其收穫物は貯藏庫を作つて貯藏して置き多少野菜の缺乏するときに使ふことによつて、どの位便利で經濟的で衛生的生活が出來るかも知れません。

又滿洲の近海で一年中を通して獲れるカレイ、カナガシラ、グチなどを西洋料理や支那料理の方法を應用することによつて、利用するならば充分美味しく食べられそして食費の節減を圖ることが出來るのです。十一月中に大連魚市場に上場せられた魚の數量は總計九十萬貫で其中カレイが四十萬貫グチが十七萬貫で總數の七割を占めてゐます。そして其平均卸値價格はカレイが百匁二錢グチが三錢であります、斯樣に安い魚の大部分は支那人が消費し日本人はわざわざ朝鮮や内地から高いマグロ、鯛、イカなどを取寄せて食べてゐるのです。何と不經濟のことでありませう。

又滿洲の婦人の服裝を見るに、全く内地の流行其のまゝを輸入して、常に其流行を追つてゐる有樣です。もつと滿洲と云ふ土地を考へ各個人に適した服裝を調べるやうにしたいものです。又流行の宣傳機關となつてゐる婦人雜誌を讀む時間とお化粧の時間の一部をさいて家庭經濟の研究や、必需品の買入方法、品質價格の判斷等について、或は日常生活の無駄を省くことについて、實際的研究をなし、もつと健實に緊張した生活を築き上げたいものです。これはやがて滿洲の繁榮を來たし邦人の滿蒙發展の基礎となるのであります。

# 臺所文化の向上に就いて
彌生高女　今西ツネノ

私達はそれぞれ異つた趣味を以ていろいろの方面に讀書や修養の範圍を擴めて參りますが、それ等はすべて人間生活の實際について正しい理解と能力とを與へてくれるものでなければならないと思ふので御座います。

この實際生活に最も直接現實的な知識と能力を缺く主婦は、複雜多端な家庭の仕事を明快に片附けてゆけないばかりか、世の進展に伴つて家庭文化を改善し創造して能率の增高をはかることが出來ないと思ふので御座います。現代家庭文化の中で改善を要する事項は多々ございますが、最も遲れて居ると思はれる臺所文化の向上について二三申上げてみたいと思ひます。まづ其設備で御座いますがこれは最も衛生的で氣持ちよく能率の高い作業を行ふことの出來るやうに工夫すべき部屋だと思ひます臺所だけについて考へるならば、南向、南東向は最も理想的でございますが、家全體の間取、主要室の配當などから考へますと、子供部屋、家人の居間など臺所よりもつと大切な性質の部屋で是非南又は南東の位置にもつてゆかなければならない部屋があるものですから、自然東又は東北などの位置に來るのはやむを得ないことゝ思ひます。食事室居間などに近くて南東向か東向で一回一回必ず紫外光線の直射を受け且つ採光と換氣を充分に得ひ得る部屋でありたいと思ひます。

大連の建築では特殊の研究をもつて御建てになつた方は別として一般の貸家、官舍、社宅などの臺所の窓は皆低いのが缺點であると思ひます。煮炊に依つて生じた湯氣や燃燒瓦斯を速かに戸外に排除するためには、窓はなるべく大きく高く取つて充分に開放出來るものがよろしいのですから、これまでの窓の上に更に高く天井のきはに回轉窓又は煽り窓を取付けるのがよろしいと思ひます。夏時は蠅其他昆蟲の侵入を防ぐために、窓に網障子を用ふることは申上げるまでもございません。

火を取扱ふ個所の上部に金屬板製の覆をかけて、其上端から排氣筒を出して戸外に開口させることもよろしうございます。臺所は火と水とを取扱ふ部屋でございますから、耐水耐火的に出來てゐなければなりませんが、時に絶對の供給や給水給湯排水並びに廢芥の處理については特に注意を要します。臺所をいつも衛生的に保つためには掃除、磨き、消毒などのしやすいやうに壁面は平滑に塗り上げて、天井は白漆喰天井がよろしいと思ひます。腰壁は床面から四尺はコンクリート張又は陶器張りがよろしいかと思ひます。床面は板張又はタイル張或はリノリウム張などにして、仕事の能率をあげ疲勞を去けるために床面の高さは必ず他の食事室廊下など、同じ高さにして作業を立働式にすべきであると思ひます。

大連に於ける一般貸家の臺所は悉くと申上げてよろしい程臺所の床面は他室より五六寸――一尺も低くなつて居るのはいちいち上つたり下つたり無意識の裡に疲勞が多くて作業に不便なため臺所能率を低下させて居ります。土間で下駄ばきの臺所作業と、日板をしいた臺所とは非衛生的になりやすいですから改良したいと思ひます。床の一部は揚板にして其下に野菜其他食品の貯藏窖を作ると空間を利用することが出來ます。

流し料理臺、食器戸棚、冷藏庫などはすべて立働式のものを選んで其配置をよく考へ、調理洗滌整理などが最も手順よく捗どり最も勞力の節約が出來るやうに工夫されることが大切と思ひます。勞働と疲勞の關係からみて臺所は餘りに廣きにすぎるのはよくありません。五六人の家族では四疊半位廣くとも六疊を越えると勞力を浪費いたします。

私は常に臺所にあつて考へさせられることは、出入商人との應答、食品の受渡などはすべて銀行の支拂口のやうに小窓を通して通ふやうに出來ないものかといふことです。寒いときに大きいドアー一杯あけられることは辛抱するとしても、彼等は其靴に多量の泥をつけて參ります。泥は土だけではありません。唾痰もあれば吐瀉物もあり、結核患者の痰も混つてゐますから、衛生上決してよくはありません。のみならず不良支人に對する警戒上から申しても今後の建築には是非考慮の一つにいれて頂きたいと思つて居ります。

野菜は洗つた丈けでは消毒されるものでは御座いませんから、それを豫洗するところと本洗する所と洗ひ場を二つに區切るやうにしたいと思ひますが、これについてはかつて金井博士の結構な御發表が御座いましたから、皆樣御承知のことゝ思ひますから省略いたします。

## 川柳 馬十吟
大島濤明

**木馬**　鮮かに飛べた木馬へ振り返へり

**竹馬**　竹馬はあんな所の雪を食ひ

**水馬**　スケートの元祖そもそも水すまし

**奔馬**　放たれし馬一日を疲れきり

**曲馬**　曲馬團馬迷惑な顔で出る

**羅馬**　羅馬字が讀めて一ぱし英語通

**競馬**　スタートへ馬もその氣で立てゐる

**神馬**　神苑の馬は手垢でよう光り

**彌次馬**　遠巻きにした彌次馬は喋ばかり

**馬車馬**　鞭の舞ふ寸に馬車馬汗みどろ

# 昭和五年の新春に
## 婦人の活躍を期待す
滿鐵婦人協會　小谷百合子

昭和五年を迎ふるにあたり私の喜びは婦人の社會的進出のいやまさん事即ち婦人が人類共存共榮のために貢獻出來る樣により訓練せられつゝあるといふ事です。然し一方悲觀的に考へれば封建的のたゞ溫良貞淑をのみ主眼とし家庭の奥深く生活苦をも知らずに生涯を送り得た過去の婦人（現在でもかゝる種類の婦人も多い事ですが）に比べて何と世智辛い世の中になつた事かと思はれます。婦人の社會的進出それは止むに止まれぬ時代思潮の要求なのです。大正七年の米騷動が飢餓に泣き叫ぶ多くの子供をかゝへた女房連によつて火の手を擧げられた樣に極端にいへば男性にのみ世の中の事を委せて置けなくなつたのです。

一方婦人の社會的進出は婦人の自覺に伴ふことは勿論です。近來女子の高等教育機關は續々設けられ女學校はもはや義務教育の觀をさへ呈する樣になりました「聞かしむるべからず知らしむるべからず」といつた何れかの政治時代をうなづかせる樣に教育は自覺の扉を開く唯一の鍵ですから教育が盛になればなる程婦人が自覺してくるのは必然の理です。

然し婦人の社會的進出といつてもまだまだ遲々たるものにすぎません、太平洋會議、軍縮會議と我國からも婦人代表が出ますが、博士が出たり、婦人自身兒童保護運動を起したり、無産婦人同盟が今度とそはと再起したり、女醫の力で施療的の病院が設けられたり、その背後には婦人の團結力の賓を擧げてゐることは喜こばしい現象です。

眞の婦人の社會的進出は婦人自身の叫び表現する團結力そのものであると思ひます。從來とても社會的方面には女教員、女工、女事務、タイピスト、看護婦等多くの職業婦人を見ますが多くは自覺が足りず、尊い勞働をしながらも封建制度の因習にとらはれて働くことを恥の樣にさへ思ふのでした。又外部の人も一種の侮蔑的眼を以てしまひました。然し今日は婦人といへども無爲に徒食することなく自ら進むぎ自らパンを得る一方社會的に何等かの貢獻をしてゐるといふ氣持が次第に彼女等にも育くまれて來てその仕事場に於ても快活に理智と愛情の瞳を輝やかす樣になつた事は何と嬉しい事ではありませんでせうか。そして若し苦しい事があつたら御互に自身でより合つて相談をなして相助けて行くといふ義俠的な心持にまで伸び樣として參りました。

こうして職業婦人は第一に團結の經路を辿つてゐるのですが一方婦人の社會的進出は家庭内の婦人の進出こそ最も意義深いことを痛感いたします。何といつても婦人の大半は家庭生活をなし一家の主婦として消費經濟に育兒に携はるものですからこゝにより合理的な家政者とならねばなりません。もつと眼を働かせねばなりません。よく自分の環境を認識し自己を滿足せしめ夫の仕事に諒解を持ち、よき夫の片腕ともならねばなりません（そして一般の婦人が聰明になり強い樣に見えて弱いのは男性で弱い樣に見えて強いのは女性であると心理的にも云はれますが）婦人はこの眞の力（母性愛）を發揮して行つたならそれこそ思想善導經濟難打破にも大なる貢獻をする事が出來ませう。

婦選の問題も未だに解決されないのは第一等國を以て任じてゐる日本としては珍らしい現象の樣に思ひますがよし婦選が與へられてもその權利を行使する力がなければ猫に小判ですから充分に婦人の力を養成する準備として不斷の努力をなす事も決して意義のない事ではありません。昭和五年の婦人の活躍は昨年よりも目ざましいものであることを信じつゝこの稿を結び度いと思ひます。

# 賀正

## 青島

在青島日本帝國總領事館
總領事 川越茂
外館員一同

在張店日本總領事館出張所
主任 福士堯行
同館員一同

魯大鑛業公司

同仁會青島醫院

株式會社 青島取引所

大連汽船株式會社
青島支店

大連製氷株式會社
青島支店

大日本麥酒株式會社
青島出張所
華名（青島啤酒公司）

國際運輸株式會社
青島出張所

華祥燐寸株式會社

青島地所建物株式會社
遠藤要

青島水產組合

青島宰畜股份有限公司

青島輸出牛取引株式會社

青島輸出牛同業組合

青島木材商組合

青島甘肅路
貿易商 中村洋行
中村順之助
電話 一六九〇 二五九九 九七〇九番

加賀山學

佐伯彪

鈴木一

青島日本中學校
校長 小林隆助

青島日本高等女學校
校長 山本泰勝

青島學院
院長 吉利平次郎

青島第一小學校
校長 宗像壽太郎

青島第二小學校
校長 金武只雄

四方小學校
校長 高田久人

滄口小學校
校長 阿南實直

平岡小太郎

八百寅藏

鹽田正長

吉田辰秋

西田善一

島津忠男

田中國隆

平岡組
渡邊頼章

大杉昇平

松永雄治

神田清二郎

伊藤壽吉

青島日本婦人病院
理事長 小林仁太郎

青島日本婦人病院
副理事 山田泰之

青島中山路
日本賣藥株式會社
青島出張所
電話二五二番

青島觀城路
大橋商會
青島出張所

裕泰號
國分壯介

三津和商會
稲田恒治

棉花商
三和洋行
袴田岩雄

棉花商
興源棉行
淡島小三郎

博愛醫院
飯田芳亮

內科小兒科
神內醫院
神內正範

富田眼科醫院
富田要

三條歯科醫院
三條愼吾

青島周村路
永和商會
中谷藤治郎

青島中山路
三信公司
內山善雄

青島聊城路
森洋家具店
森濤吉

各國產羅紗絹布商
辻村洋服店
羅紗部

輸出貿易商
勝山洋行
岡本久米次
電話二三五六番

畜產貿易商
大櫛商店

翡翠細工各種
西南堂
青島聊城路

青島周村路
古賀野商會
電話三七九二番

宏大自動車部
高江定吉
電話二五八八 二六八八番

青島三業組合

喪中に付き年賀欠禮仕候
泰來號
樋口三郎

滿洲日報青島支局
井原福治

滿洲日報販賣店
森本新聞店
森本寅吉

# 賀正

## 長春

長春領事 田代重德

長春取引所信託會社 專務 山中繁雄

長春地方事務所長 土肥顓

國際運輸會社長春支店 支店長 釘宮松太郎

南滿洲電氣株式會社長春支店 支店長 大浦力

南滿洲瓦斯株式會社長春支店 支店長 五十嵐榮

長春郵便局長 岐部與平

長春各學校一同

長春郵便局課長一同

長春滿鐵醫院一同

長春地方事務所係長一同

長春警察署長 石井金三郎

長春 加藤洋行

新聞雜誌販賣 大和屋

長春二條通り 日鮮精米所

園藝・植木・生花部 村田逍遙園

長春料理店組合

滿洲土木建築業協會 長春支部員一同

長春旅館組合

長春吉野町一丁目 神戸軒

長春大和通四九 和洋雜貨 三浦洋行 電話五六七・一〇〇四番

中京洋服店 代表 川本伊太郎 電話七三一番

長春市場 食料雜貨商 杉尾商店 電話一四〇六番

長春中央通二十七番地 材木商 大島洋行本店 大島巳之助 電話一二一番

和洋式帳簿、ブツク及コツピ 三省堂製本所

會席御料理 錦 衛生本意支那料理 錦食堂

長春東一條通 精養軒 電話三〇五番

長春東一條通 そば うどん 天金 電話五五四番

表装ふすまの店 大室文仙堂

長春浪速町二丁目 疊商 並河喜藏

長春富士町二丁目 西村洋行 西村清兵衞 電話一三六一・一六〇〇・一七一一番

長春警察署 (イロハ順) 井上定弘 大場春吉 三上芳彥

長春撫順炭本溪湖炭各種特約販賣店 松茂洋行 電話五三七・四二一番 泰利號 電話一一六九番 加藤洋行 電話三三一番 大昌煤局 電話五二九番 福源成 電話三一三番 東興成 電話七六二番 仁和洋行 電話五八二番

長春市場株式會社

長春商工會議所 大垣鶴藏

長春祝町三丁目 大信組 赤羽一二

長春同仁醫院 市橋貞三

長春輸入組合 理事 久末吉次

長春取引所長 奥平廣敏

長春驛賣店 久保田金平

株式會社岩尾商店 金谷松太郎

和洋雜貨 丸德商店

吉林燐寸株式會社長春支店

長春朝日通り十七 活版印刷業 三友社 四戸友太郎 電話一四三八番

長春浪速町二丁目 住吉鐵工所 電話五七二番

長春中央通十七番地 林田寫眞館 電話二一二番

長春室町一丁目 和洋菓子 吉野屋菓子店 電話三一一番

長春日本橋通 現代號洋品店 電話四一八八番

長春室町一丁目 書籍・雜誌・文具・刀劍・武器・研摩・護謨 井上示現軒 電話一二〇三番

長春日本橋 金泰洋行

東支鐵道連絡驛賣店 岸下一郎

長春吉野町二丁目 合資會社 長春大和藥房

滿洲特約販賣指定問屋 長春 新洋行

建築ペンキ塗 硝子嵌込請負 龜岡看板店

文具と雜誌の店 林洋行 電話一六五番

長春吉野町二丁目 乾辰三

長春吳服商組合

長春東二條通 濱木印刷所

長春三笠町 北原紙店

長春 仁和洋行

長春市場内 御鮮魚・遊覽・小賣 水江商店 電話六一四番

長春市場内 食料品商 日華洋行 電話一三四三番

長春市場内 履物專門 平塚商店

長春大和通 木炭・薪 白石商會

長春日本橋通 平本洋行 電話一五八番

謹賀新年 西澤藥房

長春滿鐵病院前 和洋雜貨商 Ⓜ 大葉商店 電話六七四番

長春吉野町二丁目 履物商 ㊂ 小林履物店 電話三四四番

長春日本橋通 梶原洋行

茶の湯の道 藤田夏子

長春吉野町 朝日堂菓子舖 電話五九一番

長春千島町 三宅牧場

長春吉野町二丁目 秩父屋 飯島英一 電話九七〇番

長春室町二丁目 炭安商店 店主 麻生磯平

長春吉野町 質店

長春祝町二丁目 植田パン店 電話一二〇六番

富國徵兵保險相互會社 日清生命保險株式會社 長春代理店 滿洲日報長春營業部 南滿洲鐵道會社・憲兵隊・郵便局御指定 富士屋旅館 館主 五味武太郎

茶、鍋、瀬戸物、小荒物、荒道具一式 河久商店

御履物と鍋專門 長春三笠町二丁目 森商店 電話二八九番

長春日本橋通 藤坂寫眞館 館主 菅沼直人 電話一一三番

三笠町三丁目 松田洋服店 電話一四六番

長春日本橋通 田中電氣商會 電話一〇一六番

祝町二丁目 石田洋服店

カバン專門 製作販賣 小倉カバン店 長春東一條通

長春興信所 清水末一 長春中央通

長春東一條通 竹島印刷所 電話四〇五番

上海萬國儲蓄分會 經理 米潤田 長春五馬路口

長春祝町三丁目 花月軒

長春三笠町二丁目 三笠カフエー

長春東一條通 金城靴店 電話九五二番

長春吉野町二丁目 長春堂 電話一一九一番

# 懸賞新年文藝發表

## 懸賞小說 一等當選 鐵の響き

松野榮

飽く事を知らぬ執拗さで襲つて來る尖鋭な浪の背を二つに押割つて、船は渤東半島の尖端目掛けて眞一文字に水を蹴る。エヂクター・ポムプの裝置のない愛神丸では、汽罐室のアスは甲板へ捲き上げて捨てるのだ。アス捲ウインチを中心に通風機の胴腹から鉛筆程のワイヤロープを命の綱として上下するアスを一杯頬張つた鐵バケツを取外す瞬間、眞下の汽罐室にチラつく火夫やコロッパスの頭や胴體が何時このバケツに當つて粉微塵にケシ飛ぶかを考へてみた。

機關室ではスクリユーシヤフトの原動であるクランクシヤフトが氣筒の下で旋轉するに應じて、船の心臟の各部門は各異つた速度で鐵時の躍動を續けてゐた。その隙間で機關士と油差とが鋭敏な齒車のやうに素早く俸給日から俸給日までの勞働力を提供してゐた。

午前五時、宏大無邊の水の一線を境として東天は漸くはつきり區劃を立てた。それが次第に秋風に聡く漣の穂波の如き浪の起伏の上に擴がつて來た。アス捲作業を終へた長顳は直徑一尺五寸程のマンホールから蠟燭の火を便りに汽罐の胴腹へ這ひこんだ。高さ二間もある厚い圓筒の中に、鏽落すシカラップの音は樣に無氣味に弄つた鐵管の縞の下で響いた。この唯一の出口であるマンホールをパッキンで締、水を滿たして火夫は百八十度の蒸氣を上げ續けた。中に殘されたコロッパスの血も肉も蒸氣と化して機械を動かした。次の掃除には彼の骨を掃除した。此の船には斯くも悲しい歷史があつた。

長顳の掃除は未だ働いてゐる事を同僚に告げる信號だつた。嗚をされたが最後だもの。泣いても喚いても幾寸もある鐵の厚みを徹して誰に聞えやう！　たゞ次の掃除までに自分の骨が鑑へ腐れつくまで叩き出す旋律の響き。長い航海に疲れきつた愛神丸は、初めて經する乙女のやうに、眞蒼に息づく大輪のやうな臉を、そつと崇嚴の裾へ上陸した。汽罐の錨を落したハンマーの音と、ボースンの死が生々しい感傷で彼の胸に痛み、鐵のめつきり殖えた母の顔がその感情の交錯の間を亂舞した。翌日長顳は突然下船した。トランク一つ提げた彼の姿はタラップを驅け降りた。遠い親戚の高畠セイ子の下宿を尋ねたのは、其後五時間經てだつた。

其秋、丁度其の港町の鐵道の複線工事で工夫を募集してゐたので二通の履歷書を書いて手續きした採用通知が來た。彼は又鋭敏な齒車のやうに廻轉して行かねばならぬ陸の勞働が、メスのやうな鋭さで迫つてゐる事を感じた。と同時に豐かな血潮の因襲に縋つて、セイ子の食客となつて居る自分が判らなくなるのだつた。

幾本かのレールが夕陽に映えて銀色に輝くうねりを見せてゐた。一組四人、四つの鶴嘴は釣上げられた魚のやうに空中で跳返つた次の瞬間、枕木の一本々々を堅固に締めつけて行く緊張した鐵の反響。彼はレールを摑んでみた。鐵の冷やかな感觸は彼の彈力ある生命力を如として高潔なものへの飛躍

すり寄せた。近代的なガッシリした艦だ。荷役が蟻群ほど彼女に集ると、ウインチが躍動し鐵材と樺松が宙を飛んだ。捲き上げられた樺松の一端を結んだロープが緩んでハッチに渡してあつた鐵材の一端を掬つた刹那——其上で合圖をして居た水夫長の茶色の肉塊は鐵材にまつはりながら船底へ轉落した。船底へ逆立つた鐵材は大音響と共に跳返つた。ボースンの足は太股から二米突も丸太のやうにケシ飛んだ。深さ數間の船底、椿事の瞬間の靜寂——ボースンは身動きもしない。たゞ、柘榴の實の樣な鮮血が船底の鐵板の張り目を傳つて樺松の皮を染めた。

其夜、水夫達は麻袋を圍んで丸太の様な神經を尖らせて、トランプ札に血眼を注いで居た。たつた今まで女×買ひの話に花を咲かせて居た火夫達は安價な慰を求めて

へ驅け立つた。長顳の胸は掻き消すことの出來ない幸福で一杯だつた。今の線路工夫の生活から、どうしてもセイ子を取外して考へ度くなつた。

昨日病院から歸つた彼女が、百貨店の多量生産の一物で出來上つた外出着に替えた時、雪白の看護服を脱いで壁に吊るした調子に、帶の間から皮嚢のまゝ疊へ轉がつた體温器の事を考へて見た。そして茶褐の皮の小さな手で、卓の上にあつた採用通知をいま一度取上げて見た。そしてグロテスクな横顔は次第に悦の色に破れて行くのだつた。

「あなたもいよ〳〵働けるし、二階を借りてるのも何だから、一軒借りるわ……よくつて？」

一軒家を持つ——彼は斯うした言葉を男女が自然の法則として營む夫婦生活ではないか？　と思つてドキリとした。

突然レールは非常に重いものが其上で動く時放つ反響で彼の幻影を奪つた。汽車が來たのだ。工夫達は立退いた。三十餘輛の出廻り期の時産を滿載した貨物列車は地動きを立てゝ港の方へ延びた。自動車のフロントグラスのやうに凪いだ海は鋭い双物のやうに光つてゐた。其上をどす黒い見覺えのある團塊が港外へと岸壁を離れて行くのが見えた。彼はそれが何であるかを知つた。船はいま一度、青い穹窿へ白い汽笛の雲を拵げて、段々うすれて行つた。職業に干與る若い女の、まゝ事のやうな自炊生活のセイ子が詰めて呉れた晝飯の牛肉の、最後の一片が彼の胃の中で消化されてゐた。工夫達は次の鶴嘴を振るべく彼を待つてゐた。彼等の鶴嘴は穹窿から地上までの厚みのある青い空氣の中へ、澄明な響きと流した。(了)

## 小說

一等 鐵の響き 滿鐵本社鐵道部經理課 松野榮
二等 水天の懊惱 大連市山手町三、二、十一 M O 生
三等 マネキンガール 大連市伏見町十四番地 三木四郎
佳作 解剖臺 旅順田家屯 福永剛

## 短詩

二等 海港譜 大連埠頭手荷物係 W・W・W
三等 つみき外二篇 大連市清水町三ノ五 大平元子
佳作 日光を食べる 大石橋中央大街十四 山尾水叫坊

### 海港譜

埠頭 W・W・W

A朝……

獨身者の日輪が地球の自轉で淨め上つた。

沖では姿を隱して船舶が啼の挨拶を交した。

S岩壁No.23バース。

鈍げた赤腹の外國船の甲板。

スキッパーの燻らす橡のPiP。

塵埃含有の%を低めて海氣が冷たく散歩する。

壊血病の水夫が腐つたオゾーンに肺を縮める。

深呼吸してゐる通風筒。

欠伸をしてゐる起重機。

B晝……

突然——靜寂を破つた、大つかい鼻面の給炭船——のつそりと。

港のスクリーンは混濁トーキー。

蝟集する苦力の體臭はコミンタンでない。

末梢神經的軌道から吐き出さるゝ特産物。

貨物船は胴腹を露出して呑み込んだ。

馬糞の鱗臭を游泳するトラクター。

チブ・クレインは60°の傾角機械美。

午後一時五十分——

小蒸氣船がダニの樣に入港船へしがみついた。

C夜……

寢返りを打つた倉庫。

宇宙が變裝して、ちらつと星屑を流した。

銛蝕した月は憂鬱だ。

世紀末「貨船の潤光は傑へる血——沖待の汽笛。

船客待合所の露臺の夜氣が白い太い双腕の腋臭——眼の青い女突然。

襟足の黒子がすゝり泣いた(頽廢に)——

## 和歌

一等 鐵嶺橋立町二丁目 小川重五郎
汽車乘りの夫にしあればこの晉も吾子と淋しく屠蘇くみかわは

二等 煙臺炭礦 伊與部綾子
この街に五つの歳の春を迎へたるわれに一人の兒の健かに

三等 旅順市松村町二三 美川麗子
初春の港は波の音もなく陽は麗かに晴れ渡るかな

佳作

大連 小野寺英一
鐵の上に立ちて初日をおろがめばみをすぢあたり水鳥の見ゆ

鐵嶺 秋津島男
新らしく年たつごとに吾が願ふねがひぞ心靜かなれかし

營口 蕙美子
敎へたる御臺おぼえて片言にはにかみつゝも子の申しけり

福岡市 英 天山
物みなが若き光の色たゝえなつかしう見ゆ初日登れば

新潟市 越路 四郎
つく羽子の誘へるものかちらちらと粉雪降り來ぬ初春の空

大連 加賀 桃郎
すぐよかの姿を見せていとし兒等は初日の前に畏みてあり

長崎縣福江町 平田喜間太
新玉の今朝の心をこゝろにて幸ある年を過しこし哉

大連 田中 絹代
むらぎもの悔も歎きもなかりけり京美しき初春の朝

大連 西山庄太郎
別れ來し友の便の集りて寂しく嬉笑む旅の子我は

奉天 園 月傍
加はりし年をかぞへて嬉しがる子らになりてわれもうれしき

大連 小川 堤花 / 小谷世來遠
さし昇る初日のかげのさやけさに我が身の末もかくてぞと思ふ

旅順 小久江良太郎
いやませし去年の憾も晴れにけり心靜けく初日を拜めば

旅順 緒久村俊信
なすこともなさで一年過しけり弱きこゝろを鞭うちたれど

大連 岡林 紀子
易者のいひし言葉よ三十歳を超ゆれば來るてふ幸を思へる

開原 豐村 水星
今年こそよき晉づれのあれかしと祈るかたへに子も坐り居る

島根縣乃木村 廣江 孝雄
想ひ出はなつかしきかな元旦を喜び迎へし幼なかりし日

金州 鬼丸 雨翠
つゝましく強くかくして生くべかり年新なる今朝をし思ふ

大連 近藤 義裕
南山永久に眠れる英靈を慰めんとて行く初詣

鐵嶺 彌吉 靜子
高らかに今日の佳き日をうたひたる學びの窓のなつかしきかも

大連 井上 壽夫
天地にみちあふれつる新春の光あまねく初日おろがむ

新らしき光滿えてなごみたる磯波しるき春の光かも

## 俳句

一等 孤家子驛勤務 萬木秀穗
初日今明けはなれ行く曠野かな

二等 大連市沙河口八丁目 丸角蒲城
追羽子にかろき敵意や姉妹

三等 瓦房店 宮田朗月
天盃を床に飾りて老の春

佳作

惠方道夜明けぬ内の人通り 旅順 柳月
出初式鐵に雪が消えて行き 長崎 阪本一麟子
書き添えしわが名の小さき賀狀かな 大連 甲斐 綾子
師の筆の衰え見ゆる賀狀かな 旅順 松山啄木鳥
元日や家に居ながら客心 長春 失名
巖を嚙む濤の碎けて初日かな 鐵嶺 小川 御風
裏白の影うつりゐる障子かな 大連 和田 烏啼
末の子に手を持つてやる試筆哉 大連 丸角 蒲城
潮汲みに辿る岩間や初明り 大連 神山 綠村
元日の厨の中にある日射し 鹿兒島市 小牧 一光
須禮の新しき下駄並びある 大連 滿劇 龍家
門松に豚の兒遊ぶ國に居る 鞍山 鈴木 露愼
孫呼んで鼓打たせて屠蘇の醉 大阪 瀧 一枝
健康に越す憂なし明けの春 千葉縣 西原 春翠
宵聯にほゝえむ馬車の主かな 大連 高野不倒子
初日出おろがむ巖の苔黒き 神戸市 春園・雁
參道に人あるらしよ初詣 金州 岡本佐太郎
床飾り父の頑固な流儀かな 大連 唐野 日人
若水を汲む乙女子や赤だすき 小林 紫涙
元日の大河音なく流れけり 福岡市 英 てる雄
屠蘇すぐに面輪に出でし妹背哉 大連 石川 辛二
元日の鷄に物云ふ聖かな 松江市 村山 秋彥
初風や潮滿ちてゐる蘆根かな 大連 鈴木もとよ
初空や檣に浮きたる鳥の巣 ハルビン 花房 玲子
千々岩や波に廣がる初日影 大連 吉本 汀雨

## 川柳

編輯局選

一等 大連市霞町九丁目十 高橋素寢
二日目は羽織の脫げる家へ來る

二等 大連市紅葉町 加賀桃郎
福引は電車に乘るに大き過ぎ

三等 撫順北臺町五丁目三・ 日高阿喜良
童心に返つて初湯の唄が出る

佳吟

醉ふてゐる際で賑ふ福引場 京城 照波
お元日借着の似合ふ髭があり 福岡 雨江
いゝ連れに母も供する初參り 大連市 路
失業の歌つても淋しい三ケ日 大連 比良松
お年玉風船になり凧になり 大連 溪聲
數の子へ不惑をかこつ齒の弱り 遼陽 峯牛子
支那娘器用な足で羽根をつき 大連 梅坊
緊縮の御慶日の丸だけの街 昌圖 斗牛
名刺だけ置いて廻禮ぬけて出る 大連 青甫
子澤山正月だけの髪を結ひ 大連 亭路
氣强よさは雜煮の箸が一つ殖え 長崎 寶山坊
元日といふにダンサーまだ眠り 長崎 波久洞
行き違ふ機關車御慶述べて過ぎ 撫順 喜良久
彈初に昔の凄い腕を見せ 京城 酒中仙
徹夜した餘勢を初日拜みに出 旅順 奇集銀
初春の明るさを舞子着て歩き 東京 謙生
母のいふ雜煮の餅は鍋をこし 大連 白山
羽根つけば晴着の袖が邪魔になり 香川 宏影
緊縮も今日ばかりはと屠蘇の醉ひ 昌圖 華江
初風呂に先の暮らしを考へる 長崎 小一路
節約へ子供等淋しい年をとり 大連 敏郎
滿洲の米とも見へぬ鏡餅 大連・青々庵
選擧區へ勵位も入れて年賀狀 鞍山 年一
一人子を無事に育てゝ今朝の春 煙臺 綾子
桃割の昔もあつた羽根をつき 奉天 茂歡坊
借金を拂ひ殘して屠蘇に醉ひ 大連 不孤
骸骨牌後一枚の氣の疲れ 福岡 天山
學校の唱歌がねむい雜煮腹 東京 王子
どつしりと機械工場のお正月 孤家子 東狂子
元日の朝湯に浮ぶ剃つた顔 大連 愛申
泰平の春を小豚の尾がゆれる 奉天 藍刀
東京に居るなアと賀狀なつかしみ 遼陽 登美坊
緊縮を忘れて門松太く立て 旅順 柳月
松の內過ぎてお女將の春になり 鐵嶺 柳風
カルタ取る姉は違つた心で居 旅順 風來坊
乳呑み子の分も雜煮の數に入れ 大連 桂馬
一歲に年をかさねて泣き笑ひ 大連 農夫
支那街に目立つ御慶の日章旗 撫順 外風
御元旦主人と同じ膳につき 大連 新生
元旦に何思ふてか祖母の三昧 大連 彥一

### 當選者への賞金

・新年文藝並びに寫眞の賞金は發表一ケ月後に贈呈することにしましたから左樣御承知おきを願ひます

## 謹賀新年

新年落語

# 無筆の女房

柳家小さん
清水對岳坊畫

こう好みに依りまして無筆の女房といふお噺を申上げます、商賣となると何事に依らず難しいものですがとりわけて難しいのが人の機嫌を取つて世を渡る幇間でございます其昔藏前の十八大通りに出入をして居た白露といふ幇間がございました、狂歌などを能く致しまして中々洒落者、尤も昔の幇間などゝいふものは散々お金を使つて、使ひきつて了つた揚句に幇間になつた詰り成下り者が多かつたが當今の幇間と來ると、成上つて幇間になつたなどゝいふのがあるから詰ります　白「オイ今歸つたよおたつや、今歸つたといふに　たつ「オヤお歸んなさい、能くお前さん家が分りましたね　白「何だつて、家が分つたつて自分の家を忘れる奴があるものか　たつ「家を忘れないで十日も二十日も能く歸つて來ないで居られたもんですね、偶には思ひ出しさうなもんですね　白「オイおたつ、俺はお前と夫婦になつてモウ三年になるが、斯ういふ稼業をして居るから、十日や二十日家を明けて歸つて來ない事も幾らもあつたけれども、之までお前が只の一度でも、變な事を云つたり變な顏をしたりした事がなかつたのが今度ばかりはお前の御機嫌が餘ツ程曲つて居ると見えて何だか云ふ事が一々變で仕樣がない、何も歸つて來たら世辭を云つて呉れろと云ふのぢやない、けれども夫は普通にして呉れゝば宜い、大方何だらう、俺の留守に友達か何かゝ來て、お前の氣に入らないやうな事を云つたのだらう　たつ「そんな事を云ふ人は留守に一人も來やしません　白「夫なら何故そんな嫌な顏をして居る、心持でも惡かつたら醫者にでも掛つたら宜からう、　たつ「イエそんな事はどうでも宜ござんすが、實はお前さんの歸るのを待つて居ました、二十日もお前さん家を留守にして一體何處に行つてなすつた　白「二十日の間何處へ行つたと……フーン伊勢屋の旦那のお供で成田に行つたんだ、　たつ「オヤ／＼伊勢屋の旦那が成田へ參詣をして白歸りでもしなすつたのかい　白「詰らない事を言つちやアいけない、そんな話ぢやない　たつ「夫れぢや成田へばかり二十日行つて居なすつたのかい　白「成田ばかりぢやアない　たつ「夫から何處へ行きなすつた　白「困りましたなア、成田へ行て不動樣へ御參詣なすつて、夫れから此處まで來た序だから房州の方へ行つて見やうと旦那が仰しやるので夫から房州へ行きました　たつ「房州へ何しにお出でだ　白「房州の補陀の羅漢へ參詣をして、此處まで來たものだから、鋸山へ登らうと旦那が仰しやつて夫れから　白「夫から、木更津や何かに行つて、マア何に行つたんだ　たつ「何といふのは何ですえ　白「さう／＼、潮來へ行つたんだ　たつ「潮來へ何しに行きました　白「其の潮來の眞菰の中なにかをザク／＼歩いて居たんだ　たつ「馬鹿な眞似をしましたねえ、　白「夫から諸方を見て伊勢屋の旦那と今日歸つて來たのさ　たつ「夫では今伊勢屋の旦那とお前は歸つて來たんだね　白「さう、今日旦那と一緒に歸つて來たんだ　たつ「夫が私には些とも分らない　白「何故、　たつ「伊勢屋の旦那が一昨日家へお出でなすつて白露は留守かと仰しやつて……旦那が入しつた事がないのに入つしやるのは變だと思ふと、白露は留守かと仰しやるから、ハイ、お客のお供をしてまだ歸りませんとまをし上げると、親類内の婚禮のことについて料理の事から手傳ひに來る藝者の事からスツカリ白露に吩咐て置いたのに彼奴何處をまごついて居るんだらう、俺が來て怒つて行つたとさう云つて呉れと云はれたのに、變なこともあるものよねえ　白「夫がお前は女だから分らないんだ　たつ「何故　白「伊勢屋の旦那のお供をして行つたとお言ひなすつたぢやアないか　白「夫がソノ伊勢屋の內儀さんの妹の御亭主の從弟に當る方の其の御親類の旦那さんと行つたんだよ　たつ「大變に込いつた御親類の旦那ですねえ、お前は女房に隱して物を隱して居るぢやアありませんか　白「冗談云つちやアいけない、お前と夫婦になつてから三年になるが、此の間お前に物を隱した事はありません　たつ「隱した事はないとお言ひだが、伊勢屋の旦那のお供をして成田から潮來へなんぞへ行つて、眞菰の中をザク／＼歩いて居たなんて出鱈目な事を云つてお出でだが、新平さんに聞いたら此の二十日ばかりといふものはお客も何にもなく、品川の女郎屋に居續けをして其の上にお前其の女郎衆と夫婦約束をしたといふぢやアないか、さうすれば幇間風情で二人の內儀さんは持てまいから、お前さんの大變惚れた女が家へ來た日には、妾あ邪魔にされて追ひ出されるに極つてる妾はお前と斯うやつて三年も夫婦になつて居るから飽きらめられても仕方がないが、妾は明日から早速困つて了ふ暇を出されるのを待つて居るのも餘り辛うございますから、妾は一生奉公をしますお針奉公でも何でもして一生獨りで居ますから白露さん妾に離緣狀を書いて下さいな　白「馬鹿なことを云つて乃公は何もそんな……　たつ「イ、エ書いて下さい、お前さんも男だ女房が離緣狀を下さいと云つて謝まることはありますまい、どうぞ離緣狀を一本下さいよ　白「だつてどうも……　たつ「どうも斯うもないから書いて下さいよ、そんな不實な人と一緒に居て品川の女郎衆を連れて來て見せびらかされるのは嫌ですから、足許の明るい內に早くお暇を貰ひ度いんですよ　白「さうかそんなに云ふなら仕方がない暇をやらう、今離緣狀を書いてやるから待つてろ」流石の白露先生も餘ツ程狼狽にさはつたと見えて眉の間へ八の字を寄せながら、硯を引寄せて、何かサラ／＼と書いて、夫をクル／＼と卷き「サア持つてけ」と內儀さんに叩き附けました、內儀さんは夫を攫ると、表に出ましたが、恥も外聞もない、オイ／＼泣きながら媒介人の處へ飛込んで來ました　○「誰だい泣きながら入つて來たのは、何だおたつさんぢやアないか大きなりをして外見ないよ、マア／＼此方へお入り、人立がするぢやアないか……ナニ、夫婦喧嘩をして離緣狀を渡されたフム、フン、フン宜しく、マア其話は緩り聞かう、さうオイ／＼泣いてちやア事が分らない、十七や十八の新造ぢやアあるまいし、三十にもなりやアモウ立派な年增だ、泣いちやア隣近所に外見ないから、マア上つて湯でもお上りウン／＼成程餘り不實だから離緣狀を取つて來たといふのか、ハ、ア、だが白露といふ男はさう理窟の分らん男ぢやない、狂歌もやるし、藏前十八大通りの人方に出入りをする理窟の分つた幇間だから媒酌人に相談もなく、離緣狀を出すと云ふのは愈々分らない話だ、ドレ／＼其の離緣狀をお見せ……何だか可笑いね此の離緣狀は、話に聞けば離緣狀は三行半といふのが御定法だと聞いて居るが、此の離緣狀は七行半もあるがマアお待ち……蟬が鳴く／＼エー離緣狀に蟬が鳴く／＼といふのは可笑しい……蟬が鳴く／＼大巨寺の森で、蟬ぢやござらんをとせでござる、紺の前垂松葉を染めて、まつにこんとは氣に掛る、ねんねおころりよ、之は田舍の子守唄ぢやアないか、媒酌人は理窟の分つた男と見え、其夜は內儀さんを泊めて其翌日白露先生に掛合つて見ると固より分れる氣はなくつて書いた離緣狀でございますから、直に元の鞘にシックリ納まりました媒酌人も之でお目出度いで笑つたゞけで濟み、又白露先生は却つて此の滑稽がお客に對して材料になりました、客のお座敷へ行くと、　白「私の處の嬶が斯ういふ嫉妬をやいて離緣狀を書いて呉れといふから一時已むを得ん所から離緣狀と思つて蟬がなく／＼大巨寺の森にといふのを書いてやりました」といふのでお客も大層可笑しがる所から誠に好い材料になり白露先生も笑つて濟み、媒酌人も笑つて濟ましたが獨り三人の中で非常に感じましたのは白露先生の內儀さん、亭主は兎に角、媒酌人にまで恥を掻かしたといふのは詰り自分が字が讀めないからだ、字の讀めない程辛いものはないと感じました、白痴の一心で白露先生のお內儀さん、亭主が留守になりますと近所の女の子を皆な集めて此方の女の子にお手玉を拵へてやり、此方の女の子には、姉樣を拵へてやるとか、人形の着物を縫つてやるとかして、手馴づけました。其子供が段々馴染で來るのをつかまへて　たつ「お前、いろはを書いて御覽、伯母さんの前で書いて御覽」と云つて、此方の子供にいの字を敎はり、彼方の子供に、ろの字を敎はり致しましたが、一心といふものは、恐ろしいもので、半年ばかりで、いろはにほへとからゑひもせすまで、彼のいろはの文字をスツカリ書く事と讀む事が出來るやうになりました曲りなりにもいろはを六箇月で卒業しました、お師匠さんといふのは近所の子供です、白露先生そんな事は知らないから江の島から鎌倉を見物して箱根の湯治場に參りまして十四五日掛る處を彼是三十日たつて歸る事になつたが半年ばかり前に女房に愚痴を云はれた事がありますから今度もどうかと白露先生案じながら歸つて參りますと、此の前とは違つてチヤホヤと大變御機嫌が宜い　白「どうも今度は江の島鎌倉の方を廻つて五日か六日でお歸りになると云ふとお客樣の御新造もお出でになり嬢樣方も御一緒で白露も一緒に箱根七湯を廻つて來やうといふので遲くなつて五日か六日で歸る處が三十日足らずになつて歸つて來たんだが、乃公も外に案じはないが、ツイ置いたお金が少かつたから乃公の留守に若しお前が困りやアしないかと夫ばかりを心配して居た　たつ「ナニ少い處ぢやアありません、女獨りで居るから成るだけ遣はないやうにして世間の口といふものは煩いもんだから、亭主の留守に內儀さんが湯に毎日入つたなんて言はれるからお湯も一日置きにして、お菜だつてお午飯のを殘して晩に食べるやうにして又亭主の留守に小遣ひの使ひ道が分らんやうではいけませんから妾はチヤンと小遣ひ帳を附けて置きました」と誇ていろはの字も讀めない內儀さんに小遣ひ帳を附けで置きましたと云はれましたから白露先生吃驚しました、　白「こんな色氣を賣る稼業をして居る者が、四文八文の小遣ひを他人賴みでは恐れ入るね　たつ「馬鹿々々しい、誰が人に書いて貰うものかね自分で書いたのさ　白「お前が書いたのか、一人で　たつ「そんなに珍しがらないでも妾だつて小遣ひ帳位は記けますさアね」と恥かしさうに出しました小遣ひ帳を白露先生取上げて見ると驚いた　白「上書もお前か餘つ程巧く出來て居るな弘法大師も斯うは出來ない、こづかひちやうと書いてある、こづかひちやうは宜かつたな、ドレ／＼エーと乃公の立つたのは何時だつたか、二十五日か、成程な廿五日か「にしうこにち」と日附まで假名で書いたな……何を買つた、待て／＼一ッ四文が「あふらけ」何だい之は、あふらけといふのは、　たつ「夫アお前さん油揚さアね　白「ハ、ア假名に濁りがないから「あふらけ」か、濁りを習はなかつたと見えるな、夫から八文が「ゆせん」「ちらにもんといふのは十二文だな」「たいこ」……之ア大變に安い太鼓だが、手遊びか　たつ「太鼓なんぞを買やアしませんよ　白「だつて此處にたいこと書いてあるぜ　たつ「夫はお前さん大根でさアね　白「ア、成程大根か、後が四文「こめのかけ」といふなア何だ　たつ「夫は御免の勸化ですよ　白「御免の勸化か、一々解釋が附かなければ分らない、……サア分らんぞ「ちらにもんあり」何だい、此の十二文ありと書いてあるのは　たつ「そんな事は書いてありませんよ　白「だつて十二文ありと書いてあるぢやアないか　たつ「お前さん男の癖に其字が讀めなくちやア外見ないぢやアありませんか　白「讀めてゐるよ、ありと書いてあるんぢやアないか　たつ「それアありと言ふ字ぢやアありません、蠟燭といふ字ですよ」段々能く考へて見ますと蠟燭屋の看板に蠟燭の繪が書いて、其の下にありと書いてあります。夫を見た白露の內儀さんが蠟燭といふ字だと覺えて居ましたから大變な間違ひが出來ました。無筆の女房といふお笑ひでございます。（完）

# 賀正

## 大連

大連市山縣通八十八番地 株式會社 南昌洋行大連支店 電話 長三七四四番 四九〇八番 電略 受(タイレン、タナセ) 發(ナセ)又(ハナ)

家具裝飾品商 大連市愛宕町 成三商行 電話(長)四二七五番 (工場)六四六七番

雜貨貿易商 大連市山縣通 株式會社 乾卯大連支店 電話 五三六〇 九一〇七番

貿易錢鈔輸出入商 大連市大山通り五十八番地 永順洋行 電話 七五四・六四三・六八三・五六九番

建築材料 石炭販賣 大連市近江町二番地 德和公司 電話六一八一番

大連木材組合一同

大連市八幡町二番地 株式會社 大連車夫合宿所 電話六〇二〇番

大連市磐城町八九(西通り筋) 博多屋本店 電話四四五三番

純植物性テイワイ脂(特製硬化大豆油) 西洋料理、西洋菓子、天麩羅用 大連市香取町二七 大連油脂工業株式會社 電話六一七一番

大連市浪速町伊勢町角 鈴木呉服店 電話代表五二九八番 振替大連四八番

滿洲特產物輸出貿易商 大連市山縣通一〇一番地 瓜谷長造商店 電話 四六四二番 七九三六番 六三二番 七六四番 電略(ウ)又(ウリ)

---

牛乳バター、クリーム販賣 大連市櫻町七十八番地 滿洲牧場 電話 六三三番 七五四番 七〇二番

大連市伊勢町四八 合名會社 高橋商店 電話四七〇七・三八三九番

大連市敷島町四十九番地 大連株式商品取引所 商品取引人組合 商品現物取引組合

各種暖房工事設計 竹山式放熱器 附屬品製作 竹山商會 竹山吉治 大連市山手町四番地 電話長六五五三番

船具、鐵金物 諸機械 油、塗料 大連市監部通 岸洋行 電話四三七六・六四二〇番

森永製菓會社 明治製菓會社 特約店 製菓卸問屋 滿蒙製花アラレ類 掛物類 煎豆ピーナ 其他各種 木村屋分店 大連市若狹町五丁目一九九 電話六八六八番 振替大連一三〇八番

大連市信濃町市場組合 電話四七六三番

大連醫師會

大連旅館組合 大連市信濃町(遼東ホテル内) 電話(代表番號)四一三一番

小崗子露天市場事務所 電話三七二四番

小崗子料理店組合一同 電話四三三六番

---

戶畑鑄物株式會社 東京電業株式會社 安來製鋼所 製品販賣 戶畑鑄物株式會社大連出張所 大連三河町一七 電話六四三八番 電略受信(タイレントバタエイ) 發信(タ)又(ハタ) 本社 東京市麹町區八重洲町一丁目一番地

大連市濱町 滿洲船渠株式會社 電話(代表)七一九五番
大連市濱町三番地 同 大連工場 電話(代表)七一九五番
大連市棧橋甲埠頭 同 埠頭出張所員詰所 (電話六三〇三番)
旅順市東鄉町 同 旅順工場 電話四〇番・二八〇番・一八二番

大連市信濃町日本橋際 吾妻旅館 電話四六四六番
富士屋旅館 電話五二八六番

日本賣藥株式會社 大連支店 營業所 大連市浪速町三丁目 電話(長)六一三〇番 (代表)八五二六番

大連トキワ橋中央ビル 中央食堂 電話八四八三番

大連市浪速町二丁目 奧田時計店 電話六七三一番
大連市浪速町三丁目 同支店 電話三八九七番

大連市浪速町三丁目 花乃屋本店 電話四九五九・七二〇七番

大連質屋業組合 電話六〇二四番

大連市信濃町 遼東ホテル 電話(長)四一七三一番

大連市信濃町市場 羽月商店 電話七二九六・四五四三番 支店 西通一〇四番地

看板製作各種圖案額椽塗裝 藝術看板工業部 今村麻馬 大連市若狹町百八十八 電話八二一〇番

---

大連食料品商組合員 大谷支店 三星洋行 京和洋行 爾宜田商店 中村商店

大連市浪速町伊勢町角 大塚製靴店 電話三九三三番

營業要目 內外諸機械、煖房裝置、各種放熱器 病院用蒸汽裝置、蒸汽消毒裝置 蒸汽炊事裝置、衞生的裝置 輸入、製造販賣 設計並工事請負 大連市西公園町百七十九番地 株式會社 齋藤製作所 大連出張所 電話長三〇二四番

大連市吉野町六七番地 株式會社 大連株式信託會社 株式會社 第二大連株式信託會社 電話八〇八五番

ビクター蓄音器滿洲總代理店 大連市信濃町 山葉洋行 電話代表四一四八番

御料理 大連市西檢番 香壽美 電話六〇三六番

大連西檢番組合員一同

滿洲煖房衞生同業組合 (イロハ順)
奉天 今井商會
大連 橋本商會
大連 大倉商事株式會社大連出張所
奉天 河村工務所
大連 勝本機械事務所
大連 田中勝商會
奉天 竹山商會
大連 近藤商會
大連 齋藤製作所
大連 島松商店
大連 小阪商會
大連 中島平治事務所
安東縣 須田商會

大連石炭商組合 石炭 滿鐵特約販賣人
佐藤組 電話六四八八・〇七七八番
織昌厚 電話四五六六・七七八三番
東洋行 電話九八四五〇六・八四九〇六六
共同組 電話四四七三〇〇・二九番
鶴田號 電話六六九〇〇〇番
大宮組 電話四五六六六〇一番
宮崎商會 電話五五三二一九番
東華公司 電話三五六〇四七・九五四七

---

大連市三業組合員表(イロハ順)

料理店 同…
濱錦布鳥千吉淡鶴湖天澤西喜吟菊君新扇
之　　　　　　　　　之園　松之喜芳
家　袋彦草秉月家月金井亭扇亭水家樂亭

貸席 同…
岩花初花こ千千扇か芳月津福江愛蝶照喜銀美新
　　　　ん代　な　之保　戶　　之奴　　登菊
戶丸音菱ぼ歳本家め家美家家廣々家多月里水

新新新新芝瓢壽松
二小　　　美
葉瓢松富濱田　禮家

置屋 井筒家 いわさき席 林家 富川家 常盤席 小江席 近田家 吉月席 淡之家 玉砂家 高之席 鷹速家 浪口家 八千久席 山坂席 松村家 藤平席 琴之家 哲狗席 天生席 相邊席 笹川席 櫻村席 北林席 北之家 清一席 北國家 紀廣席 末廣席

大連市三業組合事務所 電話四五〇六番
大連檢番 電話五一一九番 專用電話七一二六番
大連女紅場 電話三六九三番

---

大連米穀同業組合員(イロハ順)
同生厚精米所
中興精米所
遼東精米所
大矢組株式會社
大島屋商店
渡邊商店
河又出張所
大連精糧株式會社
泰東精米所
田中商店
泰宏洋行
辻山精米所 直賣所
名藤商店
中矢商店
村上商店
桑野商店
山喜商店
慶和德
福永洋行
福順恒精米 製造廠
甲信洋行
永順義
越後屋商店
協盛泰精米所
共進洋行
城川洋行
志摩洋行
順記精米所
城島商店
泉陽精米所
盛進商行

# 逢阪町遊廓組合員一同

# 賀正

## 遼陽

遼陽領事館 山崎恒四郎

警察署長 長山猪重

衛戍病院長 田川精三郎

憲兵分隊長 酒井周吉

滿洲紡績會社 玉木徳次郎

輸入組合 早瀬賴二

地方委員 生田友次郎

古庄重一

田中幸英

福永高介

福田又司

中村信

谷口七郎

青山員雄

安藤吉三郎

合辦 日支 遼陽電燈公司

特產物貿易商 林禮吉商店

特產物貿易商 高木儀三郎商店

滿洲紡績株式會社

喪中に付年賀缺禮 石川洋行

食料雜貨 梶原洋行

食料雜貨 坂口商店

藥種商 安達藥房

特產物貿易商 西田商店

特產物貿易商 深尾洋行

遼陽滿鐵石炭販賣人一同

土木請負業 矢野薫

遼陽工友會
原組出張所 渡邊小平次 電二二八番
今井組出張所 宮武市祐 電二一七番
細川組出張所 藤田高明 電三四番
吉川組出張所 近藤嘉助 電二〇八番

遼陽料理店組合

金聲書館　翠卿班　慶祥書館　萬仙閣　雙寶書館　聚美仙館　蘭香閣

山木呉服店 本店遼陽昭和通 電話一〇五番

驛構內食堂 遼塔軒 電話一六五番

旅館 遼塔ホテル 電話六番

油屋旅館 宮原キクノ 電話一六四番

## 金州

金州民政支署 職員一同

關東廳農事試驗場 職員一同

金州農業學堂 公學堂南金書院 職員一同

綿糸紡績 内外綿株式會社 金州支店 電話七七六番

關東廳種馬所 職員一同

金州尋常高等小學校 職員一同

大連牛乳株式會社 金州支牧場 福島三郎

東門外屯 谷本果樹園 園主 谷本金次郎 電話一五三番

(イロハ順)

石川作太郎　池田公雄　岩間徳也　堀内正重　本丸弘　戸崎靖雄　加世田彌次郎　田邊秀雄　高木熊三郎　辻野龜太郎　中富貞夫　南日良吉　棗田久助　長岡重太郎　上野幸一　久保田熊吉　山口二郎　松見宅雄　江口光夫　三浦貞三　三浦健造　鹽澤角兵衛　關山勝三

關東廳職員購買組合指定 呉服 太物 中空呉服店 電話一五八番

南門外 西園農場 鮮魚 西園商店 電話一二五番

御料理 文廼家 電話一二一番
辰巳 お玉　小政 五郎　早苗 十郎　文彌 とんぼ

南山麓 果樹 福昌農園 電話一八一番

南山麓 果樹 南山園 電話一〇三番

金州驛前 果樹 金州園 電話一七〇番

撫順炭特約販賣 棗田洋行 電話一六三番

金州旅館 喜田多都代 電話三一番

御料理 三浦屋 電話一一一番
濱勇 千鳥　かほる 文子　波路

御料理 金水樓 川崎造
桃枝 花枝　春枝 初枝　照子

土木建築請負業 泉屋與吉 電話三六番

會席御料理 筑紫 田中しな 電話三七番

金州奥町 雜貨商 阿津坂商店 電話三二番

驛前 金驛タクシー 電話一四一番

南門外屯 恒大自動車公司 電話一三一番

金州奥町 有働タクシー 電話四三番

民政支署前 江口代書事務所 電話一〇六番

滿洲日報並大阪朝日新聞販賣、洗濯クリーニング 山本甚太郎商店 電話六四番

滿洲日報販賣店 藥種雜貨 鳴瀬商店 電話五八番

# コドモページ

## 獸類の中で最も美しい 縞馬の話
### 形から鳴く聲まで 驢馬によく似た動物

皆さんは、新年號の雜誌などで、馬のお話はもうかなり讀み飽いてゐるでせうから、私は、馬の中の變りだねの縞馬についてお話をいたしませう。

**縞馬は** 此の寫眞にあるやうに、からだに美しい縞のある馬ですが、アフリカの熱帶地方に住んでゐる野生の動物ですから、その他の地方では、動物園にでも行かなければ見ることが出來ません一口に縞馬と言つても、その種類がいろ／＼あつて、決して一様ではありませんが、首の短いところや、耳の長いところ、タテガミが直立してゐるところ、

**尻尾の** 上部に毛のないところ、身體の割合に頭の大きいところなどが、こゝいらに居る驢馬と非常によく似てゐます。縞馬の種類として一般に知られてゐるのは、本縞馬、山縞馬、バーセルス縞馬、グレビース縞馬などで、バーセルス縞馬、及グレビース縞馬はいづれも蹄が普通の馬よりは幾分狹く、驢馬よりは廣くて圓味があります。本縞馬は、その形驢馬とそつくりで、蹄などは全く驢馬とおんなじ、耳もたいへん長い。

**山縞馬** は縞馬の中でも最も形の小さい種類で、肩までの高さが僅かに四十八インチから五十インチ位しかありません。この山縞馬のからだの模様は實にきれいで、股の内側と腹以外のところは頭にもからだにも、脚にも、白地に黒の美しい縞があります。そして、前脚や後脚には、まるで繃帶を巻いたやうに横縞がついてゐます。すべて縞馬は、どの種類でも極めて用心深く、それに、足が

**素的に** 速いので中々近づくことが出來ません。たぶん皆さんはごらんになつたと思ひますが、あの動物映畫のザンバなどの中に出て來る縞馬などは撮影をするのにカメラマンが隨分苦心をしてゐるのです。縞馬の中で最もからだの大きいのは、グレビース縞馬で、このグレビースは、本縞馬や山縞馬に比べると縞模様がこまかく、一見非常に上品です。此の縞馬の住んで居るのは東アフリカでソマリランドの南部からタナ河附近までの間や、ケニア山やルドルフ湖の

**附近に** は澤山居るさうです。グレビース縞馬の成長したものは、肩までの高さが五十六インチから六十インチ位で、支那馬車の駄馬などより遙かに大きい。此の縞馬は、きまり切つたやうに木のまばらに生へた高原か、木も何もない原野に住んで居ます。それは、他の動物から襲はれた場合逃げるのに都合がよいからだらうといふことです。一般に縞馬は非常に弱い動物で、アフリカでは他の猛獸の何よりのよい餌食なのですグレビース縞馬は好んで

**高原に** 住み時には海拔二千五百尺もある高いところに居ることがあるさうですが、それも、やはり他の猛獸などの襲撃を避ける爲めであるかも知れません。グレビースは、たいてい五六匹位づゝ群になつてゐます。そして、二十匹以上群になつてゐることは全くないさうです。バーチエラス縞馬は、ルドルフ湖からオレンヂ河の附近及その西南部に住んでゐる

**縞目の** 荒い縞馬で、縞馬の中でも最もありふれたものです他の縞馬は地色が白ですが、此のバーチエラス縞馬は地色が青黄を帶び、肩までの高さが五尺二寸から五尺四寸位、この縞馬も好んで高原に住み、海拔五千尺もあるところに居ることもあるさうです。縞馬の鳴き聲はアフリカ高原でも滅多に聞くことは出來ないさうですが、ある探險家の話によると縞馬はからだの美しいのに似合はずきたない聲で、しわがれたやうなところや、息を長くひくところなどの驢馬の鳴き聲によく似てゐるさうです【寫眞は右がグレビース縞馬左は山縞馬です】(はるみち)

---

## 一等入選 お窓の外　柴田正一

ガラスの窓から　見て居たら
黒いおかほの　ニイヤンが
「エントウソウジイ」　通つたよ
そのうしろから　ロシヤ人が
大きな籠を　つりさげて
「ロッシヤパン／＼」　通つたよ
車の上へ　山もりに
白さいつんだ　ロウトルが
「ハクサイ／＼」　通つたよ
あとからぶら／＼　ぼろニイヤ
てんびんぼうに　かごさげて
「ボロウ／＼」　通つたよ
向ふのかどから　ピイ／＼と
するどい音を　たてながら
ほつとまんじうも　やつて來た
お窓の外は　つぎ／＼と
いろんなもんが　通ります

---

## こうすれば えらくなる
### 驚くやうな名案　中溝新一

**アフリカ** のある野蠻人同志は、他人に逢ふと、長い舌をべろりと出すのがごあいさつなのださうです、そうして、新年には、兩親に舌を出してごあいさつをすると、兩親はさもうれしそうに、頭の腦天をゴツンと叩く、頭の中のわるい考へや、なまけぐせを追出すのです、隨分きばつでせう、噓みたいだがほんとうだから仕方がない、そこへゆくと、日本のお正月はたいそうお行儀がよろしい朝はいつもより早く起きて、着物を着かへ水で顔を洗つてから

**お屠蘇を** 飲んで、目上の人へ「お早やうございます」と云ふかはりに「あけましておめでたうございます」と叮嚀によそゆきのお辭儀をする、お雜煮を食べてから學校へ行きます、先生も、けふはいゝお洋服や着物をきて、すまして居ます、式が終つたら、今度は知つて居る人にはみんなおめでたうをします、逢へない人には葉書やお手紙におめでたうを書いて出します、郵便屋さんもたくさん年賀状を配達してくれます、この

**年賀状の** なかには、今まですつかり忘れて居たやうなお友達からも來ます、ほんたうにうれしいお正月、ことしこそよくおべんきやうの出來ますやう。そしてからだも丈夫に、立派な人になれますやう、誰一人としてさう考へない者はありません、ところが、どこかの國のなまけ者、けふからお正月だ、ほかの人はみんな「おめでたう」といつて、よい子になりたがつてゐる、むかしの一休和尚も「めでたくもありめでたくもなし」と云つてる位だ、なにか

**人眞似で** なく、あツと云はせてみたいものだと、色々考へたが名案が浮ぶ筈がない、するとどこからともなく、耳元に聲がする、ちいさいからはつきりきこへる。

「おまへが私のいふ通りすれば、きつと世間の人が驚いて騒ぐよ」これをきいたその子供「どうぞ、どうぞ、きつと云ふことをききますから教へて下さい」とさもうれしそうです。「ちや、教へてやらう、紙に書きなさい、いゝかね」

**その子供** は紙と鉛筆を出した。

1、朝はなるべく寢坊して學校に遲れること
2、顔はお湯でなければ洗はぬこと
3、自分のことは自分でせぬこと
4、ごはんの時はきつとぐづること
5、ごはんより間ぐひをすること
6、親のいひつけを守らぬこと
7、兄弟喧嘩をすること
8、嘘ばかりつくこと
9、學校はなるべく休むこと、そして、うちで遊んで居ること
10、學校の往復は寄道して遲くうちへ歸ること
11、先生のいふことをきかぬこと
12、學校では、わきみしたり、おしやべりしたり、けんかしたり、出來るだけいぢわるすること
13、復習は必ずしないこと
14、夜はいつ迄も起きて居ること
15、「おめでたう」のかはりに舌を出すこと

こゝまで書いた時に、聲がプツリと消えて鷄のコケッコーの聲がしました、ふと氣がつくとこれは森の中ではありません、自分のうちの寢床の中、硝子戸もあかるくなつて居るから、もう待ちこがれた昭和五年の一月一日でした、果してなまけ者のこの子がお正月から夢できいた聲を守つたでせうか。

---

## 懸賞童話(一等) 雪の降る夜(上)　敏浩二郎

雪は少しの休みもなく、道も、庭も、公園も、家も、教會も、お寺も、學校も、停車場も、時計屋も、煙草屋も、肉屋も、神社の鳥居も、テニスコートのベンチもどこもこゝも一緒に、同じ様にあの白い、柔かい、冷たいからだで、靜かに音もさせずに、埋めつくして行くのでした。

照夫さんは、どうしても、眠れないのでした。

「……何故でせう?……。」

照夫さんのお父さんは、お巡りさんでした。

今夜は、おつとめでした。

「…………。」

カッチ……カッチ……。

眼醒まし時計のきざむ音が、今この世の中での一番大きい音の様に、照夫さんの耳にひゞいて來るのでした。

「……何時かしら……」

照夫さんは、頭をおこして、簞笥の上の眼醒まし時計を見ました……短い針は、八時と九時との間を指し、長い針は、四時と五時との間を指して居りました。

……。

「おや……照夫さんは、まだ眠らないんですの?」

……お母さんでした。

その聲に照夫さんは、首をねぢつて、お母さんの方を、見ましたお母さんは、針仕事の手を休めて、ほゝえんで居りました。

「……え〻……」

「早く眠らないと、あした早く起きられませんよ」

「…えッ…でもね、お母さん。なんだか今夜、僕、眠れないの」

「……お母さん……」

今まで、默つて机によりかゝつて勉強して居た女學校一年生の、姉さんの道子さんは、ふり向いていひました。

「……?」

無言のまゝお母さんは、優しく道子さんを見ました。

道子さんは、くすぐつたい様な笑ひを、口元に漂はせて

「……照ちやんは、お父さん子だから、キットお父さんが居ないものだから、寂しくて眠られないのよお母さん」

「……うそだい……」

照夫さんは、叫ぶ様にいひました。

---

## 入選兒童讀物

### 童話

**一等** 雪の降る夜　奉天若松町一八　敏浩二郎
**二等** 雪合戰　開原神明街一九　田中美代子
**三等** 天まで屆いた高下駄の話　安東縣日本稅關内　西元詩圖雄

【佳作】比呂志(奉天若松町敏浩二郎)新しいお友達(安東稅關内西元詩圖雄)和子さんの誕生日(開原かほる)赤い高粱と拔穴の話(遠山憲吉)敏夫君のはなし(大連近江町坂口敏郎)百姓と高粱畠(開原豐村水星)夢(大連市壹岐町二丁目龜井一郎)鼠の元旦(大連市美國町湊周子)粉挽屋のロバ(安東西元詩圖雄)雷の家(大連柳木田照茂)お隣の陳さん(奉天木會町服部保昌)

### 童謠

**一等** 窓の外　大連大廣場小學校二年　柴田正一
**二等** 母ちやんのお使ひ　大連春日小學校四年　澁原哲
**三等** 雪の夜　大連日本橋小學校五年　齋藤郁子

【選外佳作】ろば(大連嶺前校四年春木順子)かさゝぎ(大連日本橋校五年木部きく子)今日の雪ふり(日本橋校五年齋藤郁子)多の夜(大連伏見臺校四年東瀨戸泰雄)大連埠頭(同人)親ぶた子ぶた(大連大廣場校森照男)荷馬車(同人)ユキ(大連大廣場校一年堀英子)風の子(大連日本橋小學校〃年川端康子)北風(大連日本橋校五年原口郁子)一人ぼつち(大連伏見臺校四年東瀨戸泰雄)粉雪(同人)豆の旅行(大連聖德校今野道子)

---

## ◇オハナシ◇ ヤブレダコ
イマナガ・シゲル

オモチヤヤ ノ オミセ ニ、ソデ ノ ヤブレタ ヒトツ ノ タコ ガ アリマシタ オトモダチ ガ、ミンナ カハレテ イク ノニ ジブン バカリ ガ、ヒトリ トリノコサレル ノガ ホンタウ ニ ザンネン デシタ オミセ カラ、ソラ ガ ヨク ミエマス。ソノ アヲイ オソラ ニ オトモダチ ガ、ゲンキヨク・トンデ キル ノヲ ミルト、ヒトリデ ニ ナミダ ガ デテ ナリマセン デシタ。

アルヒ ノ コト、ヒトリ ノ ボツチヤン ガ、コノ オミセ ニ ヤツテ キマシタ 「ヲヂサン、タコ ヲ チヤウダイ」 シユジン ハ ニコニコ シナガラ 「ハイ、ハイ、ドレ ニ シマセウ」 「ソノ イチバン オホキナ ノガ イ、ヨ」 ト イヒマス ト

「イヤ、コレ ハ キズモノ デス」 タコ ハ カウシタ コトバ ヲ キクト モウ ガツカリシテ シマヒマシタ。「ア、カウシテ イツシヤウ トブ コト ガ デキナイ ノカ」 カウ オモフ ト キモ ダンダン トホク ナツテ シマヒマシタ。「ハツ」ト キヅク ト タコ ハ ボツチヤン ノ セナカ ニ オンブ サレテ ソト ヲ アルイテ ヰル ノ デシタ。イツノ マ ニ カ ソデ ガ ツクロハレ イト モ ウナリ モ ツケラレテ ヰマシタ。タコ ハ ユメ デハ ナイカ ト オドロキ マシタ ボツチヤン ハ ヒロバ ニ ツキ カゼ ノ フク ノヲ ミハカツテ タコ ノ イト ヲ ヒキマシタ タコ ハ トクイ ニ ナツテ ソラ ニ アガツテ イキマシタ。タクサン ノ オトモダチ ヲ オヒコシ オヒコシテ イチバン タカク アガリマシタ ソシテ ブンブン ウナリ ヲ タテ ナガラ ユカイサウ ニ ジタ ヲ ミオロス ノデシタ。オヒサマ ハ ニコニコ ト ワラツテ イラツシヤイ マス。

---

# 賀正

## 長春

長春領事 田代重德

長春取引所信託會社 專務 山中繁雄

長春地方事務所長 土肥顓

國際運輸會社長春支店 支店長 釘宮松太郎

南滿洲電氣株式會社長春支店 支店長 大浦力

南滿洲瓦斯株式會社長春支店 支店長 五十嵐榮

長春郵便局長 岐部與平

長春各學校一同

長春郵便局課長一同

長春滿鐵醫院一同

長春地方事務所係長一同

長春警察署長 石井金三郎

長春 加藤洋行

運研 新運 販賣 大和屋

長春二條通り 日鮮精米所

植木部 生花部 村田逍遙園

長春料理店組合

滿洲土木建築業協會 長春支部員一同

長春旅館組合

長春吉野町一丁目 神戸軒

長春大和通四九 和洋雜貨 三浦洋行 電話五六七・一〇〇四番

中京洋服店 代表 川本伊太郎 電話七三一番

長春市場 食料雜貨商 杉尾商店 電話一四〇六番

長春中央通二十七番地 材木商 大島洋行本店 大島巳之助 電話一一二番

和洋式帳簿、ブック及コッピ 三省堂製本所

會席御料理 錦

衛生本意支那料理 錦食堂

長春東一條通 精養軒 電話三〇五番

長春東一條通 そば うどん 天金 電話五五四番

表裝と ふすまの店 大室文仙堂

長春浪速町二丁目 疊商 並河喜藏

長春富士町二丁目 西村洋行 西村清兵衛 電話一三六一・六〇〇・七一一番

長春警察署 (イロハ順) 井上定弘 大場春吉 三上芳彥

長春市場株式會社

長春撫順炭 本溪湖炭 各種特約販賣店
松茂洋行 電話五三七・四二一番
泰利號 電話一一六九番
加藤洋行 電話三三二番
大昌煤局 電話五二九番
福源成 電話三一三番
東興成 電話七六二番
仁和洋行 電話五八二番

長春商工會議所 大垣鶴藏

長春祝町三丁目 大信組 赤羽一二

長春同仁醫院 市橋貞三

長春輸入組合 理事 久末吉次

長春取引所長 奥平廣敏

長春驛賣店 久保田金平

株式會社岩尾商店 金谷松太郎

和洋雜貨 丸德商店

吉林燐寸株式會社長春支店

長春朝日通り十七 活版印刷業 三友社 電話一四三八番 四戸友太郎

長春浪速町二丁目 住吉鐵工所 電話五七二番

長春中央通十七番地 林田寫眞館 電話二一二番

長春室町一丁目 和洋菓子 吉野屋菓子店 電話三一一番

長春日本橋通 現代號洋品店 電話一八八番

長春室町一丁目 書畫骨董 刀劍並ニ研拵謹製 井上示現軒 電話一二〇三番

長春日本橋 金泰洋行

東支連絡驛賣店 岸下一郎

長春吉野町二丁目 合資會社 長春大和藥房

滿洲出橋委託販賣指定問屋 長春 新洋行

建築ペンキ塗 硝子嵌込請負 龜岡看板店

文具と雜誌の店 林洋行 電話一六五番

長春吉野町二丁目 乾辰三

長春呉服商組合

長春東二條通 濱木印刷所

長春三笠町 北原紙店

長春 仁和洋行

長春市場內 蒲鉾 卸小賣 水江商店 電話六一四番

長春市場內 食料品商 日華洋行 電話一三四三番

長春市場內 履物專門 平塚商店

長春大和通 木炭 薪 白石商會

長春日本橋通 平本洋行 電話一五八番

謹賀新年 西澤藥房

長春滿鐵病院前 和洋雜貨商 大葉商店 電話六七四番

長春吉野町二丁目 履物商 小林履物店 電話三四四番

長春日本橋通 梶原洋行

池の坊 茶道 藤田夏子

長春吉野町 朝日堂菓子舖 電話五九一番

長春千鳥町 三宅牧場

長春吉野町二丁目 秩父屋 飯島英一 電話九七〇番

長春室町二丁目 炭安商店 店主 麻生磯平

長春吉野町 質店

長春祝町二丁目 植田パン店 電話一二〇六番

帝國徴兵保險相互會社 日清生命保險株式會社 長春代理店 南滿洲鐵道會社 憲兵隊 郵便局 御指定 滿洲日報長春營業部 富士屋旅館 館主 五味武太郎

茶、緑、瀬戸物 小荒物 茶道具一式 河久商店

御履物と緒專門 長春三笠町二丁目 森商店 電話一八九番

長春日本橋通 藤坂寫眞館 館主 菅沼直人 電話二一三番

三笠町三丁目 松田洋服店 電話一四六番

長春日本橋通 田中電氣商會 電話一〇一六番

祝町二丁目 石田洋服店

カバン專門 製作販賣 小倉カバン店 長春東一條通

長春興信所 清水末一 長春中央通

長春東一條通 竹島印刷所 電話四〇五番

上海萬國儲蓄分會 經理 朱潤田 長春五馬路

長春祝町三丁目 花月軒

長春三笠町二丁目 三笠カフエー

長春東一條通 金城靴店 電話九五二番

長春吉野町二丁目 長春堂 電話一一九一番

# 懸賞新年文藝發表

懸賞小說 一等當選

## 鐵の響き

松野榮

飽く事を知らぬ執拗さで襲つて來る尖鋭な浪の背を二つに押割つて、船は遼東半島の尖端目掛けて眞一文字に水を蹴る。エデクターポムプの裝備のない愛神丸では、汽罐室のアスは甲板へ捲き上げて捨るのだ。アス捲ウインチを中心に通風機の胴腹から船艙蹬のワイアロープを命の綱として上下するアスを一杯頬張つた鐵バケッツを取外す瞬間、眞下の汽罐室にチラつく火夫やコロッパスの頭や胴體が何時このバケツに當つて粉微塵にケシ飛ぶかを考へてみた。

機關室ではスクリューシャフトの原動であるクランクシャフトが氣筒の下で旋轉するに應じて、船の心臓の各部門は各異つた速度で獨特の躍動を續けてゐた。その機間で機關士と油差とが鋭敏な歯車のやうに素早く傭給日から傭給日までの勞働力を提供してゐた。

午前五時、宏太無邊の水の一線を擬として東天は漸くはつきり區劃を立てた。それが次第に秋風に靡く海の穩波の如き浪の起伏の上に擴がつて來た。アス捲作業を終へた長顴は直徑一尺五寸程のマンホールから蠟燭の火を便りに汽罐の胴腹へ這ひこんだ。高さ二間もある厚い圓筒の中に、錆落すシカラップの音は横に無氣味に弄つた鐵管の鑛の下で響いた。この唯一の出口であるマンホールをパッキンで鎖、水を滿たして火夫は百八十度の蒸氣を上げ續けた。中に殘されたコロッパスの血も肉も蒸氣と化して機械を動かした。次の掃除には彼の骨を掃除した。此の船には斯くも悲しい歴史があつた。長顴の掲齡は未だ働いてゐる事を同僚に告げる信號だつた。蓋をされたが最後だもの。泣いても喚いても幾寸もある鐵の厚みを徹して誰に聞えやう！ たゞ次の掃除まで自分の骨が鐵へ腐れつくまでだ。

動揺が無くなつた。鎖庫から起り出す碇鎖の響き。長い航海に疲れきつた愛神丸は、初めて休する乙女のやうに、倶縁に息づく大輪のやうな胸を、そつと岸壁の胸へすり寄せた。近代的なガッシリした積だ。荷役が蟻ほど彼女に集ると、ウインチが躍動し鐵材と椰松が宙を飛んだ。捲き上げられた椰松の一端を結んだロープが緩んでハッチに渡してあつた鐵材の一端を揃つた刹那——其上で合圖をして居た水夫長の茶色の肉塊は鐵材にまつはりながら船底へ轉落した。船底へ逆立つた鐵材は大音響と共に跳返つた。ボースンの足は大股から二米突も丸太のやうにケシ飛んだ。深さ數間の船底、椰事の瞬間の靜寂——ボースンは身動きもしない、たゞ、石榴の實の樣な鮮血が船底の鐵板の張り目を傳つて椰松の皮を染めた。

其夜、水夫達は麻袋を圍んで丸太の樣な神經を尖らせて、トランプ札に血眼を注いで居た。たつた今まで女×買ひの話に花を咲かせて居た火夫達は安價な麵を求めて上陸した。汽罐の錆を落したハンマーの音と、ボースンの死が生々しい感傷で彼の胸に痛み、皺のめつきり殖えた母の顔がその感情の交錯の間を亂舞した。翌日長顴は突然下船した。トランク一つ提げた彼の姿はタラップを驅け降りた。遠い親戚の高畠セイ子の下宿を尋ねたのは、其後五時間經てだつた。

其秋、丁度其の港町の鐵道の複線工事で工夫を募集してゐたので二通の履歴書を書いて手續きした採用通知が來た。彼は又鋭敏な歯車のやうに廻轉して行かねばならぬ陸の勞働が、メスのやうな鋭さで迫つてゐる事を感じた。と同時に僅かな血緣の因襲に縋つて、セイ子の食客となつて居る自分が判らなくなるのだつた。

幾本かのレールが夕陽に映えて銀色に輝くうねりを見せてゐた。一組四人、四つの鶴嘴は釣上げられた魚のやうに空中で跳返つた次の瞬間、枕木の一本々々を堅固に締めつけて行く緊張した鐵の反響、一歩一歩開拓して行く堅實な歩み、彼はレールを擱んでみた。鐵の冷やかな感觸は彼の彈力ある生命力を突嫌として高遠なものへの飛躍へ驅け立つた。長顴の胸は掻き消すことの出來ない幸福で一杯だつた。今の線路工夫の生活から、どうしてもセイ子を取外して考へ度くなつた。

昨日病院から歸つた彼女が、百貨店の多量生産の唯一物で出來上つた外出着に替えた時、雪白の看護着を脱いで壁に吊るした調子に帶の間から皮嚢のまゝ體へ轉がつた體溫器の事を考へて見た。そして茶褐の皮の小さな手袋に縮められて狹くなつた手で、卓の上にあつた採用通知をいま一度取上げて見た。そしてグロテスクな横顔は次第に悦の色に疲れて行くのだつた。

「あなたもいよく働けるし、二階を借りてるのも何だから、一軒借りるわ……よくつて？」

一軒家を持つ——彼は斯うした言葉を男女が自然の法則として營む夫婦生活ではないか？と思つてドキリとした。

突然レールは非常に重いものが其上で動く時放つ反響で彼の幻影を奪つた。汽車が來たのだ。工夫達は立退いた。三十餘輛の出廻り期の特産を滿載した貨物列車は地動きを立てゝ港の方へ延びた。自動車のフロンドグラスのやうに凪いだ海は鋭い双物のやうに光つてゐた。其上をどす黒い見覺えのある船塊が港外へと岸壁を離れて行くのが見えた。彼はそれが何であるかを知つた。船はいま一度、青い穹窿へ白い汽笛の響を投げて、段々うすれて行つた。職業に干與る若い女の、まゝ事のやうな自炊生活のセイ子が詰めて與れた晝飯の牛肉の、最後の一片が彼の胃の中で消化されてゐた。工夫達は次の鶴嘴を振るべく彼を待つてゐた。彼等の鶴嘴は穹窿から地上までの厚みのある青い空氣の中へ、澄明な響きと流した。(了)

## 小說

一等 鐵の響き 滿鐵本社鐵道部經理課 松野榮

二等 水天の懊惱 大連市山手町三二、十一 MO生

三等 マネキンガール 大連市伏見町十四番地 三木四郎

佳作 解剖臺 旅順田家屯 福永剛

## 短詩

二等 海港譜 大連埠頭手荷物係 W・W・W

三等 つみき外二篇 大連市濱水町三ノ五 大平元子

佳作 日光を食べる 大石橋中央大街十四 山尾水叫坊

## 海港譜

埠頭 W・W・W

A 朝……

獨身者の日輪が地球の自轉で浮め上げた。

沖では[illegible]船舶が嘲の挨拶を交した。

S岩壁No.23バース。

錆げた赤腹の外國船の甲板。

スキッパーの燻らす檜のPiP。

塵埃含有の%を低めて海氣が冷たく散歩する。

壞血病の水夫が腐つたオゾーンに肺を縮める。

深呼吸してゐる通風筒。

欠伸をしてゐる起重機。

突然——霧を破つた、大つかい鼻面の給炭船——のつそりと。

B 晝……

港のスクリーンは混濁トーキー

蝟集する苦力の體臭はコミンタンでない。

末梢神經的軌道から吐き出さるゝ特産物。

貨物船は腑臓を露出して呑み込んだ。

馬糞の臭を游泳するトラクター。

チブ・クレインは60°の傾角機械美。

午後一時五十分——

小蒸氣船がダニの樣に入港船へしがみついた。

C 夜……

寢返りを打つた倉庫。

宇宙が變裝して、ちらつと星晨を流した。

齡蝕した月は憂鬱だ。

世紀末『貨船の洩光は慄へる血——沖待の汽笛。

船客待合所の露臺の夜氣が白い

太い双腕の臉臭——眼の青い女

突然。襟足の黒子がすゝり泣いた

(頽廢に)——

## 和歌

一等 鐵嶺橋立町二丁目 小川重五郎

汽車乘りの夫にしあればこの音も吾子と淋しく屠蘇くみかわは

二等 撫順炭礦 伊與部綾子

この街に五つの歳の春を迎へたるわれに一人の兒の健かに

三等 旅順市松村町二三 美川麗子

初春の港は波の音もなく陽は麗かに晴れ渡るかな

大連 小野寺英一

巖の上に立ちて初日をおろがめばみをすぢあたり水鳥の見ゆ

鐵嶺 秋津島男

新らしく年たつごとに吾が願ふねがひぞ心靜かなれかし

薫美子

歎へたる御慶おぼえて片言にはにかみつゝも子の申しけり

福岡市 英 天山

物みなが若き光の色たゝえなつかしう見ゆ初日登れば

新潟市 越路四郎

つく羽子の誘へるものかちらちらと粉雪降り來ぬ初春の空

大連 加賀桃郎

すぐよかの姿を見せていとし兒等は初日の前に畏みてあり

長崎縣福江町 平出喜間太

新玉の今朝の心をこゝろにて幸ある年を過しこし哉

大連 田中絹代

むらぎもの悔も歎きもなかりけり充實しき初春の朝

大連 西山庄太郎

別れ來し友の便の集りて寂しく微笑む旅の子我は

奉天 園 月彦

加はりし年をかぞへて嬉しがる子らになりてわれもうれしき

小谷世來還

さし昇る初日のかげのさやけさに我が身の末もかくてぞと思ふ

大連 小川堤花

いやませし去年の惱も晴れにけり心靜けく初日を拜めば

旅順 小久江良太郎

なすこともなさで一年過しけり弱きこゝろを嘆うちたれど

旅順 緒久村俊信

易者のいひし言葉よ三十歳を超ゆれば來るてふ幸を思へる

大連 岡林紀子

今年こそよき音づれのあれかしと祈るかたへに子も坐り居る

開原 豊村水星

想ひ出はなつかしきかな元旦を喜び迎へし幼なかりし日

島根縣乃木村 廣江孝雄

つゝましく強くかくして生くべかり年新なる今朝をし思ふ

金州 鬼丸雨翠

南山永久に眠れる英靈を慰めんとて行く初詣

大連 近藤義裕

高らかに今日の佳き日をうたひたる學びの窓のなつかしきかも

鐵嶺 彌吉翔子

天地にみちあふれつる新春の光あまねく初日おろがむ

大連 井上壽夫

新らしき光湛えてなごみたる磯波しるき春の光かも

## 俳句

一等 孤家子驛勤務 萬木秀穗

初日今明けはなれ行く曠野かな

二等 大連市沙河口八丁目 丸角蒲城

追羽子にかろき敵意や姉妹

三等 瓦房店 宮田朗月

天盃を床に飾りて老の春

佳作

旅順 柳月 惠方道夜明けぬ内の人通り

長崎 阪本一瞬子 出初式に雪が消えて行き

大連 甲斐綾子 書き添えしわが名の小さき賀狀かな

旅順 松山硃木鳥 師の筆の衰え見ゆる賀狀かな

長春 矢名 元日や家に居ながら客心

鐵嶺 小川柳風 巖を嚙む濤の碎けて初日かな

大連 和田鳥咋 裏白の影うつりゐる障子かな

大連 丸角蒲城 末の子に手を持つてやる試筆哉

大連 神山絲村 潮汲みに辿る岩間や初明り

鹿兒島市 小牧一光 元日の厨の中にある日射し

大連 滿潮龍象 禮の新しき下駄並びある

鞍山 鈴木露儂 門松に豚の見遊ぶ國に居る

大阪 淵一枝 搔呼んで皷打たせて屠蘇の醉

千葉縣 西原春翠 健康に誠す貧なし明けの春

大連 高野不倒子 青獅子にほゝえむ馬車の主かな

神戸市 春國 初日出おろがむ巖の苔黑き

金州 岡本佐太郎 參道に人あるらしよ初霞

大連 唐野日人 床飾り父の頑固な流儀かな

大連 小林紫涙 若水を汲む乙女子や赤だすき

福岡市 英てる雄 元日の大河音なく流れけり

大連 石川幸二 屠蘇すぐに面輪に出でし妹背哉

松川市 村山秋彦 元日の鶴に物云ふ聖かな

大連 鈴木もとよ 初風や潮滿ちてゐる巖根かな

ハルビン 花房玲子 初空や檣に浮きたる鳥の巣

大連 杏本汀明 千々岩や波に廣がる初日影

## 川柳

編輯局選

一等 大連市霞町九丁目十 高橋素寢

二日目は羽織の脱げる家へ來る

二等 大連市紅葉町 加賀桃郎

福引は電車に乘るに大き過ぎ

三等 撫順北臺町五丁目三 日高阿喜良

童心に返つて初湯の唄が出る

佳吟

醉ふてゐる聲で賑ふ福引場 京城 照波

お元日借着の似合ふ髷があり 福岡 雨江

いゝ連れに母も供する初參り 大連 市路

失業の歌つても淋しい三ケ日 大連 比良松

お年玉風船になり凧になり 大連 溪蹊

數の子へ不惑をかこつ歯の弱り 遼陽 牽牛子

支那娘器用な足で羽根をつき 大連 梅坊

緊縮の御旋日の丸だけの街 昌圖 斗牛

名刺だけ置いて廻禮ぬけて出る 大連 青甫

子澤山正月だけの髪を結ひ 大連 亭路

氣強よさは雜煮の箸が一つ殖え 長崎 寶山坊

元日といふにダンサーまだ眠り 長崎 潑久洞

行き違ふ機關車御慶述べて過ぎ 撫順 喜良久

彈初に昔の凄い腕を見せ 京城 酒中仙

徹夜した餘勢を初日拜みに出 旅順 奇集銀

初春の明るさを舞子着て歩き 東京 謙生

母のいふ雜煮の餅は鍋をこし 大連 白山

羽根つけば晴着の袖が邪魔になり 香川 宏影

初風呂に先の暮らしを考へる 昌圖 華江

緊縮も今日ばかりはと屠蘇の醉ひ 大連 徹郎

節約へ子供等淋しい年をとり 長崎 小一路

滿洲の米とも見へぬ鏡餅 大連 青々庵

選擧區へ勳位も入れて年賀狀 鞍山 年一

一人子を無事に育てゝ今朝の春 煙臺 綾子

桃畑の昔もあつた羽根をつき 奉天 茂歐坊

借金を拂ひ殘して屠蘇に醉ひ 大連 不孤

歌骨牌後一枚の氣の疲れ 福岡 天山

學校の唱歌がねむい雜煮腹 東京 王子

どつしりと機械工場のお正月 孤家子 東狂子

元日の朝湯に浮ぶ剃つた顔 大連 蠻中

泰平の春を小豚の尾がゆれる 奉天 藍刀

東京に居るなアと賀狀なつかしみ 遼陽 登美坊

緊縮を忘れて門松太く立て 旅順 柳月

松の內過ぎてお女將の春になり 鐵嶺 柳風

カルタ取る姉は違つた心で居 旅順 鳳來坊

乳吞み子の分も雜煮の數に入れ 大連 桂馬

一歳に年をかさねて泣き笑ひ 大連 農夫

支那街に目立つ御慶の日章旗 撫順 外風

御元旦主人と同じ膳につき 大連 新生

元旦に何思ふてか祖母の三味 大連 彥一

### 當選者への賞金

新年文藝並びに寫眞の賞金は發表一ケ月後に贈呈することにしましたから左樣御承知おきを願ひます

元旦號 其の三

# 財界に黎明を齎す昭和五年を迎へて

年こゝに新に、昭和五年を迎ふ。

曆日の運行は人の力を超越し、舊年の去り新年の來る、この世界以來の約束は、何の變哲もなくまた何の不思議ともされないが、年新なれば人の心も自ら新に、誰しも今年こそはと思はぬものはない。即ちこの希望あり、この感激あればこそ人世の意義もあり、また文化の進歩もあるのである、ことに本年はわが財界多年の懸案たる金解禁問題を解決し、正月匆々これが實施に直面せねばならぬ立場にあり、この國民的試煉を前にして、國を擧げて人心緊張し、新年を迎ふ、特に感激と希望の新なるものがある。

顧みるに過去十三年間、金の輸出禁止といふ特殊事情の下に、わが財界は、信用取引の濫用による事態經濟を續けて來たのである、すなはち金の解禁は、今日まで實力以上に評價された富を、價値の世界的尺度によつて正しく評價し直すことなので、その實行の第一歩を踏み出す本年こそ、實に多難なれど意義深き年なりと言ふべきである。而してこの受難こそ今後安心して活躍すべき素地を築き上げるための試煉であつて、決して悲觀するに及ばぬことであり、國民の緊張徹底し、こゝに始めて財界の健實なる立直りが芽を吹き、景氣の回復へと轉換し行くのである。

解禁後なほ諸物價は滔々たる落潮を續け、不況は逐次的に深刻化して行くかも知れない、或は意外に平靜なる推移をみせて、いはゆる中間景氣の出現を招き、緊張した氣分に弛緩を示すやうな事象が發生するかも知れない、殊に特殊地域たる滿洲では内地とは異つた經濟現象を呈せぬとは限らない、しかし國民は終始一貫緊張して、財界觀相の推移を正視しなければならない、そして國民の緊張は緊縮節約の消極的活動から、更に進んであらゆる產業の合理化を圖り積極的活動により財界の根本的立直しを完成するまで徹底せしめなければならない。こゝにおいて初めて財界も一陽來復を得るのである。

思ひなしか今年は、吹く風も一入身にしみて、更に心に緊張を興へしむるものがある。しかしながら霜雪の苦難ありて松柏の堅强あり、冬來りぬれば春また近きを思はしむ、これがため身は雰下の不況に喘ぎながらも湧然として、心の快感が萌すのである。財界に黎明を齎す新年の多幸ならんことを祈る。

# 慶賀すべき金解禁の年

## 各種事業も圓滑に遂行しやう

日本銀行總裁 土方久徵氏談

昭和四年の財界を顧みると前内閣時代即ち上半期に於ては爲替相場の低落著るしいものがあつた、當時の三土藏相が其の緩和策として金解禁斷行の意思あることを仄めかした旨傳はるや爲替相場はやゝ恢復の形勢を呈するに至つたが一方株式市場はその

**悪影響を** 受けて極度に恐怖し遂には非常な暴落を演じた、そこでこれが對策に就き財界各方面に於て種々協議された末、井上現藏相や團、郷氏等の財界巨頭が親く三土藏相を訪問して意見を交換した結果、三土藏相の金解禁非卽行の聲明となつて現はれ株式市場はそれに依つて漸く安定を見たが然し爲替相場の方はその爲め遂に又復低落を告ぐるに至つた、第五十六議會終了後田中内閣崩壞し代つて濱口内閣の出現となつたが新内閣はその重大政策として金解禁斷行、財政其他の緊縮節約、財界の安定を標榜して着々これに努力したので爲替相場もこれに好感を受けて

**漸次恢復** の歩を辿り政府の眞劍なる態度一般國民の贊同、内外經濟事情の好化等に依つて益々その傾向顯著となり、對外貿易の順調、國際貸借の改善、物價の低落、海外金利の低落等は爲替相場をして一層平價に接近せしめるに至つた、而して斯の如き經濟界の好轉と共に一時極度に現はれて居た解禁恐怖人氣も自然薄らぎ最も懸念された爲替相場の急騰に依る經濟界の影響の如きも案外現はれず問題の

**金解禁も** 遂に十一月二十一日を以て短期期限附斷行を發表されるに至つた、金解禁に對する内外諸般の準備は十分整備されて居るのでそれに伴ふ影響も別段大したものでないことは何としても我國の爲め慶すべき事である、斯くて解禁斷行後卽ち昭和五年一月十一日以後の財界は金の海外現送に依つて通貨は幾分收縮を來すべく、隨つて國内の金利は當然引緊りを呈するであらうが之が爲め金融の圓滑を缺くとか物價の急激なる下落を示すとかいふことは恐らくあるまいと信じて居る、若し其のやうな現象が

**誘致され** る場合には政府及び日銀當局としては既に十分整へて居る處の準備を以てこれを緩和し且つ統制することになつて居る、故に決して甚だしい悪影響を來すやうなことは萬々なからうと思つてゐる、所で一般景氣は何うかと云ふに既に過去の財界は久しく不況に沈淪して居り既に底を行つて居る事でもあり、多年の懸案だつた金解禁問題も解決されたので自分は前途に何等の暗影はないと信じて居る者である、換言すれば今日の時期に於て各種のことに

**採算して** 掛かれば是れ以上に財界が甚だしく悪化することはないのであるから隨つて財界の不況に依る損失を招くこともない譯である、されば各種事業會社も安んじて事業の遂行を爲すことが出來るから今後相當の時期を經過すれば自然景氣も恢復上向の道程を辿るに至ると思はれる、然し乍ら金解禁問題が無事解決したからと云つて直に有頂天になり不自然に事業の擴張などをなすに於ては必然一時的の空景氣を招來し財界に恐るべき悪影響を及ぼす結果となるから斯の如き事のないやう各自大に

**警戒せね** ばならぬこと言ふまでもない、日銀としても之等に對する資金の貸出しに就ては十分これを警戒するつもりである、尚金解禁が今後の滿洲經濟界に果して如何なる影響を及ぼすやに就て一言せんに今日の滿洲經濟界は勿論滿洲のみ孤立的に内地の經濟界と何等關係なくやつて行けるものではない、資金關係その他に就いて考慮するも内地經濟界の推移に追隨するものと思はれるから内地の事情が好轉するに於ては滿洲經濟界も自然その好影響を受くるに至るであらう、故に解禁後も内地と同樣に各自がそれぐ〜自戒し有頂天になることなく自然の景氣恢復を待つのが最も得策であると考へる

海邊巖

懸賞寫眞三等當選　大連市柴町二ノ一　大塚三佐太氏

# 銀安時代と積極政策

滿洲輸入組合聯合會理事長 神成季吉氏談

今や世を擧げて緊縮節約の時代となり、不景氣風は津々浦々に渦卷いて居る、正月十一日より實施さるゝ金解禁準備として、伸びんが爲めの屈縮は止むを得ざることであらうが、滿洲に於ては、母國の政策に盲從して萎縮退嬰に陷る事は大に注意せねばならぬ

**金融關係** は日滿共通であるから、滿洲に於ける投資は其の土地で働き出した金以外は矢張り金流出となるを免れないが、採算上有利の事業及諸建築に投資するのは、ヨシ金流出となつても、國家の損失とならざるのみか、現時我國に於ける資金偏在に活路を興へ、有無相通ぜしむるに最も適當である、若し其資金を外債に仰ぐとして、採算上年一割二分收益ある事業ならば、外債に八分の利息を仕拂ふとも差支へなかるべく、不動產建築の如き好個の投資物に非ずや大正八、九年の好況時代、銀百圓は金二百圓以上の相場を維持したる當時に於て、一坪當り

**建築費は** 金三百圓以上であつたが、今日は銀は金八十圓となり建築費亦八十圓前後となつた、建築費の約七割が、銀を以て仕拂はる可き支那の材料及び勞銀なる故である、此際考究す可き事は今日の採算が果して永續し得るか否やの點に在る。近時上海奧地方面より、耳環、指環其他裝飾品として保藏されて居る金が非常な勢ひで、上海に出廻り、上海金塊市場の取引物件たるゴルトバーに改鑄されて居るが、此數量は既に三千條（一條四百八十圓）に達し引續き出廻るものと見られて居る、大正八、九年に買入れた金の

**裝飾品は** 支那人から見れば、今日の相場で約四倍の騰貴である、此の際是等を賣拂つて銀に乘換へて置くのは、蓋し利口な遣り方だらう、尤も三千條と云つても高々百五十萬圓のもので大勢には關係ないとしても、銀貨國に於ける金建投資は此の流儀を擧ぶ必要のある所以である、而も銀塊相場は、多くは財界好景氣の時高く、不景氣の時低落するを常として居るが故に、在留邦人が母國の景氣の良い時に活躍し、不景氣の時萎縮する時は、支那人とは全く正反對となり

**損失許り** する事になるのである。今日有利の採算は元より銀塊相場を研究するを要する、過去百年間のロンドン相場の足取りを見ると、ブアー戰爭の終末即ち明治三十五年十一月及三十六年一月に最低の二十一片十六分の十一を、日露戰爭後の反動期同四十一年十二月に二十二片丁度を表はし、次は歐洲大戰勃發後の大正三年十一月に最低の二十二片八分の一を出し翌年二月に至る迄二十二、三片臺に在つた。今回は四回目で、昨年十二月十八日には二十二片十六分の三を表はした

**前三回は** 戰爭の影響であつたが、今回は國際聯盟とか、軍縮會議とか、無戰爭時代の招來であり、印度は既に金本位制を採用して所有準備銀貨改鑄の上市場に賣出し、昨年の世界銀產額は二億五千萬オンスと云ふ稀有の巨額に達し、銀の大需用國は支那一國となりて、世界の供給は是れに集中し、上海には二億萬弗の存銀を有し、ロンドン市場も亦多額の銀ストックを擁する現況である、目先き銀相場を騰貴せしむる材料としては、支那の内亂であるが、蔣、馮の葛藤も、反蔣聯盟の内亂も何等の影響を與へない處を見ると今後の

**材料とは** ならぬかも知れぬ、然らば支那復興に依る需用喚起とか、不引合の結果に依る銀產額減退とか、或は上海に於ける金裝飾品の洪水が目下吾人を首肯せしめ得る材料は見當らぬが斯る環境に在つて猶二十二片を維持し得る底力に想到すれば、今日の相場は、ヨシ底値ならずとするも、是れに近きものたるを判定出來るのであつて、從つて是れに依る採算は間違ひの少なきものたるを斷言したい。斯く觀來ると、支那に於けるあらゆる投資は此銀安時代が最も合理的である、徒に母國の緊縮風に脅えて袖手傍觀の時に非ざる可し、年頭に際し敢て所感を述ぶ。

# 内地有力者の進出を希望

## 滿洲財界は稍小康

朝鮮銀行總裁 加藤敬三郎氏談

殖民地金融機關の從來に於ける實績を看るに比較的失敗の歴史が多い、それで其の失敗の原因が何處にあるかと云ふに殖民地に於ては事業が非常に多く、事業に從事する人には割合に薄資のものが多いので金融に就ても自から内地に於けるそれよりも無理な要求が多く、自然銀行が金融機關としての確實な經營をなす上から離れて周圍の情實に捲き込まれ無理な金融をなす結果となりそれが救ふべからざる

**破綻の原因** を醸すが如きことに立ち到るのである、斯の如く殖民地の事業は實際上内地に於けるそれよりも危險事が頗る多いことを考慮しなければならぬ、然し乍ら殖民地に於ては銀行が内地と同じやうな考へで遣ることも亦殖民地諸事業の發展を期する所以ではないから一般の希望にも叶ひ尚殖民地金融機關としての本分をも失はぬやうにするには餘程穩健に且つ鞏固な意思を以て其經營の衝に當ることが必要で若し然うでないとすると、失敗の歴史を徒らに繰返すより外はない、現に滿鮮の銀行に就て見るも今日までの論はそれ等の苦い失敗の歴史を繰返して居るが最近の狀態は幸ひに稍小康を保つて居る、故に今後は出來るだけ前述の過ちを再びせざるやう努力することが肝要で朝鮮銀行も永く内地に本店を置いて

**滿鮮に起る** 實際問題に就て直接干與する機會を失つたやうな實例も尠くなかつたが昨年夏より本店を京城に移して行内の緊縮節約その他整理を極力圖ると共に地方に於ける人々とも直接に接觸し殖民地金融機關としての機能發揮に努めて居る、從つて一般關係者とも親密な關係を持つようになりその希望に餘程添ふことが出來るやうになつたと思ふ、金解禁と云ふ此の重大時機に際して朝鮮に於ても、滿洲に於ても自ら内地に於ける影響と同一の影響を受くることは當然である、此間に處して十分なる注意を怠らぬやう進んで行き度いと思ふ、夫に朝鮮銀行が最近營業方針を改めて滿洲に對する資金の回收を頻りに急いで居るといふものがあるけれども

**取引先が** 十分信用のある確實なるものであれば勿論時に回收を急ぐやうな事はせぬ、只然うでない取引先に對しては勢ひ速かに回收を圖る必要のある事は他の銀行と同樣で別段平素の營業方針を特に更改した譯ではない、併乍ら滿支紛糾の結果、ハルビン方面に於ては自衛上相當警戒を加へて居るが露支關係が圓滿に解決すれば無論平素に復する考へである、又鮮銀が整理緊縮を遣り過ぎたの非難もあるが之は昨年思ひ切つた内部の整理を行つた爲めで最近では整理も略一段落を告げ、本店に設けられた整理係りも廢止する運びになつて居るのであつて、事實整理の結果

**貸出しを** 時に手控へて居るのではなく適當な放資物があれば滿洲方面にも進んで放資する方針になつて居る、何分滿洲在住邦人の資力は概して微力なものが多いことは遺憾である、當行としては健實にやつて居る取引先きに對しては十分金融の便を圖ることに心掛けて居るが滿洲を繁榮ならしむるには内地に於ける有力者の進出を希望する次第であつて在滿邦人が資力に缺けてゐるため支那人に壓迫される傾向あるは甚だ遺憾に堪えず當行としても出來るだけ便宜を圖り度いと考へて居る、而して金解禁の斷行は銀價の低落を來し内地から

**綿糸布の** 輸入を業とする者は恐らくこれが決濟に於て相當の打撃は免れないであらう、隨つて金融界もその影響を蒙る譯だがこれは過去に於て既に覺悟し其準備もして居るとであるから打撃があつたとしても輕微な程度で濟むだらうと信ずる尚後に鮮銀系の滿洲銀行は開原銀行を合併し更に哈爾賓銀行もまだ合併すべく商議中であるが斯くして小銀行は有力銀行に合併し金融機關の整理を遂行し滿洲金融機關としての機能を十分發揮させ度いものだと考へて居る

## 馬鳴菩薩の起原

印度古代の高僧、馬鳴菩薩の名の起原が面白い、菩薩が北天竺を訪れた際、某國王が説教を乞ふたが臣下一同聽聞しやうとしない。で、國王は、七頭の馬に一週間食物を斷つた後、菩薩の面前に引出し食物を置いて、さて菩薩に説教を乞ふたが、いづれも食物を餘所に涙を流して熱心に聽聞したといふ。爾來世人が馬鳴菩薩と呼んだ

# 躍進を待望される 昭和五年のスポーツ界

## 庭球コート民衆化

滿鐵硬式庭球部 阿部理作

新らしい計畫と言っても七月に關學院を招聘しやうかとの話がある位のものです私達は振はない硬球の發展のために今迄の中央公園コートを完全なクラブ組織にし、もっともっと民衆化したいと思ってゐます、大連のファン諸氏が私達の氣持を理解して下さって斯界の發展に力を添へて下さる事を切望します、太田さんでも歸られたら亦新らしい計畫も生れてくるでせうが。

## 內地軍の來征希望

滿鐵大連道場劍道部教師 五段 波多江知路

本年は警視廳、東京學生聯盟、全京都、京都武專、全佐賀、東京帝大等から來征の希望を漏らして來てゐますが滿洲から遠征する事はありません、抱負と言っても唯日本古來の武道の發達のために誠心誠意努力をしたいと思ってゐます新らしい計畫と言っても別になく益々基礎を固めて、より好い大會を開きたいと思ってゐます。

## 全滿鐵軍の內地遠征

滿鐵大連道場柔道部教師 四段 石垣長隆

例年行ってゐる大會等は別として本年は五月中旬に全滿鐵軍を組織して內地遠征を試み東京の學生聯盟と決戰（一回戰勝二回戰負）したい希望を持ってゐますが是非共優勝をしたいと思ってゐます、それまで猛練習を續けます、內地からの遠征チームは京都武專が四段二名、三段八名、二段七名の粒揃ひで來る筈ですし、東京文理科大學も來征の希望をもらしてゐます何にしましても昨年に劣らない華々しい躍進を期待してゐます。

## 輝く我等の希望 昭和五年度の奉天運動會

奉天 齋藤兼吉

一見ちっぽけな奉天運動界も奉天に住んで居る者にとっては左樣簡單に述べられない大きなムーヴメントです、私などの關係してゐる團體、更に眞に興味を以てやってゐるものは其中の數種に限られてゐます、體育の行政家でなく所定の學校に勤務して居る實際家にはさう手などを出して居れる譯もありません

（1）私は一個の體育家として又スポーツマンとして生涯私自身を藝術品たるべくトレーンして行きたい
（2）市民とか滿鐵社員にもっと體育を普及發達させる具體案を建てゝ實行して行きたい
（3）奉天體育協會をもっと組織立った精神的にも堅固なものにしたい
（4）國際運動場が完成したら完成競技會を盛大に又高いウオールを有ってゐる此のリンクで滿洲最初のスケートのレコード、即ち世界と正確に比較し得ることが出來るのが樂しみである
（5）インドアープールとインドアーリンクが欲しい、でないと滿洲のスケートも直ぐ內地に負ける
（6）昭和四年のラグビーのやうに吾々は大連に勝つ事が實に愉快である此方のスピリットを益々發揮したい

## 大選手出現期待 昭和五年度の抱負を語る

滿洲ラグビー蹴球協會理事 渡邊諒

英國運動會の耆宿ウエブスター氏は「一人の大選手の出現は大なるフイールドの存在を物語る」と言ってゐる蓋し至言である、選手の存在を否定する人々は此點の

**認識が足**りないのである

競技の一般化を主張しつゝ選手の存在を嫌ふ事は夫自身一個の矛盾である、僕は滿洲から偉大なラグビーの選手が出て呉れる事を祈って居る、又夫等の選手によって組織された偉大なチームの出現を望んで已まぬのみならず自分としてはそれを目標にして努力して行きたいと考へてゐる、今の滿洲ラグビー界には競技自體のリファインメントと競技の普及の二問題が併存する、そして此二つを同時に努力しなくてはならぬ所に

**苦心がある**譯である、前者に就いては醫大、滿中二チームの遠征が可成りの貢献をして呉れるであらうと期待して居る、其外にコーチを兼ねたレフエリーの團體の組織等も考慮はして居るが、此方は星名君に大任を負はすつもり。普及と言ふ方になると相手が民衆一般であるだけに困難である人寄せの時機を作る事、ゲームを澤山やる事、シーズンを延長する事が重な方法であらう、それには秩父宮樣の奉迎試合も是非行はして頂くつもりで居るし、選手權大會も

**リーグ式**に行はうかと考へて居る、內地ティームの招待は滿鐵側の意向もある事故勝手な事を斷く譯には行かぬ。餘白沒有

## 室內プールを作ってほしい

前萬國オリムピック日本代表水泳選手監督 宮畑虎彥

昭和四年度に於ける滿洲水泳界の活躍は何と言っても內地に遠征した女子選手のそれであった、大阪の神明高女チームのリレー優勝、神宮競技での滿洲リレーの奮鬪、これに比べると男子の方は餘り華やかではなかったが、それでも殆ど全種目滿洲レコードは書き換へられました、今一般の活躍を望む前に私は滿洲に於ける室內水泳場の設備を是非必要だと存じます、昭和五年度の仕事の一つは即ちこれではないでせうか

## 滿洲運動競技の尖端へ躍進

滿洲體育協會主事 林田學

**昭**和五年の劈頭に當って一まづ「健康」を祝福する、多忙なりし昭和四年も健康なりし故に完全に突破した全滿洲選手權大會は滿洲競技界の中心である、一般青年子女の憧れの焦點であり滿洲體育運動熱の勃興するは人類の健康を欲する當然の反映である、一般體育運動熱の尖端を行くものは即ち滿洲體育協會が司る全滿洲選手權大會である事は云ふ迄もない。

**運**動競技の利害、得失などを今ごろ論議するは時代遲れである世の中の事總てが利害得失の伴はないものはない、殊に其見方を異にする場合に於て正反對の議論は兩立する。吾人は僅々數年間の經驗に過ぎないにしろ日佛競技を見、將又明治神宮競技其他の競技會に參加して親しく見聞した處に依れば强者は飽くまで强く弱者は常に敗る、而も心身共に强き者が全く無敵の觀ある事は競技の都度しみじみと感ぜしめられる。斯くの如く心身共に强健なる者に即ち一般人士の其目標であり其目標たる可き所謂選手諸君は一般體育運動熱の助長者であり其尖端を行く人々である、或は又一面一般體育向上の貴き犧牲であるかも知れない。

**吾**人は此の貴き犧牲者達の爲に常に細心の注意を拂ひ陸上競技、水上競技、氷上競技或は庭球、排球、籠球等凡ゆる競技に對し男女共に全滿洲選手權大會を開催して其技の向上を圖ると共に心身の鍛練にベストを盡した其結果は既に識者の認むる如く有形無形に滿洲青年の一擧一動に良好なる成果を收めつゝある、而して滿洲の運動競技界は日本內地の憧憬の中心と迄云はるゝに至った、這は一に滿洲在住の尊き犧牲である選手諸君の奮鬪努力の賜であって新興日本の尖端にある滿洲在住人として誇るに足る可きものである。

**斯**くの如く年々滿洲運動界が地位を向上し、其品位を保持して進み來った今日吾人は新年劈頭に當って更に更に滿洲の斯界が洗練されん事を衷心より希望すると共に其發展を期待するものである由來滿洲は日本內地に比し常に新進氣鋭の風に富み運動競技に携はる者の心懸けに於ても幾多の優った點を認められ其運動場は身體の鍛練場であると共に精神の修道場であると云ふ見地で進んで來たが一層其の氣持を濃厚にし即ちスポーツ精神の發揮に一層の努力を爲したいと思ふ。

**ゲ**ームの勝敗は末の問題である、其ゲームに對する精神の閃きこそ吾等の期する目的である、社會人としての人格の閃きも其處より生ずる事を忘れたくない。

**吾**人は小なる天地と雖も滿洲競技界の中心に立って飽くまでも嚴正に世の褒貶を度外視して强く〳〵生き日本民族として其尖端に立ち單に運動競技の選手たるに止まらず人間の選手として一般社會の尖端に歩を進めん事を切望して已まぬ。

**終**りに滿洲體育協會は其名は體育協會なるも其實は全滿洲競技聯合なる事を明らかにし體育即ち醫學上等より見たる體育其他の大家にお願ひして其弊害の有無に拘らず競技中心に進み已むに已まれぬ大和魂の發揮に精進する事を附記する。

### 項羽の愛馬

項羽の愛馬騅は虞氏から贈られた駿馬で、長さ一丈、背丈六尺といふ稀世の逸物である、千軍萬馬、轉戰亦轉戰のうちに終始項羽に愛乘されたが、項羽が烏江の畔で自刎するや、自ら江に投じてその後を追った。

## 野球見物 十五年の思出

中川久明

標題には十五年としてありますが、私が滿洲で野球を見初めてから十五年やそこらではない、或は二十年を超えて居るかも知れない滿洲で野球が初めて行はれたのは明治四十一年の秋だったと思ふ、米國東洋艦隊の軍艦四隻が來航した時、滿鐵本社の見習ひに依って組織せられて居た社交團體の若葉會有志といふ名義で、實際は見習ひでも若葉會員でもない平野（今の滿鐵學務課長）鶴見（當時の滿鐵土木技師）平岡（當時の光明洋行主）阿山（當時の正金銀行員）など一世紀前のモボ連が、或は禿頭に、或は白髪頭に捻鉢卷といった姿で「昔取った杵柄だ」と許りに急拵への寄せ集めチームを造り一つぱしのピックアップチームだと自負して、正々堂々と米國領事を介して艦隊に試合を申込んだ處が勝負ごとなら何でもムれの水兵さん達、就中野球は俺の國が本場だと許りに二つ返事で承諾し、三回負の約束で戰端が開かれた。

夫が滿蒙初めての野球試合であった。要之滿洲に於けるグラウンド開きは日米兩國の國際競技で幕が開かれたのだから素晴らしいものである。

當時の球場は伏見臺工專前にあった。同地は今は立派な市街地となって居るが、其頃は紀鳳臺の麓と伏見寮と教習所寄宿舍とが飛び〳〵に建って居たゞけ、而も夫等の家も皆空家で人ッ氣といっては常盤橋の天滿屋ビル（當時の英國領事館）か、小崗子（今の樣に澤山の家はなかった）まで行かねば見ることも出來ない荒野原であったが、球場は從前競馬の眞似方を一二度遣った跡だったので多少地均しがしてあった、其處を荒削りに雜草など引拔って之に充てた。

見物人としては米艦は總出しで三四百人のヤンキーが動物園で聞く樣な聲を出して騒いで居たが日本人は僅か三四十人で、苟くも國際競技といふのに試合の無いこと夥だった。選手連は口も達者氣も達者モ一つ意地っ張りも相當强かったが、何分十年以上バットを握ったこともない野武士の寄合であるから、體軀が言ふこと聽かないらしく、赤兒の手を捻るといふ言葉を其儘に宛然玩具扱ひにされて了った。デ竟に一回戰だけで御辭退申上げて了った。

處が勝って勝って勝ち拔いだ水兵連、面白くてたまらなかったと見え翌日から三日間其グラウンドで軍艦同士の對抗戰を遣った。彼等は公々然勝負にもヒットにも三振にも賭をして居て、私共の眼前で十弗二十弗と現金取引を遣って居た、爲めに勝負は極度に緊張して必死となり審判に苦情を付けること夥しく、一回の仕合に審判者が十幾人と交替した確に一種の珍試合であった。

斯くて米艦は二日間滯在の豫定が遂に五日間に延びて、其間に大連に落ちた金が五萬圓以上だったと相だ、今なら五萬や十萬は何でもないが日人商人二三百位ゐしか居ない頃の五萬圓であるから頗る大きく唐物屋も肉屋も酒屋も期せずして潤ざらへが出來た樣な形であった。夫が滿鐵重役の耳に入り、每年米艦を迎へるのは市の繁榮を圖る上に非常に效果がある其手段としては野球を奬勵するが早道だといふことになり。正式の球場を造る段取となり選手を社員に採用することにもなった、是が大連野球創始の發端である。私は其ころからのファンであるから見物人としては確に草分けの一人だと思ふ

其後野球が次第に盛になってから州內では滿倶、實業團、旅順工科學堂の鹽陽團が覇を唱へ、州外では撫順、長春が各一方の雄として來征したり、遠征したりして勝負を爭ふて居た。私達は夫が何よりも面白くて每年選手の尻について撫順にも奉天にも一家擧って泊りがけに見物に出かけたものである。

應援で今尚眼に殘って居るのは鹽陽團應援隊中の一人で假裝だか實物だか兎に角嚴めしい鬼鬚を延ばしたのが、木製寢臺とでもいった風の巨大な木履を穿いて號令をかけ「かっ飛ばせー、〳〵」の應援歌を唄ひ狂ふて居た姿と、實業團應援者の一人が纎助の假裝をして小さな扇を展いて觀衆の前に躍り出し、チョコ〳〵走りにおどけて居た姿とである。夫から撫順の應援は五六尺位の棒の先に黄色だったか赤色だったかの三角旗を付けて、二三百人の隊員が二三句の簡單な應援歌を唄ひ畢ってから「ケン〳〵〳〵」と雷聲を放ちて、其旗を斜に構へ、水平に突出したり引込めたりして突撃の見榮を切るのであった、夫が誠に勇々しくて、滑稽で、薄氣味惡くて敵の投手がモーションを付けた時に遣られると、若い投手などは手許が狂ふらしかった。デ反對側の野次連それを憤慨して「ケン〳〵雉子騒ぐな」とか「野良猫默れ」とか罵倒したり「ブビー〳〵」と豚の如な奇聲を以て應酬して居た。昔の應援は敵選手のイヤがることを言ったり仕たりするのと夫を邪魔したり聲援を交換したりするのが主であった。

大連での應援では何といっても工業學校が一番華々しく、今でも時折聽く「荒鷲叫ぶ眞帆の」といふ歌詞が勇壯で、調子が又馬鹿に痛快味を有って居て碧空に突拔ける如な快聲が太鼓の音と和し深の青葉を震動せしむるとき見物人迄もが勇躍感に打たれるのであった。大連商業は手拍子を取るのが巧で六七百の生徒が調子を揃へてパチ〳〵遣るのが一偉觀であった。

大連の野球が今日の如く天下無敵の强剛となったのは何といっても岸一郎君の來連が其緒を啓いたものと私は思ふ。岸君と云へば一高が來征して滿倶と戰ったことは忘られない、一方は內村君、一方は岸君で兩投手が必死の妙技を揮って快戰したのは到底又と見られぬ壯觀であった。而も連戰して二回とも惜しき敗戰を嘗めた一高の主將中堅捕手が二回戰のゲームセットを宣せらるゝとホームプレートの上に直立しマスクを取って高く打振りつゝ選手一同に「集れ」と快活な聲で號令し、喜々として馳せ集まる選手と共に秋毫も惡びれたり悲しんだりした面色なく「吾はベストを盡せり」といった風の心から遺憾のない態度を示して力足を踏んで堂々と引揚げたのには寧ろ崇高の念を生じて、私は味方が勝ったのに拘らず悲壯の涙が思はず兩頰に傳はるのであった。

夫から悲壯な仕合を見たのがモ一つある。夫は彼の東京に大震火災の起った當日のこと、恰度慶應の選手が來征して實業團と戈を交へて居たときのことで、インニングが四回か五回かまで進んで兩軍極度に緊張して居る時、突如として數萬枚の滿日號外が見物席にも選手席にも配布せられて大變災が報道せられたので、觀衆一同も俄然色を失ったが、慶應選手は皆冷水三斗位の感では無かったらしかった、それにも拘らず彼等は仕合を續行して結果は慘々の敗戰となった。彼等は多分心は鄕里の空に飛んで居るであらう、彼等の頭は昏迷して居るであらう、彼等の眼には阿鼻叫喚の現狀が髣髴してボールもベースも見えないであらうと思ひつゝ、私は坐ろに征子の痛々しい心根を汲みつゝ泣きながら其試合を見た。

賀正
大連市山縣通
三井物産株式會社大連支店
電話代表七一〇一番
南満洲電氣株式會社
本店　大連市常盤橋中央ビルヂング
支店　奉天支店、長春支店、安東支店、鞍山支店
出張所　連山關出張所、海城出張所
大連市山縣通
三菱商事株式會社大連支店
電話代表八一五一番
南満洲瓦斯株式會社
本社　大連市西通一一七番地
電話代表八一八一番
支店　鞍山支店、奉天支店、安東支店、長春支店
和洋酒、煙草、食料品
大連市大山通
宅の店
和洋菓子、東京風菓子謹製
電話代表五一九九番
先驅＝滿蒙開發の
楔子＝東洋貿易の
國際運輸株式會社

# 馬を詠んだ萬葉集の歌

橋本八五郎

## 新年の馬

萬葉集は世間で知られてゐるやうに、一見複雜な編纂物で、近代的の著書の如くに、よく整理されてゐない。從つて、馬を詠んだものにしろ、新年の部があつて、そこに出てゐる譯ではない。本集の最後の卷、即ち卷第二十の歌の、順番にしても終りに近い、四四九四に發見せられるのである。即ち大伴家持の作で、

水鳥の鴨の羽の色の青馬を今日見る人はかぎりなしと云ふ

とあるのがそれで、左註を見ると天平寶字二年の正月に、七日の賜宴を豫想して、豫じめ作つて置いたのであつたが、六日に、仁王會の御會があり、此の歌は奏せずに終つた由が記されてゐる。

## 春の駒

駒はこうまのうが無くなつたので、馬の子の意である。春の駒はかはいらしく、勢よく、人の心をも引立たせるものであるが、萬葉の作者達は、多くは之を戀を歌ふ場合の材料とした。卷第十四の東歌三五三二に、

春の野に草食む駒の口息まず吾を偲ぶらむ家の兒ろはも

駒の若草を貪り食ふ時の、小息みもなく、繁きやうに、家の兒は即ち吾が妻は、吾を戀しのんでゐるであらうか、と云つて、實は自分も家の兒を偲んでゐるのである。頻りに人を思ふことを、駒が草食むに譬へたところ、譬喩が奇拔で具體的で、感じが何といふ新鮮なことか。若しこゝで、妻を云ふ時に「若草の妻」といふことを、まだ幼く、みづ〳〵しい駒の姿を、聯想するならば、一首の味はひが更に深いものがあらう。

## 夏の馬

夏の馬を詠んだと明らかに知れるのは見當らぬ。こゝには、水に關係した馬を、假りに夏のものとして置く。

馬並めてみ芳野川を見まく欲りうち越え來てぞ瀧に遊びつる

武庫河の水脈を早けみ赤駒の足掻くたぎちに沾れにけるかも

共に卷第七にあり、前のは一一〇四、之は吉野の宮瀧の地であらう。後のは一一四一武庫河は兵庫縣武庫郡の河である。武庫の水門は、古來の要津であつた。卷第十二の三〇九七も、水のついでに夏としようか。

さ檜の隈檜の隈川に馬駐め馬に水飲へ吾外に見む

女から、男に寄せた歌である。隈は、檜の繁つた地區といふ意味から來た名であらうが、川は大和高市郡坂合村の小流れである。檜前の地名は、今もある。

卷第七の一二九一は施頭歌である。之れは水を詠んでゐないが、草苅の歌である。草苅も、夏の歌として、大した差支もあるまい。

この岡に草苅る小子然な苅りそね、在りつゝも君が來まさむ、御馬草にせむ。

## 秋の馬

卷第十の二一〇三及二二〇一の

秋風は涼しくなりぬ馬並めていざ野に行かな萩の花見に

妹許と馬に鞍置き射駒山うち越え來れば紅葉ちりつゝ

作者は共に不明だが、秋の歌であることは、斷るまでもない。前の野といふのは、どこか分らぬ。射駒山は、大和の生駒郡にあつて、河內との國境。郡の南方龍田山と共に、この頃から紅葉の名所であつた。

## 冬の馬

卷第三の二六二は、柿本人麻呂の作である。

矢釣山木立も見えず落り亂る雪に驟うつ朝樂しも。

男性的な、爽快な歌である。流石は人麻呂だといふところ。矢釣は大和高市郡飛鳥村八釣の地である「新河郡延槻河を渡る時作れる歌一首」といふのが、卷十七の四〇二四にある。作者は越中守家持で

立山の雪し來らしも延槻の河の渡瀬鐙浸かすも。

早月川は今中新川郡にあつて、早月川といふ「雪し來らしも」を「雪解くらしも」と讀む人もある。本文からはさうは讀めぬが、意味はさう解していゝ。この歌も面白い。人麻呂、家持の二大作家が、冬の馬の歌で、思はぬ腕比べをしてゐる。

## 驛使

大化二年春正月、初めて驛馬、傳馬の制度が設定せられ、大寶令養老令に至つて、愈々完備せる組織となつた。諸道卅里毎に驛を置き、驛長以下夫々の役員あり、馬は交通頻繁の程度に應じ、一驛毎に大路廿疋、中路十疋、小路五疋など、夫々の規則があつた。この驛馬に乗り、甲乙驛間を往復する役人を驛使と云つた。緊急公文書の傳達と、官用旅行と、二種の任務を持つてゐた。驛使は馬を驛るから、萬葉集では驛使と讀ませてゐる。卷四には、大宰大監大伴宿禰百代が驛使に贈れる歌二首あり、その他諸所に、この驛使に贈る歌がある。當時遠國に駐在した官人に取つては、この驛使を見ること、今の我々が飛行機を見る以上の、感激や期待があつたらう。驛使は鈴を持つた。大化の制度以下唐制を模倣したが、驛鈴だけは、日本の獨創であらう、唐制には其の文字を見ないと云ふことになつてゐる。何の爲めの鈴か。其の音によつて、官便の來たことを次驛の役人に傳へ、人馬の用意をさせて、出發を速かならしめた爲めである。氣早な日本人の案出しさうな事で、唐制に無かつたといふのが、本當かも知れない。

さて驛を詠み込んだ歌は卷第十四の三四三九に、

鈴が音の早馬驛の堤井の水を賜へな妹が直手よ。

驛の堤井には、眞清水がある。その水を、妹の手から、直に貰ひたいものだといつてゐる。驛をいふ爲めに早馬といひ、早馬をいふ爲めに、鈴が音を出してゐるのだが、この美しい歌によつて、驛使の鈴の音を聞くことが出來る。

## 戀の馬

この頃の馬は、陸上交通の唯一の機關で、其の利用は案外に盛んだつた。天平二年には擢駿馬使といふ、臨時の官職も出來た。只政府に於てだけでなく、民間でも同樣にその飼養が行はれた。戀の歌に馬を詠んだのが相當多數ある。而して、それらは多く、官職なき無名の民衆である。卷三の三六五

鹽津山うち越え行けば我が乗れる馬ぞつまづく家戀ふらしも。

之は笠の金村が、近江伊香郡鹽津の山で詠んだもの、金村はこれから敦賀へ出たであらう。卷七の一一九一

妹が門出入の河の瀬を早み吾が馬つまづく家思ふらしも。

同、一一九二

白妙ににほふ信土の山川に吾が馬つまづく家思ふらしも。

男が旅先で家を思ふ歌だが、思ふ心が痛切でない。中には次のやうなのもあるけれど。卷十一の二四二五

山科の木幡の山を馬はあれど歩ゆ吾が來し汝を念ひかね。

馬はあるが、人目にふれてはうるさいから、わざ〳〵歩いて來たんだがと云ふところ。また、同、二五一一。

赤駒の足掻速やけば雲居にも隱り往かむぞ袖卷け吾妹。

自分のこの赤駒は、足が速いぞ、まさかの時は、一鞭當てれば、雲居にでも飛びかくれ得ることはない、吾妹よ、といふので、このあたりになれば、女も稍心を動かさうが、卷十二の三五四〇

左和多里の手兒にい行き逢ひ赤駒が足掻を速み言問はず來ぬ。

同、三五四二、

細石に駒を馳させて心痛み吾が思ふ妹が家の邊かも。

かうなつて來ると、折角動きかけた心も、どうも滿足しがたい「言問はず來ぬ」など云はれては恨みが湧く「妹が家の邊かも」などもまのぬけた話ではないか。男の歌に比べると、女の方にも熱烈な純情が溢れてゐる。卷十一の二四二二、

くる路は石踏む山の無くもがも吾が待つ君が馬躓くに。

卷二十の四四一七、

赤駒を山野に放し捕りかにて多摩の横山歩ゆか遣らむ。

などは、優しい心遣ひが出てゐるに過ぎないが、卷十一の二四二五

味酒の三諸の山に立つ月の見が欲し君が馬の音ぞ爲る。

同、二六五三、及び二六五四

馬の音のとどともすれば松蔭に出でてぞ見つる蓋し君かと。

君に戀ひ寢ねぬ朝明けに誰が乗れる馬の足音ぞ吾に聞かする。

などはどうだらう。馬の足音は、乙女の耳に何と響いたか、とどともするのは、果して、馬の音に過ぎなかつたか。それは、乙女の胸の高鳴りでは無かつたのか。

馬の歌は、只これだけに止まらぬ。また短歌だけでなく、長歌もある。それらすべてを擧げることは、一の研究としてなら兎も角、一般に興味も少いので今迄長歌は擧げなかつたが、最後に一つだけ書いて見る。矢張り女性の歌である卷十三の三三一四に、

つぎねふ、山城道を、他夫の、馬より行くに、己夫し、歩より行けば、其思ふに、心し痛し。たらちねの、母が形見と、吾が持たるまそみ鏡に、蜻蛉領巾、負ひ竝め持ちて、馬かへ吾背。

大意をいふことは、讀者に對して蛇足だらうが、小生自身、言つて見たくなる。山城街道を人々が行く、隣近所の人は、皆夫々自慢の馬を驅つて勇んでゐるのに、氣の毒なは、自分の夫で、徒歩で行かねばならぬといふ。それを思ふと、あゝわが胸は痛い。私が母の形見に貰つた鏡と、一寸珍しい巾とを持つてゐる。之をあなたに差上げませうよ。早く背負つて行つて金に代へ、それで馬を買つていらつしやい。といふのである。山内一豐の妻は、奈良朝時代、既に無名の女性の中にもあつた。ところで、この長歌に對しての反歌が、これに答へる男の歌になつてゐる。長歌に對する反歌は、長歌の意を縮約して再說するか、若しくは、長歌に言ひもらした點を補ふことであるのに、こゝでは、長歌に答へたらしいものになつてゐるのが、本集に於ける例外を成してゐるやうである。倚よく調べなければ分らぬが、唯一の例外だとしていゝのかも知れぬ。その歌は三三一七で、

馬買はゞ妹歩行ならむよしゑやし石は履むとも吾は二人行かむ。

といふのである。成程、馬を買へば自分だけは結構だが、お前をどうしよう、歩くより外あるまい、まゝよ、石ころ道でも構はんぢやないか、二人で一緒に出かけようや、と月も云はねばならなかつた夫婦の仲も、かうなればうまいもので、一年中、目出度々々々で治まるに相違ない。

# 特殊の植民地文藝

## 滿洲のローカル・カラー

無聽房主人

日本內地と異つた滿洲の特殊な情景を描寫するには、繪畫、彫塑などの外、等しくエステーテクの範疇に屬する美文の力に俟たなければならぬ。然るにそれが乏しい。ローカル・カラーと云ふことが美文の上に必要なものであるならば、滿洲にも日本人に依つて滿洲の特殊な情景を寫した美文が生れねばならない筈だが、多少はあるとしても、自分の見聞の狹いためか、不幸にしてまだ滿足なものに接した事がない。

和歌とか俳句とかには、數らか滿洲の特殊な情景を唄つたものがないでもないが、しかしそれも滿足なものであるとはいへない。彼の句佛上人が曾て滿洲に來られた時、滿洲では成るべく滿洲の特殊な情景を唄つた俳句を作り、努めて一種のローカル・カラーを發揮して貰ひたい、それはまた滿洲宣傳の一助ともなるであらう、と言はれそして自ら進んで種々の滿洲的な俳句を作つた。その俳句の多くは忘れてしまつたが、その內の一ッに「秋は高粱の畑車馬の行くうらゝ」と云ふのであつた。だがこの句には少し無理なところがある。その當時、滿洲の俳人仲間はそれに刺戟されて滿洲的な俳句を盛んに作つたものだが、何事にも熱し易く冷め易い三日坊主の日本人の癖として、何時とはなしに下火になつてしまつた。

また理窟を捏ねる事になるが、俳人高濱虛子はずつと前に朝鮮を一巡りして、歸後「朝鮮」といふ小說を書いた事があり、平壤の牡丹臺における御牧の茶屋はそれから出來たものだがこの小說も朝鮮の異つた特殊な情景を十分に描寫してゐない。夏目漱石は中村是公老が第二世滿鐵總裁で時めいてゐた折、總裁と學窓を同じうした關係などから、特に招聘されて、その當時滿洲を巡遊し、東京に戻つてから、「是公がく〳〵」を連發して、大阪朝日新聞か何かに滿洲を中心とした作品を例の艶麗な筆で書き飛ばしたが、これも至極喰ひ足らぬものであつた。河東碧梧桐は二度も三度も滿洲にやつて來たが、彼の俳句には、滿洲の特殊な情景を詠んだものは餘り多くないやうに思はれる。

田山花袋は二度ばかり滿洲に來て、滿洲的な美文を書いたが、自分の見るところでは、これも中途半端なものであつて滿足なものではないと言ひたい。昨年中プロ文藝作家が五六人も一塊りになつて來たので、何れ滿洲を題材にした面白いものが發表されるだらうと思つてゐたところ、滿洲の特殊な情實をしつくりと十分に描寫したものは無いやうで、この期待もどうやら裏切られるらしい。大體斯う云ふやうなわけで、滿洲的な特殊の美文、和歌、俳句、植民地文藝といつたやうなものは、今日の日本には非常に乏しい。

そこで考へねばならぬ事は、滿洲なら滿洲、朝鮮なら朝鮮、臺灣なら臺灣の日本內地と異つた特殊の情景を描寫するには、その地域に長く足を留めて、その趣味と情景を心ゆくばかり嚙み占めねばならぬと云ふ事である。この點から言つて、十年も二十年も斯うした地域にゐる者の間から、異彩を放つたローカル・カラーの濃い植民地文藝と云つたやうなものが生れねばならない道理だのに、それも一向に生れて來ないのは何ういふわけだらう。そいつを又一ツ考へて見る必要がある。

自分の觀るところでは、植民地方面の日本人の多くが事務的なことゝ金儲けに齷齪してゐる事、主觀性の勝つたものが多くて容觀性の裕かなものゝ尠い事、同化性に乏しいわが國民性による事、先づ大體斯んなものではあるまいかと思ふ。どんなものだらう。イヤそんな事はないと云ふならば、臺灣が日本の新領土となつてから既に三十餘年、朝鮮が日本に併合されてから二十二三年、關東州もそれらと兎角の年數を經たのに、そこに住つてゐる日本人から植民地のローカル・カラーを發揮した文藝的作品が出ないのは、どうしたものであるかと、少しく開きなほつて反問したいのである。

外國人の事など褒めたくはないが、異なつた民族が多く、氣候風土の變つた土地に入込むと、彼等は先づ他の言語を學び、他の風俗習慣を調べ、そして成るべくその土地に適應しやうと努める。彼等の適應性と客觀的な研究心は確に優れてゐる。この點においてドイツ人などは最も優秀な性格を備へてゐる。然るに我々日本人は不幸にしてこの適應性と研究心とが乏しく、妙な優越感に囚はれがちで、商業を營むにしても、日本人だけのグループをどう〳〵廻りして共喰ひ小競合ひにやきもきと憂身をやつし、進んで他の民族の間に商線を張らうとしない、言葉を學んでもちやんぽんの混兒で甚だ拙い。滿洲にゐる我々日本人も概して先づその通りだ。

と言つたやうなわけで、日本人の多くは斯うした性格の持主であるため、滿洲的な特殊の情景を美文の上にハッキリと描き出すことが出來ず、それに專念沒頭すると云ふことも出來ず、隨つて異彩を放つた植民地文藝が生れないのではあるまい乎。これはお互ひに餘程補ふべき事だと想ふ。しかし之からの若い人たちに依つて意義あり內容もある植民地的な特殊の文藝が生れるかも知れない。自分は是非さうあつて欲しいと衷心から念願する者である。

# 賀正

## 大連

大連火曜會々員（イロハ順）

石本鏆太郎　石田禮助　服部省三　原田光次郎　濱田周洞　西山勉　保々隆矣　堀三之助　堀諫　富次素平　大平駒槌　大藏公望　岡虎太郎　奥田千之　和田敬三　神成季吉　貝瀨謹吾　横田多喜助　田中千吉　田中喜介　田邊敏行　田村羊三　高柳保太郎　竹中政一　武安福男　高見三吉　高橋勇　谷口英次郎　土谷信民　中村謙介　村井啓太郎　村井啓次郎　村田懿麿　宇佐美寛爾　山口啓三　安田柾　山崎平吉　古澤丈作　藤根壽吉　藤田臣直　神鞭常孝　小日山直登　伍堂卓雄　寺田虎次郎　櫻井學　齋藤良衛　佐藤至誠　木部守一　北代眞幸

麥田平雄　辻五郎　志村德造　濱田友啓　高山勝司　寺田良之助　今井榮量　山葉龜五郎　松内龜太郎　小島定吉　恩田熊壽郎　高橋仁一　藤田秀助　小島鉦太郎　武田正吉　田中知平　前川郁夫　田邊三槌　今村貫一　有馬邊

若月太郎　大内成美　田中宇市郎　宮崎愿一　槐常藏　高崎弓彦　野津孝次郎　河島茂　西田英雄

醫學博士　金子甚藏

民政署高等官一同

大連工業株式會社　取締役　桝田憲道

大連市美濃町九十一番地　材木建築材料商　早野康治郎　電話長四二〇七番

大連會屯金融組合　理事　橘辰之助　事務所　大連民政署內　電話八一九一ノ三六

株式會社須賀商會大連支店　主任　小阪博通　大連市西公園町五五　電話長六七五九番

謹賀新年
經濟國難の折柄年末年始一切の虚禮を廢し紙上を以て御挨拶申上候
盲目の市會議員　鈴木丈太郎　大連市二葉町六〇　電話四六九二番

遞信局（いろは順）
中村富士太郎　中尾國次郎　大津義雄　日下部鉦次郎　三木卓　篠原忠男

大津瀧藏　泉文三　星武　寺尾莊吾　原田貞一

松浦壽吉

高岡又一郎

榊谷仙次郎

原半次郎

長谷川甚雄

大連市山縣通七十二番地　唐澤外科醫院　唐澤準吉　電話八二〇六番

大連華商公議會　正會長　張本政　副會長　劉仙洲　同　邵愼亭　電話八三五六　四四六八番

大連市山縣通り　順天公司　電話八〇三八番

大連市常盤橋　御菓子　みなと屋　電話六〇八五番

品質の正確と價格の低廉は弊店の誇り　大連市浪速町伊勢町角　三宅時計店　電話五四〇四番

各種蒸汽鑵放熱器、暖房衛生裝置、設計工事請負、建築材料、一般藥品醫療理科器械　直輸入貿易商　合資會社　島松商店　大連市監部通　電話六一〇四

ニチロパン　大連市浪速町　日露洋行　電話六六六〇番

大連市浪速町八　金物商　石田洋行　電話四八四五番

文房具、麻雀、新古書籍　大連市信濃町一四五　千山閣書房　電話四三六二番

ちよだ靴代理店　舶來雜貨直輸入　大連市大山通六四　永記洋行　電話二一二五三番

大連市信濃町一二九　吉野洋服店　電話四九四六番

### 大連生命保險同業組合

### 關東州辯護士

五十村貞俊　石山憲一　飯島滿次　井藤譽志雄　渡久山寬常　富永是保　値賀連　大内成美　小野實雄　岡野勇　河内山武雄　米岡規雄　立川雲平　高橋猪兎喜　玉置榮吉　竹田菅雄
高橋源市　中野琥逸　松谷竹三郎　古賀元吉　寺島由松　寺島顯三　相川米太郎　新野尾善九　有川藤吉　齋藤鷲太郎　木原鐵之助　湯淺唯二　澁田俊介　關根道一郎　五泉賢三　杉野耕三郎

### 綿糸布商聯合會

會員一同（いろは順）

大連市山縣通　株式會社日本綿花大連支店
大連市山縣通　東洋棉花株式會社大連支店
大連市監部通　株式會社大信洋行
大連市大山通　株式會社角田洋行
大連市山縣通　滿洲共益社
大連市山縣通　丸永商店大連出張所
大連市大山通　永順洋行

### 大連酒商組合（いろは順）

白鶴　發賣元　嘉納合名會社大連支店
澤龜　同　宅合名會社大連支店
白鹿　同　合資會社白鹿商店
大關　同　黒岩大連支店
富久娘　同　富久洋行
忠勇　同　增屋
櫻正宗　同　扶桑號高見商店
白菊盛　同　合資會社肥塚大連支店
菊正宗　同　合資會社鐵谷商店
富士東洋一　同　株式會社柴谷洋行
白雪　同　鈴鹿商店

大連市監部通五十二番地
株式會社 萩原商店大連出張所
電話三九九七番
受信略語（タイレンハギハラ）
發信略語（ハ）又は（ハギ）

# 賀正

## 旅順

敦賀町　塚澤齒科醫院　電話三四二番

文具運動具　中村町　旭洋行　電話六七九番

文房具、額椽、アルバム、寫眞　マルゼン商店　仲勘　乃木町三丁目　電話六〇九番

文房具、運動具、日用雜貨　華信洋行　新市街大迫町　電話三〇四番

製靴、楠木製トロンコ　澤豐太郎商店　乃木町　電話五二〇番

玩具一式小間物一式　永田商店　乃木町（迎橋東詰）

和洋雜貨小間物　友田商店　乃木町三丁目　電話四一六番

書畫骨董、貴金屬寶石類、毛皮家具類　後藤勇太郎　末廣町一二　電話四三九番

羽根ふとん、諸雜貨　山田商店　青葉町（文英堂前）

賜吊進物、各種記念品　大洋商會　乃木町　電話五六五番

貨物乘用自動車營業　儉與運送公司　タクシー　大津町七番地　電話六四七番

生花、履物一式　みやこ履物店　乃木町　電話六五九番　新市街松村町支店

最新流行履物一式　傘　ゴム靴　栗田商店　乃木町（派出所前）

電機販賣修理釣具　金澤屋　涌波初三郎　乃木町三ノ四七　電話五〇八番

電氣機械、器具修理販賣　津由電機商會　乃木町　電話四六四番

---

諸官衙御用達、電機器具金物　沖野商會　沖野兼行　敦賀町五〇　電話一七五番

三笠町一七　橋本寫眞館　橋本新平　電話一四三番

新市街松村町二一　成松寫眞館　電話二五九番

ヒグチスタヂオ　大連連鎖店街常盤町　電話假番七一六七番

寫眞機械材料販賣　樋口寫眞館　青葉町四二　電話四一七番

鮫島町一　玉井寫眞工藝所　玉井紫水　電話三九九番

迅速叮嚀　齋藤寫眞館　中村町八番地　電話六六三番

乃木町　愛光寫眞館　高見寬治　電話六六〇番

自轉車附屬品修理販賣　富永商店　乃木町　電話四〇一番

自轉車附屬品其他　田村商會支店　乃木町　電話五一〇番

新古自轉車販賣　修理諸種メッキ　佐野商會　乃木町三ノ八三　電話五九〇番

敦賀町三一　提洗濯所　提紋平　電話一九二番

ドライクリーニング　ヤマモトクリナー　旅順市鮫島町　電話四五〇番

鯖江町五四　大脇洗布所　電話五〇四番

各種銘茶、茶器類一式　丸山茶舖　乃木町二丁目　電話一六八番

各種銘茶、茶器類一式　廣瀨茶舖　廣瀨政太郎　乃木町二丁目一八　電話一八〇番

---

朝日町　柏木鐵工所　柏木常三郎　電話一八三番

西町三九　山下鐵工所　山下好太郎　電話五〇九番

野間式ストーブ製造元　野間鐵工所　野間憲一　乃木町　電話一九七番

酒問屋　西本商店　青葉町四五　電話一八五番

酒王富久娘販賣元　入江商會　鯖江町五十番地　電話一九〇番

撞球　大正俱樂部　敦賀町　電話架設中

銘酒菊正宗　櫻正宗　金水商會　乃木町　電話一〇六番

銘酒霞鶴醸造販賣　北川酒店　北川鶴之助　明治町五七ノ四　電話四七四番

清酒醤油　三浦商店　新市街松村町二二　電話六四九番

和洋雜貨　藤井洋品店　新市街松村町　電話五七一番

圓橋商會　西田泰助　乃木町二ノ一九　電話一四〇番

青葉町二　下村履物店　中西嘉七　電話三二五番

製靴革類　阪本洋行　敦賀町　電話二六二番

表具商　原榮年堂　敦賀町　電話五三三番

朝日町魚市場　井町商店　電話三三二番

---

寫眞器械、材料藥品、寫眞撮影　南滿公司　旅順寫眞館　乃木町三丁目交番横　電話四七二番　振替大連一八二九番

雜貨　西洪順　潘修海　新市場　電話二一八番

石炭　宏記呉服店　青葉町二五　電話三一八番

滿電驛前タクシー　電話五二三番

旅順敦賀町（婦人醫院前）　滿洲タクシー　電話二六二番

鮫島町　旅順タクシー　電話五六〇番

食料雜貨　山口屋　山口清輔　市場内　電話五四一番

青葉町　深川齒科醫院　電話四七六番

乃木町三丁目　近江屋呉服店　電話七九番

旅順質屋組合

サクラ印サイダー　シトロン製造所　旅順鑛泉社　那須梅吉　電話二一八番

諸官衙御用達食料品雜貨　齋藤商店　電話一七六番

乃木町三丁目　ゑびす屋呉服店　電話一三〇番

諸官衙御用達　忠海町二八　勝間商店　勝間東一　電話六一三番

陸海軍諸官衙御用達、諸機械、綿糸布、タオル其他　納入品一式　岳南公司　大川忠吾　乃木町三ノ六六　電話三八二番

---

金物、諸建築材料　柴山商會　敦賀町八　電話三〇九番

諸官衙御用達　敦賀町　久野商店　久野儀一　電話一四九番

海運業、苦力請負　高木商會　鮫島町海岸　電話五七二番

新市街中村町　日米商會蓄音器部　電話六六四番

製造　大津町一六　興石商店　興石久作　電話三六〇番

洋裝附屬品、袋物並ニ化粧品、各種理髪器具、内外各雜貨、樂器、樂譜並ニ附屬品一式　丸宮商店　樂器部　洋品部　乃木町三丁目三七番地　電話六六六番

按摩　白石久吉　名古屋町　電話五四三番

裝飾煉瓦及煉瓦土管製造　小林治作　桃園町八　電話五二五番

乃木町三ノ六二　旅順無盡株式會社　電話二五一番

西洋家具、室内裝飾品、漆器及黒板、諸雜貨商　諸官衙御用達　清水洋行　敦賀町五二　電話六七五番

和洋家具、書畫骨董　二宮商店　忠海町二四　電話四五三番

材木、建築材料　西野商行　乃木町　電話六八番

諸官衙御用　乃木町　山田活版所　山田杢次　電話五四番

諸官衙御用達、毛糸類小間物　乃木町　木本商店　木本鋸三郎　電話四七五番

土木建築請負業　高麗孝義　三笠町一五　電話三四一番

---

土木建築請負業　清住泰一　鯖江町一二　電話五三四番

土木建築請負　木下豐一　大津町三六ノ一　電話二二五番

土木建築業　乃木町三丁目　本田組　本田與市　電話四一一番

土木建築請負　廣垣治助　忠海町　電話三〇七番

土木建築請負業　森谷吉五郎　乃木町三ノ二八　電話四八三番

銘酒神代釀造元　土木建築請負　乃木町二丁目　神田酒店　神田小太郎　電話三三三番

土木建築請負業　川谷竹次郎　伊地知町三三　電話四七三番

土木建築請負業　久野順吉　鮫島町一ノ七　電話一五三番

土木建築請負業　前西熊市　大津町四一　電話三四三番

貴金屬　櫻井時計店　乃木町　電話一九五番

牛乳バタ、畜牛販賣　南滿畜產會社　大島町五　電話一四五番

乃木町　御旅館　寶來館　電話五六番

青葉町　御旅館　防長館　電話二八二番

青葉町　御旅館　旅順ホテル　電話三六七番

驛前　福壽館　電話四六〇番

名古屋町　旅順檢番　電七一番・五九番

乃木町　彌生　電三三七番

鮫島町　壽　電一六九番

青葉町　青葉　電二二一番

青葉町　君乃家　電四二六番

敦賀町　新花月　電二四二番

乃木町　瓢亭　電四九番

---

（いろは順）

乃木町　岩崎洋服店　電話三六四番

乃木町　井本洋服店　電話一五七番

乃木町　伊勢洋服店　電話五三〇番

新市街大迫町　高田洋服店　電話二三七番

乃木町　中山洋服店　電話二三九番

敦賀町　島村洋服店　電話一六九番

敦賀町共榮會（順はろい）

井上玩具店

カフエー松金　電話一三六番

玉屋モスリン店　電話九二番

熊井洋行

安永商店　電話六七番

ヤマ一履物店　電話一七番

小森運動具店　電話五〇二番

木村精肉店　電話五〇一番

久富商店　電話三〇五番　電話四二九番

旅順市名古屋町　仲野齒科醫院　電話一二九番

旅順市八島町　石炭商　滿昌洋行　貯炭場　電話一四六番　電話一四七番

旅順乃木町三丁目　滿洲寫眞帖出版元　記念品御商　東京堂　電話六一番　大連連鎖商店街　電話假七三二番

旅順市乃木町　醬油味噌釀造販賣　吉本商店　電話一三二番

旅順市乃木町　船舶雜貨　諸來商　滋賀洋行　電話三七六番　大連連鎖商店街　電話七一三五番

旅順市鮫島町　製靴業　矢原商會　矢原重吉　電話八一・四四六番

旅順市鮫島町　宅島商會　宅島猛雄　電話一〇三番

末廣町（稲荷し隣）　貨物運搬　引越荷物　遼東自動車運送店　電話四八二番

旅順市乃木町　機械金物　電氣器具　船具　喜野商會　本田治三郎　電話二七七番

旅順市八島町　竹森病院　院長竹森哲三郎　電話一四二番

旅順市金比羅町　トラスト製造元　タイハンストーブ販賣　石井榮一　電話三七番

旅順菓子信用組合

旅順新市街松村町二ノ三　オカノ齒科醫院　院長岡野忠藏　電話五一三番

旅順市富士町　滿洲蠶絲株式會社　電話五六七番

---

旅順市乃木町　和洋雜貨諸　ふたば屋　電話六一一番

旅順市名古屋町一九　土木建築請負業　石井組　石井本一　電話一一三番

旅順市乃木町　建築材金物船具　村上信二商會　電話一〇二番

旅順新市街旭川町一　鎌倉保育園旅順支部　佐竹昇　電話五五四番

旅順新市街中村町　旅順ヤマトホテル　支配人川原久一郎　電話二二六番

旅順市鮫島町海岸　關東州水產會旅順魚市場　電話六五番

旅順市乃木町二丁目三番地（電話二五三番）　陸海軍諸官衙御用達　大西商會　振替口座大連一五六三番

旅順市々場第二三號（電話六三一番）　和洋酒白米、各國名產、食料品雜貨　大西商會食糧部

旅大定期貨物自動車　引越荷造、重量物運搬　㊅大六運送　本店　旅順市乃木町三丁目　電話四六七番　支店　大連市惠比須町停留所前　電話七四六二番

旅順倉庫經營倉庫所在地朝日町壹丁目　石炭商　矢幡商會　旅順市八島町（電三一番）　出張所　滿鐵貯炭場構内　電話三〇六番

滿蒙漢溪湖煤石炭公司特約　千代田火災保險株式會社代理店　朝鮮火災海上保險株式會社代理店　日本麥酒鑛泉株式會社特約店　海軍御用達　一般食料品倉庫業

陸海軍御用達　食料品問屋　和洋酒、味淋、醬油、味噌、酢、罐詰、瓶詰、米麥、雜穀、海產物、漬物、乾物類、和洋食料品、生野菜類　㊅大島商會　旅順市乃木町三丁目四番地　電話一三八番

（いろは順）

鮫島町　稲富藥店　電話五八七番

乃木町　田中藥舖　電話三三六番

青葉町　萬代號藥房　電話四二八番

青葉町　宮竹藥店　電話一七〇番

旅順市朝日町　昭和園演藝部　電話一七五番

滿洲乃華　高粱しるこ　旅順白玉山麓　加藤東金堂　電話五三二番　出張所　大連聯合街三丁目　電話九八三六番

（いろは順）

青葉町　朝鮮銀行旅順支店　電話二三番

鯖江町　旅順金融組合　電話一六五番

三笠町　旅順輸入組合　電話一〇四番

鯖江町　金融俱樂部　電話一六五番

乃木町　正隆銀行旅順支店　電話（二一五・二一八）

---

旅順飮食店組合（いろは順）

伊勢屋　電話三三八番

出雲屋　敦賀町

とも江　乃木町

富乃家　電話二六一番

千代廼家　電話六四五番

千歳　俱樂部料理部　電話六二二番

岡女庵　電話五〇三番

大迫屋　電話二八三番

大阪屋　電話二七八番

カフエー吉野屋　電話四七八番

つぼみ　電話二八一番

奴壽し　電話七六番

ヤマト軒　電話四九三番

柳川　電話二六六番

カフエー松金　電話一三六番

富士屋　電話六四二番

福壽司　電話二六番

カフエーゴンドラ　乃木町

朝日屋　電話六五五番

金太屋　電話二七五番

カフエーキムラ　電話三〇五番

菊地　電話三七七番

カフエーキング　電話三八一番

琴月　電話四四三番

みはらし　電話三六四番

新更科　電話二五三番

日吉屋　電話四七九番

スヾラン　青葉町

すゞめ　電話三〇九番

旅順料理屋組合（いろは順）

西町　一力　電話一二〇番

同　蛤亭　電話二四七番

柳町　濱名館　電話六九番

西町　東洋軒　電話一〇八番

川端町　吉田屋　電話三一七番

同　旅島屋　電話一六三番

千年町　松葉　電話四三〇番

川端町　滿月樓　朝鮮料理

同　京城館　朝鮮料理

西町　榮福樓　電話三七〇番

同　吾妻樓　電話三八〇番

朝顔町　堺樓　朝鮮料理

西町　明月館　朝鮮料理

同　新萬歳　電話三一一番

川端町　笑福樓　電話二四三番

東町　春海館　朝鮮料理

川端町　昭和樓　朝鮮料理

青葉町街燈維持會（イロハ順）

池田洋行　電話七四番

御菓子司　泉屋

原田時計店　電話六六七番

新見時計店　電話四八〇番

德商店　電話一〇九番

岡女庵　電話五〇三番

大阪屋　旅書店　電話三五一番

吉野羅紗店　電話一八六番

谷疊店　電話五八四番

高治洋行　電話八七番

山口商店　電話一九四番

やまと軒　電話四九三番

中野日界堂

松崎紙店　電話一二八番

文英堂書店　電話二〇三番

瑞章堂印房　電話六三番

喫茶店スヾラン

新落語

# 無筆の女房

柳家小さん
清水對岳坊畫

この好みに依りまして無筆の女房といふお噺を申上げます、商賣となると何事に依らず難しいものですがとりわけて難しいのが人の機嫌を取つて世を渡る幇間でございます其昔藏前の十八大通りに出入をして居た白露といふ幇間がございました、狂歌などを能く致しまして中々洒落者、尤も昔の幇間などといふものは散々お金を使つて、使ひきつて了つた揚句に幇間になつた詰り成下り者が多かつたが當今の幇間と來ると、成上つて幇間になつたなどといふのがあるから困ります　白「オイ今歸つたよおたつや、今歸つたといふに　たつ「オヤお歸んなさい、能くお前さん家が分りましたね　白「何だつて、家が分つたつて自分の家を忘れる奴があるものか　たつ「家を忘れないで十日も二十日も能く歸つて來ないで居られたもんですね、偶には思ひ出しさうなもんですね　白「オイおたつ、俺はお前と夫婦になつてモウ三年になるが、斯ういふ稼業をして居るから、十日や二十日家を明けて歸つて來ない事も幾らもあつたけれども、之までお前が只の一度でも、變な事を云つたり變な顏をしたりした事がなかつたが今度ばかりはお前の御幣が餘ッ程曲つて居ると見えて何だか云ふ事が一々變で仕樣がない、何も歸つて來たら世辭を云つて呉れろと云ふのぢやない、けれども夫は普通にして呉れゝば宜い、大方何だらう、俺の留守に友達か何かゞ來て、お前の氣に入らないやうな事を云つたのだらう　たつ「そんな事を云ふ人は留守に一人も來やしません　白「夫なら何故そんな嫌な顏をして居る、心持でも惡かつたら醫者にでも掛つたら宜からう、　たつ「イエそんな事はどうでも宜ござんすが、實はお前さんの歸るのを待つて居ました、二十日もお前さん家を留守にして一體何處に行つてなすつた　白「二十日の間何處へ行つたと……フーン伊勢廣の旦那のお供で成田に行つたんだ、　たつ「そう〳〵伊勢廣の旦那が成田山參籠をしてお籠りでもしなすつたのかい　白「詰らない事を言つちやアいけない、そんな譯ぢやない　たつ「夫れぢや成田へばかり二十日行つて居なすつたのかい　白「成田ばかりぢやアない　たつ「夫から何處へ行きなすつた　白「困りましたなア、成田へ行て不動樣へ御參詣なすつて、夫れから此處まで來た序だから房州の方へ行つて見やうと旦那が仰しやるので夫から房州へ行きました　たつ「房州へ何しにお出でだ　白「房州の補陀の羅漢へ參詣をして、此處まで來たものだから、鋸山へ登らうと旦那が仰しやつて夫れから　白「夫から、木更津や何かに行つて、マア何に行つたんだ　たつ「何といふのは何ですえ　白「さう〳〵、潮來へ行つたんだ　たつ「潮來へ何しに行きました　白「其の潮來の眞菰の中なにかをザク〳〵歩いて居たんだ　たつ「馬鹿な眞似をしましたねえ、白「夫から諸方を見て伊勢廣の旦那と今日歸つて來たのさ　たつ「夫では今伊勢廣の旦那とお前は歸つて來たんだね　白「さう、今日旦那と一緒に歸つて來たんだ　たつ「夫が私には些とも分らない　白「何故、　たつ「伊勢廣の旦那が一昨日家へお出でなすつて白露は留守かと仰しやつて……旦那が入しつた事がないのに入つしやるのは變だと思ふと、白露は留守かと仰しやるから、ハイ、お客のお供をしてまだ歸りませんとまをし上げると、親類內の婚禮のことについて料理の事から手傳ひに來る藝者の事からスツカリ白露に吩咐て置いたのに彼奴何處をまごついて居るんだらう、俺が來て怒つて行つたとさう云つて呉れと云はれたのに、變なこともあるものよねえ　白「夫がお前は女だから分らないんだ　たつ「何故　白「伊勢廣の旦那のお供をして行つたとお言ひなすつたぢやアないか　白「夫がソノ伊勢廣の內儀さんの妹の御亭主の從弟に當る方の其の御親類の旦那さんと行つたんだよ　たつ「大變に込いつた御親類の旦那ですねえ、お前は女房に對して物を隱して居るぢやアありませんか　白「冗談云つちやアいけない、お前と夫婦になつてから三年になるが、此の間お前に物を隱した事はありません　たつ「隱した事はないとお言ひだが、伊勢廣の旦那のお供をして成田から潮來へなんぞへ行つて、眞菰の中をザク〳〵歩いて居たなんて出鱈目な事を云つてお出でだが、新平さんに聞いたら此の二十日ばかりといふものはお客も何にもなく、品川の女郎屋に居續けをして其の上にお前其の女郎衆と夫婦約束をしたといふぢやアないか、さうすれば幇間風情で二人の內儀さんは持てまいから、お前さんの大變惚た女が家へ來た日には、妾あ邪魔にされて追ひ出されるに極つてる妾はお前と斯うやつて三年も夫婦になつて居るから飽きらめられても仕方がないが、妾は明日から早速困つて了ふ暇を出されるのを待つて居るのも餘り辛ふございますから、妾は一生奉公をしますお針奉公でも何でもして一生獨りで居ますから白露さん妾に離緣狀を書いて下さいな　白「馬鹿なことを云つて乃公は何もそんな……　たつ「イ、エ書いて下さい、お前さんも男だ女房が離緣狀を下さいと云つて謝まることはありますまい、どうぞ離緣狀を一本下さいよ　白「だつてどうも……　たつ「どうも斯うもないから書いて下さいよ、そんな不實な人と一緒に居て品川の女郎衆を連れて來て見せびらかされるのは嫌ですから、足許の明るい內に早くお暇を貰ひ度いんですよ　白「さうかそんなに云ふなら仕方がない暇をやらう、今離緣狀を書いてやるから待つてろ」流石の白露先生も餘ッ程癇癪にさはつたと見えて眉の間へ八の字を寄せながら、硯を引寄せて、何かサラ〳〵と書いて、夫をクル〳〵と卷き「サア持つてけ」と內儀さんに叩き附けました、內儀さんは夫を攫ると、表に出ましたが、恥も外聞もない、オイ〳〵泣きながら媒介人の處へ飛込んで來ました　○「誰だい泣きながら入つて來たのは、何だおたつさんぢやアないか大きななりをして外見ないよ、マア〳〵此方へお入り、人立がするぢやアないか……ナニ、夫婦喧嘩をして離緣狀を渡されたフム、フン、フン宜し〳〵、マア其話は緩り聞かう、さうオイ〳〵泣いてちやア事が分らない、十七や十八の新造ぢやアあるまいし、三十にもなりやアモウ立派な年增だ、泣いちやア隣近所に外見ないから、マア上つて湯でもお上りウン〳〵成程餘り不實だから離緣狀を取つて來たといふのか、ヘヽア、だが白露といふ男はさう理窟の分らん男ぢやない、狂歌もやるし、藏前十八大通りの人方に出入りをする理窟の分つた幇間だから媒酌人に相談もなく、離緣狀を出すと云ふのは餘々分らない話だ、ドレ〳〵其の離緣狀をお見せ……何だか可笑いね此の離緣狀は、話に聞けば離緣狀は三行半といふのが御定法だと聞いて居るが、此の離緣狀は七行半もあるがマアお待ち……蟬が鳴く〳〵エー離緣狀に蟬が鳴く〳〵といふのは可笑しい……蟬が鳴く〳〵大巨寺の森で、蟬ぢやござらんをとせでござる、紺の前垂松葉を染めて、ねんねまつにこんとは氣に掛る、ねんねおころりよ、之は田舍の子守唄ぢやアないか、媒酌人は理窟の分つた男と見え、其夜は內儀さんを泊めて其翌日白露先生に掛合つて見ると固より分れる氣はなくつて書いた離緣狀でございますから、直に元の鞘にシックリ納まりました媒酌人も之でお目出度いで笑つたゞけで濟み、又白露先生は却つて此の滑稽がお客に對して材料になりました、客のお座敷へ行くと、白「私の處の嬶が斯ういふ嫉妬をやいて離緣狀を書いて呉れといふから一時已むを得ん所から離緣狀と思つて蟬がなく〳〵大巨寺の森にといふのを書いてやりました」といふのでお客も大層可笑しがる所から誠に好い材料になり白露先生も笑つて濟み、媒酌人も笑つて濟ましたが獨り三人の中で非常に感じましたのは白露先生の內儀さん、亭主は兎に角、媒酌人にまで恥を搔かしたといふのは詰り自分が字が讀めないからだ、字の讀めない程辛いものはないと感じました、白痴の一心で白露先生のお內儀さん、亭主が留守になりますと近所の女の子を皆な集めて此方の女の子にお手玉を拵へてやり、此方の女の子には、姉樣を拵へてやるとか、人形の着物を縫つてやるとかして、手馴づけました。其子供が段々馴染で來るのをつかまへて　たつ「お前、いろはを書いて御覽、伯母さんの前で書いで御覽」と云つて、此方の子供にいの字を敎はり、彼方の子供に、ろの字を敎はり致しましたが、一心といふものは、恐ろしいもので、半年ばかりで、いろはにほへとからゑひもせすまで、彼のいろはの文字をスツカリ書く事と讀む事が出來るやうになりました曲りなりにもいろはを六箇月で卒業しました、お師匠さんといふのは近所の子供です、白露先生そんな事は知らないから江の島から鎌倉を見物して箱根の湯治場に參りまして十四五日掛る處を彼是二十日たつて歸る事になつたが半年ばかり前に女房に愚痴を云はれた事がありますから今度もどうかと白露先生案じながら歸つて參りますと、此の前とは違つてチヤホヤと大變御機嫌が宜い　白「どうも今度は江の島鎌倉の方を廻つて五日か六日でお歸りになると云ふとお客樣の御新造もお出でになり嬢樣方も御一緒で白露も一緒に箱根七湯を廻つて來やうといふので遲くなつて五日か六日で歸る處が三十日足らずになつて歸つて來たんだが、乃公も外に案じはないが、ツイ置いたお金が少かつたから乃公の留守に若しお前が困りやアしないかと夫ればかりを心配して居た　たつ「ナニ少い處ぢやアありません、女獨りで居るから成るだけ遣はないやうにして世間の口といふものは煩いもんだから、亭主の留守に內儀さんが湯に毎日入つたなんて言はれるからお湯も一日置きにして、お菜だつてお午飯のを殘して晩に食べるやうにして又亭主の留守に小遣ひの使ひ道が分らんやうではいけませんから妾はチヤンと小遣ひ帳を附けて置きました」と聞ていろはの字も讀めない內儀さんに小遣ひ帳を附けて置きましたよと云はれましたから白露先生吃驚しました、白「其奴は困つたな　たつ「何故、白「こんな色氣を賣る稼業をして居る者が、四文八文の小遣ひを他人頼みでは恐れ入るね　たつ「馬鹿々々しい、誰が人に書いて貰うものかね自分で書いたのさ　白「お前が書いたのか、一人で　たつ「そんなに珍しがらないでも妾だつて小遣ひ帳位は記けますさアね」と恥かしさうに出しました小遣ひ帳を白露先生取上げて見ると驚いた　白「上書もお前か餘つ程巧く出來て居るな弘法大師も斯うは出來ない、こづかひちやうと書いてある、こづかひちやうは宜かつたな、ドレ〳〵エーと乃公の立つたのは何時だつたか、二十五日か、成程な廿五日か「にしうこにち」と日附まで假名で書いたな……何を買つた、待て〳〵一ツ四文が「あふらけ」何だい之は、あふらけといふのは、　たつ「夫アお前さん油揚さアね　白「ヘ、ア假名に濁りがないから「あふらけ」か、濁りを習はなかつたと見えるな、夫から八文が「ゆせん」「ちうにもんといふのは十二文だな」「たいこ」……之ア大變に安い太皷だが、手遊びか　たつ「太皷なんぞを買やアしませんよ　白「だつて此處にたいこと書いてあるぜ　たつ「夫はお前さん大根でさアね　白「ア、成程大根か、後が四文「こめのかけ」といふなア何だ　たつ「夫は御免の勸化ですよ　白「御免の勸化か、一々解釋が附かなければ分らない、……サア分らんぞ「ちうにもんあり」何だい、此の十二文ありと書いてあるのは　たつ「そんな事は書いてありませんよ　白「だつて十二文ありと書いてあるぢやアないか　たつ「お前さん男の癖に其字が讀めなくちやア外見ないぢやアありませんか　白「讀めてゐるよ、ありと書いてあるんぢやアないか　たつ「それアありと言ふ字ぢやアありません、蠟燭といふ字ですよ」段々能く考へて見ますと蠟燭屋の看板に蠟燭の繪が書いて、其の下にありと書いてあります。夫を見た白露の內儀さんが蠟燭といふ字だと覺えて居ましたから大變な間違ひが出來ました。無筆の女房といふお笑ひでございます。（完）

# 賀正

## 大連

大連市山縣通八十八番地 株式會社 南昌洋行大連支店 電話(長)三七四四番 四九〇八番 電略 受(タイレン、タナセ) 發(ナセ)又ハ(ナ)

家具裝飾品商 大連市愛宕町 成三商行 電話(長)四二七五 工場六四六七番

藥品貿易商 大連市山縣通 株式會社 乾卯大連支店 電話 五六九〇 三〇一七番

貿易錢鈔輸出入商 大連市大山通り五十八番地 永順洋行 電話 四三三九番 五四八六番 七六六五番

建築材料 石炭販賣 大連市近江町二番地 德和公司 電話六一八一番

大連木材組合一同

大連市八幡町二番地 株式會社 大連車夫合宿所 電話六〇二〇番

大連市磐城町八九(西通り筋) 博多屋本店 電話四四五三番

純植物性テイワイ脂(特製硬化大豆油) 西洋料理、西洋菓子、天麩羅用 大連市香取町二七 大連油脂工業株式會社 電話六一七一番

大連市浪速町伊勢町角 鈴木呉服店 電話代表五二九八番 振替大連四八番

滿洲特產物輸出貿易商 大連市山縣通一〇一番地 (サ) 瓜谷長造商店 電話 [illegible] 電略號(ウ)又ハ(ウリ)

---

牛乳バター、クリーム販賣 大連市櫻町七十八番地 滿洲牧場 電話 六一三四番 三五四五番 七〇二七番

大連市伊勢町四八 合名會社 高橋商店 電話四七〇七・三八三九番

大連市敷島町四十九番地 大連株式商品取引所 商品取引人組合 商品現物取引組合

竹山商會 各種煖房工事設計 竹山式放熱器 附屬品製作 竹山吉治 大連市山手町四番地 電話(長)六五五三番

大連市監部通 船具、鐵物 諸機械 油 塗料 岸洋行 電話四三七六・六四二〇番

森永製菓會社 明治製菓會社 特約店 製菓卸問屋 濃減製花 アラレ類 掛物類 煎豆ピーナ 其他各種 木村屋分店 大連市若狹町五丁目一九九 電話六八六八番 振替大連一三〇八番

大連市信濃町市場組合 電話四七六三番

大連醫師會

大連旅館組合 大連市信濃町(遼東ホテル内) 電話(代表番號)四一三一番

小崗子露天市場事務所 電話三七二四番

小崗子料理店組合一同 電話四三三六番

---

戸畑鑄物株式會社 東京電機株式會社 安來製鋼所 製品販賣 戸畑鑄物株式會社大連出張所 大連三河町一七 電話六四三八番 電略受信(タイレントバタエイ) 發信(タト)又ハ(タ) 本社 東京市麴町區八重洲町一丁目一番地

大連市濱町 滿洲船渠株式會社 電話(代表)七一九五番
同 大連工場 大連市濱町三番地 電話(代表)七一九五番
同 埠頭出張所員詰所 大連市棧橋甲埠頭 (電話六三〇三番)
同 旅順工場 旅順市東郷町 電四番・一八〇番・一八二番

大連市信濃町日本橋際 吾妻旅館 電話四六四六番
富士屋旅館 電話五二八六番

日本賣藥株式會社 大連支店 營業所 大連市浪速町三丁目 電話(長)六一三〇番 (代表)六一三九番 八五六六番

大連トキワ橋中央ビル 中央食堂 電話八四八三番

大連市浪速町二丁目 奥田時計店 電話六七三一番
同 支店 大連市浪速町三丁目 電話三八九七番

大連質屋業組合 電話六〇二四番

大連市浪速町三丁目 花乃屋本店 電話四九五九・七二〇七番

大連市信濃町 遼東ホテル 電話(長)四四一七三一番

大連市信濃町市場 は 羽月商店 電話七二九六・四五四三番 本店 西通一〇四番地

看板製作各種圖案額椽塗裝 藝術看版工業部 今村麻馬 大連市若狹町百八十八 電話八二一〇番

---

大連食料品商組合員 大谷支店 三星洋行 京和洋行 爾宜田商店 中村商店

大連市浪速町伊勢町角 大塚製靴鞄店 電話三九三三番

營業要目 一 內外諸機械、煖房裝置、各種放熱器 一 病院用蒸汽裝置、蒸汽消毒裝置 一 蒸汽炊事裝置、衛生的裝置 輸入、製造販賣 設計並工事請負 大連市西公園町百七十九番地 株式會社 齋藤製作所 大連出張所 電話(長)三〇二四番

大連市吉野町六七番地 株式會社 大連株式信託會社 株式會社 第二大連株式信託會社 電話八〇八五番

ビクター蓄音器滿洲總代理店 大連市信濃町 山葉洋行 電話代表四一四八番

御料理 大連市西檢番 香壽美 電話六〇三六番

大連西檢番組合員一同

滿洲煖房衛生同業組合 (イロハ順)

奉天 今井商會
大連 橋本商會
大連 大倉商事株式會社大連出張所
奉天 河村工務所
大連 勝本機械事務所
大連 田中勝商會
大連 竹山商會
奉天 近藤商會
大連 齋藤製作所
大連 島松商店
大連 小阪商會
大連 中平事務所
安東縣 須島田治商會

大連石炭商組合
石炭
滿鐵特約販賣人

佐藤組 電話四八七八・六八〇七番
織昌厚 電話四六七三・五六七八番
東來洋行 電話九五〇六・九〇六六・八四八四番
共同組 電話四三〇九・四七〇二番
鶴田號 電話六〇〇〇・五九〇〇番
大宮組 電話五六六一・四六六〇番
宮崎商會 電話五三一九・五二一五番
東華公司 電話五六四五・九五四七・三〇七四番

---

大連米穀同業組合員 (イロハ順)

同生厚精米所 中興精米所 遼東精米所 大矢組株式會社 大島屋商店 渡邊商店 河又出張所 大連精糧株式會社 泰東精米所 田中商店 泰宏洋行 辻山精米所直賣所 名藤商店 中矢商店 村上商店 桑野商店

山喜商店 慶和德 福永洋行 福順恒精米製造廠 甲信洋行 永順義 越後屋商店 協盛泰精米所 共進洋行 城川洋行 志摩洋行 順記精米所 城島商店 泉陽精米所 盛進商行

大連市三業組合員表 (イロハ順)

料理店
濱錦布鳥千吉淡鶴湖天澤西喜吟菊君新扇
之 之園 松 之喜芳
家袋彦草兼月家月金井亭扇亭水家樂家亭

貸席
岩花初花ゝ千千扇か芳月津福江愛蝶照喜銀美新
ん代な之保戸之奴登菊
戸丸音菱ぼ歳本家め家家美家家廣々家多月里水

新新新新芝瓢壽松
二小 美
葉瓢松富濱田禮家

置屋
井筒家 いわさき席
林富常小近吉淡玉高鷹浪八山松藤琴哲天相笹櫻北北清北紀末
盤川江田月之砂之速千久ロ坂村平之狗生邊川村林之一國廣
家席家席家席家席家家席席席家席家席家席席席席席家席家席

大連市三業組合事務所 電話四五〇六番
大連檢番 電話五二一九番 專用電話五一一六番 七二一六番
大連女紅場 電話三六九三番

# 逢阪町遊廓組合員一同

滿洲日報
元旦號 其の四

# 馬匹改良の話
## —特に滿蒙に關して—
渡邊關東軍獸醫部長談

[illegible]、南船北馬で塞外の地たるこの滿蒙は馬の本場である、本年は馬の當り歳でもあるし滿蒙には瑞氣が天空馬の様に横溢するであらう。何れにせよ

**支那に於**ける馬の資源地なる事は謂はずもがなである。然し久、幾千年蒙古民族は其馬族を以て曠野に於ける唯一の資產とし武器とし交通機關とし今も變らず伴侶として居る、實に其昔成吉思汗が歐亞萬里東洋の氣焔を歐士に聞かせて興れたも時の蒙古馬なりしなり。而して當時の馬を其想像畫等から現代のものと比較すると餘り隔たりがない様である。然らば繁殖は如何であつたか人も同様であるかも知れんが醫療の進歩せぬ爲不健康なものは夭死し强壯で良好なるものは腕づくでも早く優良な配偶を得子孫を貽す機會が多かつたに相違ない、即ち自然我支那馬には子孫の

**優化が行**はれて來た譯である。紀元前五百年の昔プラトーンの理想實現である。放牧して居る原野にあり何等保護なきを以て嚴寒と飢餓とは時に馬群の三〇%も斃す事がある、即ち生產に對し減耗も尠からず爲めに當年生存率は僅かに七—一〇%に過ぎないと謂はれて居る。此の自然淘汰で篩ひ殘された幼駒の内で人間と異る點は壯馬中優逸なるもの四—五%を除く外は全部優生學的に去勢せらるゝことである（人種の改良も永遠に繼和厚生を計るなれば優生學的だけでは淘汰は勿論其實を揚げる事は出來ない、一つ馬の様に胎に「エックス」光線でも作用させたら如何）此の如く

**自然淘汰**の上に一部人爲的淘汰も加はりて今日に及んだものである。他國の馬種の様に形而上の改良は爲さなかつたが唯强壯其ものゝ遺傳は今日迄連綿とし繼承せられ序に耐久抵抗免役力等も併せ享受せられたのである。斯くて原產地にては「卷き馬」式に自由交尾を以て繁殖せらるゝを以て勢ひ範圍が狹くなり近親繁殖となり不良因子も遺傳せられたは當然の趨勢である。隨ふて現時支那馬と謂へば直にも體軀矮小、頭は擧らず頸は短く胴で斜尻一見顧るに堪へざるものと聯想するに至つたのである。だが、一度上海の中央なり江灣なりの

**競馬場を**覗ふた人はあれが支那馬かと眼を欹だつ程輕快な可愛い「ポニー」が一般の支那馬と區別せられ取扱はれ居るを見るだらう、序に「コサック」乘馬學校で同様の馬が如何に優秀な障碍飛越能力の所有者であるかに驚嘆するであらう。實は之等は露國が當年シベリヤ征服に當り驅使した

乘用を造り上げる事が出來ないで[illegible]つて丁度今、露支紛爭を重ねて居る地方ハイラルから紮貝子旅にケレルン河畔に在來種を探し當て本國の「オローフ」系や「サラ」系を交叉して特有なる蒙古馬の改良種を創成した其系統のものが上海に進出したに過ぎないのである現に東支の獸醫課長チイベノフ氏によれば東支沿線及び黑河地方には此等の優良馬が幼駒を加へ六五五頭もある

**北滿から**出て來る競走馬、軍馬、挽馬、農耕馬等の良駿と認めらるゝものは孰れ此の血の洗禮を受けた者と見做す事が出來る。而して該地方から南滿に輸移出するものは年々鐵道で五、〇〇〇—八〇〇〇頭に及び陸路南方に牽出するもの、ソベツト聯邦に密輸出するもの等を綜合したら隨分の數である（シュミット氏は八萬頭と推算して居る）一九一八年白露系露人北滿に其難を避けるに當り歐露の種牡馬陸續として南下し茲に期せずして改善を促進した。斯の如くして北滿馬匹改良の基礎は露國に負ふ處大である。南滿に於ては在來馬が產業の發展に隨伴し得ず殊に有畜農業交通及運輸等の向上に從ひ益々其

**資質改良**を促す事切なり關東廳と滿鐵で協同し夫々支那馬に適應する種牡馬を日本及遠く外國に求めて改良を實施して以來彼是四、五年に及び既に夫々成績を擧げつゝあるは今更に說明する迄もないのである。前年十一月に金州普蘭店で軍馬として購買した所謂改良支那馬が如何に優良であつたかは當時の新聞紙が傳へて居る通りである 近き將來此の所謂親善の結晶とも稱すべき[illegible]が大連や旅順に陸續と[illegible]を利かす事になるだらう。夫は偖き元來馬匹改良なるものは實驗

**遺傳學の**成績に俟つものであるが馬は同じ生物でも二十日鼠や豚の様に結果が直々と孫や玄孫と成績に見る事が出來ない產兒も亦少い、又統計少くも生物測定學より研究せねばならん却々困難を伴ふ、加ふるに支那馬では明瞭を缺ぐのではあるが、將來民國自身が此の馬匹改良方面に依然開拓して吳れない以上には兎角從來日本が滿洲に於ける馬政方針に依り計畫通りに進展するより外はないのである。然し又一方に露國が既に三十年も北滿に施したる成績を大規模に南滿に移し利用するのは改良の道程を短縮するのみならず遺傳學的にも合理ではあるまいか研究を爲したい事である。要するに支那馬改良は中華民國政府で何等指を染めずして着々として進展しつゝあるを改めて記するのである。夫から序でに支那馬改良に

**是非實施**して貰ひたいのは役馬共進會と競馬の改善である

役馬とは[illegible]中のものにして夫々馬事智識興上利用方面即ち消費經濟に關する積極的改良として當局此等を檢査し獎勵をして貰ひたいのである。露國が嘗に馬產改良上平時地方的條件並經濟的狀態に順應せる良型を選擇し又戰時の需要にも適應せる良種を保留し且つ蕃殖保護に利用したのも實はこの方法であつた。我國でも遲くはあるが前年六月農林省々令第十三號で役馬獎勵規則を發布し夫々補助を與へて大阪、京都近くは東京と段々に

**共進會も**實施し共同既舍建設の氣運にあるのではないか經費緊縮の折柄ではあるが當局に反響あらん事を祈る譯である。次は競馬問題である現行競馬規則（廳令）の改正である。警務側の意見通りにゆけば今迄は否決せられて居たが馬祭を支那各地で實施して居る様に否歐米各地で何等の不思議なく行はれつゝある様にこの滿蒙だけ許可させて貰つたらどうだらう。現在では趣味からも興味からも支那馬改良上最も貢献する競馬場に支那人を多數招致する事の出來ないのは殘念である。

# 蒙古の馬
＝實吉吉郎＝

**吾**々が滿洲到る處で見るアノ小さな馬は全部蒙古馬である。大連、旅順、奉天、長春其の他滿洲各都市の客馬車の馬、荷馬車の馬、又は畑で働いて居る耕馬等の大部分は蒙古馬である、但し之等の内には騾馬が多少居るが之は馬ではないのであるから此騾馬は除外しての話しであるが而して之等の馬を殆ど總てが蒙古で生產されるのであつて滿洲では極めて少數のものが生產されるに過ぎない。即ち生產地は蒙古で滿洲に使役地と云ふことが出來る、この需要地である滿洲で生產されずに蒙古で生產されたものを滿洲迄持つて來て使ふといふのは即ち馬の生產費の高低に依るものである、滿洲に於ては土地は既に全部開墾せられ馬を放牧する原野がない、從つて其の飼料は購入するか或は購入せざる迄も少からざる勞力のかゝつた自家生產の飼料を與へなければならぬので飼料費が高くなる、又一戶當り多數の馬を飼育することが出來ないから飼育管理費も飼育する馬一頭當りに高くつくわけである、之に比較すると蒙古に於ては廣大な原野を利用することが出來るので自然に生えて居る草を充分に喰はせることが出來、且つ放牧によるのであるから草を刈り取る手數も要らない、又一戶で相當の頭數を飼育して居るから一頭當りの管理費も少くて濟む、從つて蒙古で生產する馬は安く出來るわけである

**現**在の蒙古に於ける馬の飼育方法は全く原始的なものであつて斯様な方法が馬の飼育、生產をやつて居る國は世界に其の類があるまい、終年即ち春夏秋冬原野に放牧し野草の草を喰はせる丈けで其の他の飼料は全く給與することがない、夏秋青草の多い季節に於てはよく肥つて居るが冬から早春の草の無い時期には枯れ殘つた草をあさり步いて辛うじて生命を保つて行くに過ぎない、幸ひ蒙古は寒氣は强くとも降雪量が少なく、降つた雪も風に吹飛ばされて草地が出て居る場所が多いので冬の最中と雖も草を喰ふことが出來るである、處で時々積雪の多い年があるが、かゝる年には草が凡て雪に覆はれ喰ふに草なく勢ひ餓死するもの數知れずと云ふことになるのである、斯様な飼ひ方をして居るから普通の年に於ても春になれば痩せ細つて見るから哀れな恰好になるが草が出始めると漸次榮養を回復し夏から秋までの間に充分肥滿して又來る冬に備へるのである、故に秋は文字通り天高く馬肥ゆるの時期である、以上の如き次第であるから病弱のものは越冬の際に斃れてしまつて强健のもののみ殘つてゆく、從つて蒙古で出來る馬は皆極めて强健よく粗飼粗管理に耐えるのである

**そ**の蕃殖方法に於ても亦原始的たるを免れない、牝馬群に種牡馬を混じて放牧し偕き發情の時期に自由に交配せしめる、生產した後馬は其のまゝ母馬と共に放牧育成し仔牡馬は二歲乃至三歲に至れば全部去勢し五、六歲に至つて賣却する、但し種牡馬等とすべきものは去勢せずに殘しておくのであるが、之が選定に當つては喇嘛僧が御經を上げて其家の幸福となるべき馬を選定すると云はれて居る、尤も實際は比較的[illegible]ある様である[illegible]已の馬群より生產したものゝ内から選定するのであつて之を廣く各地の優を求めると云ふことはない 從つて蒙古馬の資質を向上せしむることにはならない

**蒙**古馬は一般に體軀矮小、被毛粗剛、外觀甚だ貧弱であるが、性質溫順、悍威あり體格均衡を得、四肢は骨太く關節極めて堅牢胸前廣く步樣正確で體格不相當に强大なる挽曳力を有する等幾多の優れたる美點を持つて居る優良なる馬である昨冬の滿洲里東京間長途騎馬旅行の際に於ても蒙古馬は同行の日本馬に比し優秀なる成績を示して居る、然れども如何にせん體格の矮小であるが爲めに非力であることは事實であつて此點が馬を使役する方から見て實際上にかける蒙古馬の大缺點である、非力であることは一定の仕事をするに多數の馬を使ふことになる、之が爲め飼養管理の費用及び手數或は使役上の煩雜等の不利不便がある、大連の客馬車も以前は二頭曳が多かつたが、近來は小さい蒙古馬の代りに稍大形の雜種馬が目に付く様になると共に一頭曳の馬車が多くなつて來た

**以**上の如く蒙古馬は各種の長所を有し優良なる馬であるが唯其の體軀矮小非力にして多數馬の協同動作を要するが如き不利不便多く時代の要求を距る甚だ遠きものがある、故に滿蒙の開發を畫するものに取りては此の馬の改良を計り其能率を高めるの必要を痛感せしむるのである、然らば現在の蒙古馬を如何に改良すべきかに就いては其の長所を保持し唯其の缺點とする身幹の增大を計るべきである、即ち現蒙古馬の體尺四尺二、三寸なるを更に增大せしめ之を四尺七八寸にするを最適當と認められるのである、但し身幹の增大を計るに偏し現在有する長所を失はしむる如き結果を來すことは是非之を避けねばならない、斯して其の目的を達成するに於ては從來の作業上に要したる頭數を半減するを得べく作業上の能率を高め滿蒙產業上に及ぼす利益たるや實に莫大のものであらう

**敘**上の目標を以て蒙古馬の改良を行ふに當り如何なる方法を取るべきか改良に供用すべき種馬は如何なる種類のものを用ふべきかの問題に就ては慎重考慮を要するものであつて、輕々に私議すべきでない、目下關東廳種馬所及滿鐵農事試驗場に於て夫々斯道專門家が試驗研究中であるから其の結果に待つことゝして此處には敢て之を述べず他日の問題とする

# 永沼挺進隊の軍馬の手柄
日露戰役に敵の後方鐵橋破壞
◇……老軍曹手記

乘馬隊に一度軍籍を置いた者は誰しも同感でせうが、騎士として何が可愛いと謂つても自分の乘馬程可愛いものはないでせう、鞍上人なく鞍下馬なしと謂ふ諺も全く騎士と乘馬が持ちつ持たれつ其の合致點を見出し得た場合に外ならぬのです、騎兵が其の乘馬を勞はる様は實に想像もつかぬ程で、それあるが爲砲煙彈雨生死の境に出入して騎士の爲に全能力を捧げて與れるのです。

▼—▲

宇治川の先陣佐々木の生唼の湖水渡り[illegible]押して知るべきです、忘れもせぬ又忘れてはならぬ日露戰役の眞只中時は明治三十八年二月十一日の夜もふけて正に三更、萬籟寂として際なき北滿の原頭零下三十度の寒夜に只北斗星を目當に范家屯街道を鐵道線路に向つて東へ〳〵とヒタ走りに潜行する部隊がありました。是ぞ彼の有名な永沼中佐の率ゆる挺進騎兵隊の百五十騎です、遠く露軍の背後を攪亂すべき重大な任務を奉じて一月初旬遼陽附近に於ける本軍を離れて北進し遼河を越えて哈爾套海より內蒙古に潜入し博王領、タラハン領等の蒙古王族領下を縫ふて長春西方に出現したのは二月上旬冱寒の絶頂時でした。驅軍萬里夕陽の赤き內蒙古の行軍に征士の全生命を託するものとては實に我乘馬あるばかりです。

▼—▲

挺進隊は最初の目的たる新開河の鐵道橋を二月十一日の佳節の夜に首尾よく爆破し茲に第一次の任務を果したので第二次作業の計畫や人馬の給養も必要ですし、とりわけ敵の追擊を避けんが爲に分秒も早く危險地域を脫出せなければならぬので全速力で內蒙古の安全地帶へと逃避を始めました、鐵道破壞の際にうけた多數の負傷人馬を伴ひ且つは退避を急ぐので騎士の給養などは愚生命を託すべき唯一の愛馬にする秣飼ふ暇もなく凡ゆる犧牲を拂ひつゝ蓮花山、八方湖などいふ部落を經て西へ〳〵と再び砂丘の蒙古へ急退却したものです、本軍を離れてこの方昨日は高粱今日は粟と其の日〳〵の糧により全く露營に等しき行軍のみを續け來たのが、十一日夜の爆破作業の爲めに更に疲勞の度を增し跛行馬や鞍傷馬は續出と云ふ狀態に陷つたのでしたが、重き任務の前には騎士も心を鬼にして馬腹に拍車を入れたものです。

▼—▲

然るに天か命か十四日の夕陽も灰色の砂丘にまさに入らんとした頃路を急ぐ我挺進隊の正面に我に數倍せる敵の追擊隊が敢くも砲列を布いて我隊を迎擊したのです、夢遊病者の様になつた鬪士と極度に體力を消耗し盡した乘馬による我は如何にして此の優勢なる敵の追擊隊と對抗すべきか實に慘めな地位に陷つたのです、我、彼を斃すか彼、我を全滅せしむるか最後の五分間は來たのです、將士の玉碎の覺悟はこわそも如何に、秋水一閃突擊の命下るや騎士は唯直に乘馬は脫兎の如く縱橫無盡に敵陣を攪亂し遂に目に餘る强敵を擊破し得ました、張家窩子の荒野尺に餘る皚々たる白雪を紅に染めて殲滅した、日露戰役中其の激烈なる一の騎兵白兵戰はかうして演じられたのです、日露戰役否世界の騎兵を通じて其の全能力を發揮し花と唄はれた永沼挺進隊の功績は其の大半は乘馬の力になつたものです。

▼—▲

予が愛馬南且號は弘前師團出發の時より後に從つた栗毛の逸物です此の白兵戰直前迄は疲勞の獸馬に等しき有様でしたが敵の砲火を潜り突入を始むるや全で蛟龍の如く敵砲兵を追擊して約二哩、遂に敵砲兵の榮冠を我に與へ吳れました、予は愛馬南且號に感謝しました、二十餘年を經た今日でも尙感謝してゐます、愛馬に酬ゆる心盡しは其の後馬に跨らぬ事を誓つて今も尙續けて居ます。

騾馬　懸賞佳作寫眞　奉天浪速通　山本晴雄氏作品

# 一九三〇年を迎へた大連演藝界の動き
## 豫想される本年度の問題?

◆映畫に明ける大連興行界の一九三〇年のキネマの横顔は凡ての映畫界の形態を一變せしめたと稱せられるトーキーの洗禮を今や受けんとしてゐる、その結果益々映畫館は資本化され今春の氷期を以て發せらるべき各映畫館の改築命令と相俟つて愈々資本戰に入るものと觀測される、更にトーキーに就いて希望を述ぶればシンプレックスの新映寫機を設備した協和會館に本年度の豫算を以てWE乃至RCAの本格的發聲映畫裝置をなし今年の發聲映畫時代に備へキネマのスピードに合致した一九三〇年の映畫會を催すべきであらう、又社員倶樂部の上映々畫選定に關してもより以上の專門的知識を集め映畫委員會をして一層權威あらしめ映畫藝術の正しき紹介を遂行することを社員の慰藉と共に考慮して欲しいものである。

◆市中の映畫館に於ても可及的に發聲映畫裝置に意を用ひ時代に適應した科學的興行法によつてその信用を高め向上を圖るべき時代に逢着してゐるのでなからうか。

◆之が取締に當る警察當局に於ても民衆娛樂の尖端にある映畫藝術を研究理解して世人の物笑ひを招致しその發展を妨げる如き見當違ひの壓迫に考慮を拂ふべきである

本年度に於て最も問題となるべきものは舊態依然たる腐朽せる映畫館の改築であらねばならない、この問題に對して當業者は再び言を左右にし不況を理由として改築延期運動に狂奔するとも最早今日では何等假借すべき理由は存せないのであるから斷乎として改築を拒む館に對しては興行停止の鐵槌を下すべきであらう、既に興行取締規則による大日活及び常盤座の二館成り今假りに一、二の館を廢館となすとも娛樂機關の不足に痛痒を感ずることなく、年來の懸案である映畫館、劇場等の興行場改築の好機である、斯の如き事情より今年こそは警察當局の態度一つによつて我々市民は氣持良き民衆娛樂機關を有する機會に直面せることを瞭かに記憶し市民の權利として主張すべきであらう。

◆その他映畫に關する警察事務に就いては檢閲制度の改正が提唱さるべき機運に向ひつゝあるものゝ如くである、即ち現在の如き無理解、無方針に近き檢閲は忌避すべく、その改善は必ず要望されるに至るであらう。

◆また昨年來の懸案として殘されたものに入場料金問題がある、警察の許可制度に附け込む高率なる入場料金は當然低下さるべきであつて之は自然的にも解決さるべき性質のものであるが、本年度に於て具體的問題として表面化し論議されるに至るであらう。

◆更に一般の演藝界に就いては何等期待すべきものが發見されないすべて悲觀材料によつて滿たされてゐる、その重なる原因は朝鮮に於ける大場所である京城及び釜山が劇場を失ひ大物が滿鮮興行の途を塞かれた形にあるためであつて京城の如きは全く前途慘憺たるものがある、たゞ僅かに連鎖商店街の常盤座の落成によつて從來或程度の束縛によつて從來協和會館に上演不可能であつた各種の演藝が常盤座に於て相當に消化さるゝ望みを生じた點である。

# 謡曲と中國劇

奉天 辻忠治

「年立ち歸る春なれや、年立ち歸る春なれや、花の都に急がん」是は東北と云ふ謡曲の次第である言ふまでもなく謡曲は、先づ歌を以て演者登場の心情を述べ、それから文句に入るのであるが、其點が中國の劇と同じである。桑園會と云ふ劇に於て、シテ役なる秋胡が登場、先づ一番に「歸心似箭離王駕轉回家園」と唱ひ、それから說白に入つて「秋胡離家二十年、千里迢々無信音……」と言ふ。次に復歌となり「一日離家一日生、好似孤雁宿寒林」と言ふは、謡曲の道行とでも云ふ可きものか、兩者形が全く似て居る。殊に謡曲班女にある「これは吉田の少將とは我事なり」と云ふ文體は、中國劇汾河灣の「老身薛仁貴便是」其儘である、前者は所謂謡曲文學獨特の言ひ表はし方で、後者は中國劇特有の文句である。

又天鼓と云ふ謡曲には「夜遊の舞樂も時過ぎて、五更の一點鐘も鳴り」と、中國語の一點鐘と云ふ言葉がある、天鼓は中國昔の大鼓の名人であることから考へて、中國語其儘の字を。いつてんかねと謡つたのであらう。又猩々と云ふ謡曲は、潯陽江の高風と云ふ人が猩々と呼んで菊の酒に醉ふと云ふ芽出度い所を謡つたものであるが其中に「客人も御覽ずらん」と云ふ文句がある、是は同じく桑園會の終りに「列位不要見笑」と、觀客に挨拶するに能く似て居る。斯の如く比較して見ると、謡曲中の人の調子は中國の下平音に似、下の調子は上聲音に似たやうな氣がしてならない。

尙中國劇大賜福と云ふのは、謡曲と同じく西王母を主體としたもので、正月劇として用ひられ、謡曲神歌の「とうとうたらり、たらりら、たらりあがりらゝりとう」と云ふ歌は、西藏語の瑞祥祝福の意、即ち「得物は輝き輝いて、輝きは嗟呼何れも隷に壽きあれや」との事であると、先年河口慧海師の發表があつた。

日本の能樂と中國劇とが、舞臺並に道具の組立、シテワキの關係役者の隈のくまどり等、全く同樣であるのは周知のことであるから此處には文體其ものゝ研究を一言したに過ぎない、序ながら中國劇に關聯し面白い詞を一つ述べて見よう。

鷄鳴曉を告げて世は新春の喜びに立ち歸る、雞は「東天紅」と鳴き鶯は「法華經」と囀る同じやうに中國の鳥でも鷓鴣は行不得也、哥々（シンプトエーコーコー）と鳴き、杜宇は不如歸去（プルーグイチユ）と鳴く、年の瀬になると天上で杜宇が不如歸去、不如歸去（行クゾ行クゾ）と鳴く、さうすると地上で鷓鴣が行不得也、哥々（行ツテハイケナイ〳〵）と年の立つのを怨むと聞いたことがある

夫は借艤き「陳姑趕船」と云ふ中國劇、これは昔潘必正と云ふ秀才が試驗のため都に上り、途中とある廟に宿つて、陳と云ふ尼姑と親くなる、暫くして潘郎が其廟を立たうとする、陳姑が離さず船を追ふと云ふ劇で、或人が其離別の情を描き、兩岸に柳の樹があつて鳥が飛んで居る。黎香洲と云ふ人が其畫に

・東邊一株楊柳樹　西邊一株楊柳樹　楊柳樹任佩千條萬緒　緊不得郎舟住　南邊啼鷓鴣　北邊喚杜宇　鷓鴣啼行不得也哥々　杜宇喚不如歸去不如歸去

と題詠したさうであるが、潘郎と陳姑との情緒を表はし盡して只感嘆の外はない。

# 滿蒙宣傳映畫

滿鐵情報課 芥川光藏

一がひに滿蒙宣傳映畫といふものゝ、これが製作については計畫者に於てはきちんとしたプランが立つてゐるのである。その何れを數多く製作し、その何れに重きを置くか、それはその時々の情勢と經費との問題で左右せられる、が、何れにしても滿蒙宣傳映畫といふ以上、滿蒙の地の實相を紹介し、併せて滿蒙の地に世界の注意の眼をあつめるのが主たる目的たるはいふまでもない。さらば、その映畫の種類はどうなるか、先づ項目にして見やう。

一、滿蒙風情の紹介　滿蒙の地とは何ういふ處か、滿洲とは、相も變らず赤い夕陽の沈む處か、山ばつかりで、野つ原つゞきで、高粱畑だけの荒蕪地か、滿洲といへばたゞもう廣漠たる平野、蒙古といへば、たゞもう一望千里の沙漠とばかりしか思はれてゐないかも知れない、實情とはとてもかけ離れた誤解を受けてゐないとも限られない、滿蒙の天地自然だけでもそうである、風俗はどうだ、あゝも、かうもと、色々に想像されてゐるだらうから、その自然を紹介すると同時に、所謂、滿蒙の民情、風俗、習慣なども適當に映畫化して見たい。

二、殖産興業の紹介　簡明に謂へば滿蒙の富源紹介である、農、林、水、鑛、等々いくらも紹介に値するものがある、其處には支那人には支那人の努力がある、日本人にはまた日本人の努力がある、そうしてそれ等の精進努力がどう發展してゐるか、且つなほその背後にどれだけ未開拓の處女地が殘されてゐるか、否、それ等の處女地がどういふ狀態で開發の手を待つてゐるか、それらは是非ともこれを中外に紹介したい。

三、滿鐵社業の紹介　滿鐵は滿蒙の天地で何をしてゐるか、事實は雄辯である、滿蒙開發に手をつけてから、おほよそ涙のにぢみ出る程の犧牲を拂つて來た、その結果はかくの如しであるといふ證左を見せたい、しかしてこの社業紹介は一にわが同胞の滿蒙に於ける公明正大なる努力の紹介である、これは滿蒙宣傳映畫製作の最も興味ある部分をなすものである。

四、大衆に呼びかけるもの　すなはち劇を主とした大衆映畫である、滿蒙の天地を背景に日支の親善を說くもよからう、或は更に寡つて人類愛慾の世界を描くもよからう、或は新人氣鋭の理想を語るもよからう、要するに滿蒙の地を大衆に馴れ染ましむるものであるからうしたものは、なかなか底力のある輿論の力を培ふもので、直接滿蒙紹介には緣遠いかも知れないが、最も骨の折れる製作である、從つてそのシナリオにも充分の用意を要するが、世人の興味をひくには最も効果的のものである。

―◇―

大體以上で、滿蒙宣傳映畫の骨子を盡したと思ふが、然らばそれが製作はどうする。

映畫製作には、第一費用がかゝる、時間がかゝる限りに製作技術が良いとしても、適當な機械と材料とが完全しなければ良いものが出來ない、また、製作は一日にして出來るものでない、ぜいたくをいへば限りがないが、或程度の設備がなければ良いものが製作されない、ケチなものを出しては却つて惡宣傳となる場合がある、映畫製作の發達はその翌日を待たない情勢にあるので油斷は出來ない、その爲めには經費の許す限りの施設はしたいものである、さて、それで施設は完備したとするが、今度は製作上の頭の働きである、これは製作映畫の死活を決するので油斷もすきも出來ないのである、映畫編輯の巧拙は無論のこと、タイトル一枚であつてもおろそかには考へられない、しかして、われらの最も心すべきは、宣傳の爲めの映畫が、宣傳臭くなつてはいけない事である、馬を白だといつて見た處で、それはすぐにもバレて來る、滿蒙の天地を僞つてはならないと同時に爲めにする目的で殊更に誇張することも良くないことである、それは如何なる手法でもかまはない「滿蒙」が公正に批判されるやうに作り要は人の心を攝へることに重點を置かねばならない。

あのカバード・ワゴンやアイアン・ホースのやうな力作で再び滿蒙の背景にそこらあたりに歩ぐんでゐるのでなからうか、撮られなければならない筈でまだ撮られない大日本建國映畫はもう古い、それが撮られないうちに、新日本映畫が滿蒙に撮られる、われらは日本の前衛、この滿蒙の曠野にあの鄙かに鳴る鐘を題材とした世界的の力作を望まねばならない。

# 支那劇の馬

石原巖徹

### 馬の表現

支那劇は原則として象徴藝術であり、又多くの支那の藝術がそうであるやうに、寫實よりも寫意を本領として居るが、支那劇程馬を用ふる場面の多いものは無い。戰爭を挾んだ劇そのものゝ數も甚だ多いが、支那の戰爭に馬は附き物である[illegible]た文武官、或は[illegible]劇は、鞭一本即馬一匹と云ふことにしてゐる。即ち、鞭を持つことは馬に乘ることゝなるのである。劇中大將か何かゞ「馬をひけ」と云ふと、馬丁が、鞭を持て出て來る。それを受取つて、ちよいと空間を跨ぐ眞似をすれば、立所にして馬上豐に闊歩する御大將の勇姿が出來上るわけである。

### 馬の種々相

[illegible]が馬の象徴である以上、[illegible]依つて劇の[illegible]定まるが、[illegible]故に、從來此點は明瞭にしてよい。たゞ、鞭の裝飾の程度に依つて馬の飾り、並に乘用者の地位を現すことは出來る。

この鞭が、ただの鞭でなく、馬の象徵であるしるしとして鞭の尖端から根元迄の間にフサが附けてある、フサの數は三から六迄、種々あり一樣でない。鞭の幹部にも糸で裝飾が施され、このフサの色彩と共に、馬の裝飾を示すものである。

乘らないで牽いてゐる場合は鞭の根元を上に向けて垂直に持つ、人に乘せる時には眞中處を持つて、根元を乘りこの方に差出す。乘る時には右手を根元の紐に通し手綱を摑んだことゝして、馬丁の手から鞭を取り、眼の高さに略垂平に持つて、前述の通り、空間を跨ぐ。歩き始めは、鞭を後方に廻し上下に振つて前進する。馬が適當に歩み出したことになると、鞭を前方に揚げて、小さく上下に振つて行く。

高速度で馬を馳らす時には、出來るだけ小股に、而も出來るだけピッチを上げて走る。勿論こゝに云ふ、歩く、馳る、すべては演者自身の足でやることである。

馬から下りるときには、同じく空間い跨いで、鞭を地べたに置く。若し馬をどこかに繫ぐ場合は、鞭をそこまで持て行つて置けば好い。

馬が非常な荒馬である場合、その暴れ、若くは勇む狀態は騎者、又は馬丁の所作で——身體を動かし——現はす、

馬の嘶きは、それ專門の笛が出來て居り、ヘヤシ方の方でやる。尤も此の音響も決して寫實的でなく、矢張、その約束を知らないものには一寸判らない。

戰爭の場面で、立廻りになると、鞭と武器とを同時に使へないから、鞭を棄てる。此時は既にその武器が、鞭即ち馬の代用を勤める約束になつて居る。

# 家庭經濟の更改と婦人

## 滿蒙發展の基礎を作れ

日向保良

內地から來た視察者は滿洲の市街を見て其の盛を讃し、在滿邦人の生活を見て文化的なりと讃へてゐるのです。然しこうした半面を經濟の上から見れば、隨分矛盾した點があるやうに思はれます即ち商業地區に立並んでゐる大きな店舖も常に其資金に苦み、郊外に建られつゝある文化住宅なども其の大部分は內地から資金を借りて來て造つてゐる有樣で、實際滿洲で働き出した金で造つたものは幾何あるでありませう。然し各個人の收入を見るに俸給生活者は俸給以外に在勤手當や賞與を支給され、社宅を惠まれ、其他の者でもそれ相當の利益が與へられてゐるのであります。又日常生活の必需品を見るに主要食料品である米は內地よりも二割も安く、副食物である野菜、魚肉も餘程安い。であるから一家の主婦が「入るを計つて出づるを制す」との言葉をモットーとして消費經濟に細心の注意を拂ひ內地在住時代の精神で生活方法を定め、冗費を省いたなら、貯蓄の美風は期せずして勵行され、將來に於ける滿蒙發展の基礎は築かれるのでありませう。然るに一度び渡滿して滿洲風に染まると、內地時代の緊縮した心は何時となく消へ去り、放漫の生活をするやうになり、本俸の外に手當まで給與されながら尙不足を告げ[illegible]にはボーナス其他の臨時收入を當てにして、他より金錢の融通を受け、やり繰りによつて漸く其の日を過ごしてゐるものが多いのであります。斯る風習は一朝一夕に作られたものでなく、日露戰爭直後、政府は滿蒙經營に多額の費用を投じ、それに從事する官吏や滿鐵社員も優遇されてゐたことが、知らずしらずの間に放漫な生活を馴致し、それが一般の風習となり、所謂滿洲風なる一種のローカルカラーを作つたものと思はれます。朝鮮には朝鮮、樺太には樺太の氣風があるが、滿洲程呑氣な氣分で緊張味の缺けた處はないでありませう。

私共の一生を通じて考へて見るに、現在の生活は將來への道程であり、將來は現在の延長であります從らに理想を追ひ生活費を膨脹させることは、私共の將來の生活を不幸に導く原因となるのですから謹まなければなりません。人の地位や收入は無制限に向上するものではありません。一朝之れを離れて獨立生計に入る場合に俄に緊縮した生活をしやうとしても永い間の習慣は容易に改めることは出來ないので思ひながらに從來通りの生活を續けてゐる間に僅ばかりの貯蓄や退職金は使ひ果してしまうのであります。

昨今上下擧つて經濟の緊縮を唱へられるやうになつた此機を逸せず、從來の放漫な生活を緊縮し、家庭經濟の更改を圖らなければなりません。それには第一に主婦の自覺が必要であります。從來の如く野菜、魚肉などを支那人が供給するがまゝに任せて、其物が高くても不衞生的であつても少しもかまはなかつたと云ふやうなことは改むべきです。今後は市場や消費組合につき買入れ或は生産から直接購入するやうにし、又滿洲で生産するものは、なるべく利用するやうにしなければなりません。野菜の如きは秋季の出盛りに買入れ貯藏し加工して置くやうにするならば幾らでも經濟的の生活が出來るのであります。年々內地から大連に輸入されてゐる大根だけでも三萬圓を越えてゐる有樣です。其他ジヤガイモ、葱、牛蒡など輸入も大したものです。何んと不經濟のことをしてゐるのでせう、滿洲では何處へ行つても一歩市街を踏み出せば土地は極めて低廉に得られます、職務の餘暇を利用し、少しの勤勞によつて家の周圍の空地や市外の畑を耕すことが出來るでせう、そして其收穫物は貯藏庫を作つて貯藏して置き冬季野菜の缺乏するときに使ふことによつて、どの位便利で經濟的で衞生的生活が出來るかも知れません。

又滿洲の近海で一年中を通して獲れるカレイ、カナガシラ、グチなどを西洋料理や支那料理の方法を應用することによつて、利用するならば充分美味しく食べられそして食費の節減を圖ることが出來るのです。十一月中に大連魚市場に上場せられた魚の數量は總計九十萬貫で其中カレイが四十萬貫グチが十七萬貫で總數の七割を占めてゐます。そして其平均卸價格はカレイが百匁二錢グチが三錢であります、斯樣に安い魚の大部分は支那人が消費し日本人はわざわざ朝鮮や內地から高いマグロ、鰤、イカなどを取寄せて食べてゐるのです。何と不經濟のことでありませう。

又滿洲の婦人の服裝を見るに、全く內地の流行其のまゝを輸入して、常に其流行を追つてゐる有樣です。もつと滿洲と云ふ土地を考へ各個人に適した服裝を調べるやうにしたいものです。又流行の宣傳機關となつてゐる婦人雜誌を讀む時間とお化粧の時間の一部をさいて家庭經濟の研究や、必需品の買入方法、品質價格の判斷等につき、或は日常生活の無駄を省くことについて、實際的研究をなし、もつと健實に緊張した生活を築き上げたいものです。これはやがて滿洲の繁榮を來たし邦人の滿蒙發展の基礎となるのであります。

# 臺所文化の向上に就いて

彌生高女　今西ツネノ

私達はそれぞれ異つた趣味を以ていろいろの方面に讀書や修養の範圍を廣めて參りますが、それ等はすべて人間生活の實際について正しい理解と能力とを與へてくれるものでなければならないと思ふので御座います。

この實際生活に最も直接現實的な知識と能力を缺く主婦は、複雜多端な家庭の仕事を明快に片附けてゆけないばかりか、世の進展に伴つて家庭文化を改善し創造して能率の增高をはかることが出來ないと思ふので御座います。現代家庭文化の中で改善を要する事項は多々ございますが、最も遲れて居ると思はれる臺所文化の向上について二三申上げてみたいと思ひます。まづ其設備で御座いますがこれは最も衞生的で氣持ちよく能率の高い作業を行ふことの出來るやうに工夫すべき部屋だと思ひます臺所だけについて考へるならば、南向、南東向は最も理想的でございますが、家全體の間取、主要室の配當などから考へますと、子供部屋、家人の居間など臺所よりもつと大切な性質の部屋で是非南又は南東の位置にもつてゆかなければならない部屋があるものですから、自然東又は東北などの位置に來るのはやむを得ないこととして南東向か東向で一回一回必ず紫外光線の直射を受け且つ採光と換氣を充分に得ひ得る部屋でありたいと思ひます。

大連の建築では特殊の研究をもつて御建てになつた方は別として一般の貸家、官舍、社宅などの臺所の窓は皆低いのが缺點であると思ひます。煮炊に依つて生じた湯氣や燃燒瓦斯を速かに戶外に排除するためには、窓はなるべく大きく高く取つて充分に開放出來るものがよろしいのですから、これまでの窓の上に更に高く天井のきはに回轉窓又は撥り窓を取付けるのがよろしいと思ひます。夏時は蠅其他昆蟲の侵入を防ぐために、窓に網障子を用ふることは申上げるまでもございません。

火を取扱ふ個所の上部に金屬板製の覆をかけて、其上端から排氣筒を出して戶外に開口させることもよろしうございます。臺所は火と水とを取扱ふ部屋でございますから、耐水耐火的に出來てゐなければなりませんが、特に燃料の供給や給水給湯排水並びに塵芥の處理については特に注意を要します臺所をいつも衞生的に保つために清掃、磨き、消毒などのしやすいやうに壁面は平滑に塗り上げて、天井は白漆喰天井がよろしいと思ひます。腰壁は床面から四尺はコンクリート張又は陶器張りがよろしいかと思ひます。床面は板張又はタイル張或はリノリウム張などにして、仕事の能率をあげ疲勞を去けるために床面の高さは必ず他の食事室や廊下などゝ同じ高さにして作業を立働式にすべきであると思ひます。

大連に於ける一般貸家の臺所は悉くと申上げてよろしい程臺所の床面は他室より五六寸——一尺も低くなつて居るのはいちいち上つたり下つたり無意識の裡に疲勞が多くて作業に不便なため臺所能率を低下させて居ります。土間で下駄ばきの臺所作業と、日板をしいた臺所とは非衞生的になりやすいですから改良したいと思ひます。床の一部は揚板にして其下に野菜其他食品の貯藏窖を作ると空間を利用することが出來ます。

流し料理臺、食器戶棚、冷藏庫などはすべて立働式のものを選んで其配置をよく考へ、調理洗滌配膳などが最も手順よく捗どり最も勞力の節約が出來るやうに工夫されることが大切と思ひます。勞働と疲勞の關係からみて臺所は餘りに廣きにすぎるのはよくありません。五六人の家族では四疊半位か廣くとも六疊を越えると勞力を浪費いたします。

私は常に臺所にあつて考へさせられることは、出入商人との應答や食品の受渡などはすべて銀行の支拂口のやうに小窓を通して通ふやうに出來ないものかといふことです。寒いときに大きいドアー一杯あけられることは辛抱するとしても、彼等は其靴に多量の泥をつけて參ります。泥は土だけではありません。馬糞もあれば吐瀉物もあり、結核患者の痰も混つてゐますから、衞生上決してよくはありません。のみならず不良支人に對する警戒上から申しても今後の建築には是非考慮の一つにいれて頂きたいと思つて居ります。

野菜は洗つた丈けでは消毒されるものでは御座いませんから、それを裨洗するところと本洗する所と洗ひ場を二つに區切るやうにしたいと思ひますが、これについてはかつて金井博士の綿密な御發表が御座いましたから、皆樣御承知のことゝ思ひますから省略いたします。

# 川柳　馬十吟

大島濤明

**木馬**　鮮かに飛べた木馬へ振り返へり

**竹馬**　竹馬はあんな所の雪を食ひ

**水馬**　スケートの元祖そもそも水すまし

**奔馬**　放たれし馬一日を疲れきり

**曲馬**　曲馬團馬迷惑な顏で出る

**羅馬**　羅馬字が讀めて一ぱし英語通

**競馬**　スタートへ馬もその氣で立てゐる

**神馬**　神苑の馬は手垢でよう光り

**彌次馬**　遠巻きにした彌次馬は[illegible]ばかり

**馬車馬**　鞭の舞ふ下に馬車馬汗みどろ

# 昭和五年の新春に

## 婦人の活躍を期待す

滿鐵婦人協會　小谷百合子

昭和五年を迎ふるにあたり私のよろこびは婦人の社會的進出のいやまさん事即ち婦人が人類共存共榮のために貢獻出來る樣により訓練せられつゝあるといふ事です。然し一方悲觀的に考へれば封建的のためにも良妻賢淑をのみ主眼とし家庭の奧深く生活苦をも知らずに生涯を過し得た過去の婦人（現在でもかゝる種類の婦人も多い事ですが）に比べて何と世智辛い世の中になつた事かと思はれます。婦人の社會的進出それは止むに止まれぬ時代思潮の要求なのです。大正七年の米騷動が飢餓に泣き叫ぶ多くの子供をかゝへた女房連によつて火の手を擧げられた樣に極端にいへば男性にのみ世の中の事を委せて置けなくなつたのです。

一方婦人の社會的進出は婦人の自覺に伴ふことは勿論です。近來女子の高等教育機關は續々設けられ女學校はもはや義務教育の觀をさへ呈する樣になりました「聞かしむるべからず知らしむるべからず」といつた何れかの政治時代をうなづかせる樣に教育は自覺の扉を開く唯一の鍵ですから教育が盛になればなる程婦人が自覺してくるのは必然の理です。

然し婦人の社會的進出といつてもまだまだ遲々たるものにすぎません、太平洋會議、軍縮會議と我國からも婦人代表が出ますが、博士が出たり、婦人自身兒童保護運動を起したり、無産婦人同盟が今度とそはと再起したり、女醫の力で施料的の病院が設けられたり、その背後には婦人の團結力の賚を擧げてゐることは喜こばしい現象です。

眞の婦人の社會的進出は婦人自身の叫び表現する團結力そのものであると思ひます。從來とても社會的方面には女教員、女工、女事務、タイピスト、看護婦等多くの職業婦人を見ますが多くは自覺が足りず、賤しい勞働をしながらも封建制度の因襲にとらはれて働くことを恥の樣にさへ思ふのでした。又外部の人も一種の侮蔑的眼を以てしました。然し今日は婦人といへども無爲に徒食することなく自ら新むぎ自らパンを得る一方社會的に何等かの貢獻をしてゐるといふ氣持が次第に彼女等にも育くまれて來てその仕事場に於ても快活に理智と愛情の瞳を輝やかす樣になつた事は何と嬉しい事ではありませんでせうか。そして若し苦しい事があつたら御互に自身でより合つて相談をなし相助けて行くといふ義俠的な心持にまで伸び樣として參りました。

こうして職業婦人は第一に團結の標路を辿つてゐるのですが一方婦人の社會的進出は家庭內の婦人の進出こそ最も意義深いてとを痛感いたします。何といつても婦人の大半は家庭生活をなし一家の主婦として消費經濟に育兒に携はるものですからこゝにより合理的な家政者とならねばなりません。もつと眼を働かせねばなりません。もよく自分の環境を認識し自己を涵養し夫の仕事に諒解を持ち、よき夫の片腕ともならねばなりません（そして一般の婦人が聰明になり強い樣に見えて弱いのは男性で弱い樣に見えて強いのは女性であると心理的にも云はれますが）婦人はこの眞の力（母性愛）を發揮して行つたならそれこそ思想善導經濟困難打破にも大なる貢獻をする事が出來ませう。

婦選の問題も未だに解決されないのは第一等國を以て任じてゐる日本としては珍らしい現象の樣に思ひますがよし婦選が與へられてもその權利を行使する力がなければ猫に小判ですから充分に婦人の力を養成する準備期として不斷の努力をなす事も決して意義のない事ではありません。昭和五年の婦人の活躍は昨年よりも目ざましいものであることを信じつゝこの稿を結び度いと思ひます。

# 賀正

## 青島

在青島日本帝國總領事館
總領事 川越茂
外館員一同

在張店日本總領事館出張所
主任 福士堯行
同館員一同

魯大鑛業公司

同仁會青島醫院

株式會社 青島取引所

大連汽船株式會社
青島支店

大連製氷株式會社
青島支店

大日本麥酒株式會社
青島出張所
華名(青島啤酒公司)

---

國際運輸株式會社
青島出張所

華祥燐寸株式會社

青島地所建物株式會社
遠藤要

青島水產組合

青島宰畜股份有限公司

青島輸出牛取引株式會社

青島輸出牛同業組合

青島木材商組合

青島甘肅路
貿易商 中村洋行
中村順之助
電話 一一五九六 一九七〇 一〇九九番

---

加賀山學

佐伯彪

鈴木一

青島日本中學校 校長 小林隆助
青島日本高等女學校 校長 山本泰勝
青島學院 院長 吉利平次郎
青島第一小學校 校長 宗像壽太郎
青島第二小學校 校長 金武只雄
四方小學校 校長 高田久人
滄口小學校 校長 阿南實直

平岡小太郎

八百寅藏

鹽田正長

吉田辰秋

西田善一

島津忠男

田中國隆

平岡組 渡邊賴章

---

大杉昇平

松永雄治

神田清二郎

伊藤壽吉

青島日本婦人病院
理事長 小林仁太郎

青島日本婦人病院
副理事 山田泰之

青島中山路
日本賣藥株式會社
青島出張所
電話二五二番

青島聊城路
大橋商會
青島出張所

裕泰號
國分壯介

三津和商會
稻田恒治

棉花商
三和洋行
柃田岩雄

棉花商
興源棉行
淡島小三郎

---

博愛醫院
飯田芳亮

內科小兒科
神內醫院
神內正範

富田眼科醫院
富田要

三條齒科醫院
三條愼吾

青島周村路
永和商會
中谷藤治郎

青島中山路
三信公司
內山善雄

青島聊城路
森洋家具店
森淸吉

各國產羅紗絹布商
辻村洋服店
羅紗部

輸出貿易商
勝山洋行
岡本久米次
電話二三五六番

畜產貿易商
大櫛商店

---

準優細工各種
ヒスイ
西南堂
青島聊城路

青島周村路
古賀野商會
電話三七九二番

宏大自動車部
高江定吉
電話二五八八 二六八八番

青島三業組合

喪中に付き年賀欠禮仕候
泰來號
樋口三郎

滿洲日報青島支局
井原福治

滿洲日報販賣店
森本新聞店
森本寅吉

# 賀正

## 撫順

山西恒郎
久保孚
齋藤茂一郎
奥澤集成
内野捨一
寺田良之助
大尾袈裟助
草野友次郎
田中廣吉
寺西奎之
古賀初一
影浦政雄
中山豊
平井譽治郎
奥田鹿造
大嶋勇
伊東熊次郎
後藤愛助
川路喜平
中原祥光

撫順炭礦
調査役
課長
所場長
一同

野田慶
張克湘
櫻井二郎
伴善太郎
畠中仲藏
大江惟賢
小林益造
福田寅一
古賀源四郎
角徳一郎
森山環
東久世賛次郎
飛鳥井堉他郎
松井佐兵衛
佐々木常磐
山口文雄
齋藤俊雄
荻野万治郎
山下七太郎
長井造酒三郎

撫順教育會
(イロハ順)
石原貞次
小野久太郎
米澤信二
棟木久藏
後藤基次
荒田彦馨
前田多祐
滋野加次
平部直

中央大街 撫順公司本店 電話二〇八八番
滿鐵石炭特約販賣 三榮公司 電話二三八八番
蓬萊洋行 電話二六四五番
神田工務所
榊谷組
伊賀原組
保健浴場 池田知賀良 電話二四五六、二五一一番
撫順實業協會
撫順體育協會
隅田順吉
石炭商 四國洋行
石炭商 共榮公司
佐藤仁十郎
時計、貴金屬商 石原洋行 電話二〇〇七番
精米業 協泰公司 李尚賢 電話長二三〇三番
時計、貴金屬商 山田洋行 電話二三二一、二〇一七番
福島寫眞館 電話二六〇九番
光寫眞館 電話二二六七番
富澤寫眞館 電話二二一八番
ツーリストビューロー撫順案内所 渡邊徳次郎
山口タクシー 山口喜市 電話二三六〇番
撫順館食堂 驛前 電話二五四〇番
晝夜撮影 新井寫眞館 電話二〇八九番
大衆雜誌、月刊撫順 城島徳壽

撫順會社團
滿洲土木建築協會 撫順支部 電話二五三九番
撫順醫師會
撫順地方委員一同
石炭販賣 明星公司 電話二二七八番
野田工務所 野田慶 電話二三〇〇、二三二五、二四七八番
河村工務所 松尾駒太郎
表具師 西村松壽堂 東二番町
靴鞄 原田靴店 電話二三九二番
築紫館本支店 電話二八一、二〇六四、二三八九番
旅館 壽館 電話長二〇〇二番
昭和タクシー 富田金次郎 電話二五二一番
和洋菓子パン 明治屋本店
菓子舗 花月堂 電話長二〇一二番
和洋菓子 風月堂 電話二〇一八番
田中金物店
益田醤園 店主 海老名繁 電話二五〇五番
滿鮮專賣所 ルイレキ専門薬 ハレルヤ藥店 振替大連三三九四番
撫順製材公司 電話二六六〇番
壽美屋洋服店 電話二七一九番

撫順醫院 婦人科醫長 齋藤護邦
小兒科醫長 上井敬三
耳鼻科醫長 森田近
内科醫長 梅田生
皮膚科醫長 鈴木修一
眼科醫長 平井穰
事務長 越智通明
傳染病棟主任 伊藤幸雄
藥劑長 平松滿貞

撫順料理店組合一同
撫順純料理店組合一同
撫順西五條商店會
菓子界革命兒 つるや菓子舗 谷口彌七
喫茶、酒、たべ物 青い塔 山口和夫
撫順繁榮會

農業公司
撫順炭礦指定洗布所 石炭細工 山羊乳 大谷商會 電話二二九二番
靴鞄雜貨 前田洋行
カフェー ライオン 電話二三九六番
新楊カフェー 電話二四六六番
高松屋洋品店 電話二〇七三番
泉屋呉服店
和洋酒食料品商 菊地屋商店
食料雜貨 大和洋行 電話二五八四番

撫順農會
支那料理 福合樓 日電話二四二六番
平康里 支那料理店組合 電話二七一六番
歡樂園 維持會 日電話二四七一番
撫順質屋商組合
飯食店組合一同 組合長 加藤百太 電話二四五五番

# 謹賀新年

## 本溪湖

山口金吾　鮫島宗平　塘慎太郎　清水澂　梶山又吉　日高長次郎　中山通治　岡山武治　森田秀雄

本溪湖煤鐵公司

## 開原

井上芳雄　千々和正彦　大重篤　加藤三吉　川崎亥之吉　川島定兵衛　上郡山九效　梶浦滋　高垣寛吉　龍田道德　辻馨　瓜生雪雄　前田信二　松本辰吉　佐竹令信　三田泰三　鈴木忠之亟

開原市場株式會社　電話(長)三二四番

上郡山 倉岡 合名會社　開原屠獸場　電話(長)三〇一番

特產物貿易 兼委託賣買　開原公司　洪淳亨　電話(長)三八三番　出張所 哈爾賓地段街 電話四三一八番、朝鮮定州城内 電話(長)六一番

國際運輸株式會社開原出張所　所長 上野政次　開原塗盛街八番地 事務所 電話(長)三〇九番　專用線倉庫 電話三九八番　三口公司(國際荷代辦所) 電話二二七番　驛構内詰所 電話三七四番

橫濱正金銀行開原支店　電話二五番

朝鮮銀行開原支店　電話一〇〇番

正隆銀行開原支店　電話一〇番

滿洲銀行開原支店　電話二六番

開原取引所信託株式會社　電話二三五番、二五五番、二三三番

滿洲電氣株式會社　電話(長)一二〇番

## 鐵嶺

鐵嶺保線區 區長 磯谷新吉

鐵嶺郵便局 局長 市川薫

鮮銀支店 支配人 萩尾開造

赤十字社鐵嶺支部 主事 馬場音次

鐵嶺商友會 會長 德本延藏

鐵嶺警察署 署長 大内佐藏

鐵嶺商工會議所 書記長 松崎義造

新臺子 兵舍長 根上藤五郎

鐵嶺機關區 區長 中川正

平頂堡 永田組 永田平介

鐵嶺電燈局 主任 宗石昂

鐵嶺商工會議所 會頭 權太親吉　假寓 相州鎌倉淨智寺内

鐵嶺驛 驛長 青柳亮

鐵嶺滿鐵醫院 院長 醫學博士 小野健治　醫學博士 大西三郎　植島秀人　成瀬俊夫　脇献七郎　脇政助　松岡市兵衛

鐵嶺 民會長 紀藤義也

奉天信託支店 支配人 橋川成三

鐵嶺輸入組合 理事 下山恭次郎

鐵嶺小學校 校長 白髮隆孫

鐵嶺地方事務所 所長 藻寄準次郎

鐵嶺地方委員 副議長 末廣榮二

領事 近藤信一　書記生 伊地知吉次　書記生 木村朝一　書記生 大矢保

田中組 田中鶴太郎　鮮人民會長 梁戴沃　鐵嶺圖書館長 東海林太郎　滿洲日報支局長 本田正

北五條通 石炭商 旭號 小山仙治　電話一〇二番

日の出町 滿鐵社員消費組合 陸軍御用達商 德本工場　電話二七六番

陸軍御用達 生果、青物 海產物精肉御商 田中商店　鐵嶺營業部 陳列所内 電話三二番

松島町 流行の魁 中瀬呉服店　電話一四〇番

松島町 和洋紙料品 諸雜貨 藝陽商行　電話二八七番

松島町 特產物 貿易商 橋本洋行　電話一一五番、八六番

松島町 流行の新柄 豐富 山本呉服店　電話二〇六番

鐵嶺城裡 株式會社 日華銀行　電話 中(長)二八八番、五八〇番、五五番

本店 鐵嶺　大矢組株式會社　支店 大連、旅順、奉天、海城、遼陽、公主嶺

櫻町 カフエー 精養軒　電話二三一番

敷島町 株式仲買 本田株式店　電話(長)六五番

食道樂 あさひ　電話八二番

鐵嶺驛前 食道樂 若竹　電話一二四番

鐵嶺電燈局

石炭組合　怡信洋行 電話四八番　怡泰號 電話一六二番　三盛商會 電話一三八番

鐵嶺公會堂前 松田與行部　電話一五九番

敷島町 御料理 叶家　電話一五七番

陸軍御用達 安宅菓子店　電話三〇七番

鐵嶺驛 構内食堂　電話三七番

文房具 書籍 大和屋　電話一四番

陸軍御用達 菓子商 西内商會　電話一二五

產婆 富樫よしつ　電話(長)三二番

御料理 萬安樓　電話(長)四九番

石黒 茬

滿鐵 陸軍 指定御旅館 松花ホテル　鐵嶺驛前通
松花御料理部　電話一一〇番

御料理 由良之助　東雲町　電話一五六番

御料理 鐵嶺ホテル　電話二九番

# 勅題『海邊巖』は處世の要諦

關東廳地方法院長　森本豐治郎

昭和五年御歌會始めには「海邊巖」の勅題を賜はれり。八千萬の蒼生、その悉くを擧げて齋戒沐浴の上、各其の志を言ひ、これが詠進を爲すべきの榮譽を有し義務を負ふものなることを痛感せざるを得ず。然れども予は日常手に殺風景なる六法全書を繙き、口に齷齪らしき權利義務を唱ふる沒風流漢なるを以て、全然三十一文字の國風を解せず、折角の榮譽を無にし、當然の義務を盡すこと能はず。是れひたすらに恐懼し、慚愧に堪えざる次第なりとす。

歳末の一日、机に倚りとある雜誌を讀み、偶々その誌中にある「海邊巖」なる三文字に接したる時、突如として余の念頭に想起したるは、甞て年少氣鋭、徒歩して但馬、丹後、若狹、越前の海岸線に沿ひ、裏日本一部の風光を賞したる際、その行く先々の津々浦々、到る所々の長汀曲浦には、いづれも巍々たる巖石屹立し、日本海の怒濤狂瀾は、この巖石に向つて、寄せては返し、返しては寄せ、浪華は高く飛び、飛沫は廣く散するの光景を目擊し、いく度か歩を停めて、快哉を叫びたることありし一事なりき。年知命に近からんとする今日、靜かにその曾遊を追想するに及んで、今深く予の念頭に浮ぶは、目に視たる壯快の光景そのものにあらずして、其の光景中に於て自然が默々裡に吾人に啓示せる一大教訓を心に感銘するに在り。何をか、一大教訓といふ。予の禿筆に代へて俗謠子の説明を援用せん。曰く「荒い浪風やさしく受けて心動かぬ沖の石」と。荒い浪風やさしく受けて心動かぬ沖の石、一誦再讀するに、何すれぞ其の語簡にして、其の意深きや。

靜にして思ふに、人生の行路は平々坦々、油を流すが如き海上を航行するが如きものにあらず。到る所に嫉妬あり、誘惑あり、陷穽あり。怒濤ま逆まき狂瀾くつがへれり。その風浪に比せば、阿波の鳴戸も波靜かなりといふべし。而して吾人が、この波瀾重疊の世に處するに於て、其の要諦と爲すべきは、實に其の荒き波風は輕く、やさしく之を受け流すべく、しかも毅然として其の心を動かされざるの一事にありとせざるべからず。若夫れ、其の波風を堅く、つよく受け、徒らに肘を張り、眼を瞋らして反撥抵抗、而して始めて其の心を動かされざるが如きは、容易に心を動かさるゝに比して、勝ること萬々なりといへども、未だ以て上乘の處世方法なりといふべからず。太上は荒い浪風やさしく受けて心動かぬ海邊の巖を學ぶにありとせずや。

# 滿洲に於ける邦人最初の正月

＝貝瀬謹吾

一陽來復又新しい年となつて、皆お目出度うを唱へ合ふ、年々歳々人は徒に古びて行くのに、どうして年の改まるのを喜び賀するのであらうか、そんな理窟を謂ふべからず、何かの本で見た事がある、新に沐した者は必ず其の冠を彈き新に浴した者は必ず其の衣を振ふ、汚れを清め、垢を滌ぐものは、其の冠に塵なく、其の衣に埃なきを望む事が人情で喜んで

**新しき年** を迎ふるのも亦之と同じやうなものであると、まあそんなものでありませうか、人の體に沐浴が必要であるやうに、人の心に新しき年を迎ふる事が大切でありませう、而も一面お正月を祝ひながら、他方自分の齡が加はるのを歎つて、碌々として馬齡を加へ申候と云ふ、しかし今年は昭和庚午の歳、誰も彼も均しく馬齡を加へたのであるから、下らぬ愚痴はやめて大に晴々しく衣を振ひ、冠を彈かうではありませんか

殊に滿洲日報は其の初春の紙上を滿蒙のカラーで飾らうと謂はれます、善哉其の企て、太平洋會議で渦巻き立てられた塵芥も、一つ綺麗に拂ひのける覺悟で、大にやらうではありませんか、それはさておき滿日から私に與へられた題目は、滿洲に於ける邦人最初の正月と云ふのであります、私が當地で迎へる正月は今度で二十六回目です、尤も其の中一度は海外出張中で、ドイツで迎へましたが、其他はすべて大連で歳を越しました、この毎年の正月の記録を集めて見たら、恐らく大連の半面史になるかも知れませんが、夫は暫く措いて茲にお求めに依る事を少しくお話する事に致します、素より嚴格な意味では、滿洲で邦人が迎へた最初の正月とは謂へないかも知れませんが露治時代を過ぎてからの事を述べて見たいと思ひます、即ち明治三十八年の一月です、御承知の通旅順口の包圍は、その前年の初夏の頃から始まりまして、八月の中旬など今にも陷落するものと思はれました、處が何回にも渉る

**總攻擊も** 徒らに殷々たる砲聲が大連の窓硝子を、ビリビリさせるだけで、一向うれしい報知が傳はりません、とう〳〵年が變りました、當時北の方では十月の初既に遼陽を占領して、敵の牙城奉天を衝くべく、着々準備が進められて居ましたが、こゝ大連はひたすらに旅順口の吉報を待焦がれて居ました、それが恰も正月の元日、我軍終に望臺を占領して、其の夜敵將ステッセルは、開城に關する書面を乃木將軍に送りました、唯さへ同胞が迎へた滿洲前初の元日、かなりに氣色ばんで居た處です、二日の正午水師營で、兩國委員が會見して開城規約を協定した事が、夕刻に近く發表されまして我々の歡喜は絶頂に達しました

**酒保の酒** 悉くがアルミニウムの祝盃に注がれました、日本橋(當時土橋)を差挾んで、野戰鐵道提理部(今の大連工務事務所)から兵站監部(今の大連郵便局)の邊は、全く以て人の海となりました、電氣のイルミネーミヨンもなく、婦人の姿や絃歌の音もありません、しかし誰がしたともなく篝火は諸處に焚かれ、カンテラの燈、松明の光は天を焦し、萬歲歡呼の聲は地を震ふ有樣でした、私は斯る文字通の男性的の賑はひを曾て見た事もなく、又其の後にも見ませんでした、是が所謂邦人最初の正月です、何と勇ましいスタートではありませんか、其の次の年即ち明治三十九年の正月には、民政署で

**御眞影を** 奉拜する事も出來ましたし、二日には乃木大將凱旋の途次、旅順に寄られて陷落一周年記念祭を施行されました、思出深き正月でした、大連のあちこちに絃歌の聲が聞えますし、藝妓の年始廻りも始まりました、もう平和のお正月となつたのであります、其の翌四十年の正月には、拜賀式の爲登校する小學男女生徒の往來が、特に目立つたと私の日記に書いてあります、其次の四十一年の正月には、元日に滿洲館で滿鐵最初の新年祝賀式が催され、ロシア町には醉歩、散漫たる禮裝者が大分見受けられました、斯の如くにして今回滿日の與へられた題目は、私の年を逆に取らせ

**若き時代** を憶ひ出さしめ動もすれば消えなんとする熱情を再び燃え立たせて下さつた事を感謝して、茲に筆を擱きます。

# 廿六年前のけふ占領した『望臺』

◇…明治三十七年八月七、八兩日に亙る大、小孤山の前進陣地を攻擊し之を占領して以來露軍は全く本防禦線內に壓迫され、愈々攻城戰の序幕は切つて落された、越えて同月二十日午前十時を期して一齊に開始された第一回總攻擊、四日間の我が猛擊に望臺の火砲は翌二十一日遂に我軍の爲め沈默したので我軍の一部は敢然突擊に移つた

◇…敵の猛射に忽ち我が突擊部隊は死傷算なく、續いて敵の逆襲を被りて擊退され、爾來敵は天險に加ふるに人工を以て防備を嚴にせる爲め容易に之を攻略すること能はざる狀態となつた、三十八年一月一日、本日より正に二十六年前の今月今日、早朝を期し一戸少將(現大將にて明治神宮宮司)の率ゆる步兵第七聯隊(金澤)同第三十五聯隊(富山)及び前田隆禮少將の率ゆる(第二十二旅團長)步兵第四十三聯隊(德島)は壯烈なる突擊を決行し元旦の午後三時十分、全く之を占領する事を得た

◇…「肉彈」の著者櫻井大佐(當時突擊隊の小隊長)の名に依つて名蹟更に擧つた望臺は春風秋雨二十有六歲を經たる今日も、又何百年何千年の遠い未來迄も訪る幾多の見學者、誰か當時を想はぬ者があらう(露軍は此砲臺を「鷲巢山砲臺」と呼び急設臨時築城で現存の火砲は海軍砲を使用してゐる。

## △△△△△△ 壁畫の馬が拔出す

仁和寺御室の御所附近の田畑が每夜のやうに荒される。調べてみると、縱橫に馬の足跡が殘つてゐるだが、附近の誰彼の持馬でないことだけは、勿論とあつて連日探ね倦んだ結果、ふと、某が御所の壁畫の馬を見ると、生々しい土塊が附いてゐたので、畑荒しは此の馬が拔け出しての惡戲と決定された、巨勢金岡の名筆に成つたものだつたといふ。尤もこの話の時代は正確でない。

# 滿洲電話事業の過去現在及將來

遞信局監理課長　中尾國次郎

我滿洲管內電話事業は日露戰役直後我軍隊より繼承したものであるが其當時電話加入者數は管內を通じて僅々四百六十餘名、電話局は主要地數個所にあつたのみで市外電話線の如きもたゞ主要地間を連絡する短距離線數條を有したに過ぎなかつたのである。然るに其後漸次邦人の居住者增加し土地の發展を見るに伴れて電話諸施設の改良擴張を行ひ現在では電話加入者數一萬八千名といふ大增加を示し市外電話線も亦百十餘回線而も多數の長距離線を有するに至つた事は繼承當時に比し誠に隔世の觀がある。

×

當局電話業務が僅々二十數年間に如斯驚くべき異數の膨脹を來したる主なる原因は先づ邦人の旺盛なる發展に指を屈しなければならないのは勿論であるが一面に中國人の我電話機關利用の激增である點をも擧げねばならぬと思ふ、即ち中國人が我電話を利用する程度は全く世人の想像以上であつて其利用率は遙かに日本人を凌駕して居るのである今其利用程度に就いて概觀するに市內通話に在りては中國人一人當呼數は常に日本人の二倍若くは三倍以上に達し市外通話は中國人加入者が管內總電話加入者數の二割八分なるに拘らず通話の利用數は管內總通話數の約五割を占めて居る狀況であつて如何に中國人が我電話機關を商戰に利用し活躍しつゝあるかを思はしめるのである。

×

又當管內電話の施設範圍は滿鐵沿線に限定せられ中國電話は沿線外に限定せられて居る結果、双方とも其施設範圍は極めて窮屈なので兩國當事者は所謂通信に國境なしといふ觀念に於て日華兩國民の利便を圖り夙々各自の施設を出來得る限り經濟的に活用する必要を認め既に第一着手として大正四年公主嶺河南電話公司と我電話との連絡提携を初めとし四平街、瓦房店、吉長鐵路、四洮鐵路、鄭家屯、范家屯、本溪湖等の支那電話と連絡し更に昭和二年四月からは大連、旅順、奉天、洮南、奉天各地中國電話との國際長距離電話連絡をも實施するに至り孰れも豫期以上の好果を收めて居る、電話連絡事業は單に中國電話との連絡に止まらず朝鮮管內電話とは諸種の關係に於て既に古くより安東縣の我電話と連絡を實施して居たが滿鮮間の交通經濟關係が漸次密接濃厚となるに伴れて更に連絡範圍擴張の機運に迫られたので大正十四年十一月奉天、京城間等の滿鮮長距離連絡を開始し更に昭和三年六月大連、旅順其他當管內主要各地と京城等との最大長距離連絡電話の實現を見るに至つた、而して日滿間電話連絡の如きも早晩必然起るべき問題であつて當局としては時機を見計らひ之が實現に努める考へである。

×

當管內電線路は大正十二年以降十一個年の繼續事業として每年四十萬圓以上の巨費を投じ改良擴張を行つて居り工事も着々進行し昭和八年度には完成を告ぐる豫定であるが右の計畫は腐朽電柱の建替鉛線の張替等を主なる目的としたもので完成の曉は電線路としては殆ど面目を一新することゝ思はれる、併しながら現在市外電話回線百十餘線の內大部分は單信線(實線二回線を利用して構成せられたる想像上の第三の回線)若しくは双信線(一回線を同時に電信、電話に供用するもの)であつて單獨回線としてはほんの數ふる許りであるから通話の疏通上遺憾の點が尠くない依つて當局は出來る限り單獨實線に變更する計畫の下に研究を進めて居る次第である。

×

尙市外回線の經濟的施設として近時外國で實用に供して居る搬送式多量電話法施行の如きも大に研究の價値があるので當局に於ても先年來研究中であるが近き將來に於て本裝置を實現せしむるに至る事と信ずる管內電話施設に對する中國人の利用率の大なるは既述の通りであつて之が對策に付ては常に多大の苦心を重ねて居るのであるが就中交換作業の關係に於て言語の通ぜざる爲常に支障を來して居るのである、又管內に於ては土地に依つて交換手の補充困難の爲交換サービスの向上を期し得られざる場合が少くない從つて是等の支障を除去するにはどうしても根本的に交換方式の變更を必要とするので當局は既に大正十二年四月大連中央電話局に自働交換方式を採用し越えて昭和二年沙河口分局更に昨年二月には撫順局に又引續き七月には奉天局に夫々優秀なる自働式を採用するに至つたのである。

×

自働式電話が其交換サービスに於て將又經濟上に於て有利なる事は實況に照し最早何等の疑ひを存する要なきに至つたので當局は將來電話交換の自働化を計畫し現に貔子窩局にては本年三月には自働式の開通を見るべく又長春に於ても既に昨年自働局廳舍の基礎工事を完了した樣な次第である、其他電話施設上に於ける改良或は擴張計畫並に之を運用する各種法令等にして幾多の改正事項を有するのであつて吾々の責任の重且大なるを痛感すると共に今後は一段の努力をなすべく決心して居るのである。

# 賀正
## 哈爾濱

八木元八

築島信司

[illegible]

[illegible]

高橋貫一

加藤明

賀正
イ、ネズナイコ

[illegible]

澤田茂

增田貞一

[illegible]

宗像金吾

蔡運升

米春霖

佐々木久松

高岡號
相見幸八
哈爾濱道裡十四道街
電話四〇七〇
　　四二三〇

石原重高

岩永浩

西本市太郎

細木繁

大江新

岡茂

吉原大藏

横田提壽

軍司義男

山崎重次

福井敬藏

日清製油株式會社
高柳徳太郎

貴虎孟太郎

釋河野龍丸

荻原洋紙店
中國十三道街
電話四六八六

成發東

哈爾濱日本醫院
事務所　買賣街

石炭商組合
日隆洋行
合昌泰
竹内商會
松茂洋行
新隆號
セレズニヤコフ

黒龍江省東支鐵道西部沿線
呼海鐵道沿線滿鐵石炭特約販賣
得昌號
金隆號
徳泰號
組合事務所
事務所　哈爾濱地段街三〇

加藤醤油醸造所
加藤米吉
傅家甸北四道街
電話九、二〇八三

滿洲日報
大朝
毎日
販賣店
大毎社
ウチヤストコワヤ街
電話三三八三番